

学生生活に関する調査報告書

令和元年度

小樽商科大学

ま え が き

本学では3年に一度、学生がどのような大学生生活を送っているか、その実態を明らかにするために、学生生活実態調査を行っています。令和元年度はその調査年であり、本報告書はその調査結果をまとめたものです。

調査方法は前回（平成28年度）と同様、クラウド型学習支援システム manaba を用いましたが、回収率は4ポイントほど低下しました（前回70.4%、今回66.6%）。近年、大学認証評価で重要視される「教育の内部質保証」の関係などで、大学教育の実効性の検証が盛んに行われるようになり、そのため、度々実施されるようになった学生アンケートに対して、学生が「アンケート疲れ」を起こしている可能性も否定できません。ただ、調査・分析の結果として普遍的な結論を下すにあたって、まだ十分なサンプル数は維持されていると考えております。

前回の調査から、学生のプライバシーに密接に関わる質問は削除いたしましたが、今回は更に家計収入等の質問も削除しています。また、学修状況についての一連の質問は、グローバル戦略推進センター教育支援部門が実施する学修状況アンケートに移行することとなりましたので、すべて割愛されております。それに代わり今回は、本学のグローバル化を詳細に調査すべく、留学関連の質問群を大幅に追加し、同時にハラスメント・カルト・薬物・悪徳商法等の大学生活リスク関連の質問群も増やしています。その他、個々の質問に関しましても、今回は全般的に再検討しております。

この調査結果を参考として、本学では更に有効な学生支援を目指して参りますが、学生の皆さんも、本報告をもとに自らの生活実態を振り返り、より充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

最後となりましたが、アンケート調査に参加してくれた学生の皆さん、調査実施にご協力頂いた教員の方々、そして項目の点検と結果の分析にご尽力いただいた高橋恭子、杉山成、醍醐龍馬の各教員並びに学生支援課に厚く御礼申し上げます。

小樽商科大学理事（副学長） 鈴木 将 史

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査の組織	
3	調査の内容	
4	調査の対象	
5	調査の実施時期	
6	調査の方法	
7	調査票の回収状況	
II	調査結果	
1	基本的事項	4
(1)	入学年別・性別・所属コース	
(2)	性別・出身高校所在地	
(3)	所属学科別・出身高校所在地	
(4)	所属学科別・性別	
2	入学の経緯等について	6
問 1	大学進学の動機	
問 2	本学を最初に知った情報源	
問 3	本学を選択した理由	
問 4	本学の志望順位	
3	家庭状況について	1 1
問 5	主たる家計支持者の住居	
問 6	主たる家計支持者の職業	
4	住居・通学について	1 2
問 7	学生の現住所	
問 8	同居者	
問 9	住居を選択したときに考慮した条件	
問10	家賃・下宿料	
問11	通学所要時間	

5	生活費・アルバイトについて……………	18
	問12 1ヶ月の生活費	
	問13 1ヶ月の小遣い・仕送り	
	問14 アルバイトの職種	
	問15 1週間のアルバイト就労時間	
	問16 1ヵ月の収入の平均額	
	問17 アルバイト代の主な使途	
	問18 アルバイトが学業に与える影響	
	問19 アルバイトが学業に与える悪い影響	
6	留学について……………	32
	問20 海外旅行の経験	
	問21 海外旅行の行先（地域）	
	問22 海外旅行の期間（通算）	
	問23 海外旅行の回数	
	問24 在学中に海外旅行をする意思確認	
	問25 留学したい地域	
	問26 留学したい期間	
	問27 海外留学を躊躇する理由	
	問28 本学の留学生との会話経験	
7	課外活動について……………	50
	問29 サークル加入経験のある者の割合	
	問30 サークルの加入動機	
	問31 1週間当たりのサークル活動に費やす時間	
	問32 サークル活動にかかる1ヵ月当たりの費用	
	問33 サークル活動と学業との関係	
	問34 サークルに加入しない理由	
8	ボランティア活動について……………	57
	問35 大学入学後のボランティア活動経験	
	問36 ボランティア活動の内容	
	問37 ボランティア活動の合計日数	
	問38 ボランティア活動をしたきっかけ	

9	健康について.....	6 1
	問39 朝食の摂取	
	問40 睡眠時間	
	問41 喫煙をしているか	
	問42 運動をしているか	
	問43～44 飲酒の頻度・程度	
1 0	友人・悩みについて.....	6 7
	問45 友人づきあいの程度	
	問46 友人の見つけ方	
	問47 現在の悩み	
	問48 悩みの種類	
	問49 悩みの対処方法	
	問50 空き時間の過ごし場所	
	問51 ピアサポートの認知度	
1 1	ハラスメントについて.....	7 6
	問52 ハラスメントを受けた経験	
	問53 ハラスメントを見聞きした経験	
	問54 受けた又は見聞きしたハラスメントの種類	
	問55 ハラスメントが発生した状況	
	問56 ハラスメントが発生した時の対応	
1 2	カルト、薬物、消費者被害について.....	7 9
	問57 カルト宗教団体等から勧誘された経験の有無	
	問58 友人がカルト宗教団体等から勧誘されたのを見聞きしたことがあるか	
	問59 大麻や危険ドラッグの使用を勧められた経験の有無	
	問60 友人が大麻や危険ドラッグの使用を勧められたのを見聞きしたことがあるか	
	問61 悪質商法から勧誘された経験	
	問62 悪質商法の種類	
	問63 悪質商法による被害経験	
	問64 友人が悪質商法から勧誘されたのを見聞きしたことがあるか	

1 3	卒業後の進路について	8 3
	問65 卒業後の進路	
	問66 就職する場合の選択基準	
	問67 就職する場合の希望勤務地	
	問68 就職準備のための専門学校等への通学状況	
	問69 大学の就職支援に関しての要望	
	問70 進路を決めた時期	
	問71 大学の就職支援に対する評価	
1 4	その他.....	9 4
	問72 ICT機器の所有状況	
	問73 一日当たりの携帯電話またはスマートフォンの利用時間	
	問74 携帯電話またはスマートフォンのよく利用する機能	
	問75 SNS利用の悩み	
	問76 読書の頻度	
Ⅲ	学生生活実態調査「自由意見」	1 0 3
Ⅳ	資料 学生生活実態調査「アンケート用紙」	1 0 6

I 調査の概要

1. 調査の目的

小樽商科大学に在学する学生の生活実態をより正確に把握し、学生の生活面での改善及び修学指導上の参考にするための、基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の組織

小樽商科大学学生委員会

3. 調査の内容

- | | | |
|----------------|-------------------|------------|
| ①入学の経緯等について | ②家庭状況について | ③住居・通学について |
| ④生活費・アルバイトについて | ⑤留学について | ⑥課外活動について |
| ⑦ボランティア活動について | ⑧健康について | ⑨友人・悩みについて |
| ⑩ハラスメントについて | ⑪カルト、薬物、消費者被害について | |
| ⑫卒業後の進路について | ⑬その他 | |

4. 調査の対象

令和元年10月1日に在学する昼間コース・夜間主コース学部学生とする。

5. 調査の実施時期

令和元年9月30日（月）～10月15日（火）の後期授業開始時期としたが、より多くの回答を募るため10月31日（木）まで調査期間を延長した。

6. 調査の方法

下記の授業に限定して教員に調査への協力を依頼し、回答をするよう指導してもらう。授業時間内で20分程度時間を取りmanabaへの入力により学生に回答作業をしてもらう。

7. 調査票の回収状況

①在籍者数（対象学生数）（令和元年10月1日現在）
（人）

入学 年度	昼間コース			夜間主コース			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H31	290	184	474	30	25	55	320	209	529
H30	272	196	468	30	26	56	302	222	524
H29	278	205	483	25	24	49	303	229	532
H28	294	196	490	30	23	53	324	219	543
H27 以前	71	24	95	10	7	17	81	31	112
計	1, 205	805	2, 010	125	105	230	1, 330	910	2, 240

②回答者数

(人)

入学 年度	昼間コース			夜間主コース			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H31	232	164	396	26	24	50	258	188	446
H30	207	155	362	17	18	35	224	173	397
H29	182	123	305	10	16	26	192	139	331
H28	160	115	275	14	15	29	174	130	304
H27以前	10	2	12	0	1	1	10	3	13
計	791	559	1, 350	67	74	141	858	633	1, 491

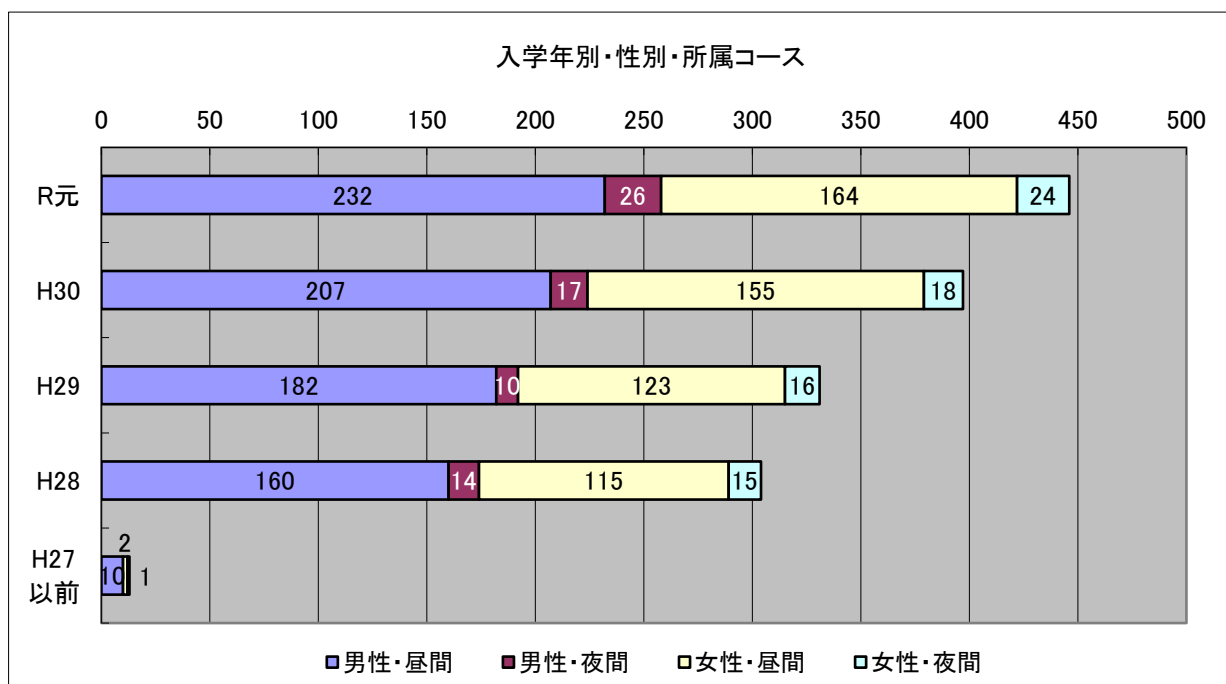
③回答率

入学 年度	昼間コース			夜間主コース			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H31	80. 0%	89. 1%	83. 5%	86. 7%	96. 0%	90. 9%	80. 6%	90. 0%	84. 3%
H30	76. 1%	79. 1%	77. 4%	56. 7%	69. 2%	62. 5%	74. 2%	77. 9%	75. 8%
H29	65. 5%	60. 0%	63. 1%	40. 0%	66. 7%	53. 1%	63. 4%	60. 7%	62. 2%
H28	54. 4%	58. 7%	56. 1%	46. 7%	65. 2%	54. 7%	53. 7%	59. 4%	56. 0%
H27 以前	14. 1%	8. 3%	12. 6%	0. 0%	14. 3%	5. 9%	12. 3%	9. 7%	11. 6%
計	65. 6%	69. 4%	67. 2%	53. 6%	70. 5%	61. 3%	64. 5%	69. 6%	66. 6%

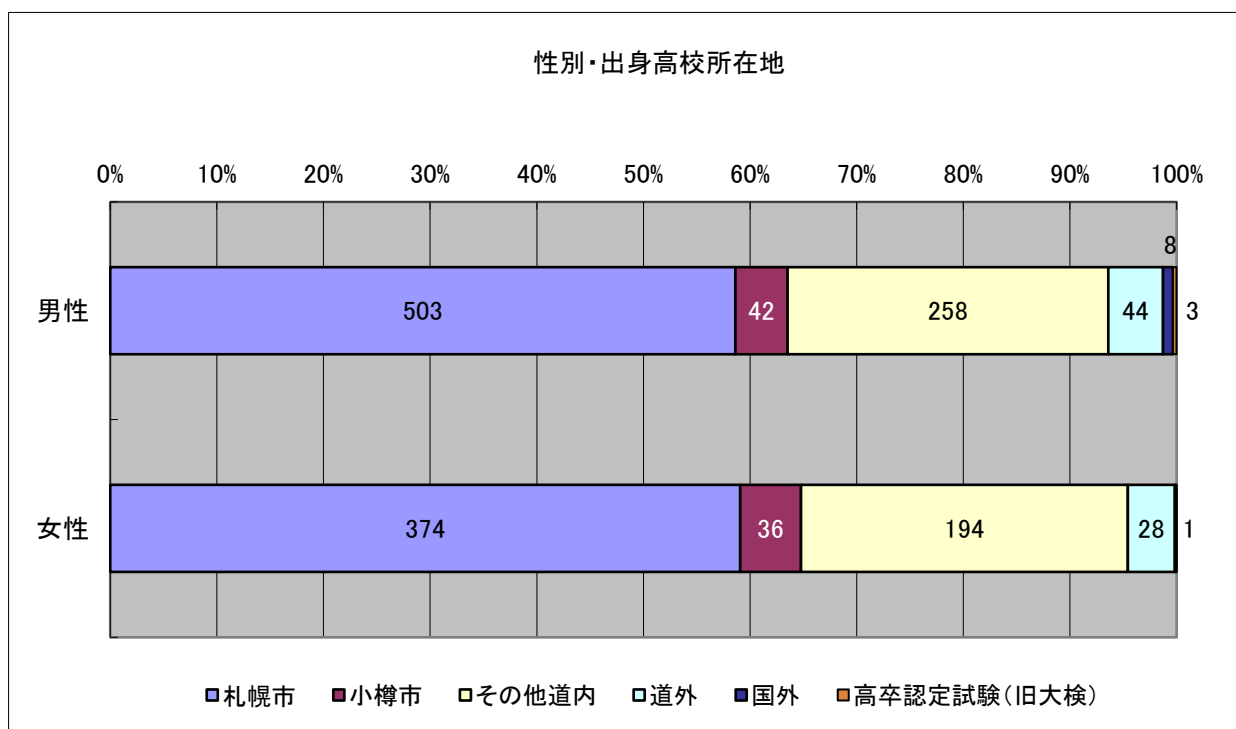
Ⅱ 調査結果

1 基本的事項

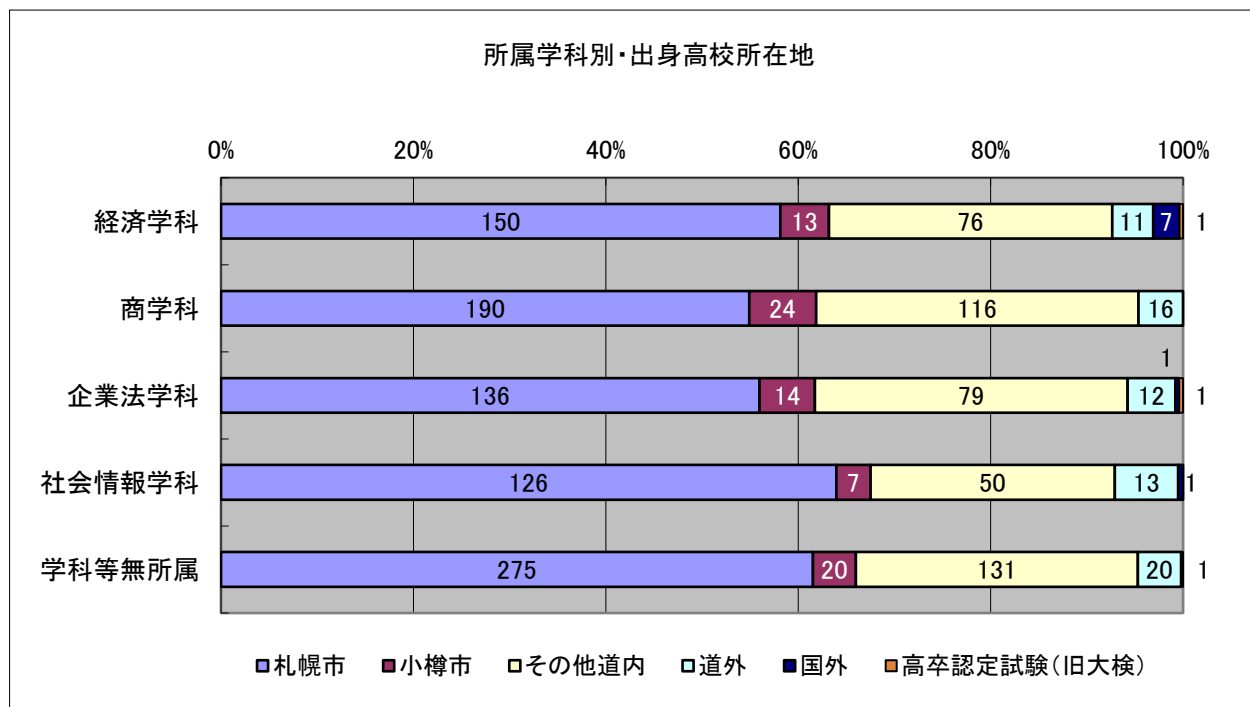
(1) 入学年別・性別・所属コース



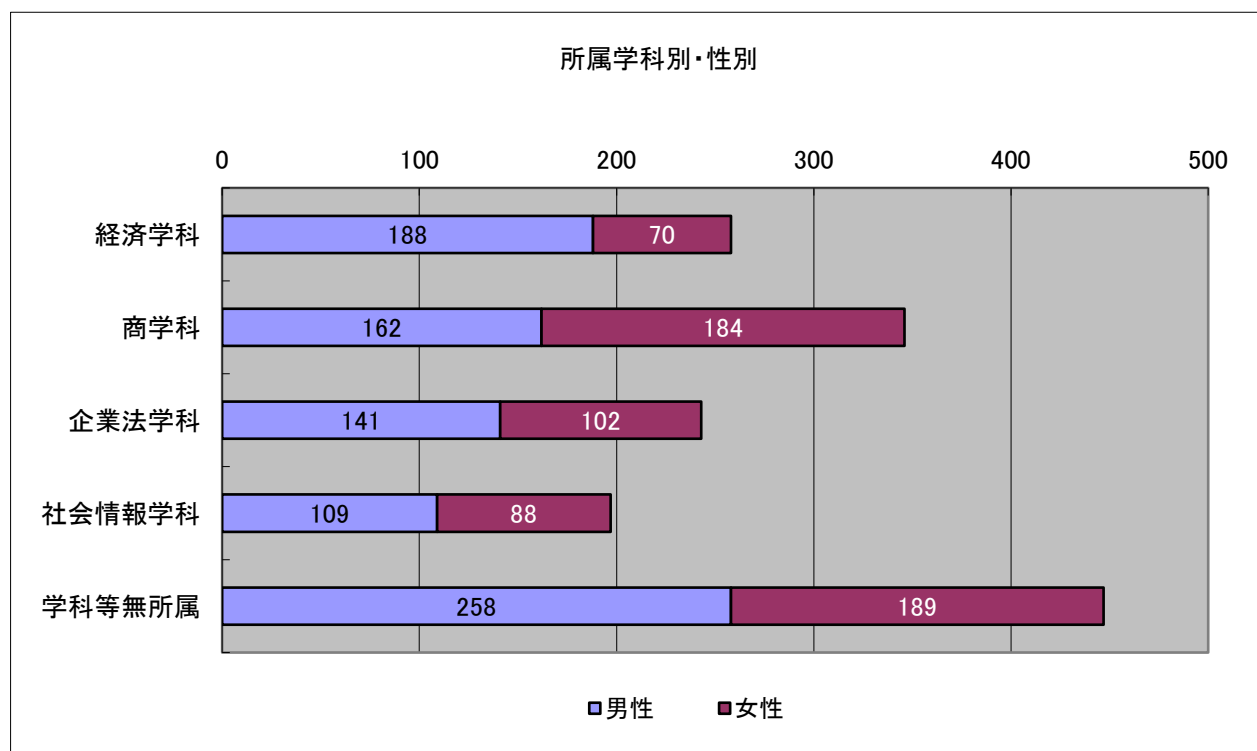
(2) 性別・出身高校所在地



(3) 所属学科別・出身高校所在地

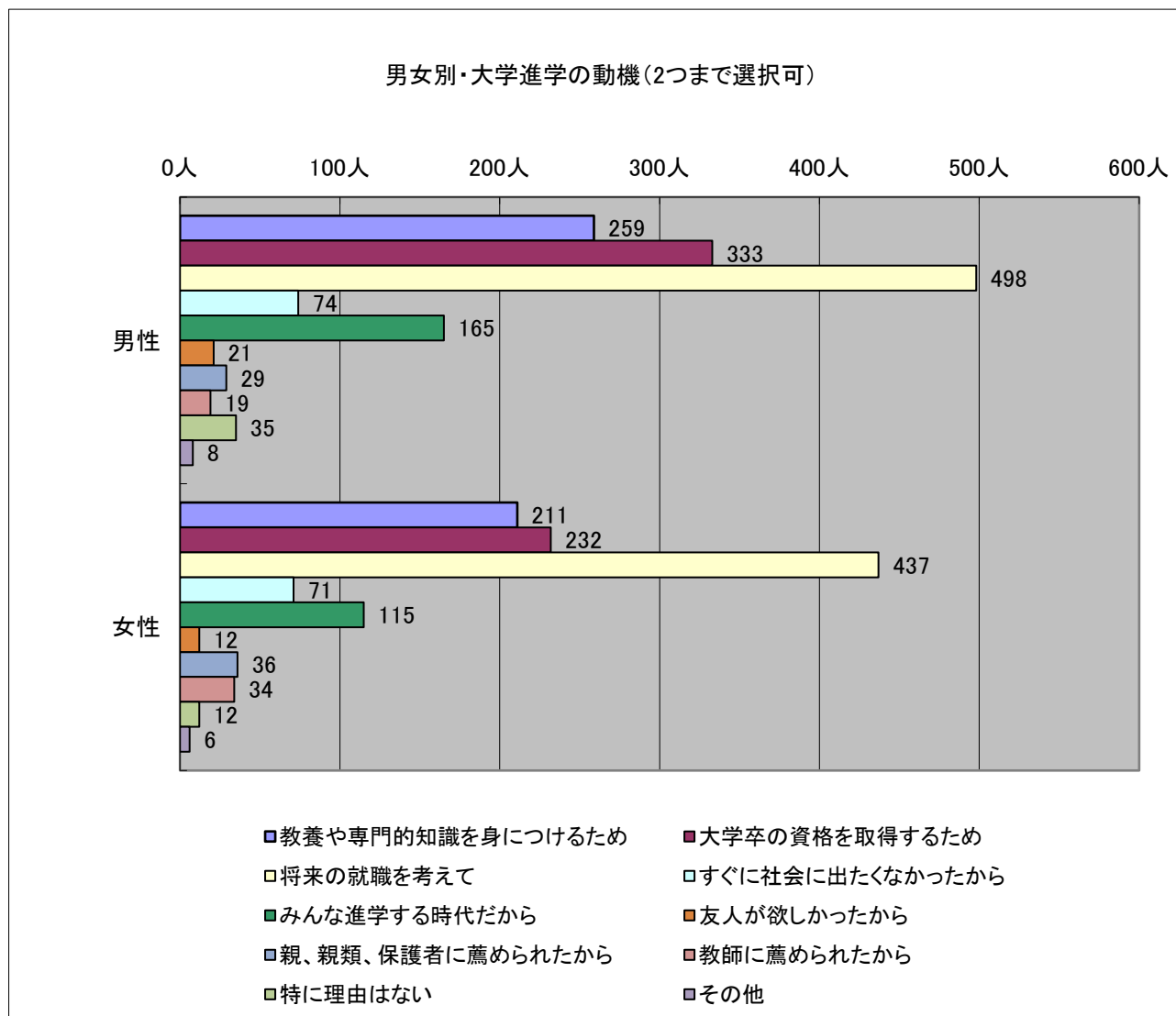


(4) 所属学科別・性別

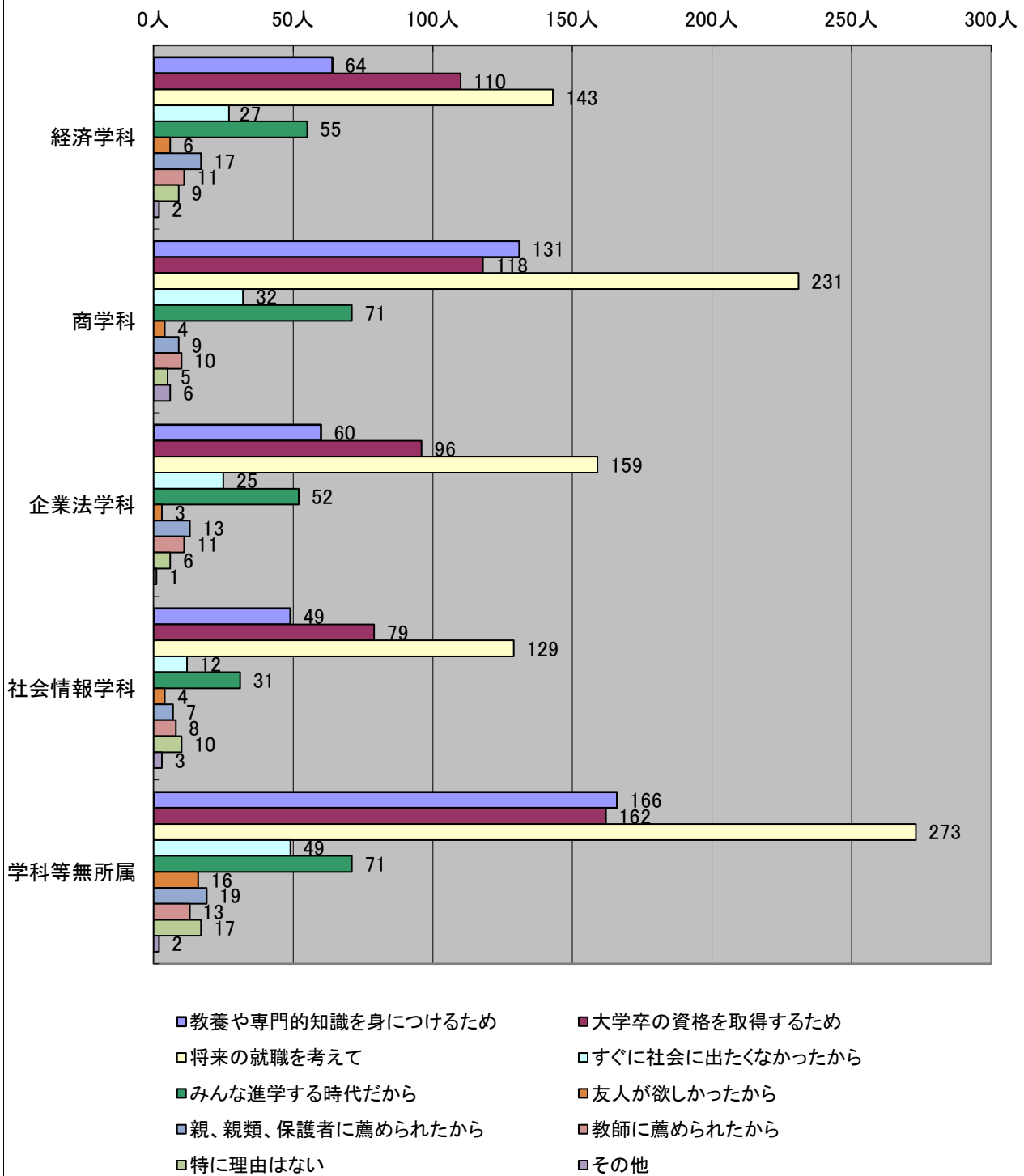


2 入学の経緯等について

問1 あなたが大学に進学しようと思ったのは、なぜですか。（2 つまで回答可）



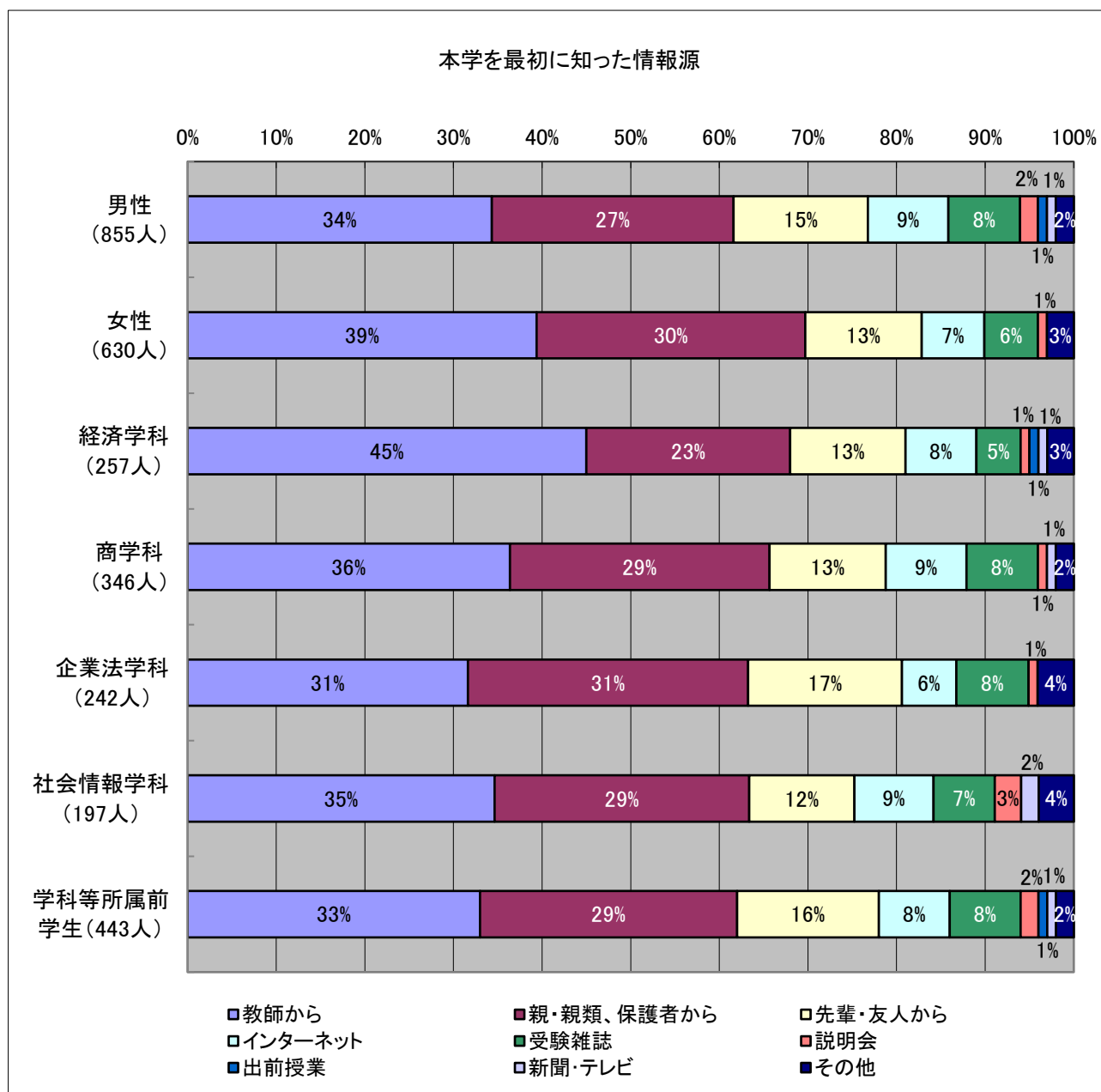
学科別・大学進学の実動機(2つまで選択可)



問1 コメント

男女共同様の傾向を示し、「将来の就職を考えて」が、男性 498 名、女性 437 名と最も多い。次に「大学卒の資格を取得するため」が男性 333 名、女性 232 名、更に「教養や専門的知識を 身に付けるため」が男性 259 名、女性 211 名と続く。この傾向は、近年大きな変化はない。こうした傾向は各学科においても同様だが、商学科の教養・専門的知識重視傾向は、前回と同じく今回も見られ、4 学科中唯一大卒資格重視傾向を上回っている。

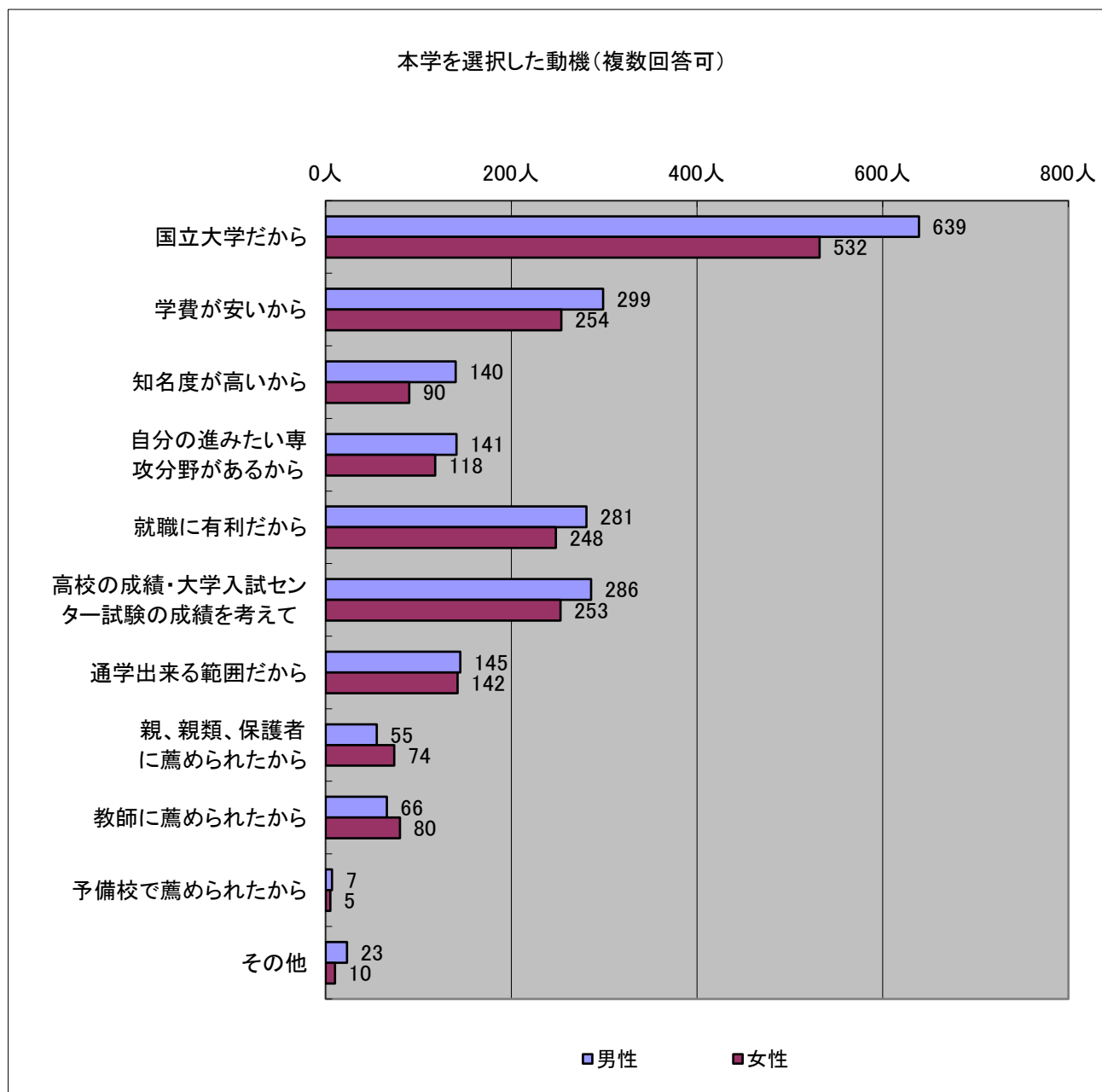
問2 本学を最初に知ったのは、どこからの情報ですか。



問2 コメント

男女共、教師から知った割合が1位であるが、男性の34%に比べ、女性は39%と、女性の方が教師から本学を紹介される場合が多い。対して男性は、先輩や友人から本学を知らされるケースがより多くなっており、昨年と同様の傾向となっている。いずれにしても、男女ともに8割近くが周囲の人からの口コミによって本学を知った形である。またインターネットについても、その割合は年々増加しており見過ごせない。

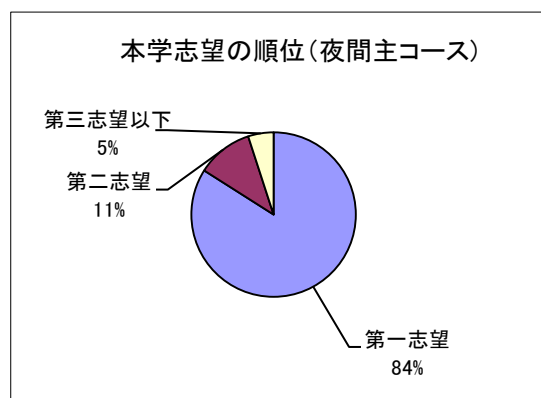
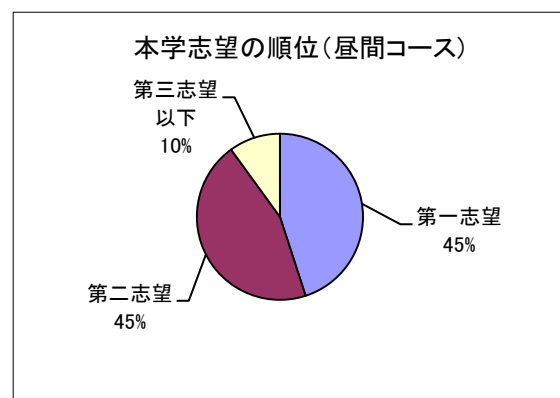
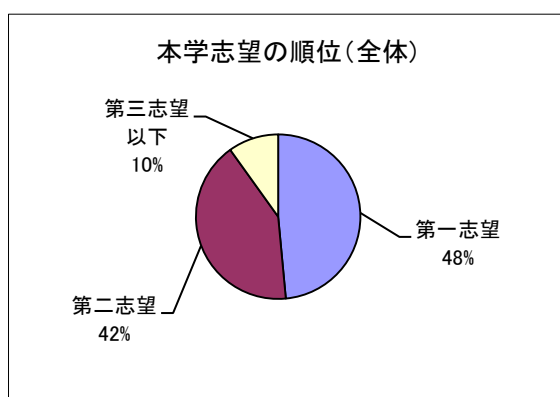
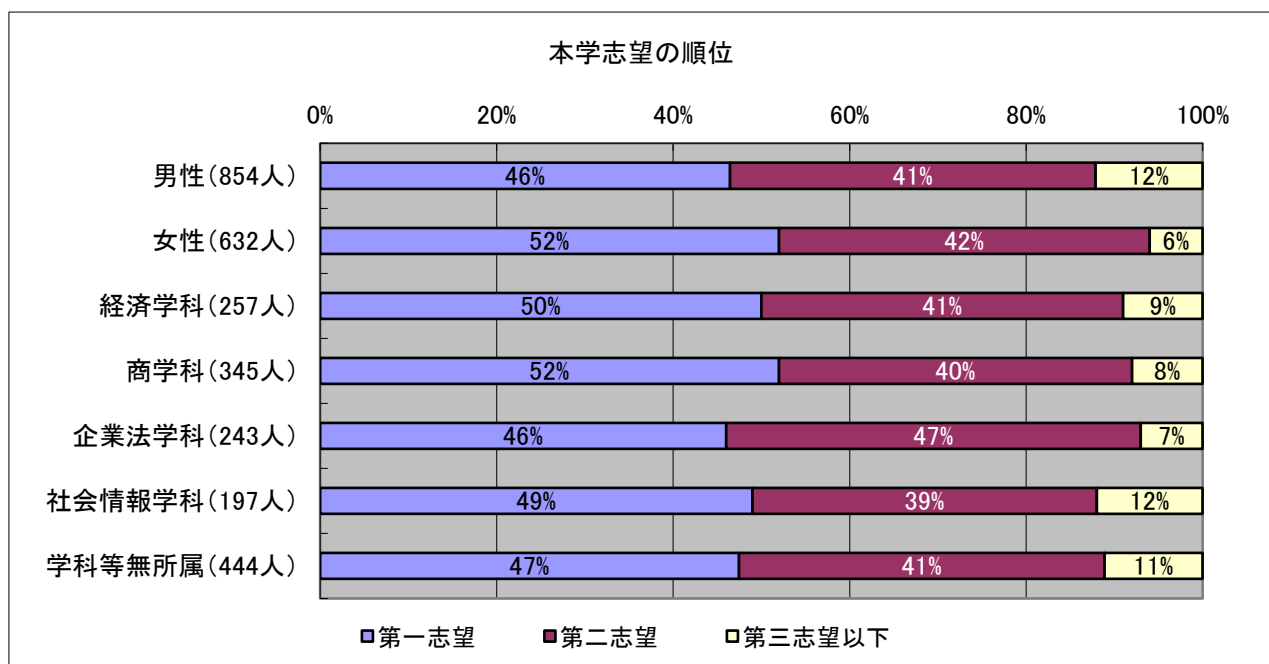
問3 本学への入学を決めた主な動機は何ですか。（複数回答可）



問3 コメント

「国立大学だから」と回答した学生数は男女合わせて1171名で、全体の78.5%であり、突出した動機となっている。それに続くのが「学費が安いから」（553名：37.0%）, 「高校の成績・大学入試センター試験の成績を考えて」（539名：36.1%）, 「就職に有利だから」（529名：35.4%）であり、ほぼ同程度のものとなっている。全体の傾向については大きな変化はないが、「国立大学だから」との回答については前々回の87%, 前回の81%, 今回の78.5%と年々減少しており、この点に留意する必要がある。

問4 あなたにとって本学は何番目の志望でしたか。

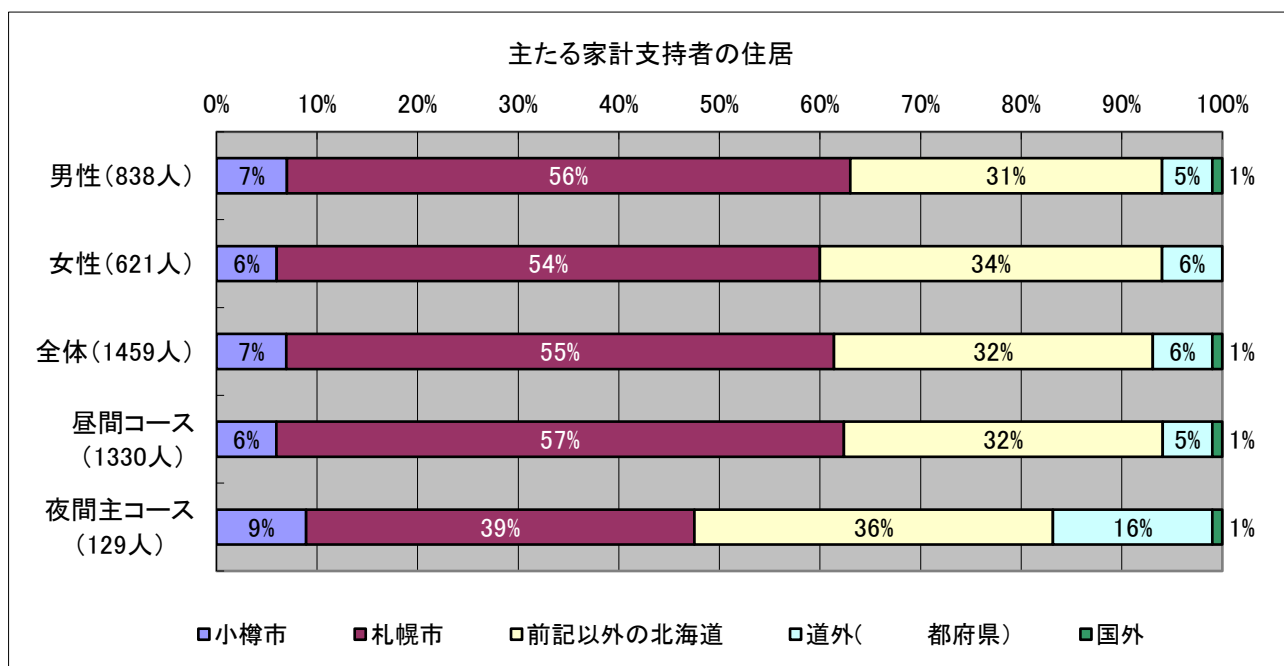


問4 コメント

全体では第一志望 45%、第二志望 45%、合計で 90%と高い志望度の学生が入学し、かつ女性の第一志望率が男性よりも高くなるという傾向は今回も変わっていない。とりわけ夜間主コース全体においては、前回同様に、第一志望率が 84%と極めて高い割合を示している。法学部を持たない本学における企業法学科所属学生の第一志望率が 46%と他学科に較べやや低くなっているが、それほど大きな違いではなく、本学の志望の程度によって学科配属の差はみられない。

3 家庭状況について

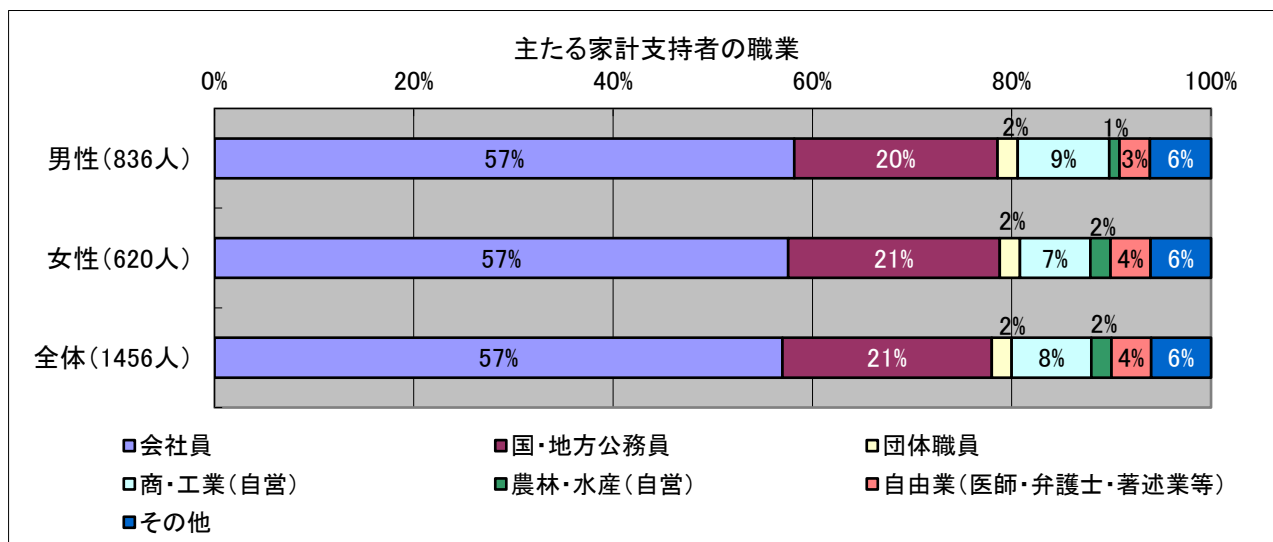
問5 主たる家計支持者の住居はどこですか。



問5 コメント

主たる家計支持者の住居は、全体では94%が道内であり、「札幌市」が55%、「小樽市」7%、「小樽市と札幌市を除く道内」が32%となっている。昼間コースは95%が道内であるのに対して、夜間主コースの道内の割合は84%であり、道外（国外を含む）の割合が高くなっている。男女別には大きな差は見られず、前回の調査と比較しても全体の傾向、夜間主コースで道外が多い傾向に大きな変化は見られない。

問6 主たる家計支持者の職業は何ですか。

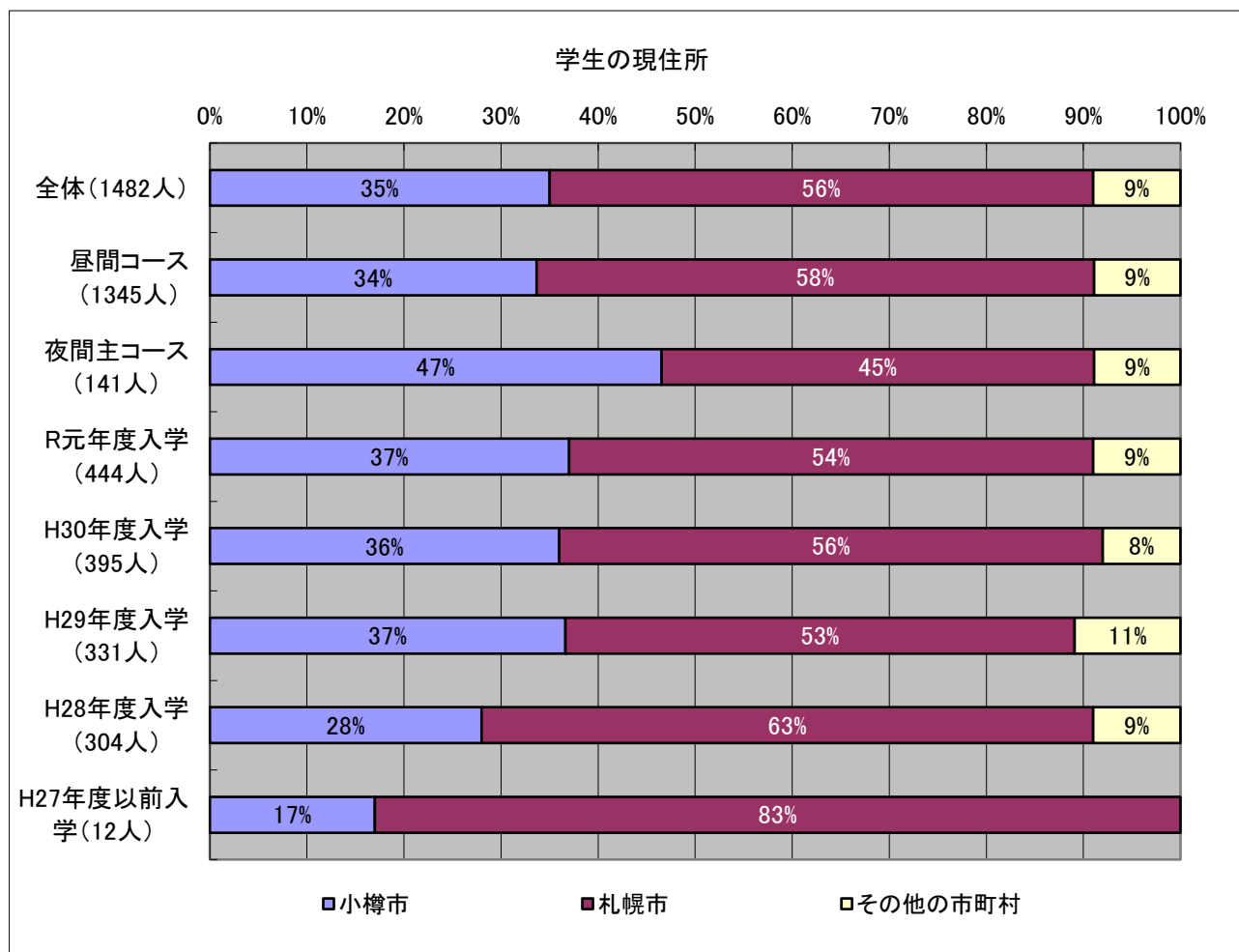


問6 コメント

主たる家計支持者の職業は、全体で見ると、「会社員」が57%、「国・地方公務員」が21%である。男女別で見ても、全体の結果と大きな差はなく、前回の調査結果と比較して大きな変化は見られない。

4 住居・通学について

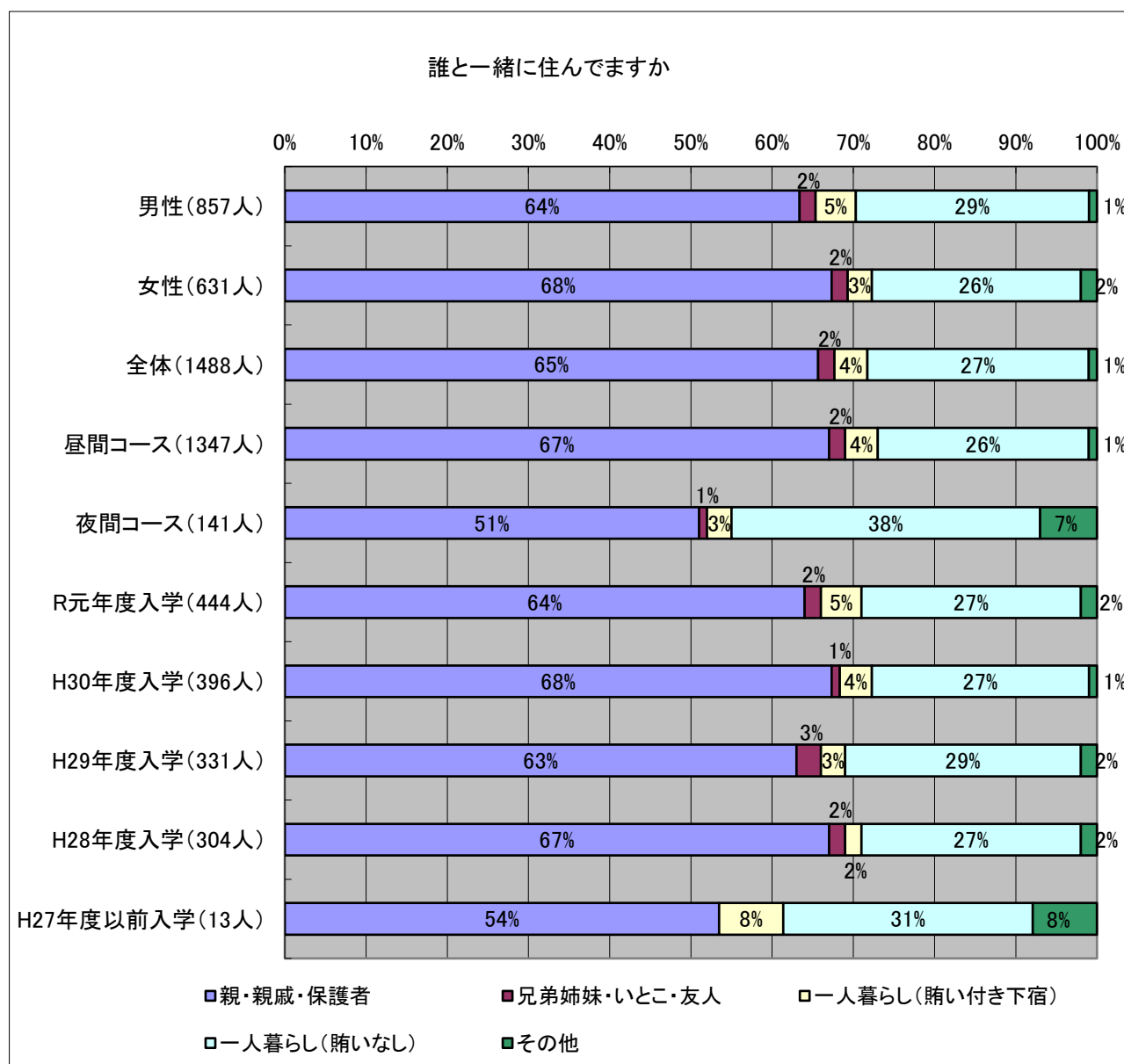
問7 あなたの現住所はどこですか。



問7 コメント

学生の現住所について、昼間コースでは「札幌市」が58%、「小樽市」が34%、夜間主コースでは「札幌市」が45%、「小樽市」が47%、全体として「札幌市」が56%、「小樽市」が35%である。各コースともに小樽市ではなく札幌市に現住所をおく学生が多いことがわかる。学年別では、1, 2年生に比べて3, 4年生の方が「小樽市」の割合が小さく、「札幌市」の割合が多い。1, 2年生に小樽市に住む理由としては、語学科目が1講目を開講されていることが多いため、3, 4年生に札幌市に住む理由としては、小樽市よりも札幌市の方がアルバイトできる機会が多いため、もしくはインターンシップ参加や就職活動のために、3, 4年生になって札幌市で一人暮らし、実家で同居しはじめる等が考えられる。

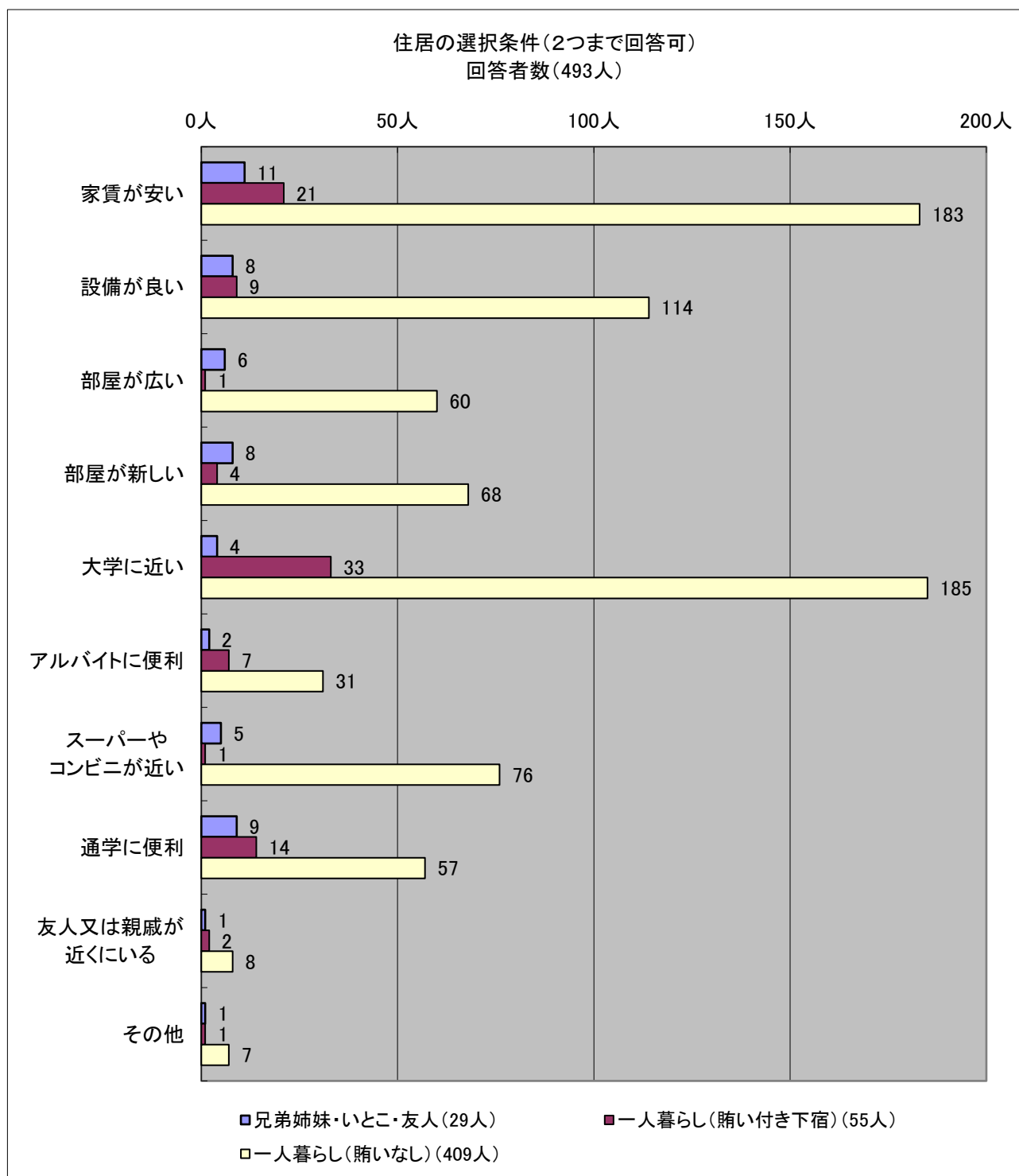
問 8 誰と一緒に住んでいますか。



問 8 コメント

全体では、「親・親戚」が65%、「一人暮らし(賄いなし)」が27%、昼間コースでは、「親・親戚」が67%、「一人暮らし(賄いなし)」が26%である。それに対して、夜間主コースでは、「親・親戚」が51%、「一人暮らし(賄いなし)」が38%であり、「一人暮らし(賄いなし)」の割合が全体や昼間コースよりも高い。男女別では大きな差は見られない。学年別では、H28年度入学生は「親・親戚」が約67%、「一人暮らし(賄いなし)」が約27%、H29年度入学生は「親・親戚」が63%、「一人暮らし(賄いなし)」が29%、H30年度入学生は、「親・親戚」が約68%、「一人暮らし(賄いなし)」が27%、R元年度入学生は「親・親戚」が約64%、「一人暮らし(賄いなし)」が27%、H27年度入学以前の学生は「親・親戚」が54%、「一人暮らし(賄いなし)」が31%であり、親・親戚と同居する学生の割合はH28年度～R元年度入学生の方がH27年度入学以前の学生よりも高い。

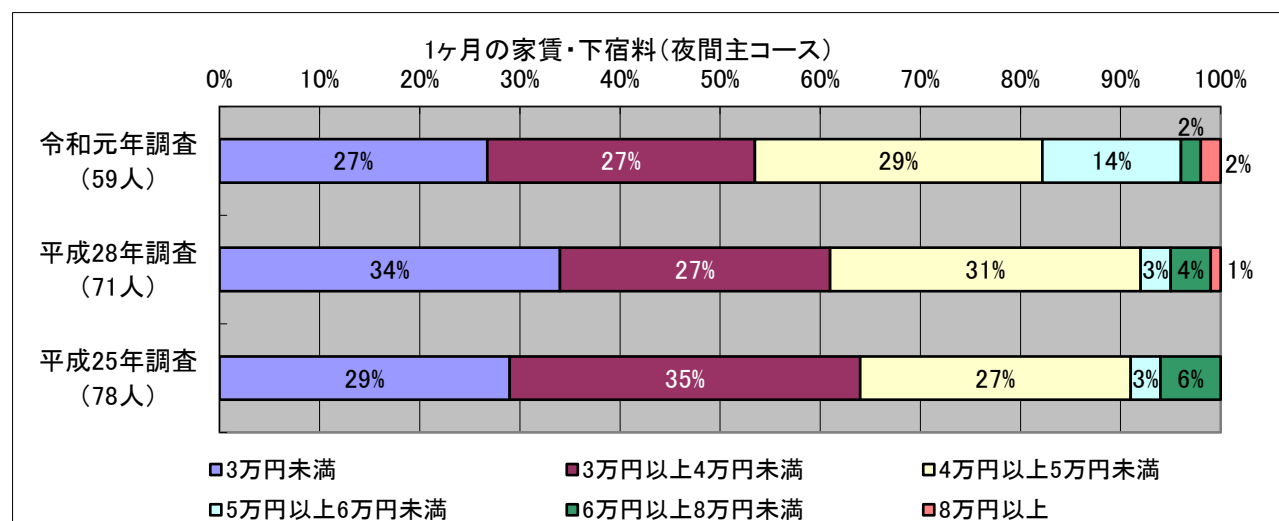
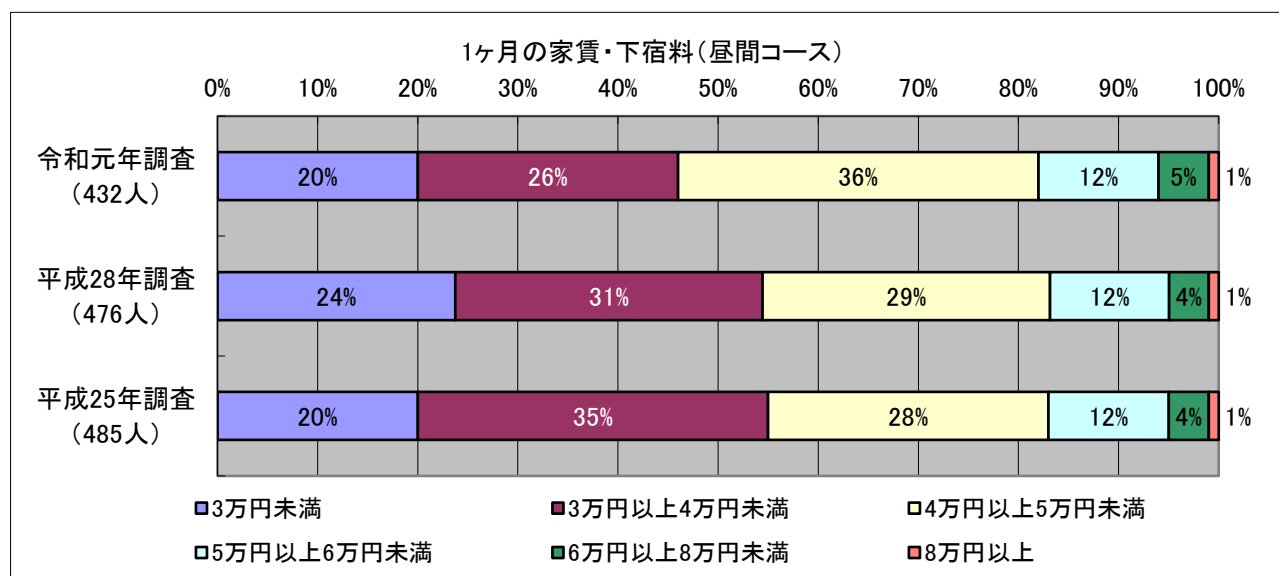
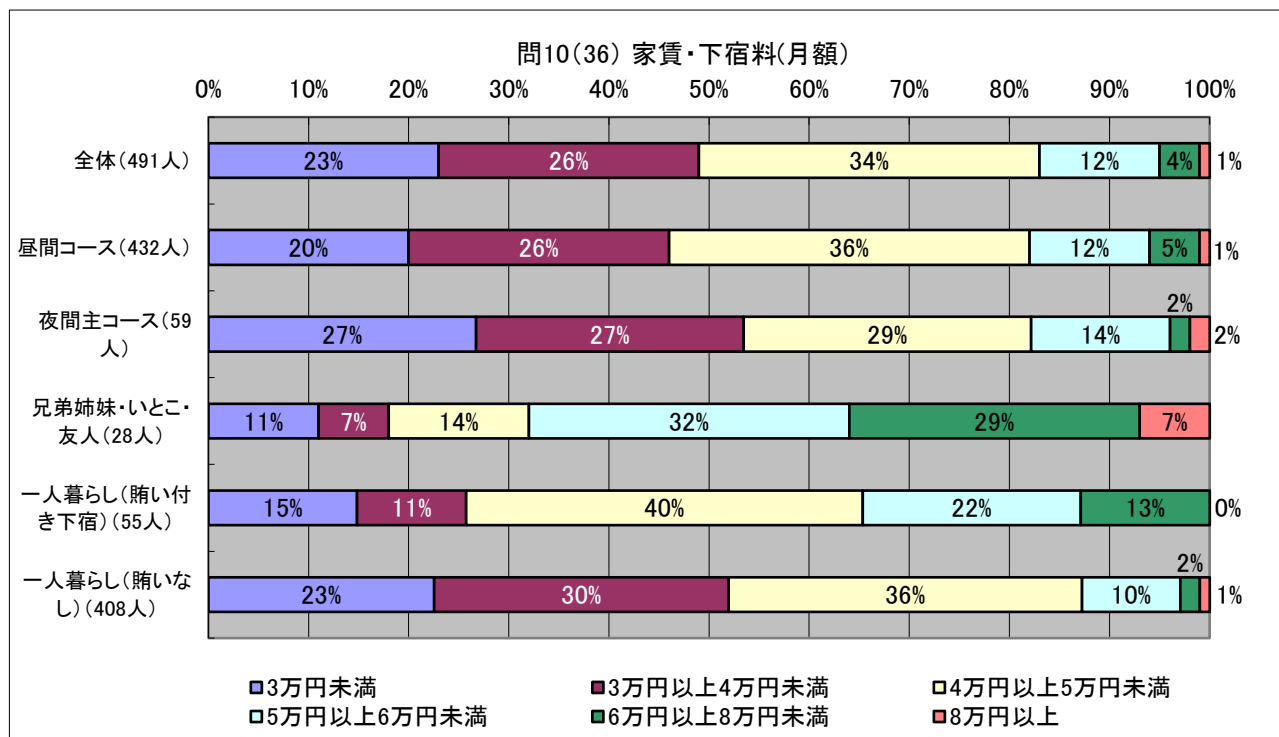
問9 現在の住居を選ぶ時に考慮した条件は何ですか。(2つまで回答可)



問9 コメント

親・親戚と同居していない学生(493名)が、現在の住居を選択したときに考慮した条件は、1位が「大学に近い」、2位が「家賃が安い」であり、いずれも210名を超えている。同居、一人暮らし別では、兄弟姉妹・いとこ・友人と同居の学生については「家賃が安い」が11名(37%)、「通学に便利」が9名(31%)、一人暮らし(賄い付)の学生については「大学に近い」が33名(60%)、「家賃が安い」が21名(38%)、一人暮らし(賄いなし)については「家賃が安い」が183名(45%)、「大学に近い」が185名(45%)である。一人暮らし(賄い付)の学生の6割が「家賃が安い」よりも「大学に近い」ことを一番の条件として住居を選択したことがわかる。

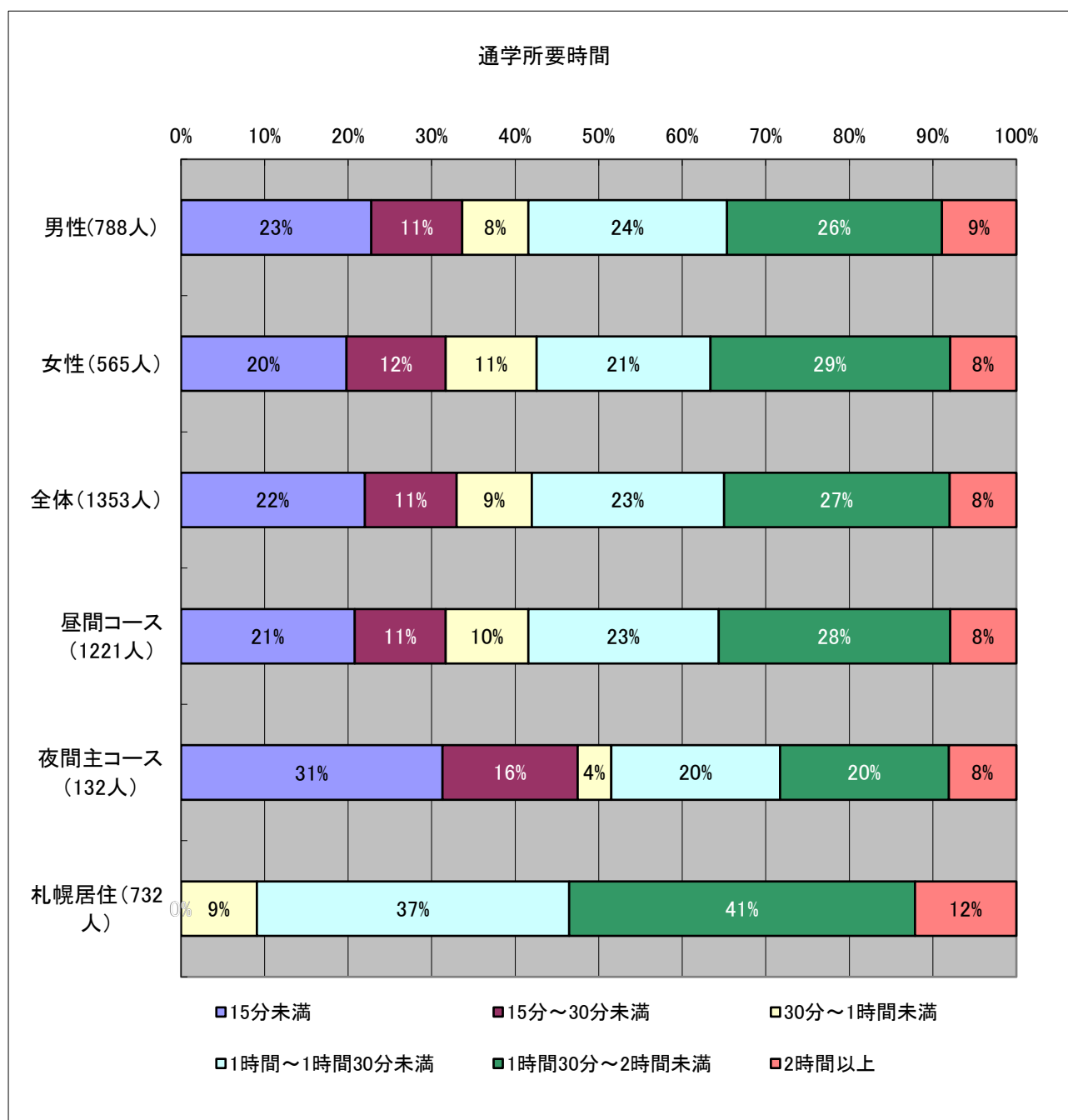
問 10 1 か月の家賃・下宿料はいくらですか。

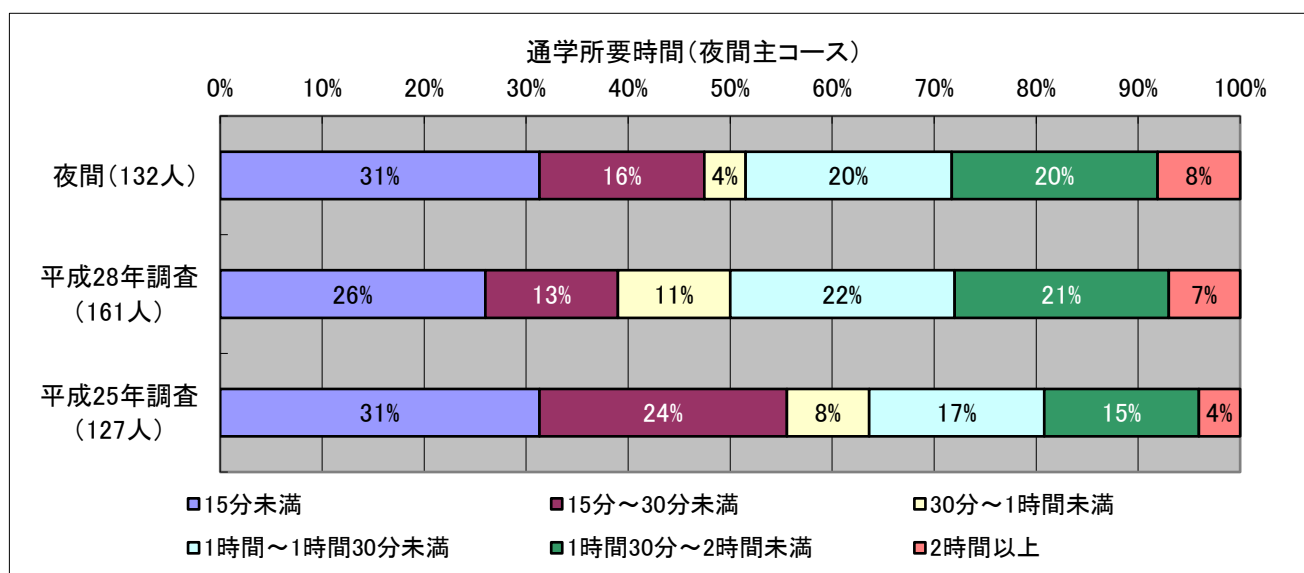
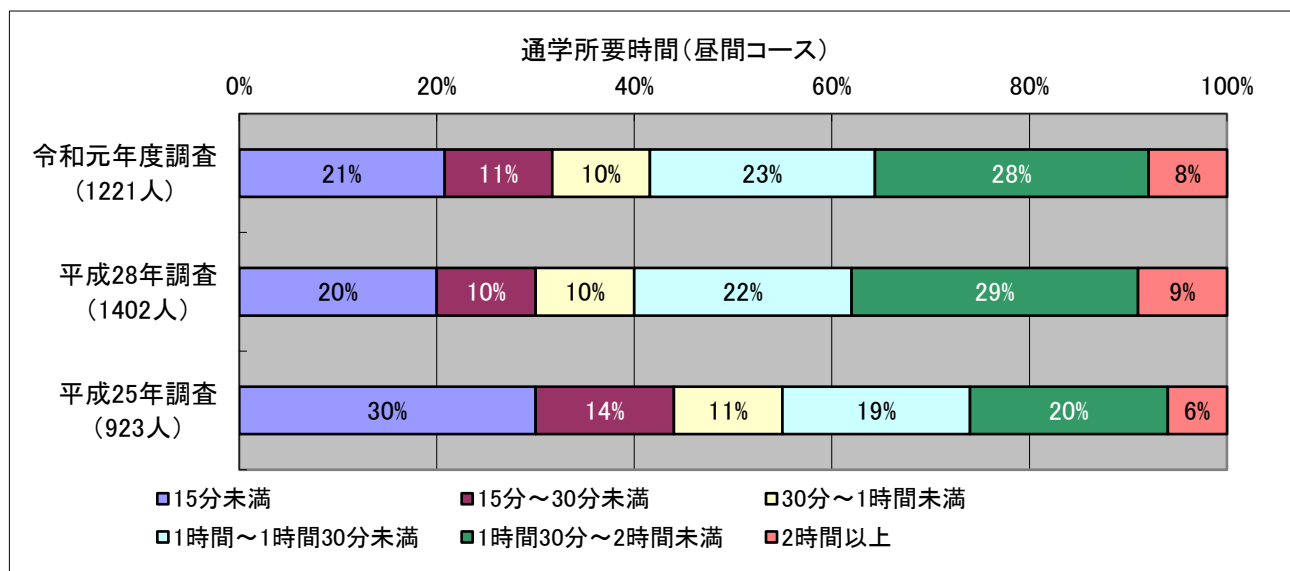


問10 コメント

全体では、「3万円未満」が23%、「3万円以上4万円未満」が26%、「4万円以上5万円未満」が34%、昼間コースもほぼ同様に、「3万円以上4万円未満」が26%、「4万円以上5万円未満」が36%、「3万円未満」が20%である。それに対して、夜間主コースでは、「3万円未満」が27%、「4万円以上5万円未満」が29%、「3万円以上4万円未満」が27%であり、上位3つの価格帯は全体および昼間コースとは異なることがわかる。前回の調査結果と比べると、昼間コース、夜間コースともに、「3万円未満」と「3万円以上4万円未満」の割合が減少している。

問11 通学のために要する時間はどのくらいですか。



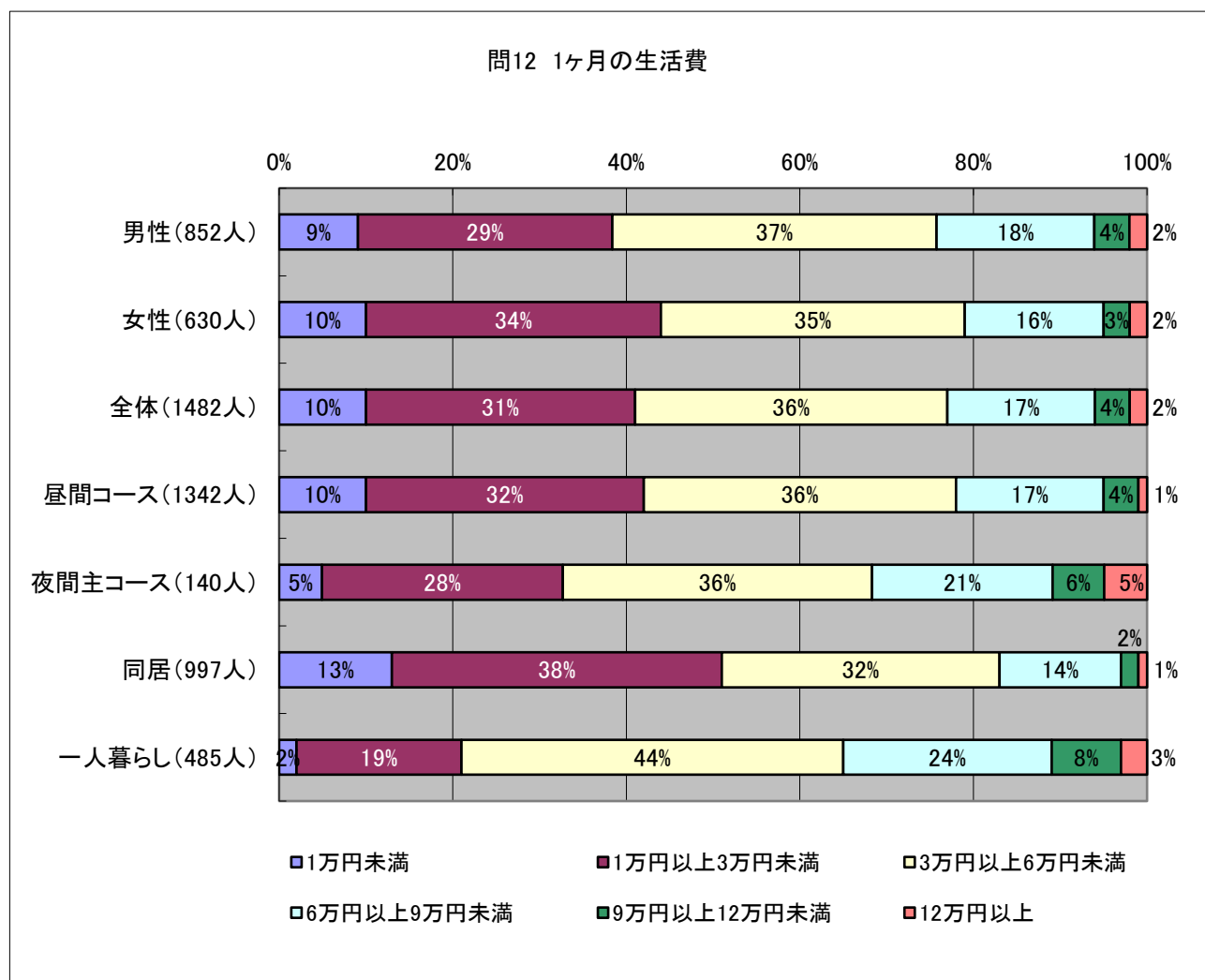


問 11 コメント

昼間コースでは、「15分未満」が21%、「15分以上30分未満」が11%、夜間主コースでは、「15分未満」が31%、「15分以上30分未満」が16%である。前回の調査と比較して、昼間コース、夜間主コースともに、「15分未満」と「15分以上30分未満」の割合が増加しており、通学に30分以上かかる地域に住む学生が少なくなっていることがわかる。また、札幌市から通学する学生に限れば、「1時間30分以上2時間未満」、「2時間以上」を合わせた（札幌市から通学する全学生数に対する）割合は約50%である。1時間30分以上の通学時間を要する学生が1講目の講義を受講するには、午前7時前後に自宅を出発すると考えれば午前5時台、午前6時台に起床する必要があり、睡眠時間が短くなる傾向があるため、通学時間が長い学生については健康面のケアが大切であると考え。

5 生活費・アルバイトについて

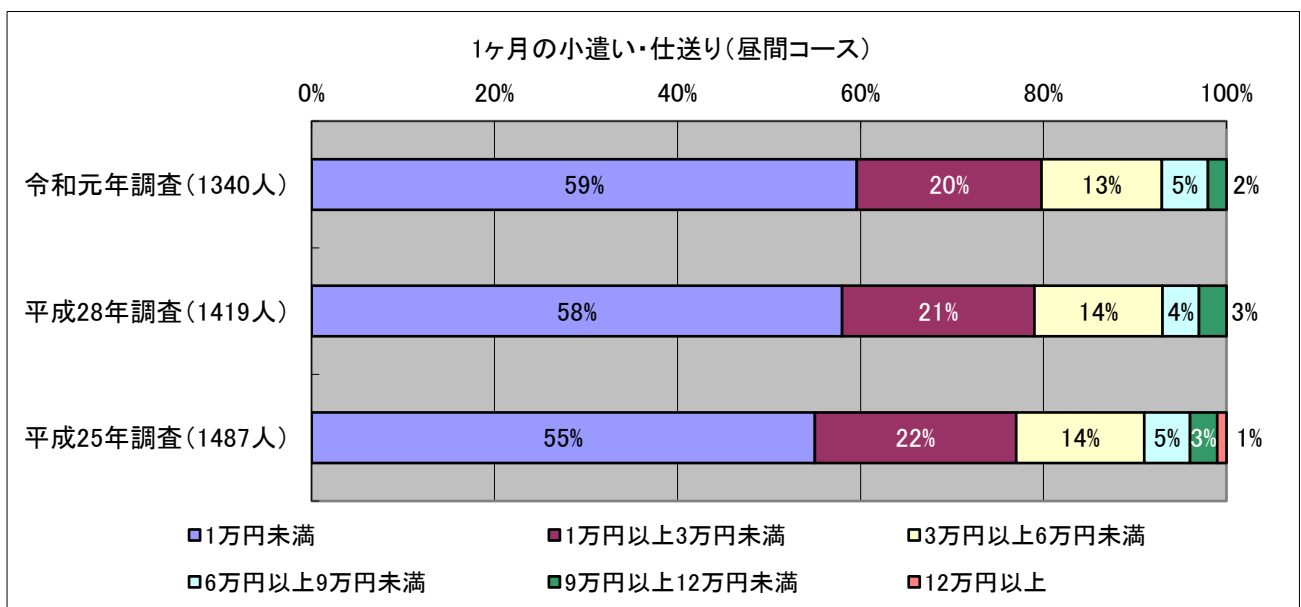
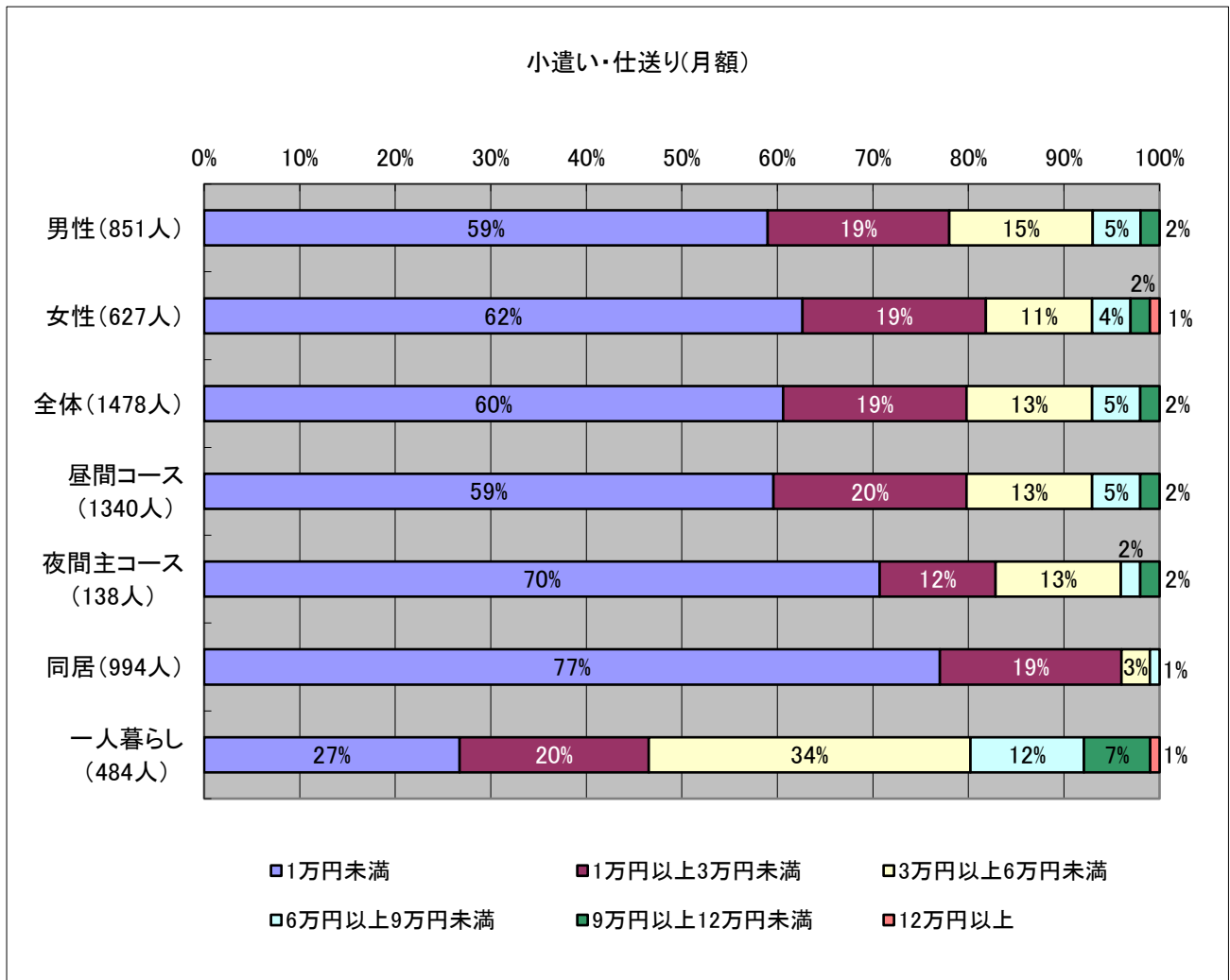
問 12 1ヶ月の生活費はどのくらいですか。自宅生は小遣いプラス仕事・アルバイト収入のうち自分のために使う金額を回答してください。

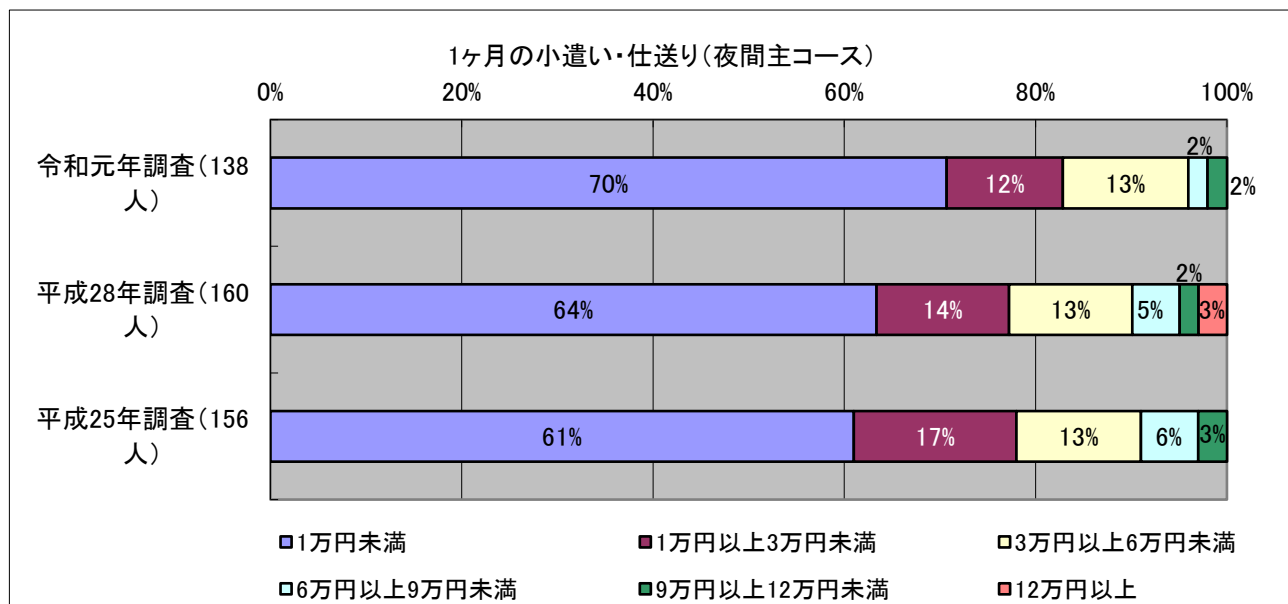


問 12 コメント

昼間コースでは、「1万円未満」が10%、「1万円以上3万円未満」が32%、「3万円以上6万円未満」が36%で、夜間主コースでは、「1万円未満」が5%、「1万円以上3万円未満」が28%、「3万円以上6万円未満」が36%であり、これら3つの費用帯を合わせた割合は昼間コースの方が高いことがわかる。男女別では、大きな差は見られない。同居と一人暮らし別では、「1万円未満」と「1万円以上3万円未満」を合わせた割合は、同居の学生が一人暮らしの学生よりも30%ポイント高いことがわかる。これは、自宅生（同居の学生）が自分のために使う金額以上に、一人暮らしの学生は家賃、食費や光熱費などを生活費として支出しているからと考えられる。

問 13 1ヶ月に親からもらう額（小遣い・仕送り等）はどのくらいですか。

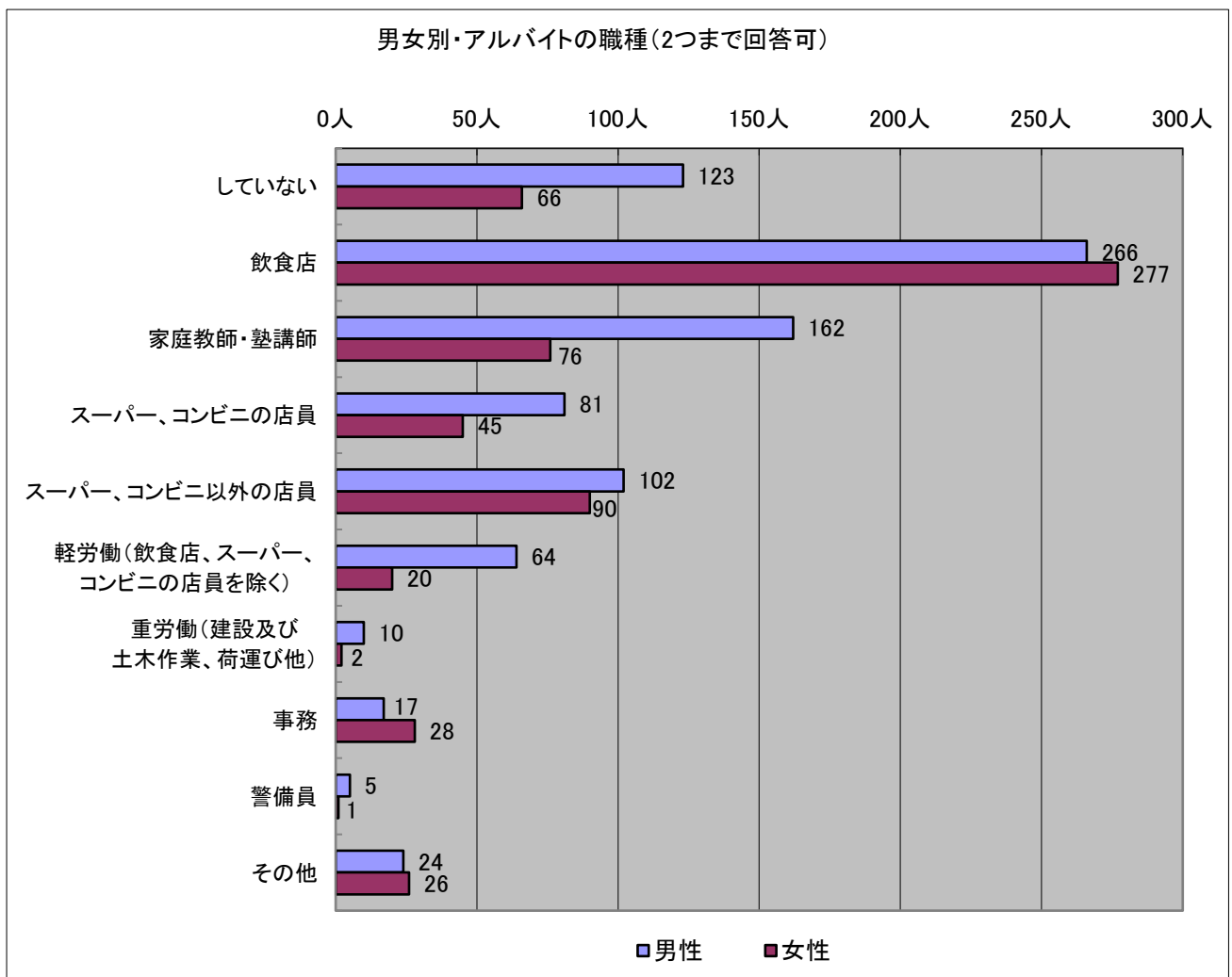




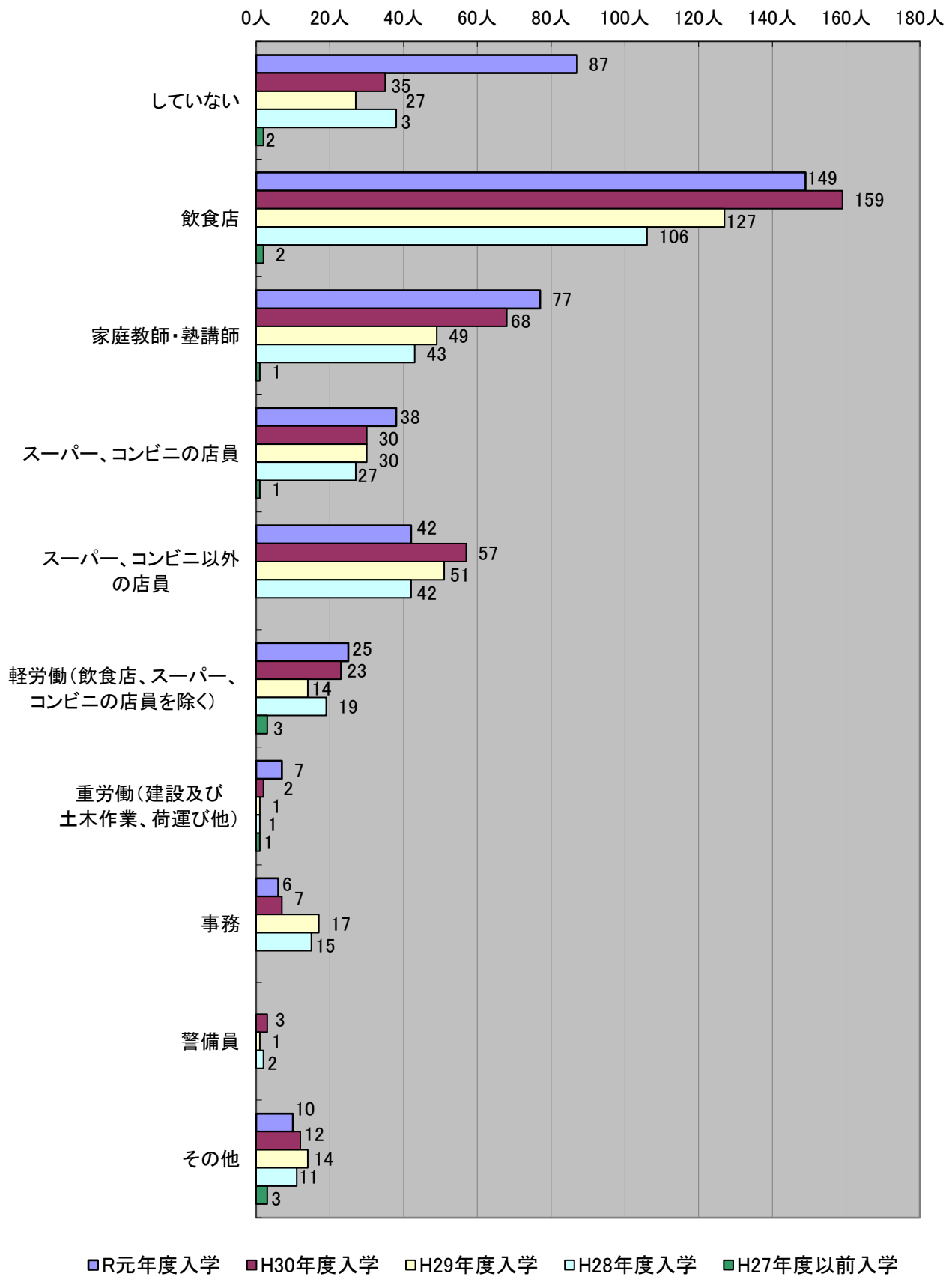
問 13 コメント

全体では、「1万円未満」が60%、「1万円以上3万円未満」が19%である。また、「1万円未満」の割合は、昼間コースよりも夜間主コースの方が高く、「1万円以上3万円未満」の割合は夜間主コースよりも昼間コースの方が高い。前回、前々回の調査結果と比較すると、昼間コースは「1万円未満」が前々回よりも約4%ポイント、前回よりも1%ポイント増加し、夜間主コースは前々回より9%ポイント、前回よりも6%ポイント増加した。「1万円以上3万円未満」については、昼間コースが2%ポイント、夜間主コースが5%ポイント、前々回よりも減少している。男女別では、大きな差は見られない。同居、一人暮らし別では、親・親戚と同居する学生の「1万円未満」の割合が77%で他の金額帯よりも極めて高く、「9万円以上～12万円未満」、「12万円以上」については0名である。親・親戚と同居する学生の約77%は親から小遣いをもらっていない、もしくは小遣いをもらっていても1万円未満であることがわかる。

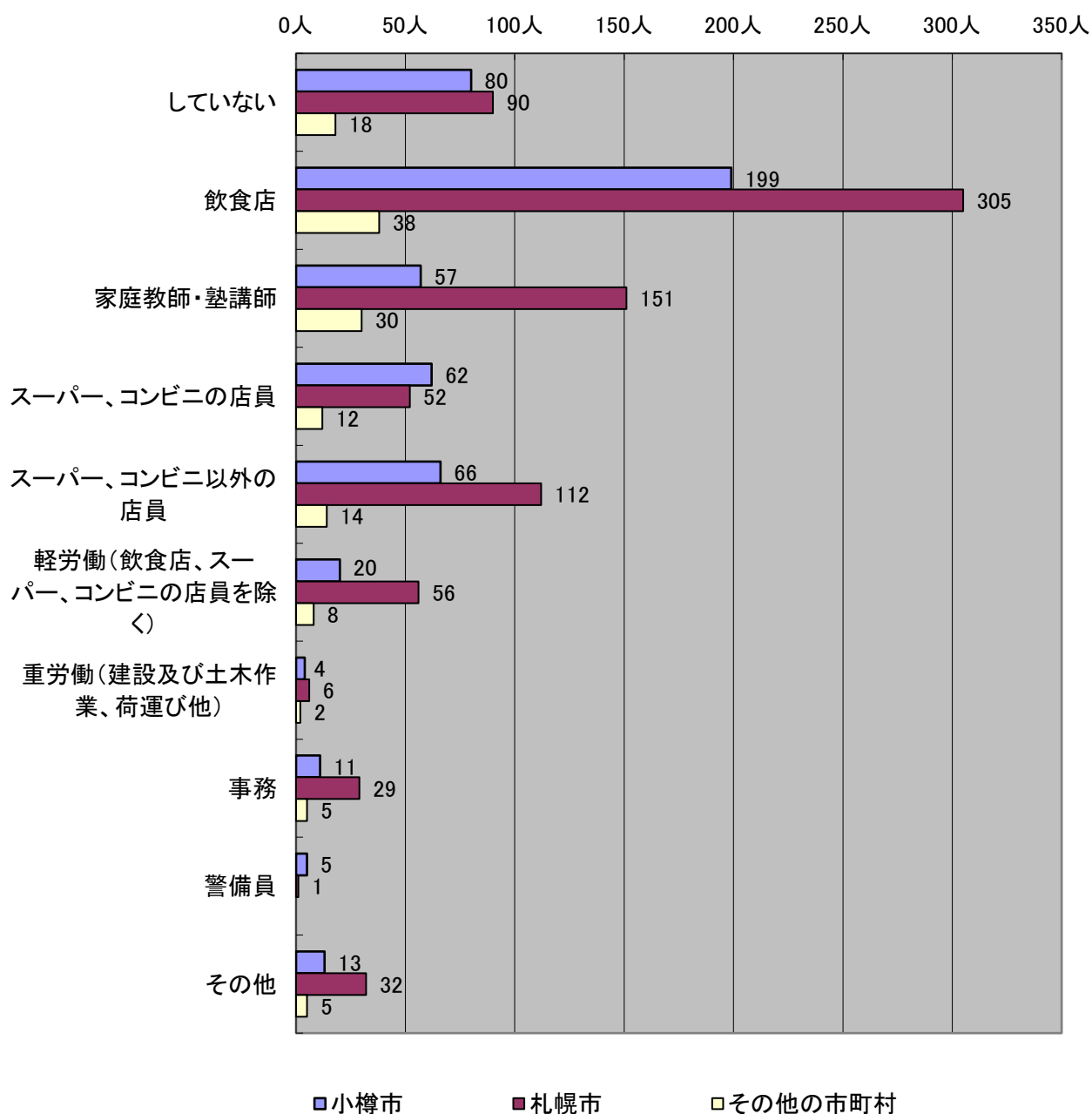
問 14 アルバイトの職種は何ですか。（なお、選択肢（2）以下については、過去半年間に1ヵ月以上の期間（週1回以上）において、もっとも長い期間従事したアルバイトをした方のみ回答してください。）



入学年度別・アルバイトの職種(2つまで回答可)



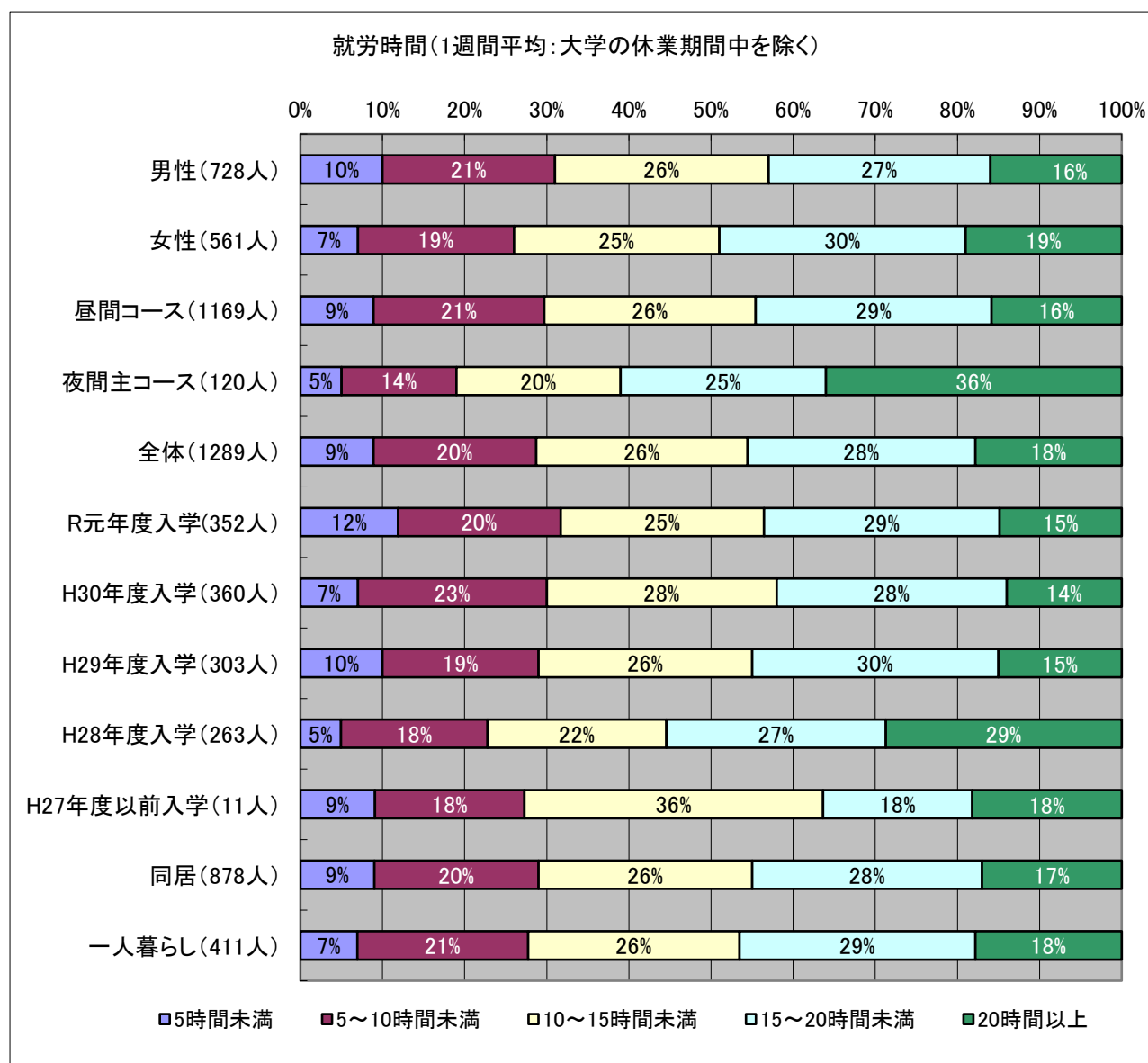
現住所別・アルバイトの職種(2つまで回答可)



問 14 コメント

男女別では、男性、女性ともに「飲食店」、「家庭教師・塾講師」、「スーパー、コンビニの店員」、「スーパー、コンビニ以外の店員」の人数が多く、1位はどちらも「飲食店」であるが、2位～4位は男性と女性で異なる。学年別では、H28年度～R元年度入学生ともに1位～4位は「飲食店」、「家庭教師・塾講師」、「スーパー、コンビニ以外の店員」、「スーパー、コンビニの店員」の順である。居住地別では、小樽市に住む学生、札幌市に住む学生、その他の市町村に住む学生ともに「飲食店」が1位で、順位は異なるが「家庭教師・塾講師」、「スーパー、コンビニの店員」、「スーパー、コンビニ以外の店員」などの人数が「飲食店」の次に多い点は同様である。

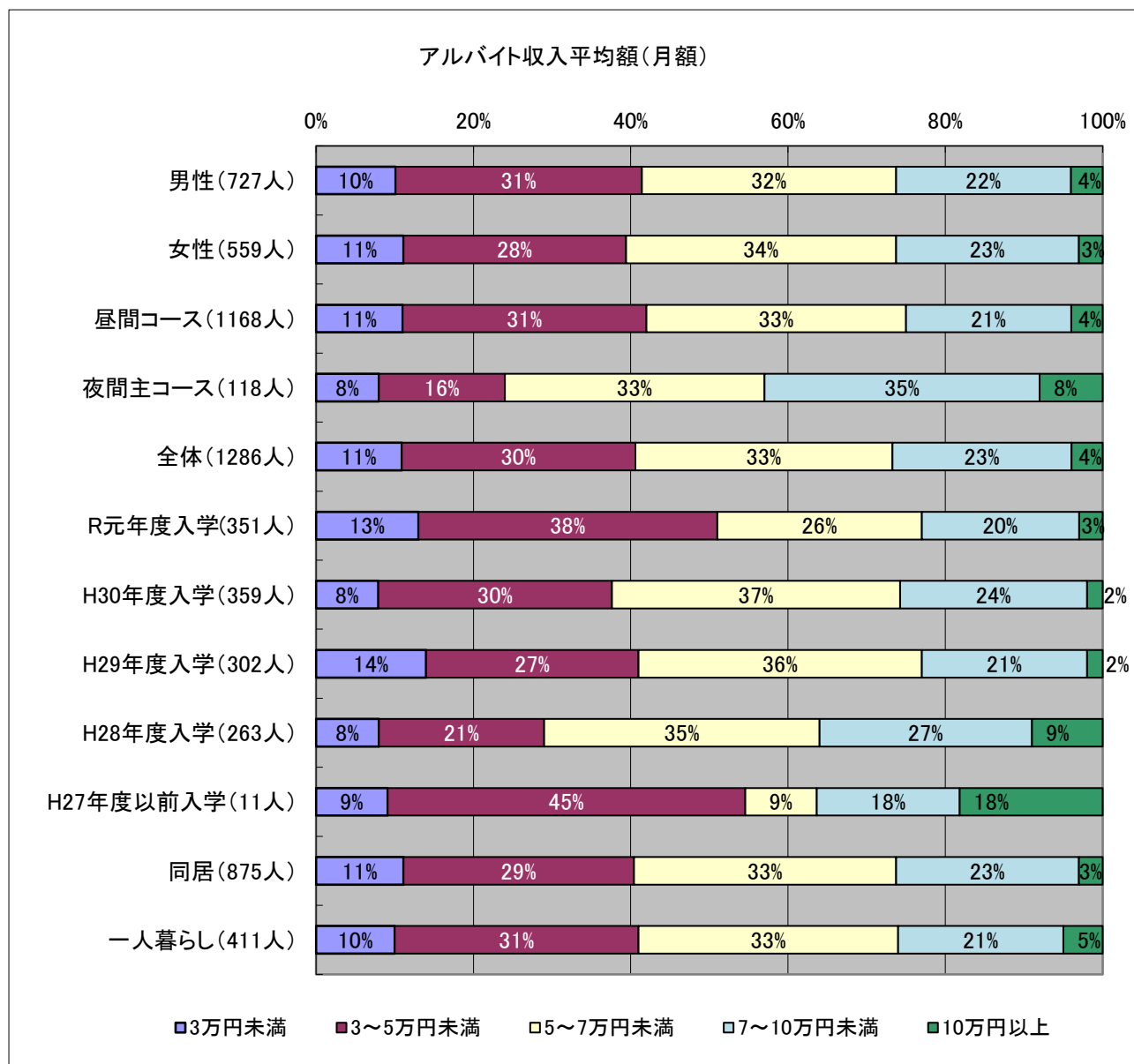
問 15 アルバイトに費やす時間は 1 週間に平均してどのくらいですか。（大学の休業期間中を除く）



問 15 コメント

昼間コースでは、「10 時間以上 15 時間未満」が 26%、「15 時間以上 20 時間未満」が 29%、「20 時間以上」が 18%である。これに対して、夜間主コースでは、「20 時間以上」が 36%で一番多く、次いで「15 時間以上 20 時間未満」が 26%、「10 時間以上 15 時間未満」が 20%である。このことから、「20 時間以上」の割合は夜間主コースが昼間コースの 2 倍、「10 時間以上 15 時間未満」の割合は昼間コースが夜間主コースよりやや多いことがわかる。学年別では、「20 時間以上」の割合は、H28 年度入が他の学年の学生よりも高い。これは、これまで 順調に履修単位を獲得してきた学生は 4 年生において履修講義数が少なくなるため、アルバイトをこれまで以上に積極的に行い、授業料・修学費用、卒業旅行費用、および就職後の一人暮らしのための資金などを稼いでいることが一因に考えられる。男女別、および同居、一人暮らし別ではともに、大きな差は見られない。

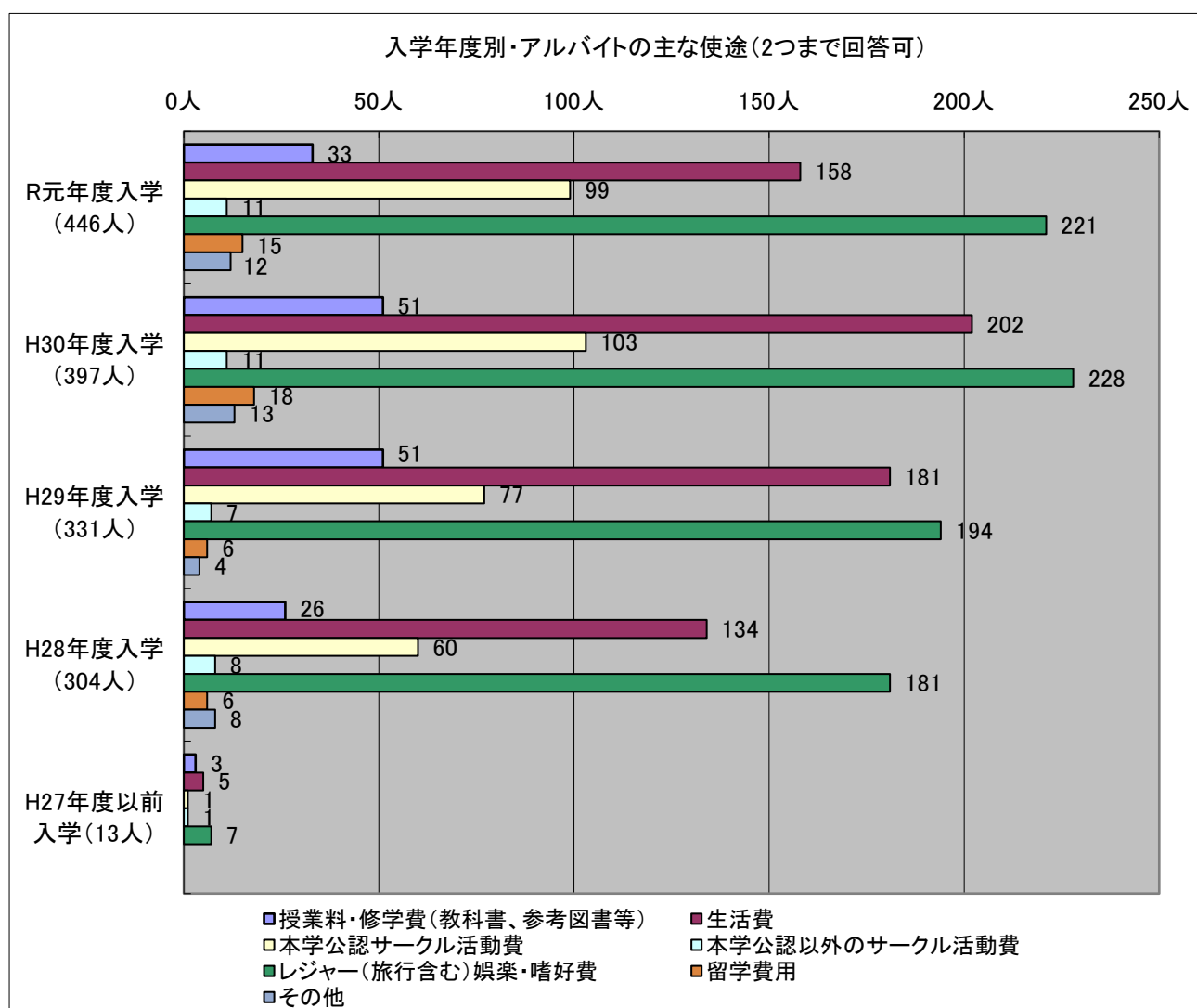
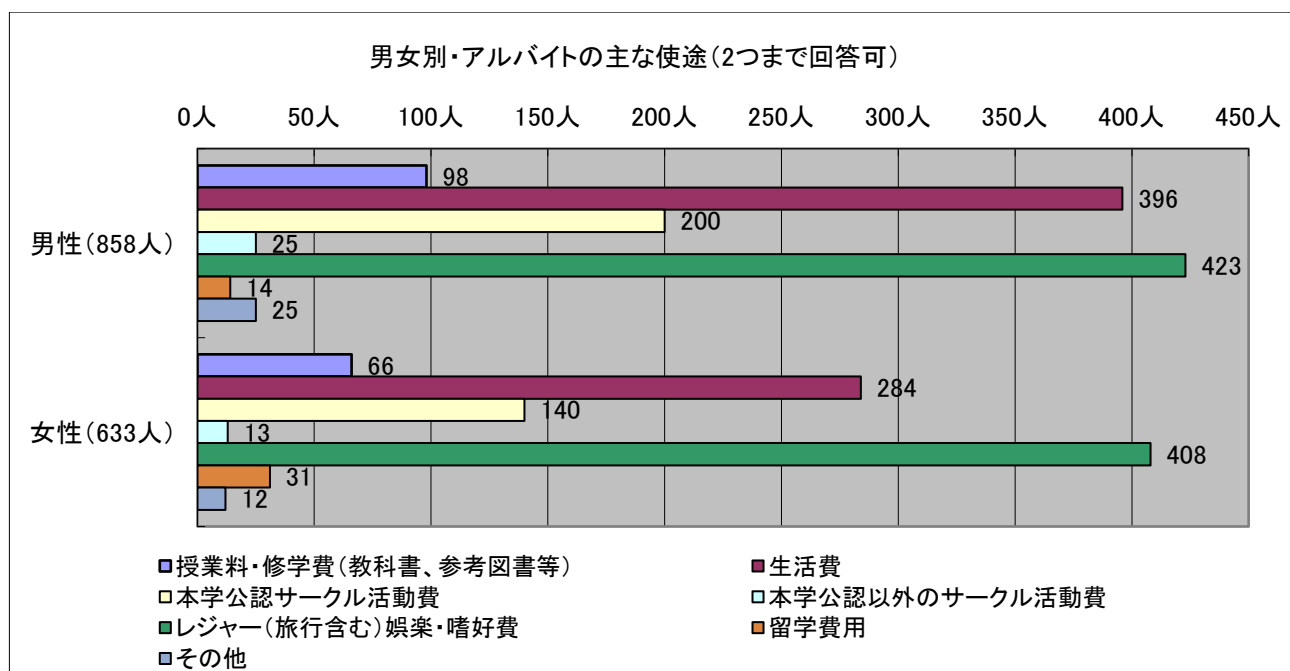
問 16 アルバイト収入の平均額は1ヶ月にいくらくらいですか。（大学の休業期間中を除く）



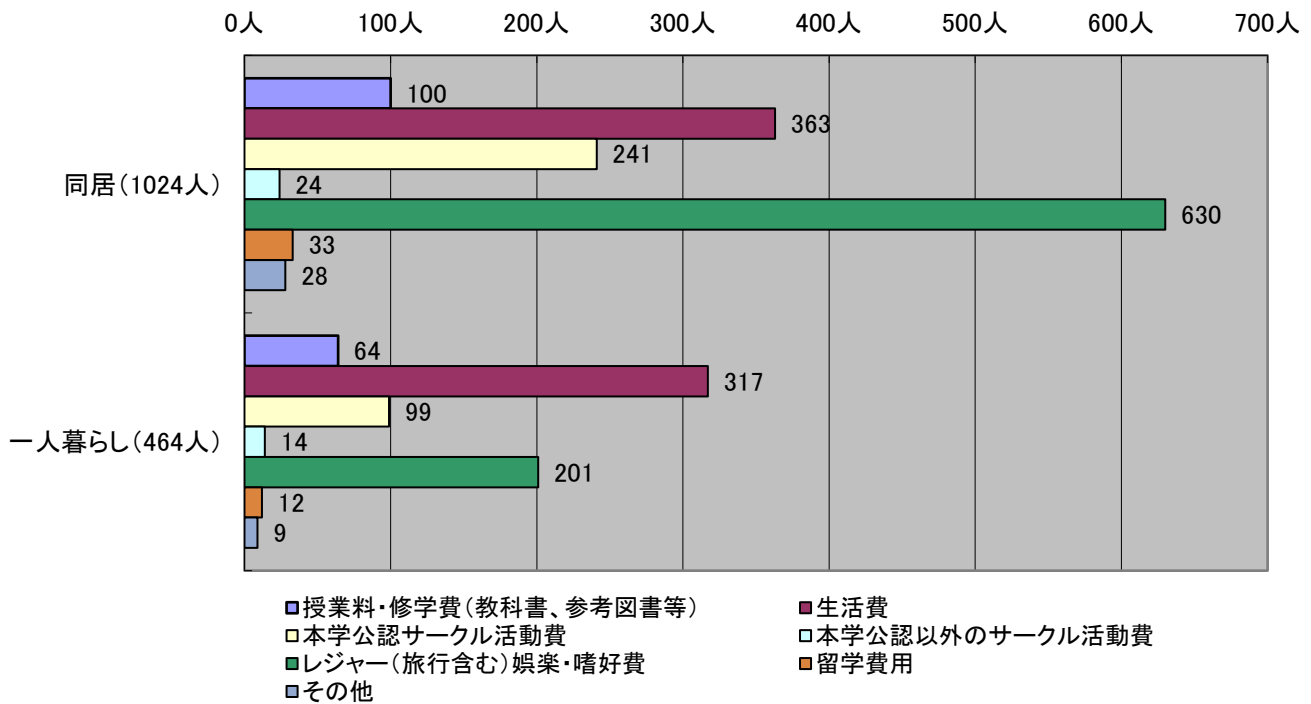
問 16 コメント

全体では、「3万円以上5万円未満」が30%、「5万円以上7万円未満」が33%、「3万円未満」が11%、昼間コースもほぼ同様で、「3万円以上5万円未満」が31%、「5万円以上7万円未満」が33%、「3万円未満」が11%である。それに対して、夜間主コースでは、「3万円以上5万円未満」が16%で、昼間コースの約半分である一方、「10万円以上」が35%で約1.5倍であることがわかる。学年別では、「10万円以上」の割合がH28年度入学生とH27年度入学以前の学生の方が他の学生よりも高い。これは、これまで順調に履修単位を獲得してきた学生は4年生において履修講義数が少なくなり、授業料・修学費用、卒業旅行費用、および就職後の一人暮らしのための資金などを得ることを目的として、アルバイトをこれまで以上に積極的に行うことが一因に考えられる。

問 17 アルバイト代の主な使途は何ですか。(2 つまで回答可) (本学公認サークル：本学において学生が組織する部、サークル及び同好会等で顧問教員をおいているものとして大学に正式に届出を行っている団体)



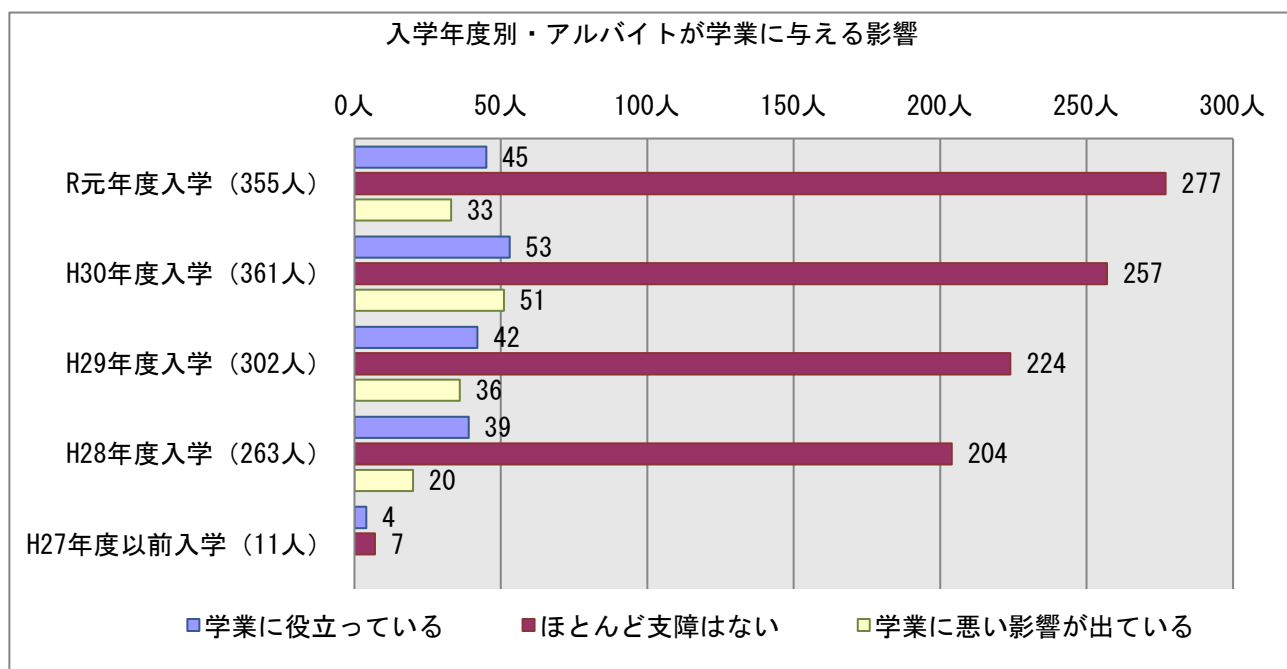
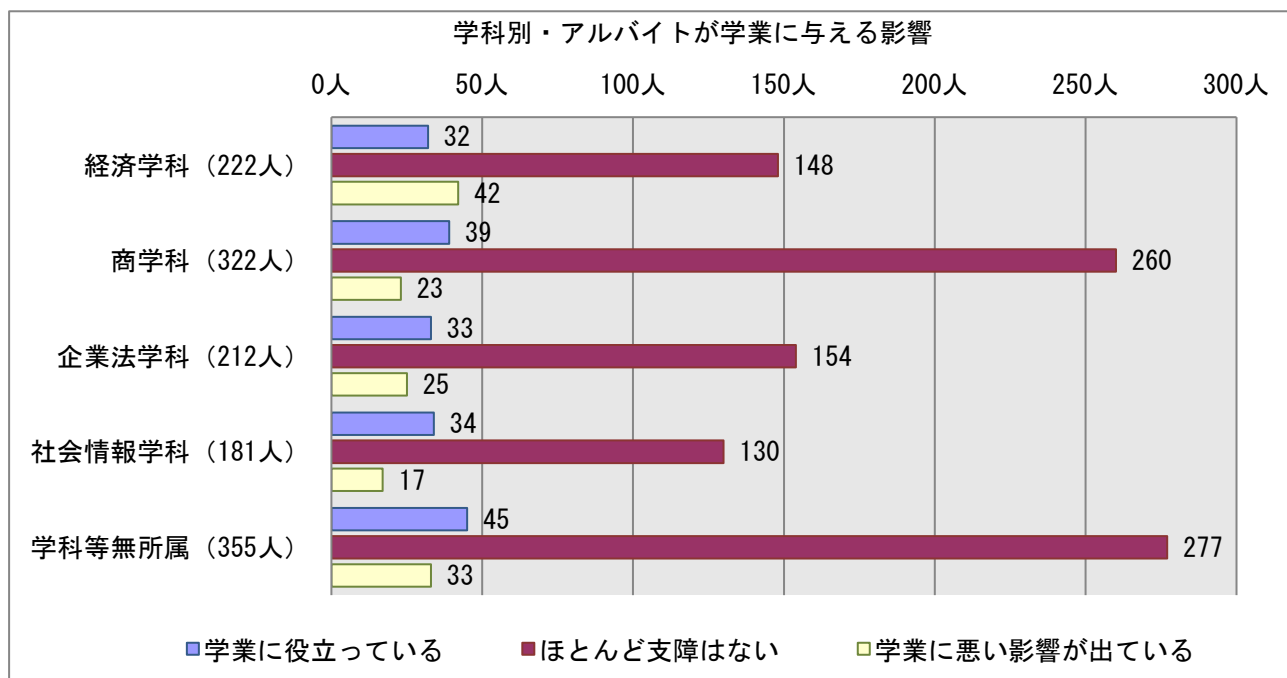
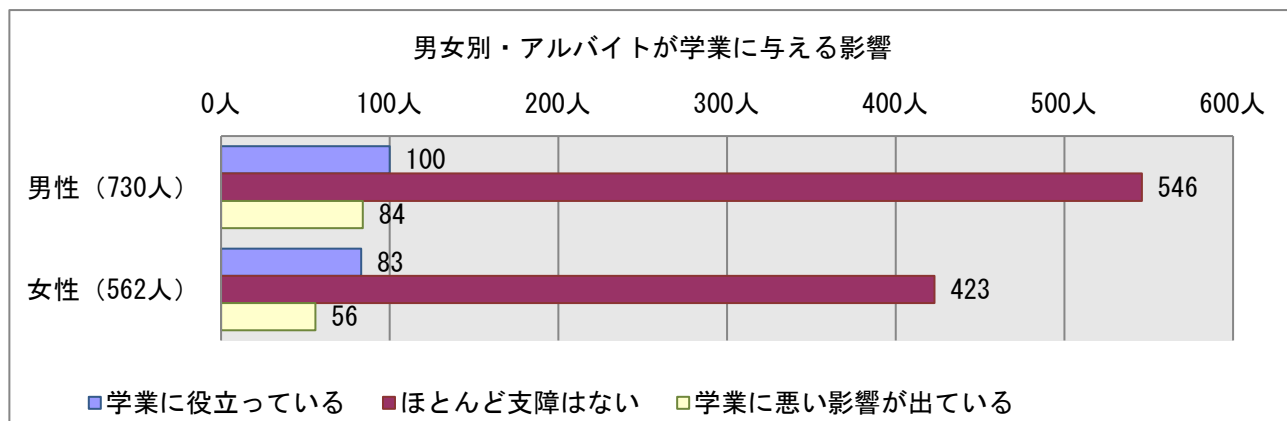
問17 居住形態別・アルバイトの主な使途(2つまで回答可)



問17 コメント

男女別では、どちらも「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」，「生活費」，「サークル活動費」の順で割合が高い。1位の「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」については、女性が64%であり、男性の49%よりも15%ポイント高い。それに対して、2位の「生活費」は、男性が46%であり、女性の45%よりも1%ポイント高くなっている。入学年度別では、H27年度入学以前の学生を除いて、どの入学年度生も、男女別と同様に、「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」，「生活費」，「サークル活動費」の順で割合が高く、それらの割合も各入学年度で大きな差はない。同居，一人暮らし別では、一人暮らしの学生は「生活費」が68%で1位，同居の学生は「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」が35%で1位であり，一人暮らしの学生の約7割が生活費を稼ぐことを目的にアルバイトをしていることがわかる。

問 18 アルバイトが学業に与える影響について教えてください。

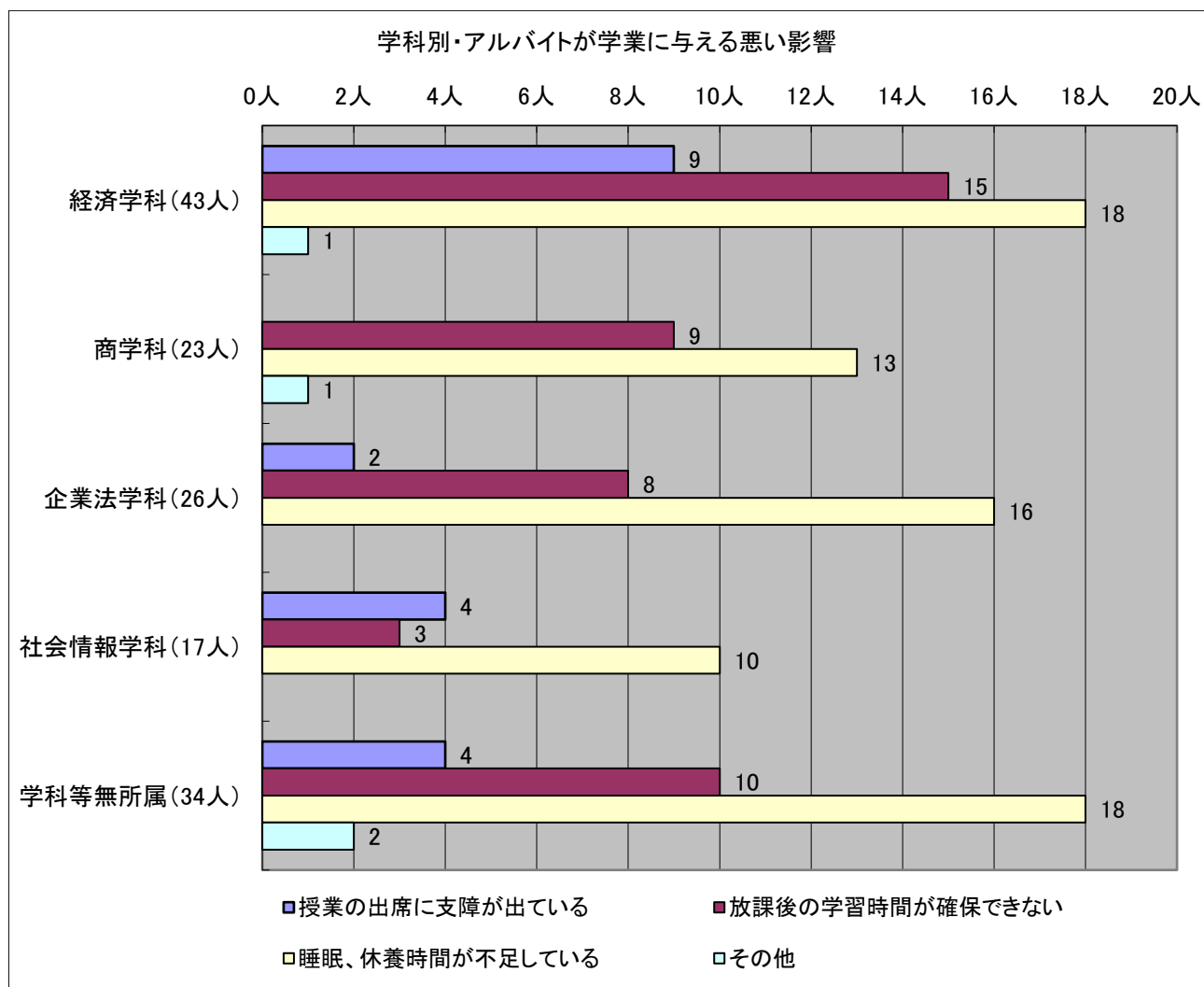
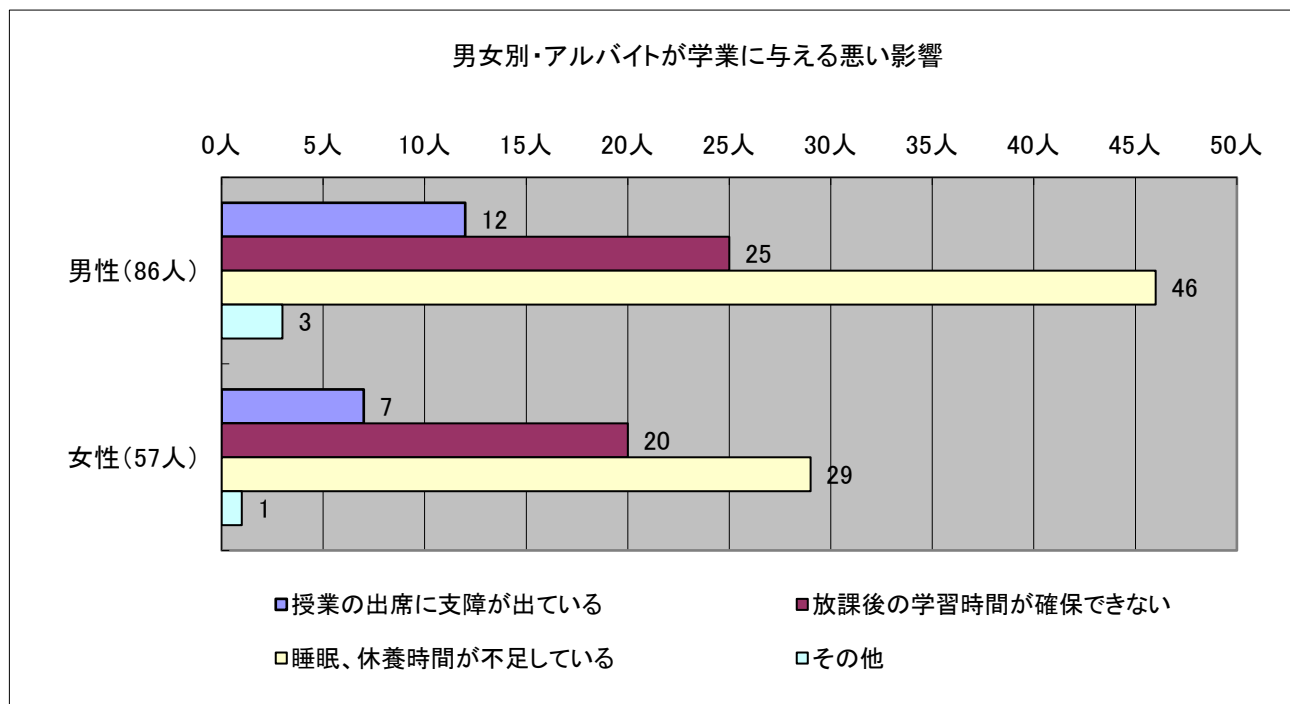


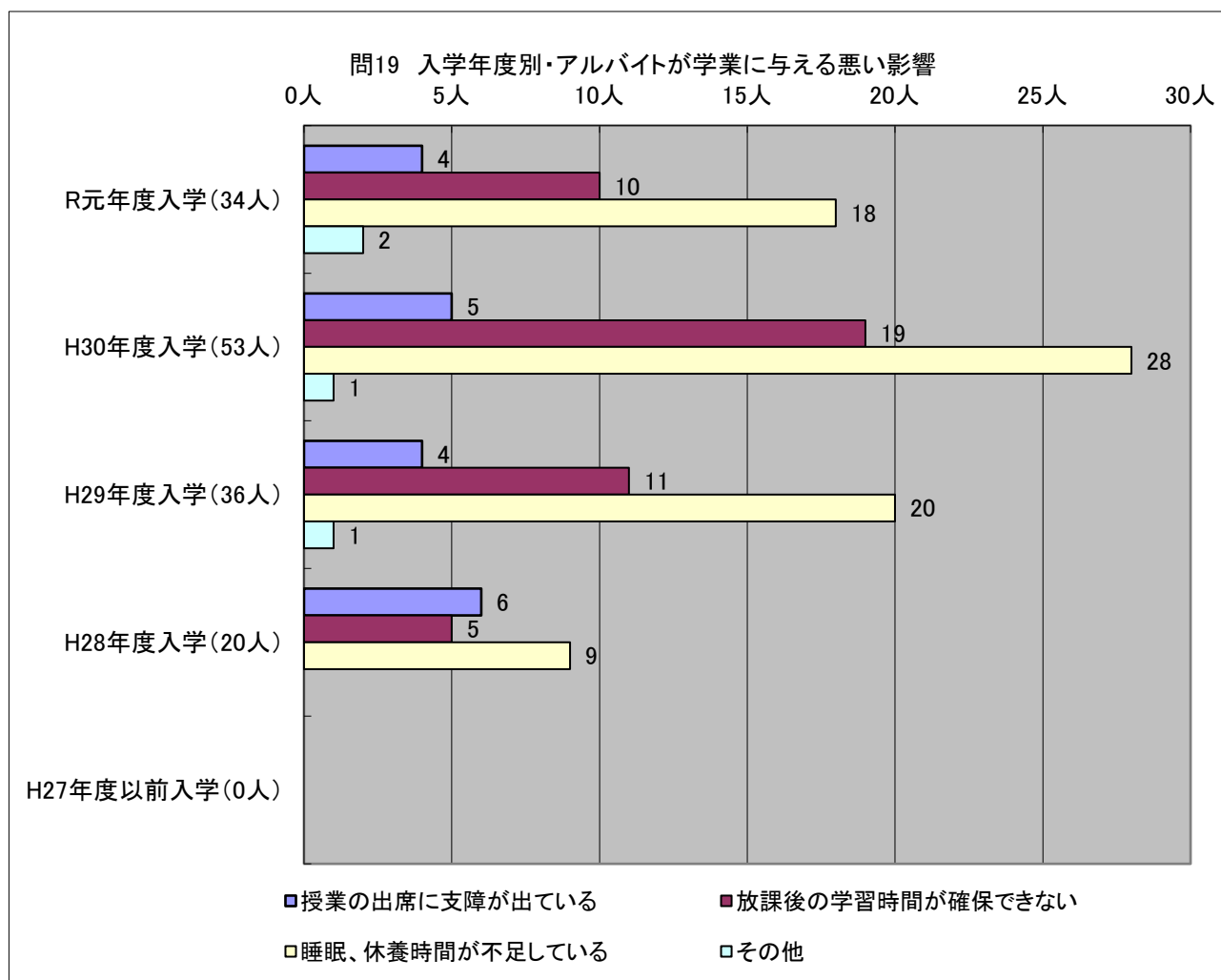
問 18 コメント

男女別では、割合の高い順は同様で、「ほとんど支障がなかった」、「学業に役立っている」、「学業に悪い影響が出ている」の順である。男女ともに約 75%が「ほとんど支障がなかった」と回答している。入学年度別では、どの入学年度生も、割合の高い順で 1 位から 3 位までは男女別と同様である。

「学業に悪い影響が出ている」については、H28 年度入学生の割合が 7.6%で他の入学年度に比べ最も低い。この理由については、1 年生は履修講義数が他の学年に比べて多い傾向があるため、アルバイトによる影響が学業面に出やすいためと考えられる。学科別では、一部に「学業に役立っている」と「学業に悪い影響が出ている」の順位が逆転する科があるものの、基本的には「ほとんど支障はない」が圧倒的多数を占める傾向に違いは無い。

問 19 アルバイトが学業に与える悪い影響について教えてください。



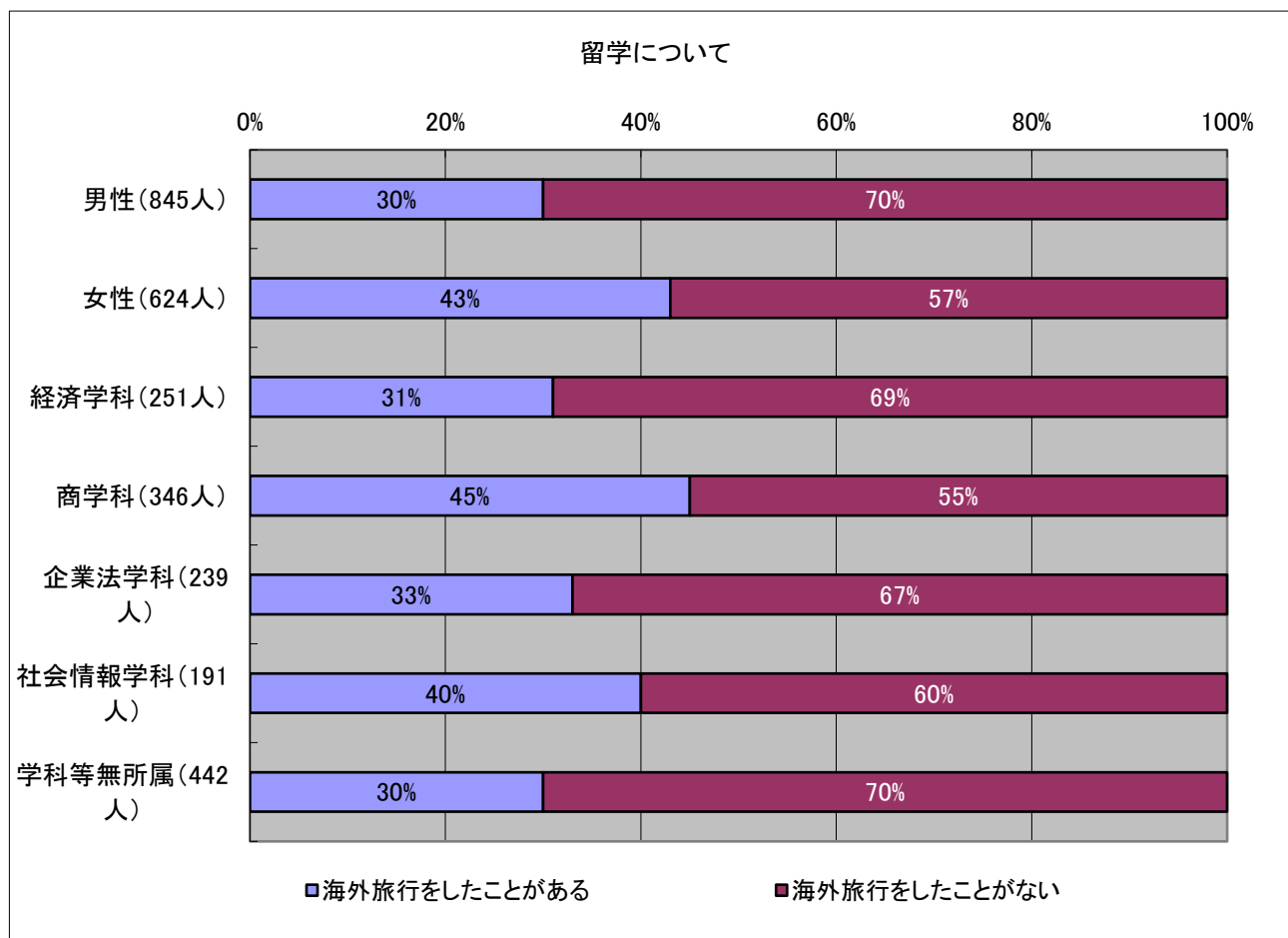


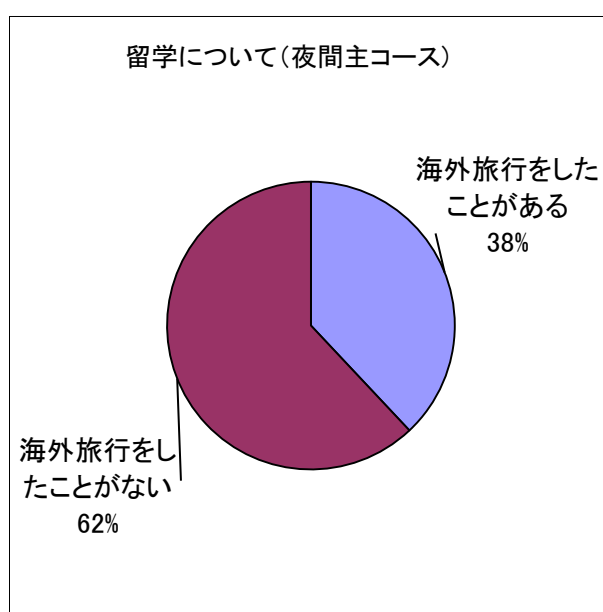
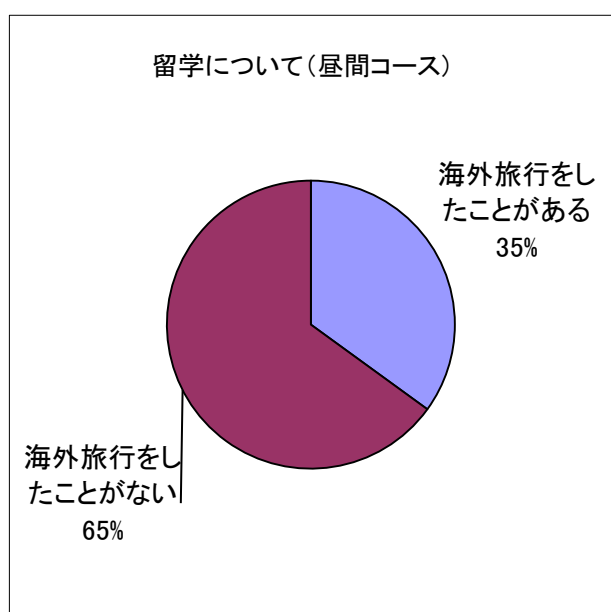
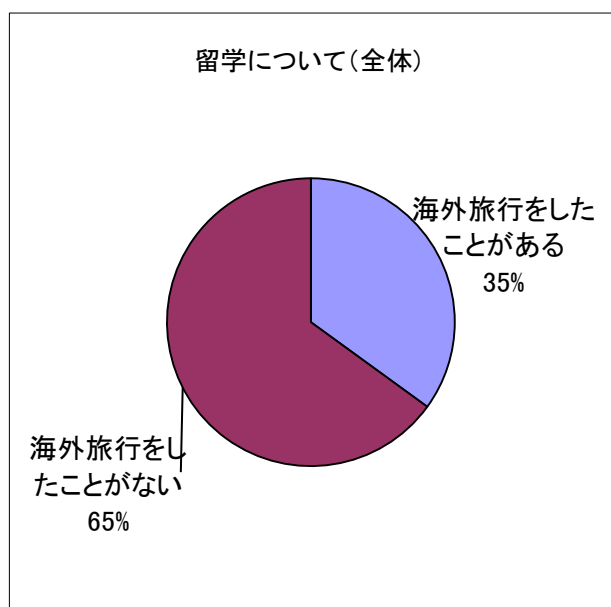
問 19 コメント

男女別では、割合の高い順は同様で、「睡眠、休養時間が不足している」、「放課後の学習時間が取れない」、「授業の出席に支障が出ている」の順である。「睡眠、休養時間が不足している」については、男性が53%、女性が51%であり、約5割の男女がアルバイトのために睡眠、休養時間が不足していることがわかる。また、「放課後の学習時間が取れない」については、男性が29%、女性が35%であり、約3割前後の男女がアルバイトのために十分な学習時間がとれない問題を抱えていることがわかる。入学年度別では、H28年度入学生以外はどの入学年度生も、割合の高い順で1位から3位までは男女別と同様である。R元年度入学生の「睡眠、休養時間が不足している」の割合が相対的に大きい理由は、1年生は履修講義数を他の学年に比べ多くとる傾向があるにも関わらず、放課後の予習時間や復習時間をアルバイトに費やしてしまうために、睡眠、休養時間を削って予習時間や復習時間を確保していることが一因として考えられる。

6 留学について

問 20 海外旅行（修学旅行や研修を含む）をしたことはありますか。

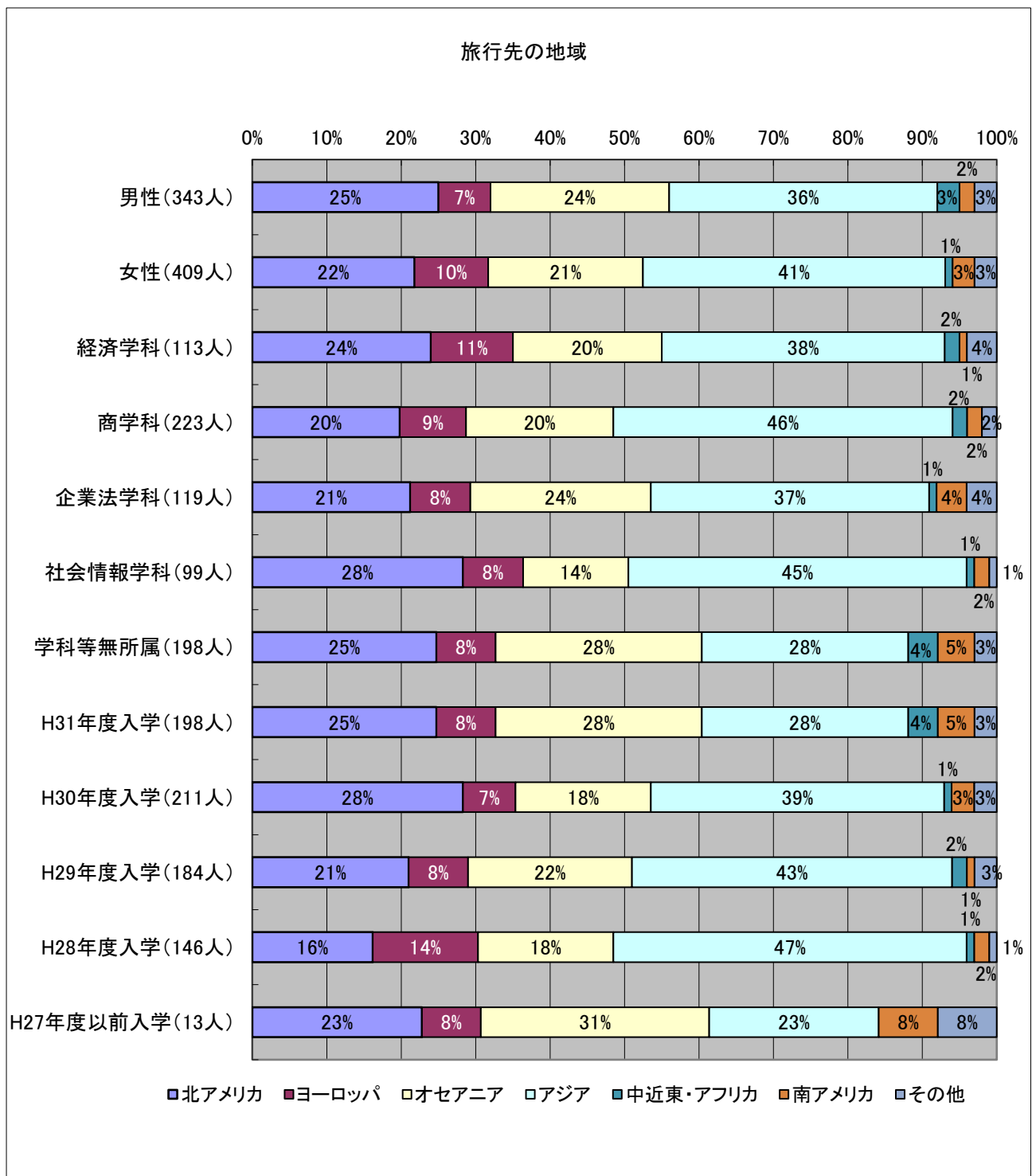


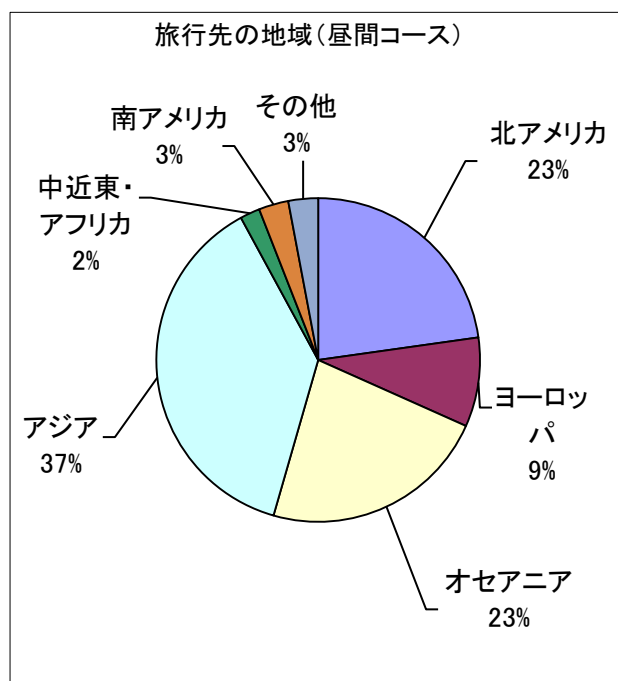
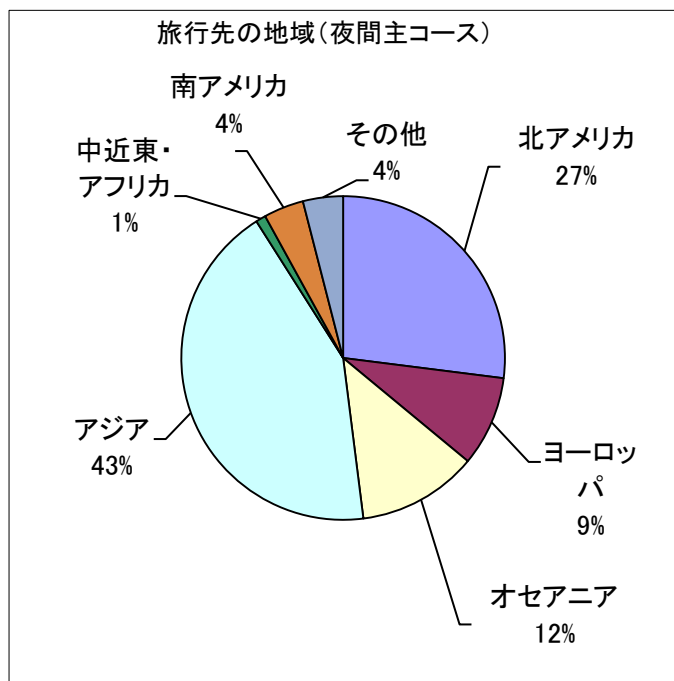
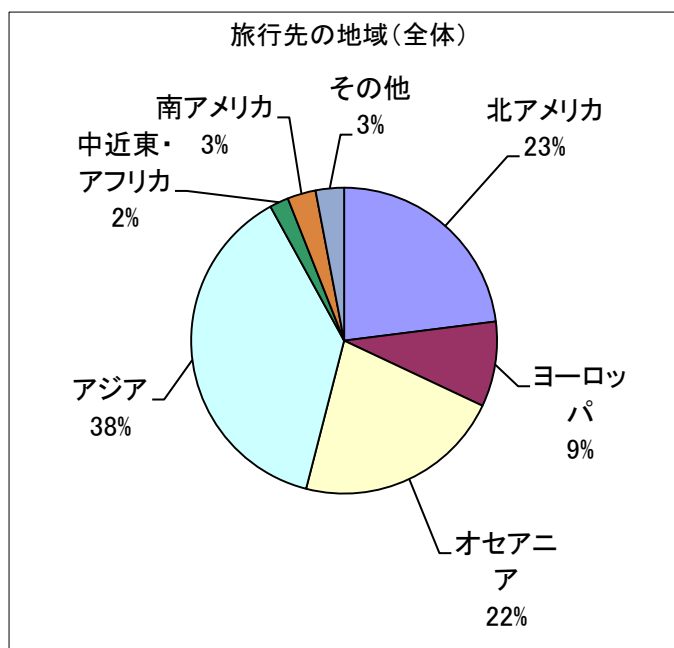


問 20 コメント

全体として、海外に行ったことがある学生は、40%に満たない。特に、女子学生が43%と男子学生の30%より多く、男子学生に比べて外向性のあることが窺える。内訳として、商学部の45%が最も多いが、無所属の1年次生を含め大差がないことがわかる。

問 21 どの地域に旅行しましたか。（複数回答可）

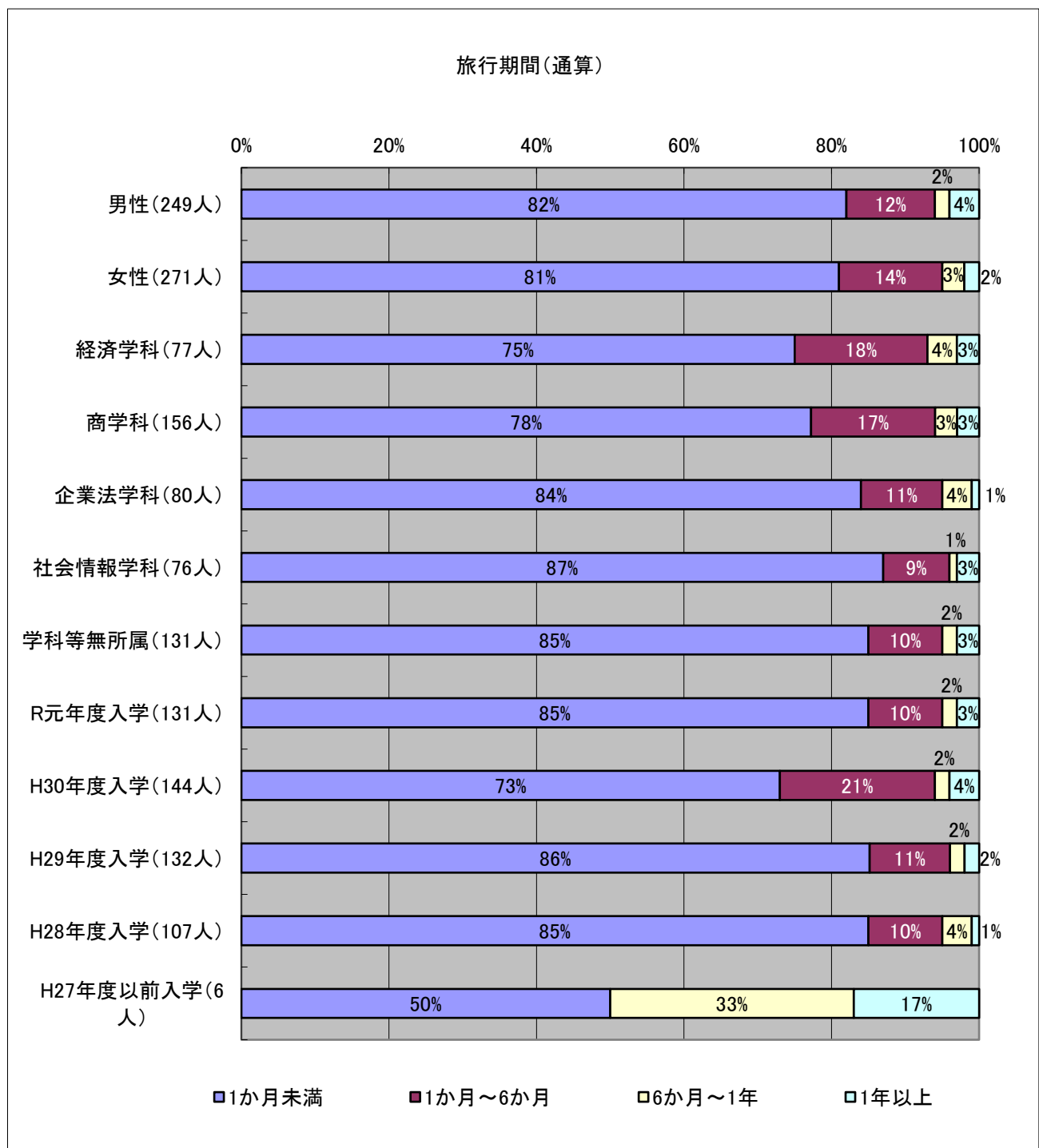


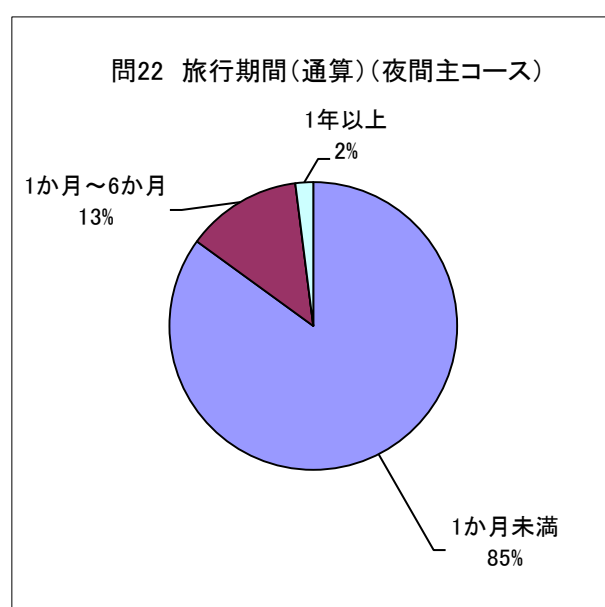
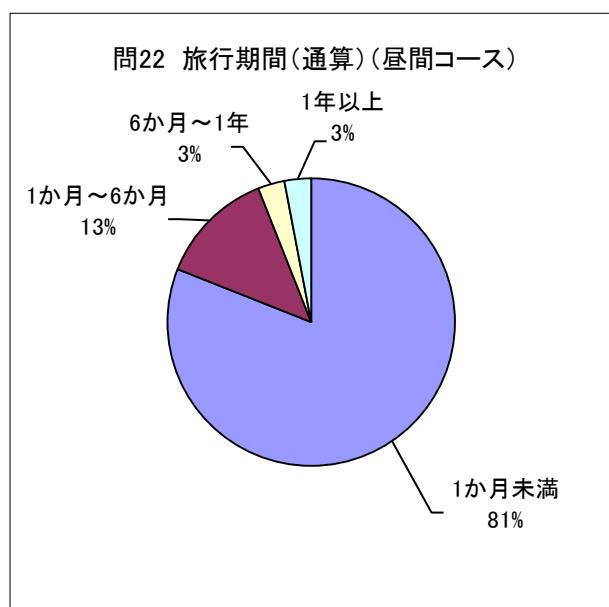
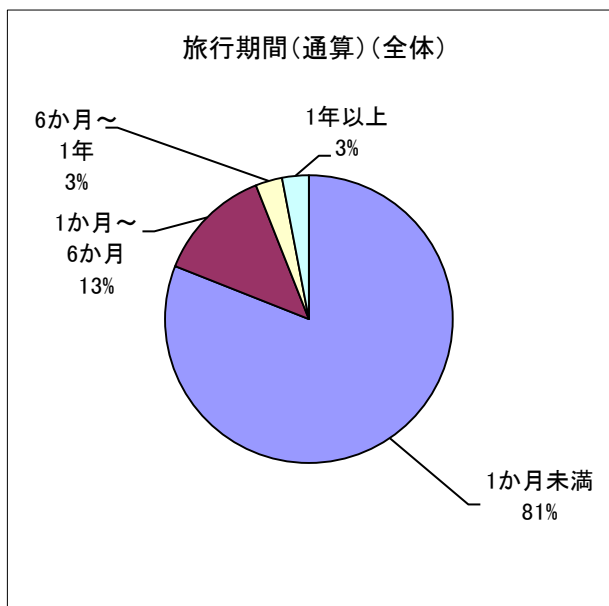


問 21 コメント

行き先として、最も挙げられていたのがアジアである。距離的に一番近く、比較的安価に行くことができるという理由が考えられ、主に観光を目的としている。また、北アメリカやオセアニアも2割を超えており、事情科目等で英語留学に参加している学生が比較的多い傾向にあると思われる。

問 22 どの位の期間，旅行しましたか。（複数回旅行した方は，期間を通算してください。）

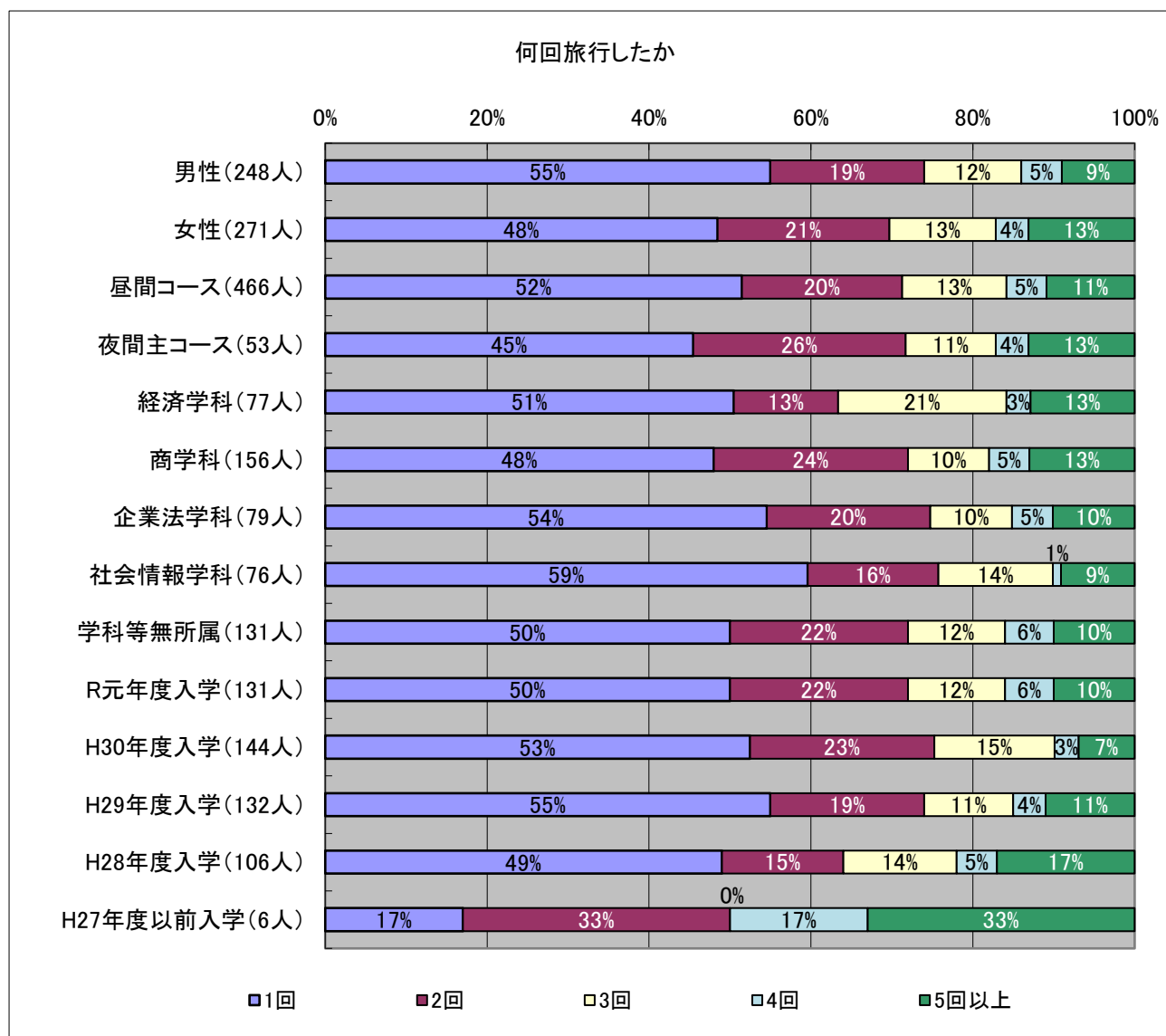




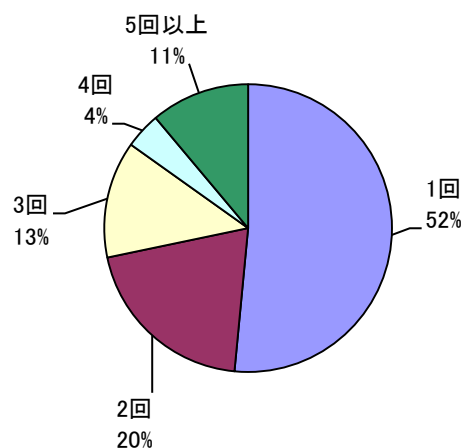
問 22 コメント

80%の学生は1ヶ月未満であり、海外旅行や修学旅行、短期語学研修などの短期的な滞在がほとんどである。

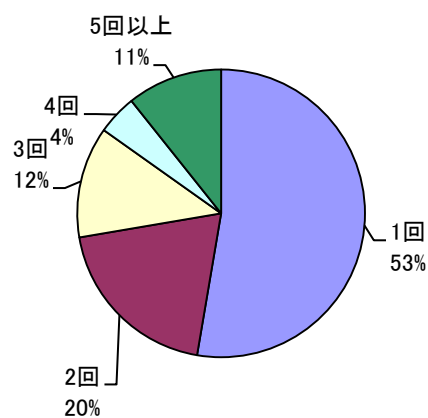
問 23 何回，旅行しましたか。



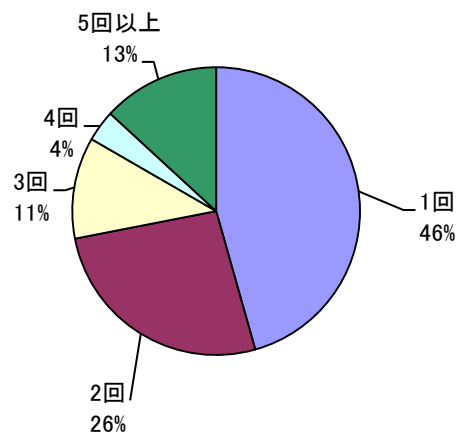
問23 何回旅行したか(全体)



何回旅行したか (昼間コース)



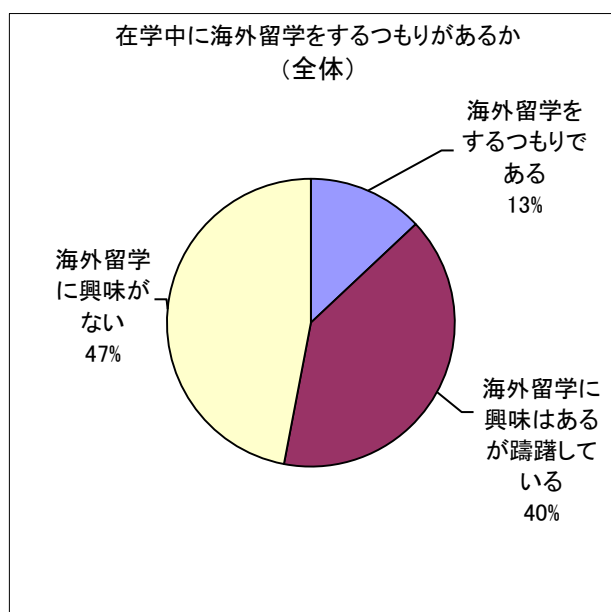
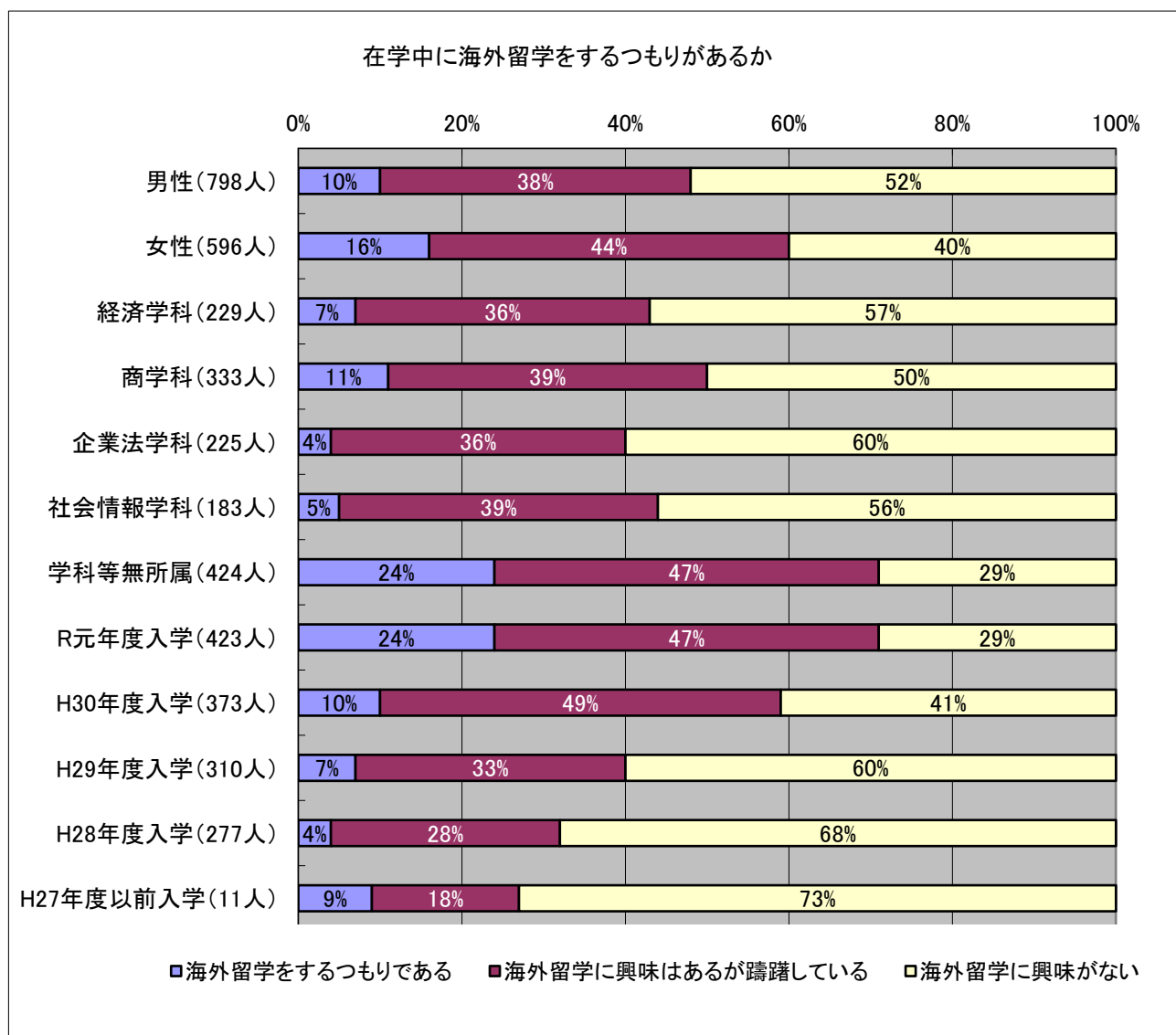
何回旅行したか (夜間主コース)

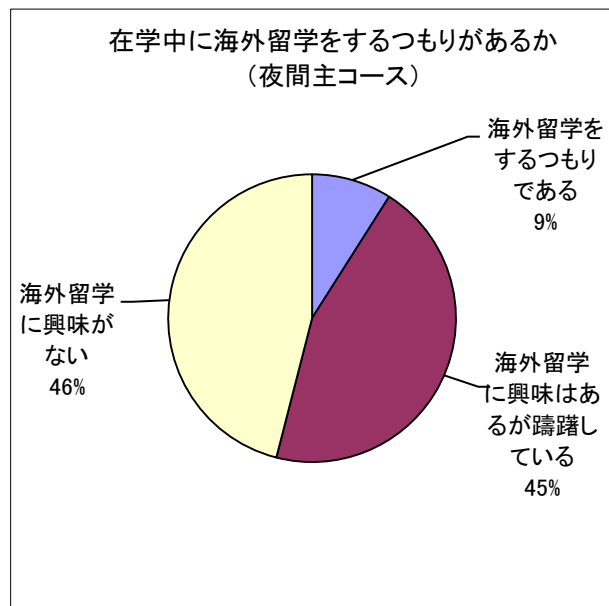
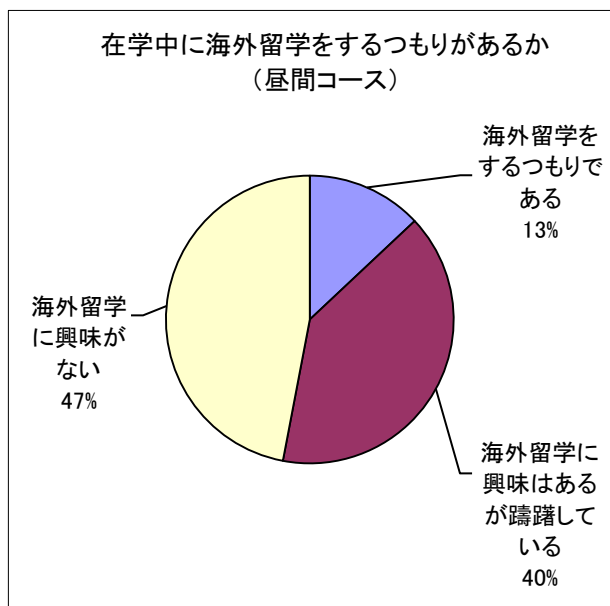


問 23 コメント

海外旅行の回数については、1回のみとする学生が約50%であり、学科間に有意差はないと思われる。また、5回以上海外旅行した学生も10%程度おり、学生間に2極化傾向があるように推察される。

問 24 在学中に海外留学をするつもりですか。

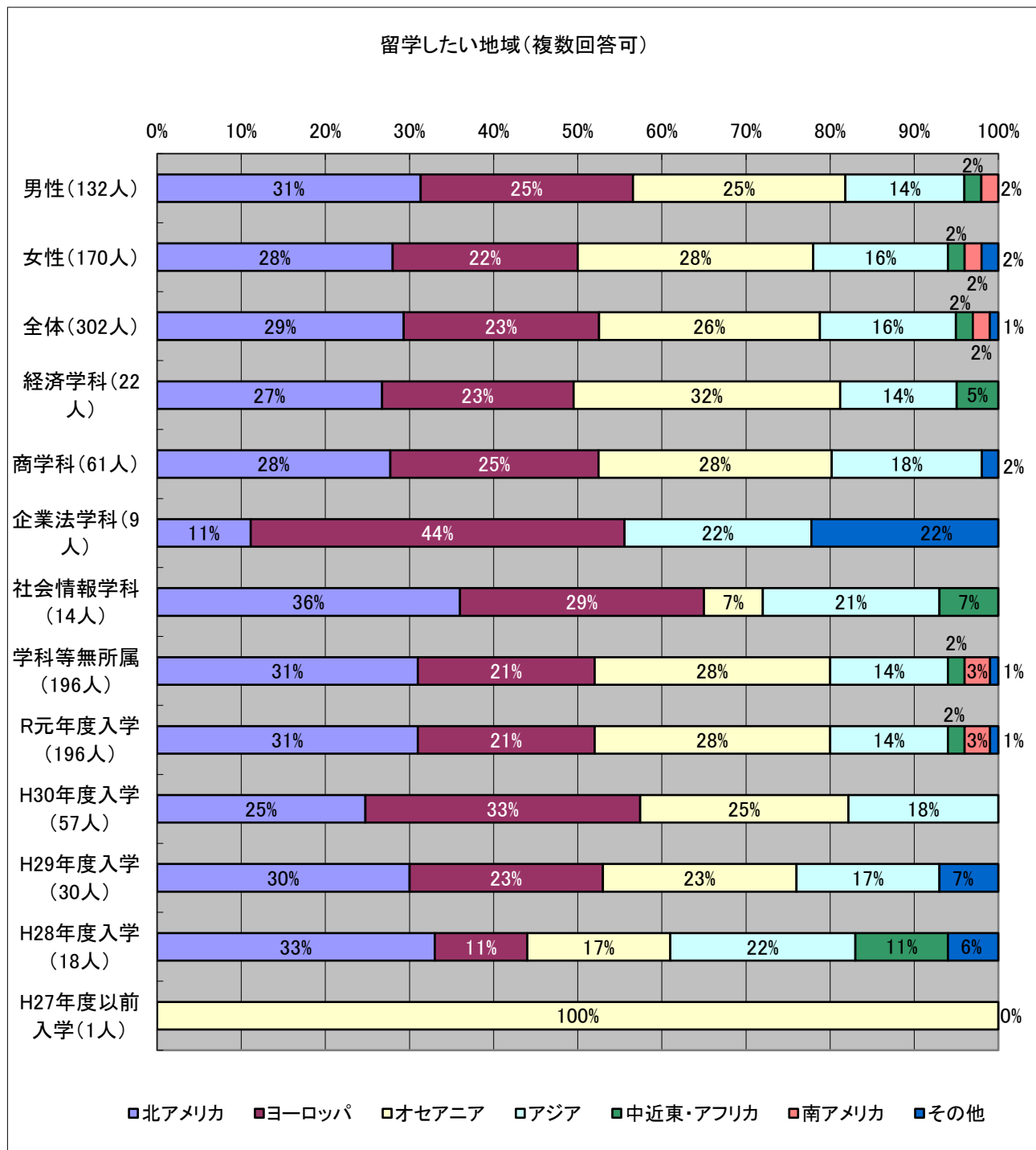


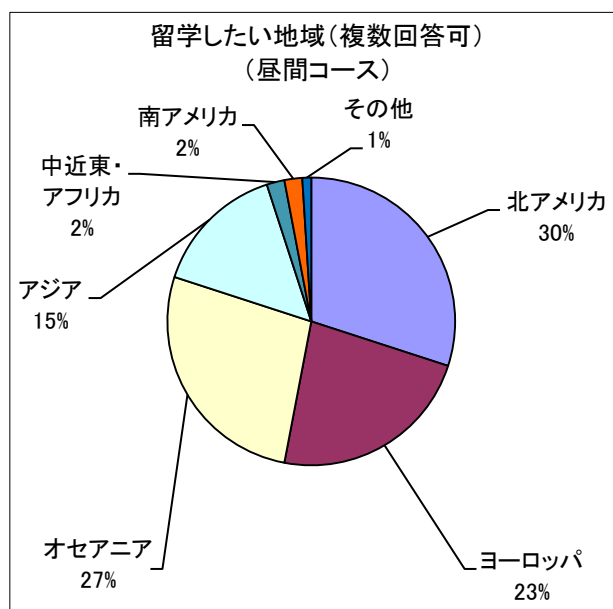
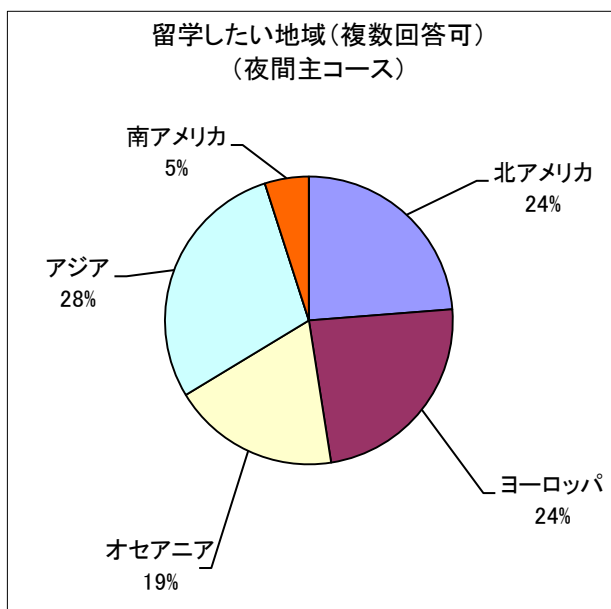
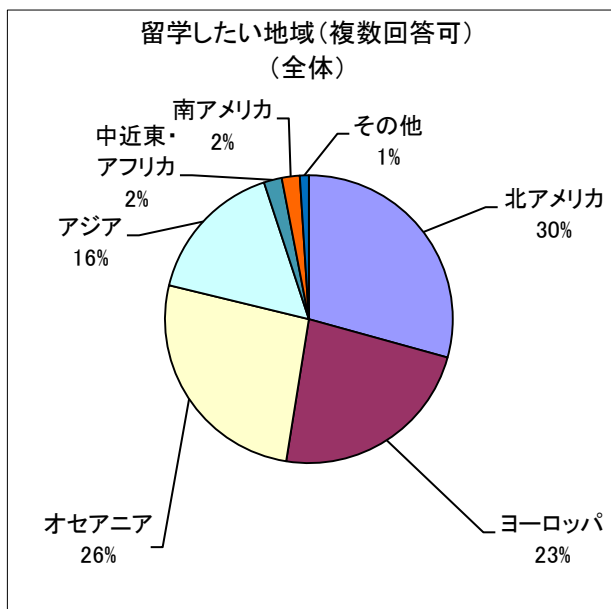


問 24 コメント

海外留学に最も興味を持っているのは令和元年度入学の学生で、躊躇している学生を含めるとその数は7割を超える。しかし、平成28、29年度以前の学生は3、4割にとどまっており、6割以上の学生が興味がないという回答である。大学生生活を通してすでに留学を経験している学生や、在学中でのモチベーションが他の要因によって下げられていることが推察される。

問 25 どここの地域に留学したいと思いますか。（複数回答可）

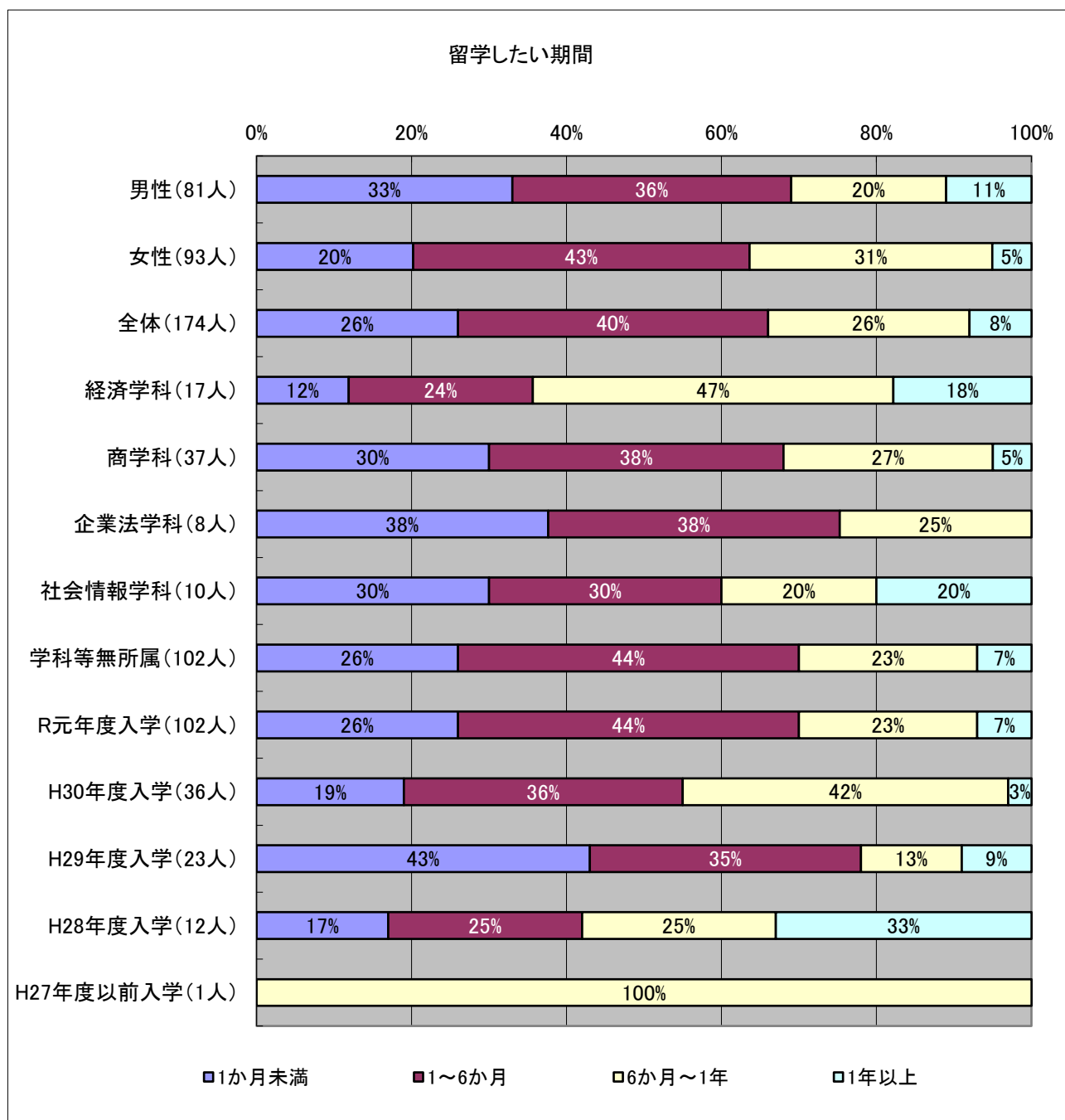


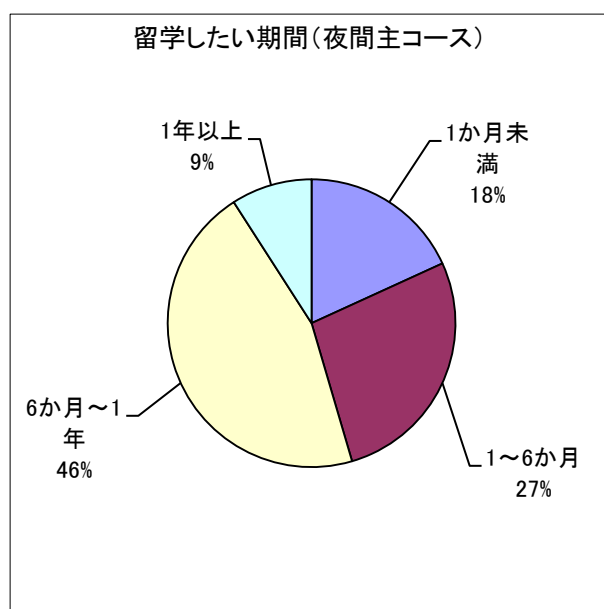
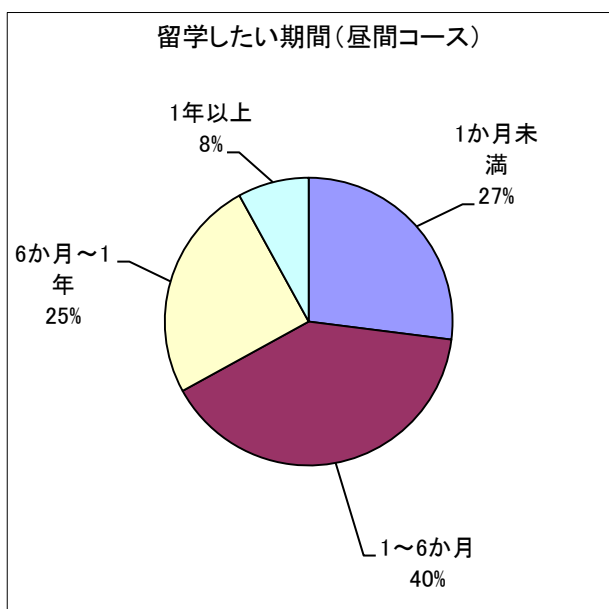
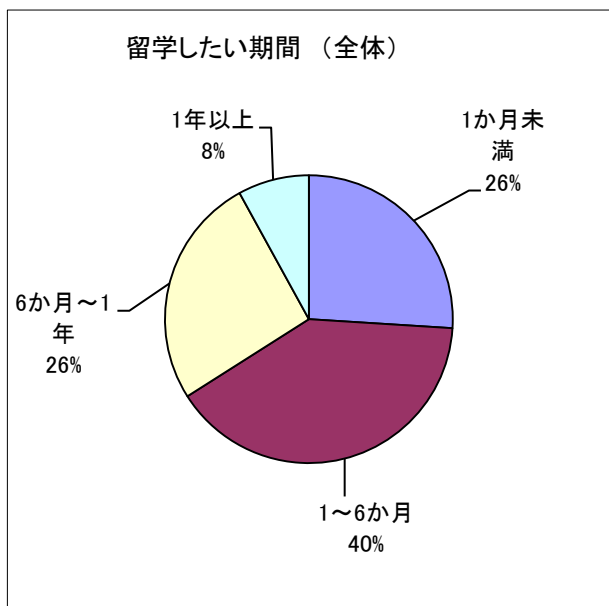


問 25 コメント

留学したい国はアメリカとオセアニアが多く、アジアなどの渡航歴がある学生も、語学を勉強するには、英語圏であるアメリカやオセアニアを選ぶ学生が多かった。

問 26 どの位の期間，留学したいですか。

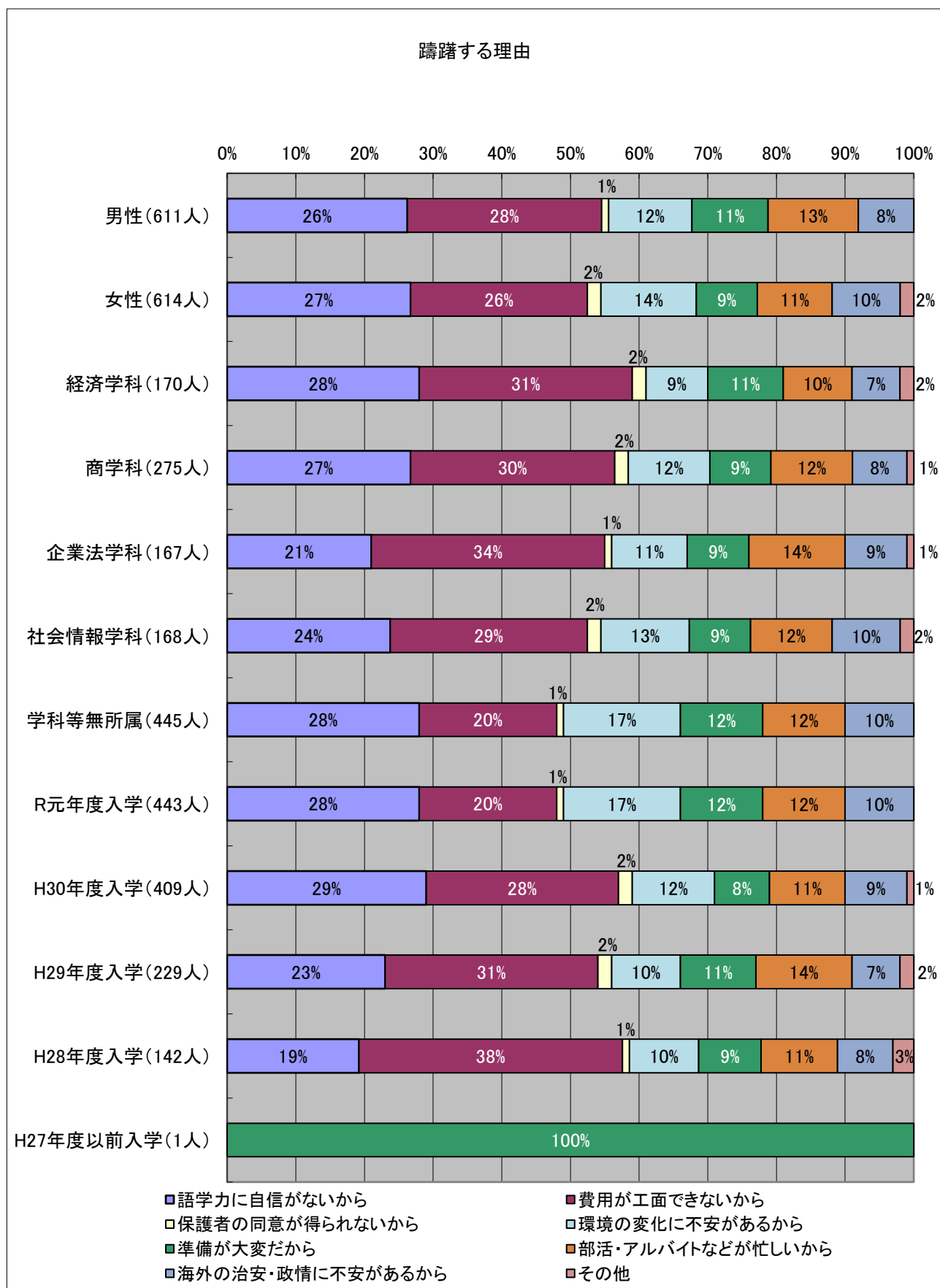


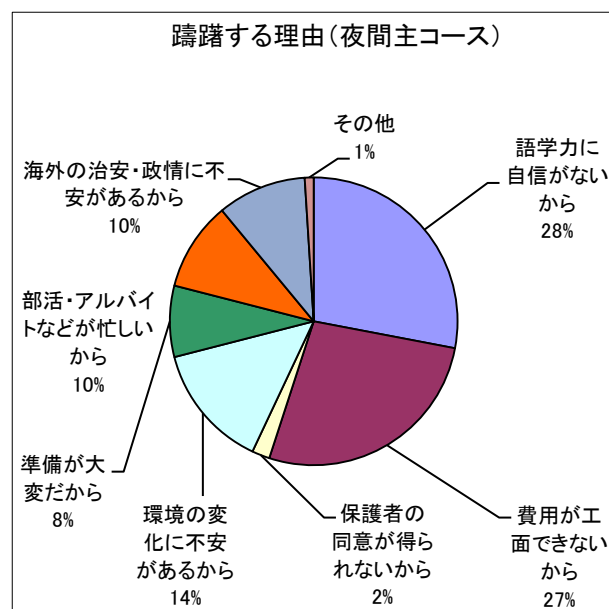
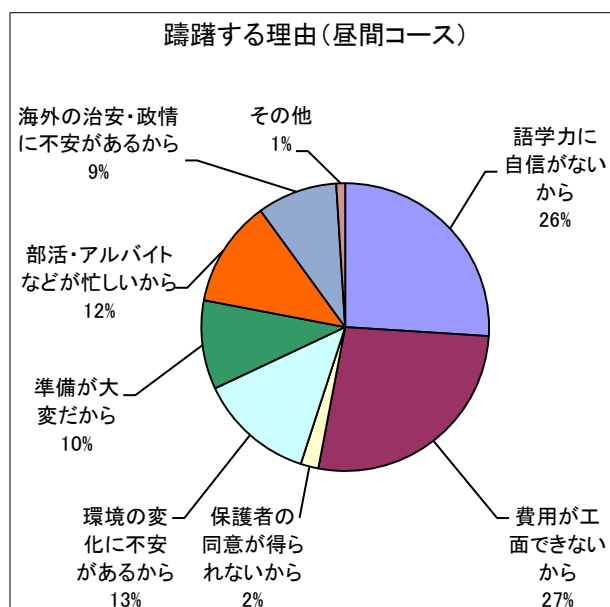
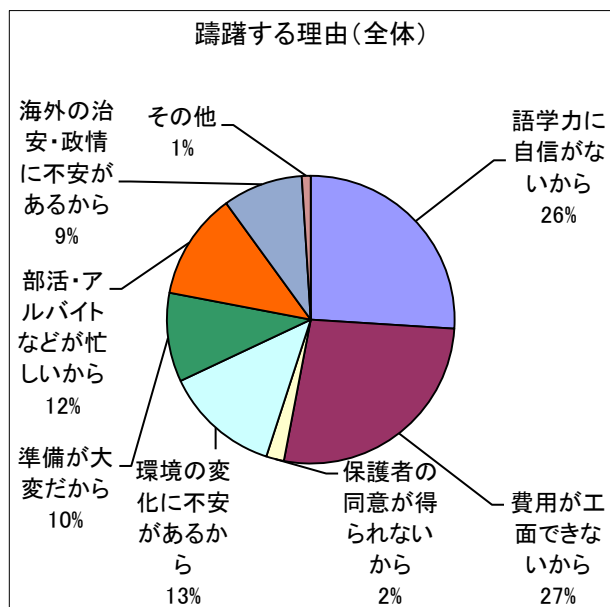


問 26 コメント

短期留学を希望する学生より、中期的な留学を希望している学生が全体で 40% と一番多い。最近の交換留学を希望する学生の傾向を見ても、1 学期のみの留学が受入、送り出しでも増えてきており、海外留学を多様な学修の一部として考えている学生が多いと推測できる。

問 27 海外留学について、興味はあるが躊躇している理由をお聞かせください。（複数回答可）

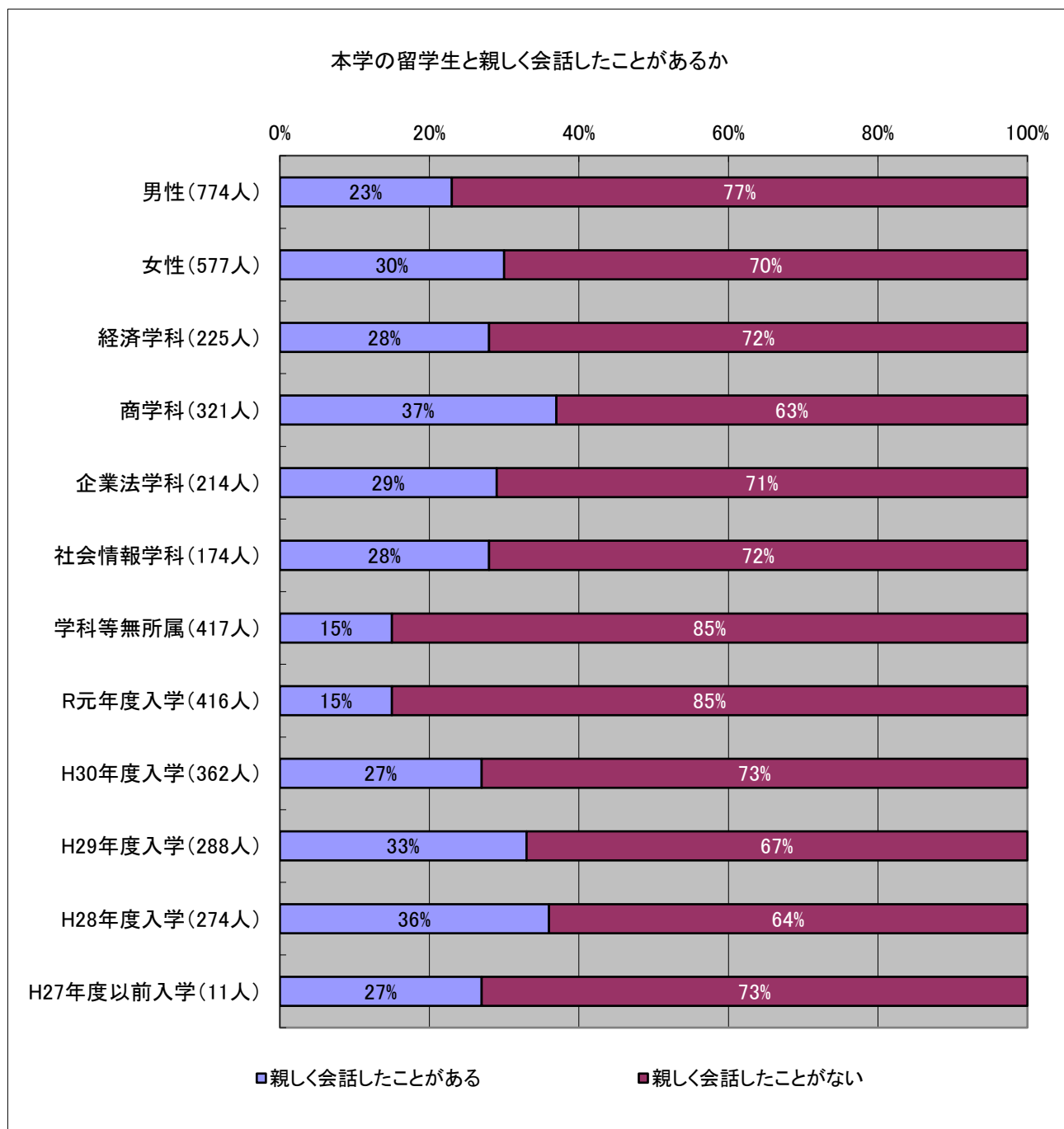


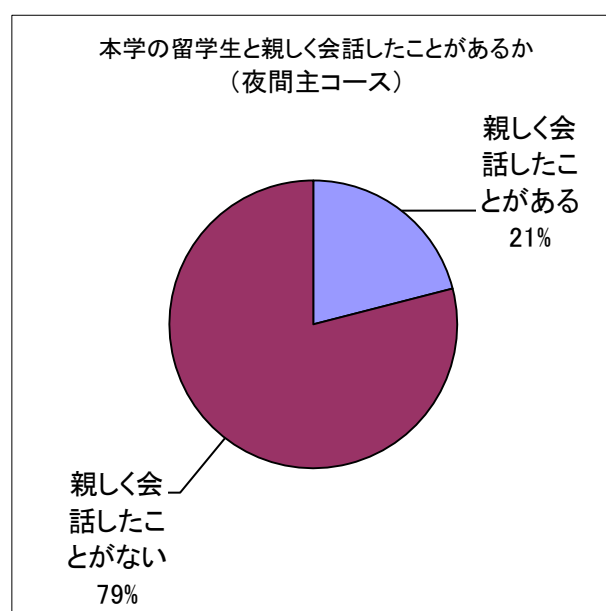
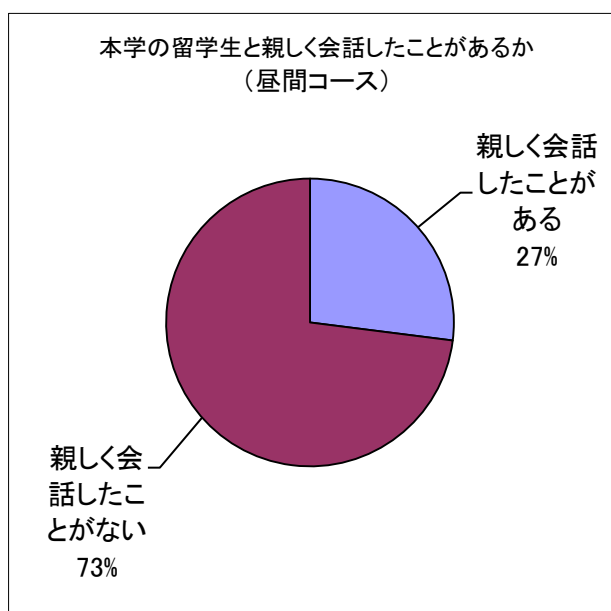
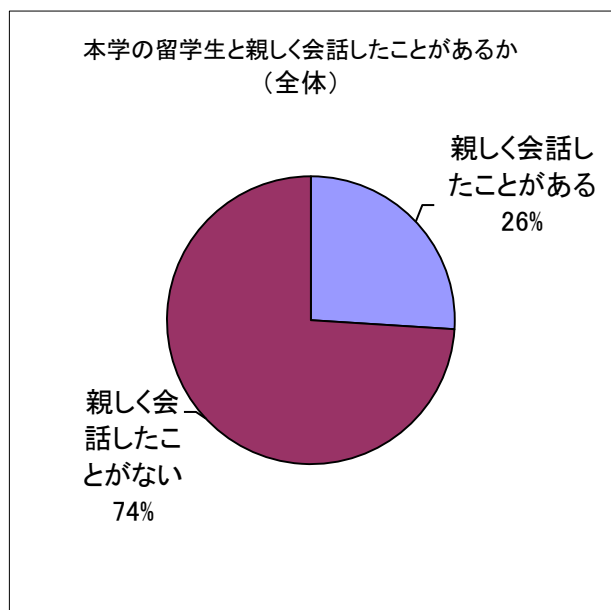


問 27 コメント

留学を躊躇する理由として、「語学力に自信がない」と「費用が工面できないから」の二つがそれぞれ 26%、27%と最も多い。費用に関しては、佐野力海外留学奨励金、後援会助成金からの奨学金、そして日本学生支援機構海外留学支援制度からの奨学金と3つの返還不要な奨学金を用意しているが、実際の奨学金受給者の選考時には英語力が要求されるため、ハードルが高いと思っている学生が多いと推測できる。

問 28 本学の留学生と親しく会話をしたことがありますか。



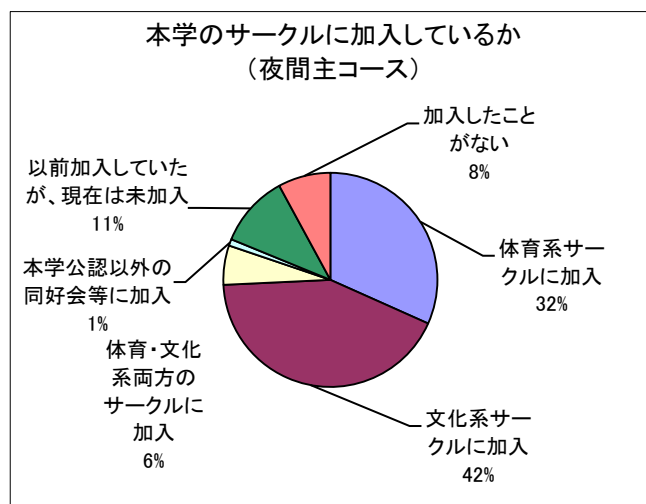
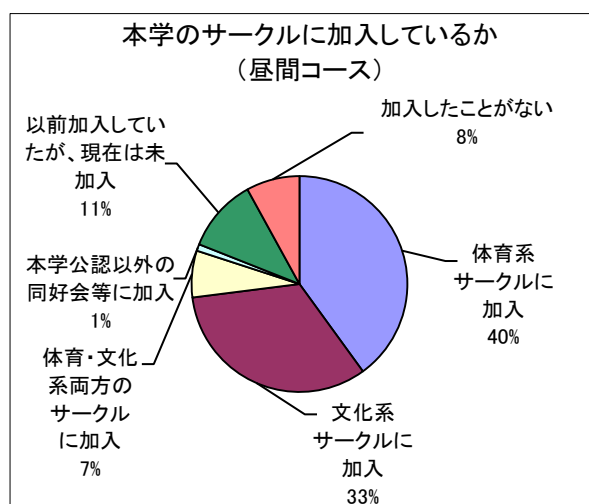
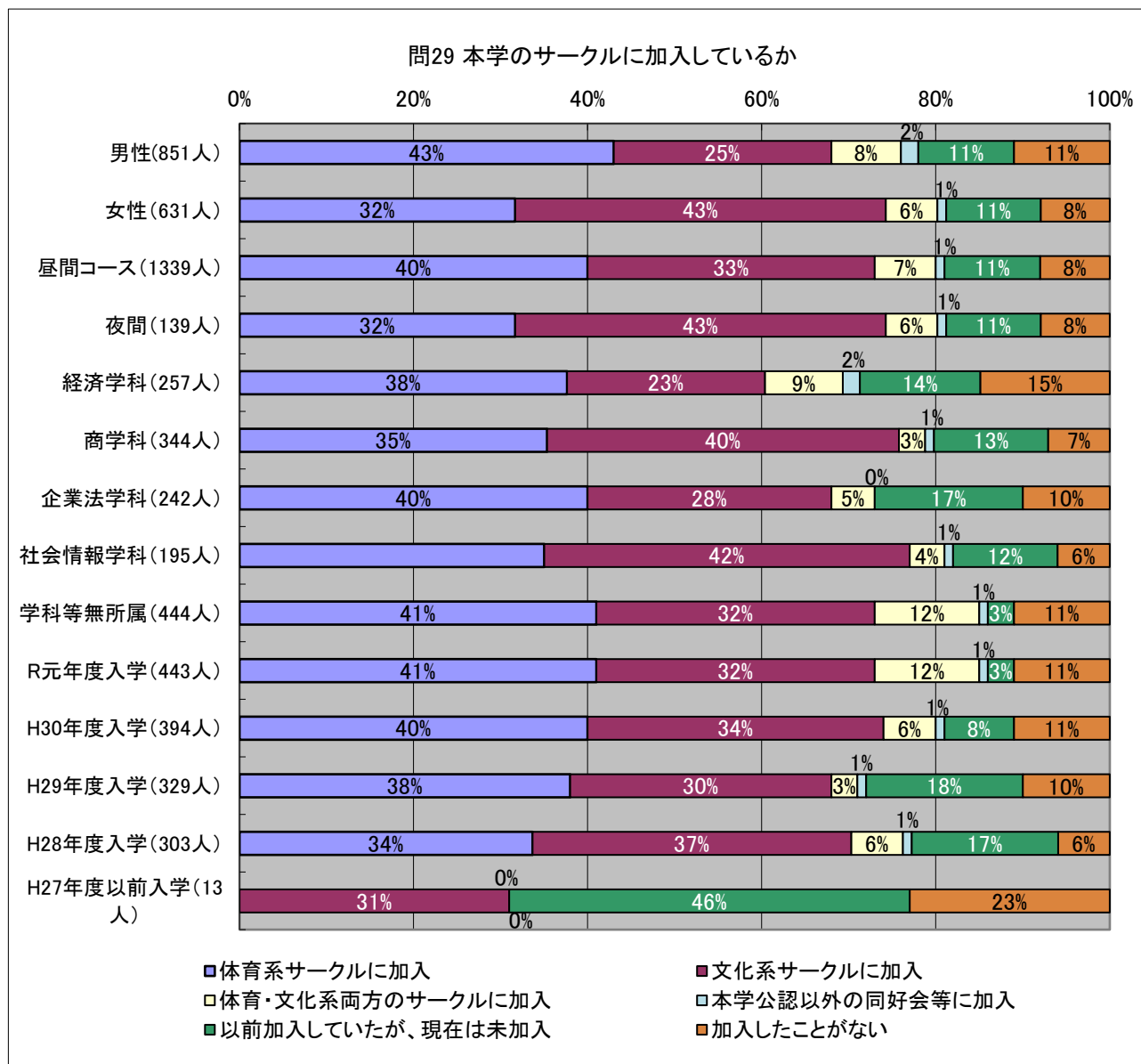


問 28 コメント

本学には、毎年 25 名前後の留学生が協定校から来ているが、留学生は Y O U C プログラムに在籍しており、学部生と同じ授業をとることがほとんどない。そのため、留学生と接する機会が少なく、全体の 25%に留まっている。

7 課外活動について

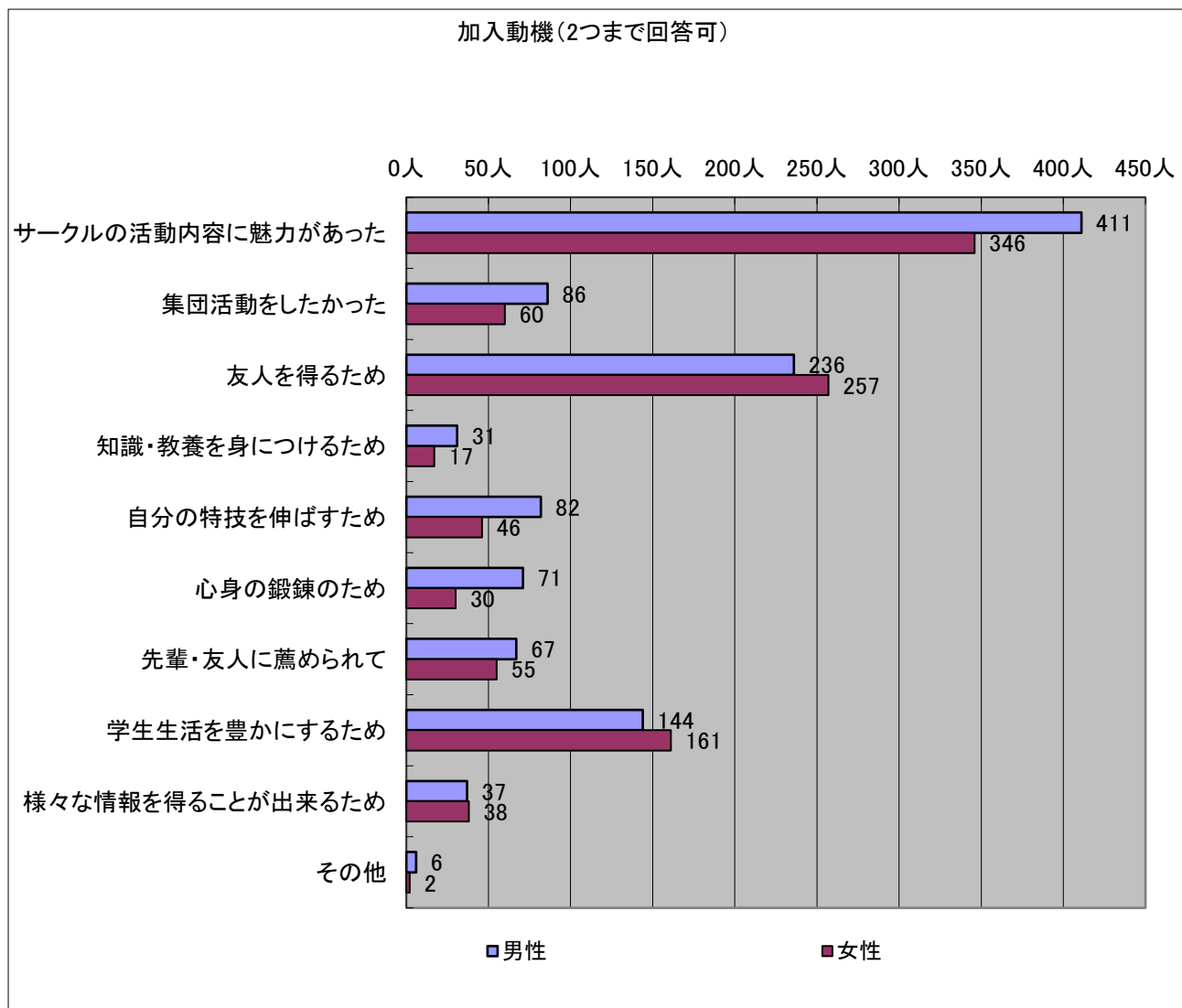
問 29 本学の公認サークルに加入していますか。(本学公認サークル: 本学において学生が組織する部、サークル及び同好会等で顧問教員を置いているものとして大学に正式に届出を行っている団体)



問 29 コメント

男女共、約 8 割が何らかのサークルに所属している実態は、前回と大きな違いはない。毎回の調査では、女性の方が男性よりも文科系サークルに所属する割合が高いのだが、今回ほぼ同様の結果となっている。また、学年が進むとサークル加入率が低下する状況も同様である。若干目を引く数字は、全体としての体育系サークル加入率の変化である。前は男性 47%、女性 38%が体育系サークルに所属していたが、今回はそれぞれポイントを下回している。その結果、前はすべての学年で体育系サークル所属率が 40%を上回っていたが、今回 40%以上だったのは、1・2 年生のみとなっている。

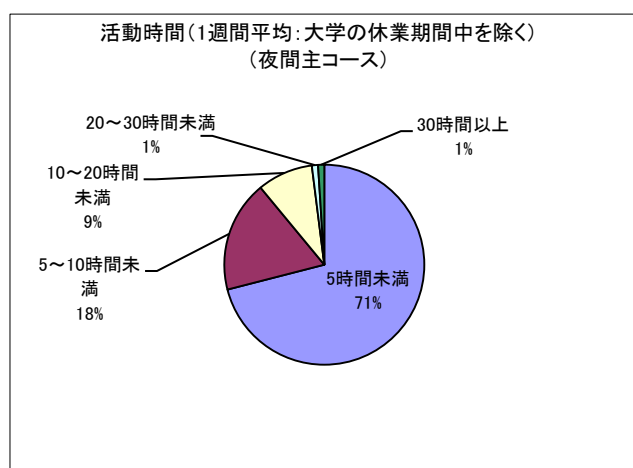
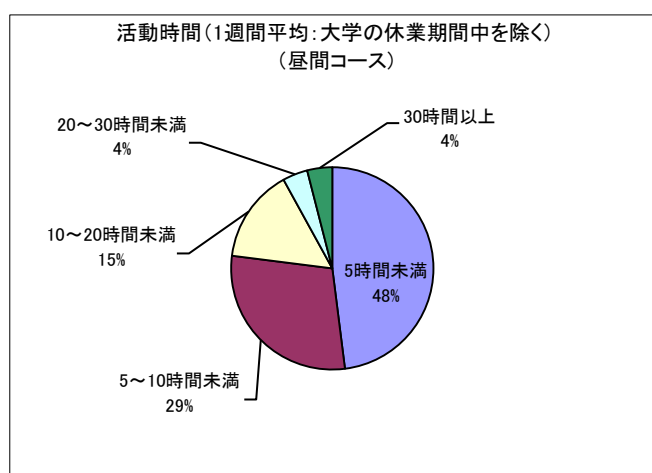
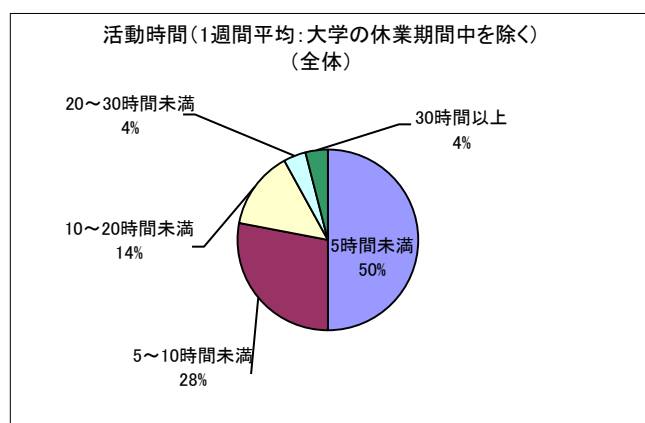
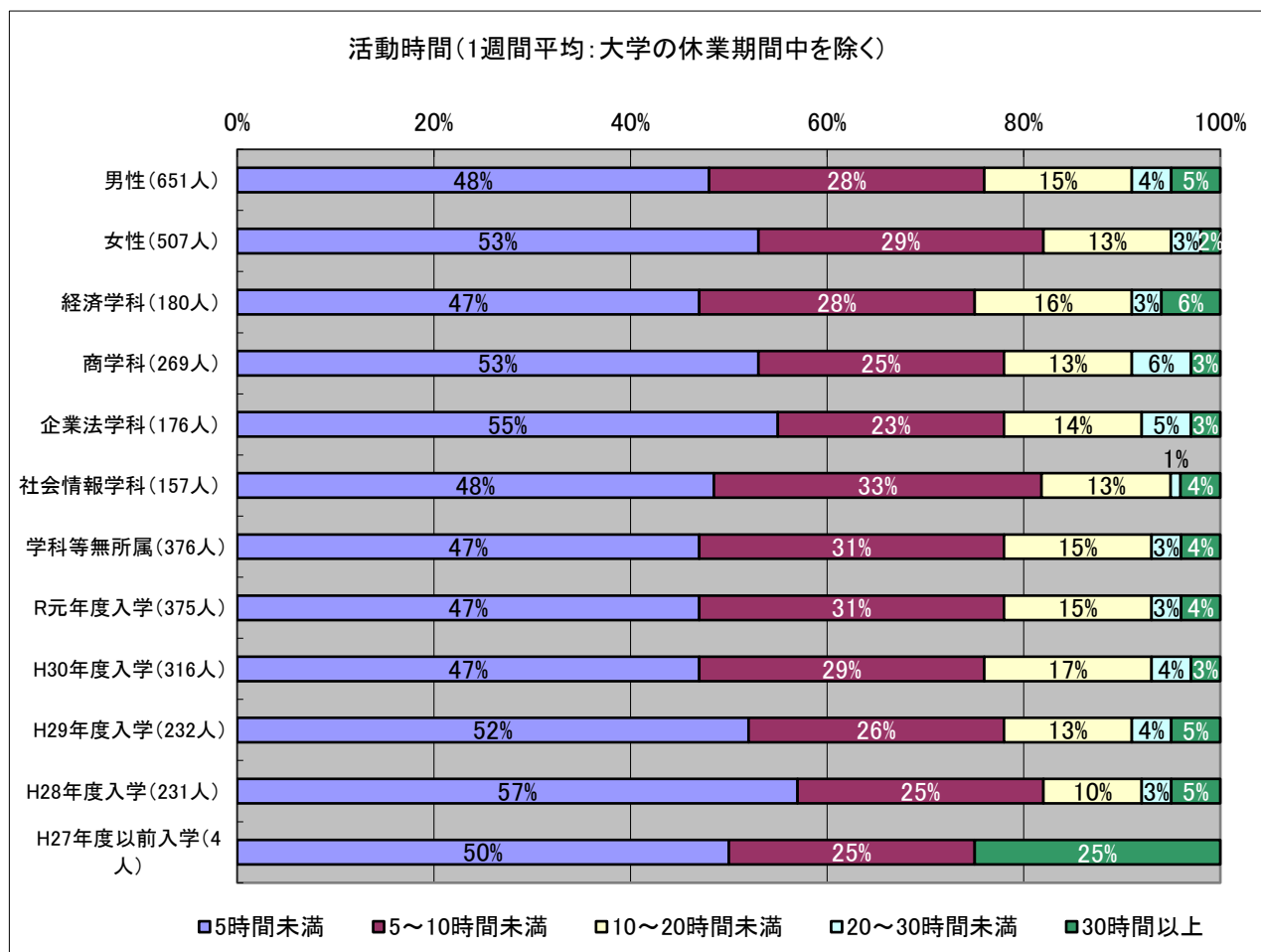
問 30 本学のサークルに加入した動機は何ですか。（2 つまで回答可）

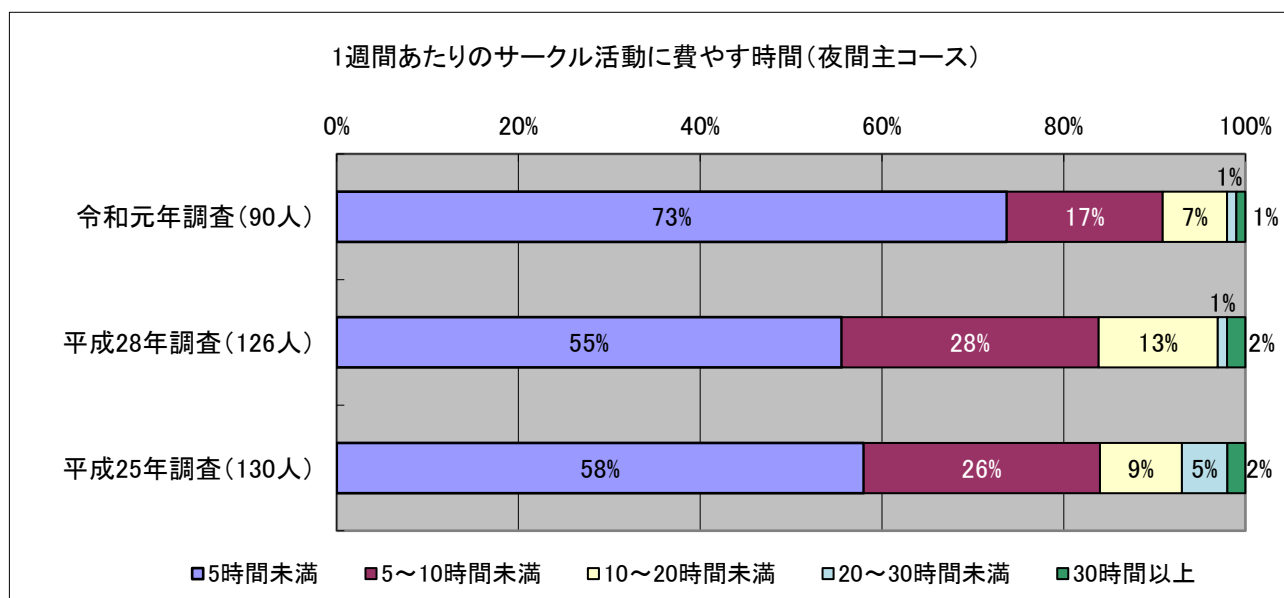
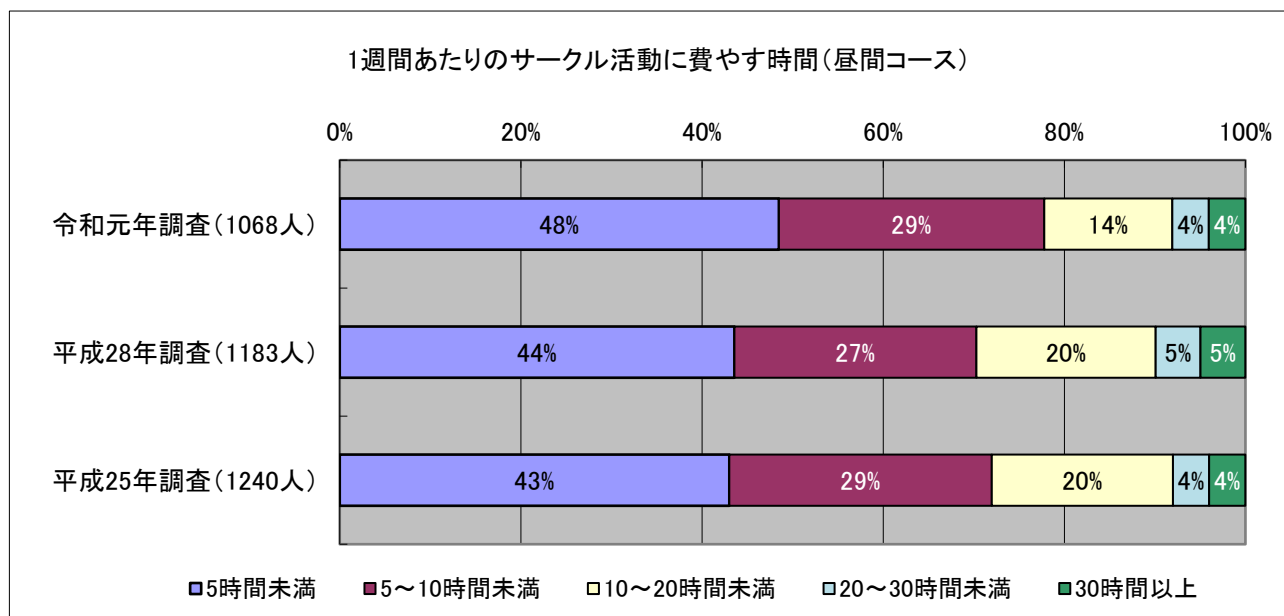


問 30 コメント

毎回出されるこの質問では、「サークルの内容に魅力があった」、「友人を得るため」、「学生生活を豊かにするため」の順番で回答が多い。そして「学生生活を豊かにするため」や「友人を得るため」の回答では女性が比較的多く選び、大学サークル活動での交友関係に、女性の方が男性より多くの期待を抱いていることを窺わせる。以前は「友人を得るため」と「学生生活を豊かにするため」がほぼ拮抗していたが、今回はかなり差が開いた。サークル活動＝友達作りとストレートに考える学生が増えたのだろうか。

問 31 サークル活動に費やす時間は1週間に平均何時間ですか。(大学の休業期間中を除く)

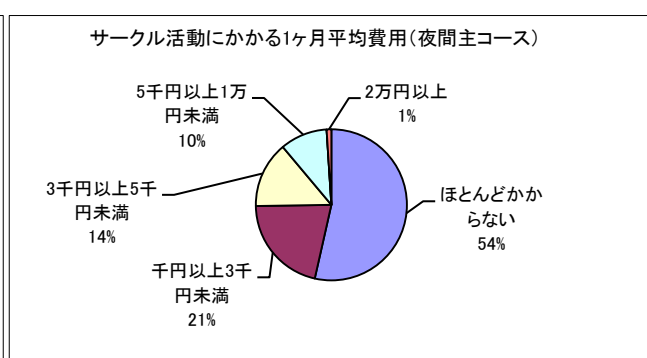
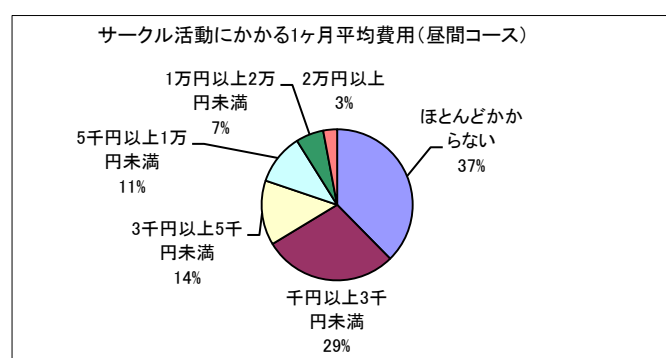
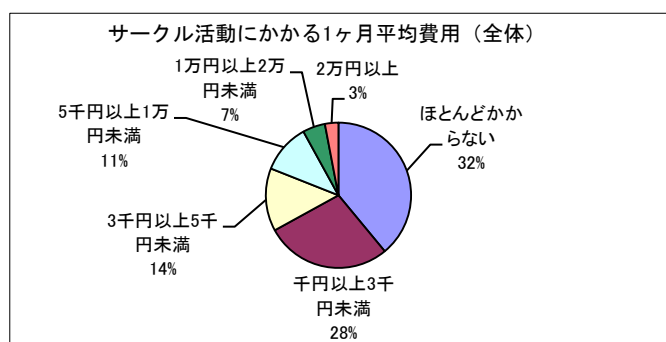
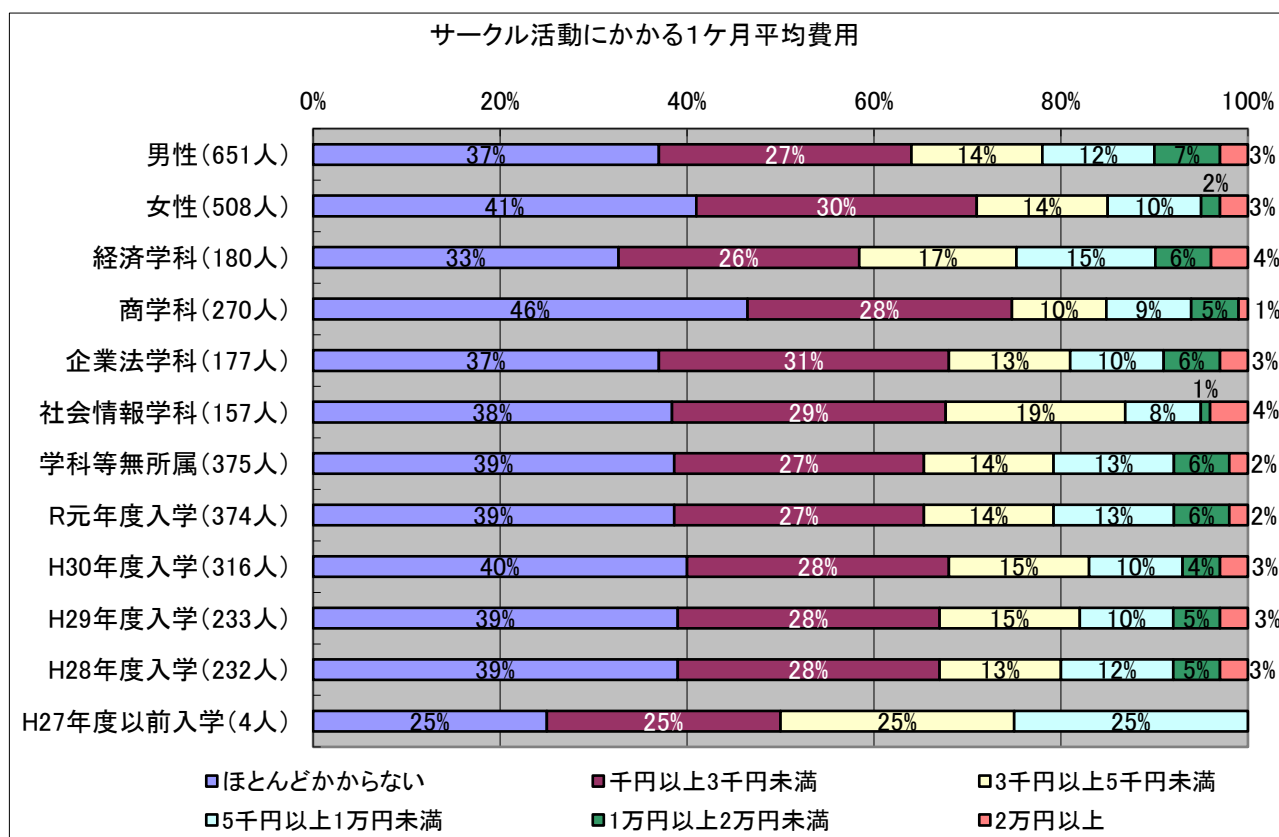




問 31 コメント

今回も、男女にサークル活動時間の大きな差異は見られない。週 10 時間以上をサークル活動に充てている学生の割合を見ると、学年が進むにつれて減っていくのも前回同様である。その割合は、2 年次で最高になっているため、サークル活動を運営していく上での中心的な学年は、一般的に 2 年生ということになるだろう。しかし、前回と比較すると、上記の割合は男性は 5 ポイント (29P→24P)、女性は 7 ポイント (25P→18P) 減っており、全体的に本学学生がサークル活動に費やす時間数は減少しているといえる。

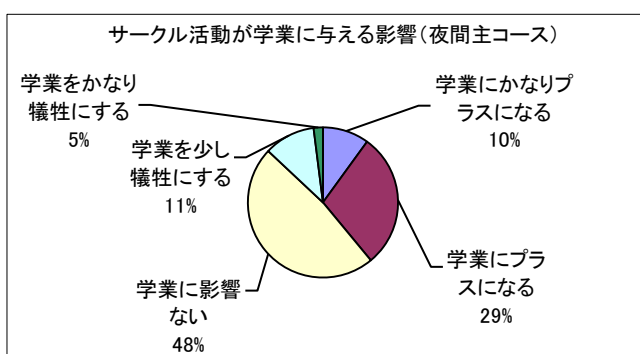
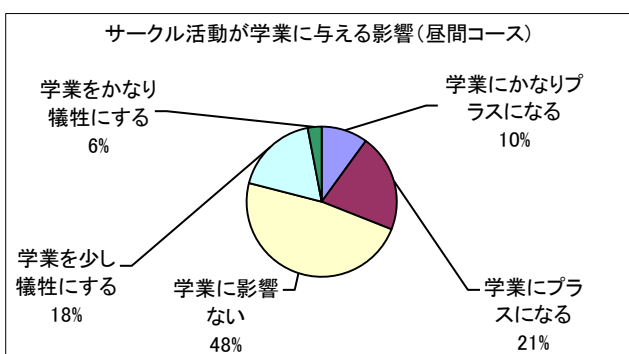
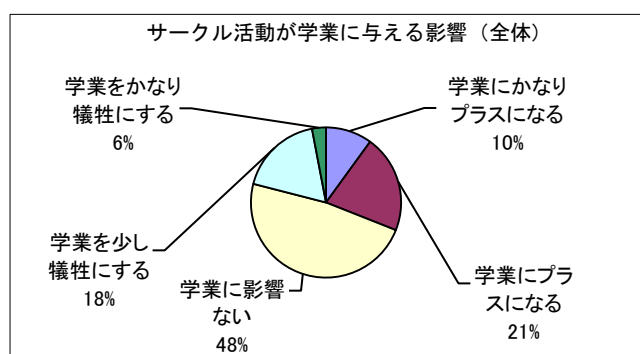
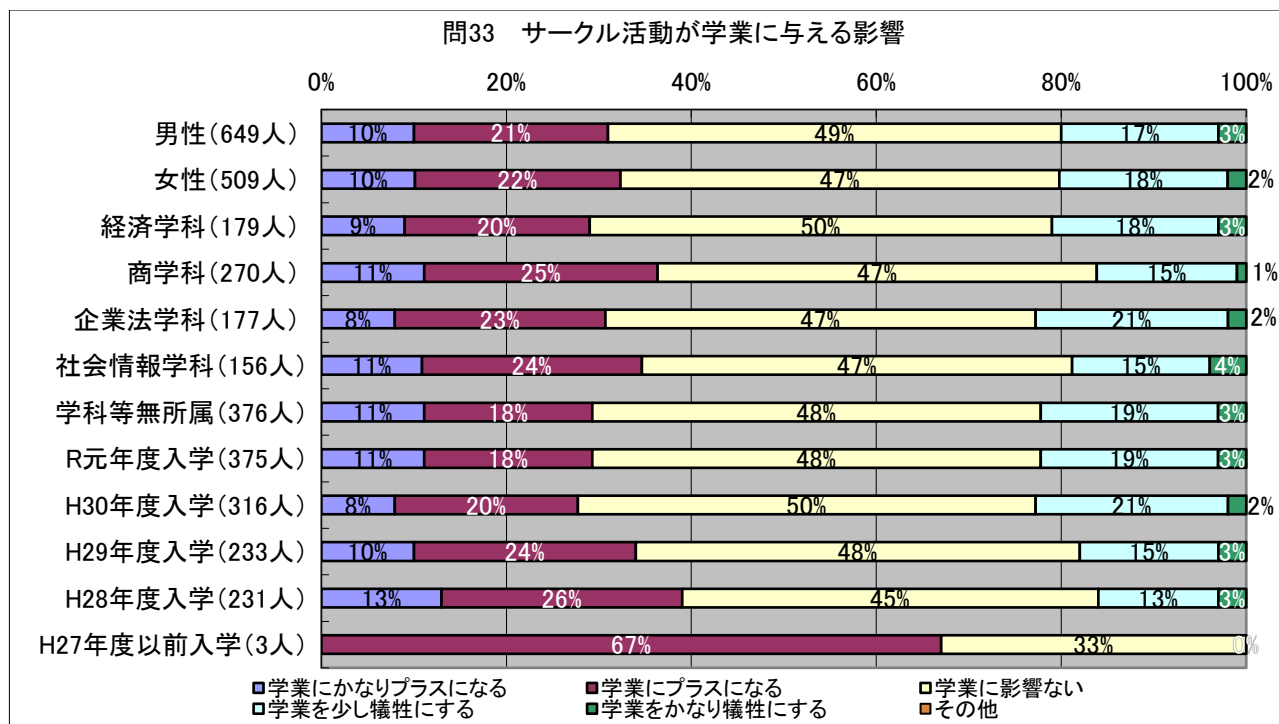
問 32 サークル活動にかかる費用は1ヶ月に平均いくらですか。(部費, 遠征費, 合宿費, コンパ代等)



問 32 コメント

「ほとんどかからない」は、やはり女性の方が若干多いが、出費がかかる場合は、男女とも大差はない。学科別、学年別でも、ほぼ同傾向の回答を示しているが、今回は、経済学科の学生がサークルにより多く出費していることが分かった。全体として、3千円以下に留めている学生の比率は、前回より男女ともやや増えている(男性: 60P→64P, 女性: 66P→71P)。学生がサークルに出費する余裕が減っていると考えられる。

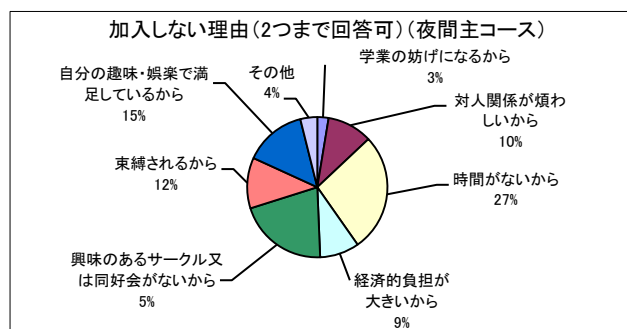
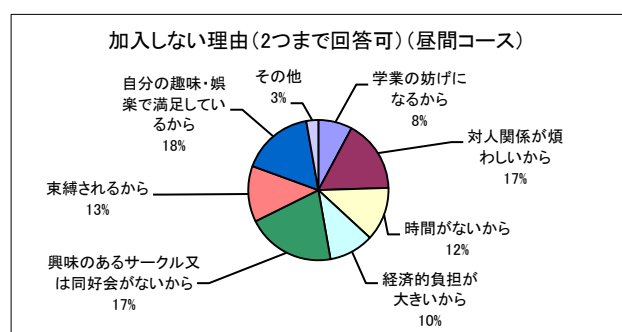
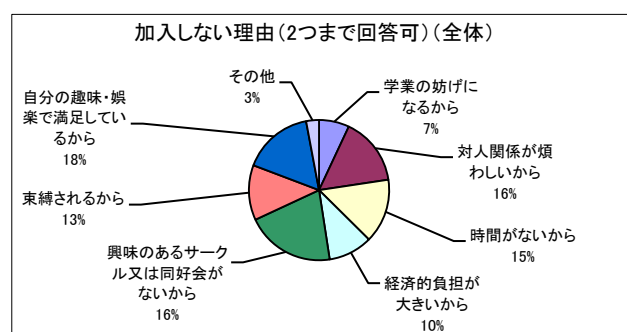
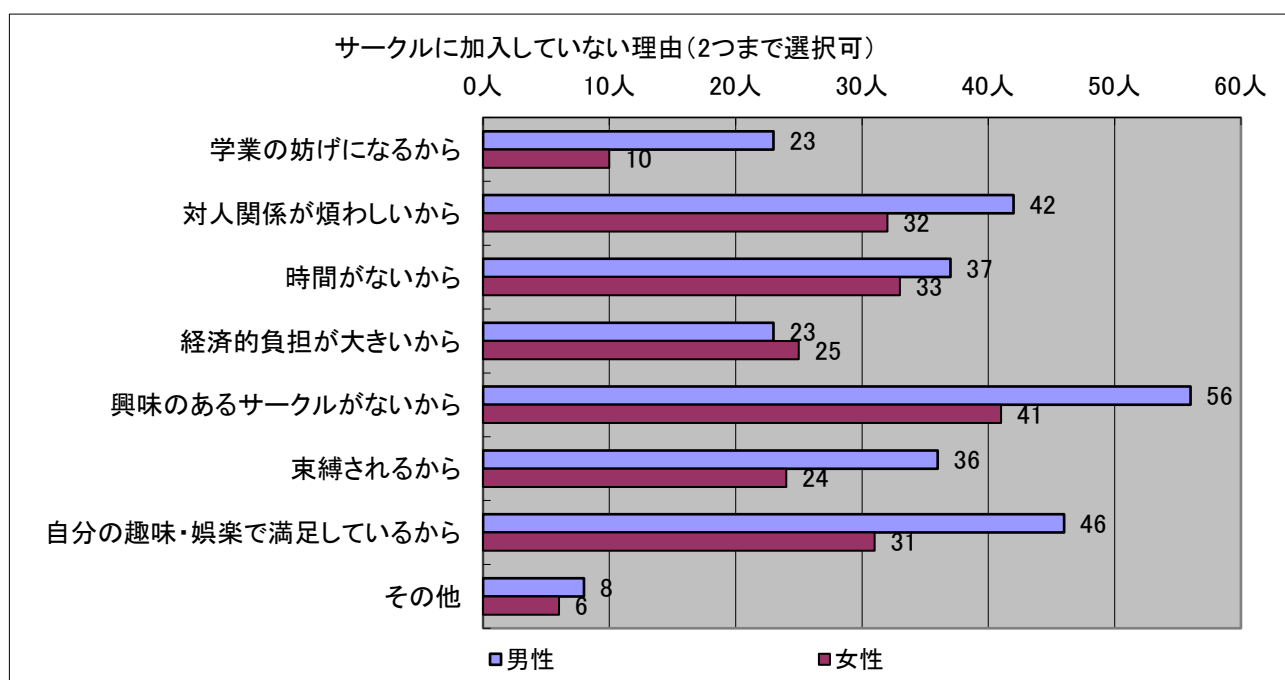
問 33 サークル活動が学業に与える影響について教えてください。



問 33 コメント

男女共に、「サークル活動は学業にプラスになる」という回答が前回を上回った（男性：29P→31P，女性：26P→32P）。学業にどのようにプラスとなっているのかは明らかではないが，前回同様，高学年が低学年よりもこの感想を強く抱く結果となっている。逆にいえば，一般的に，学業に支障をきたさなかった者が，最後までサークル活動を高い確率で全うできるともいえよう。この傾向は，従来の卒業生アンケートを鑑みると，卒業生になると更に強くなると予想される。

問 34 サークルに加入していない理由は何ですか。（2 つまで回答可）

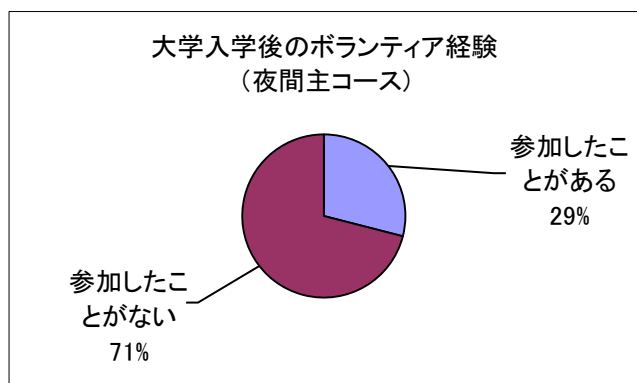
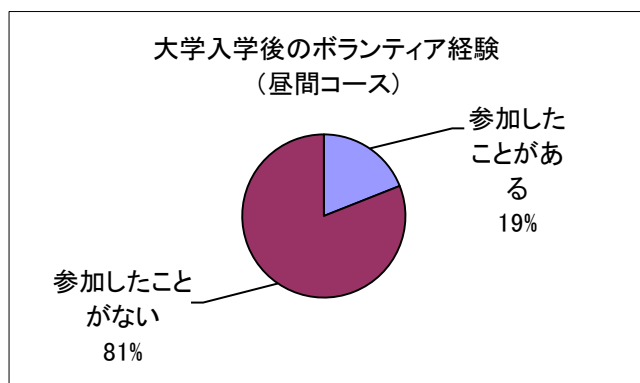
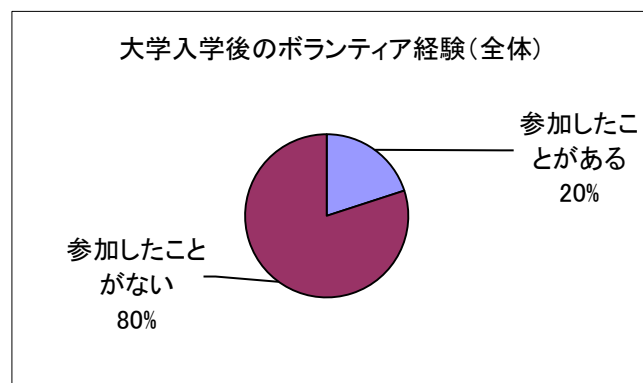
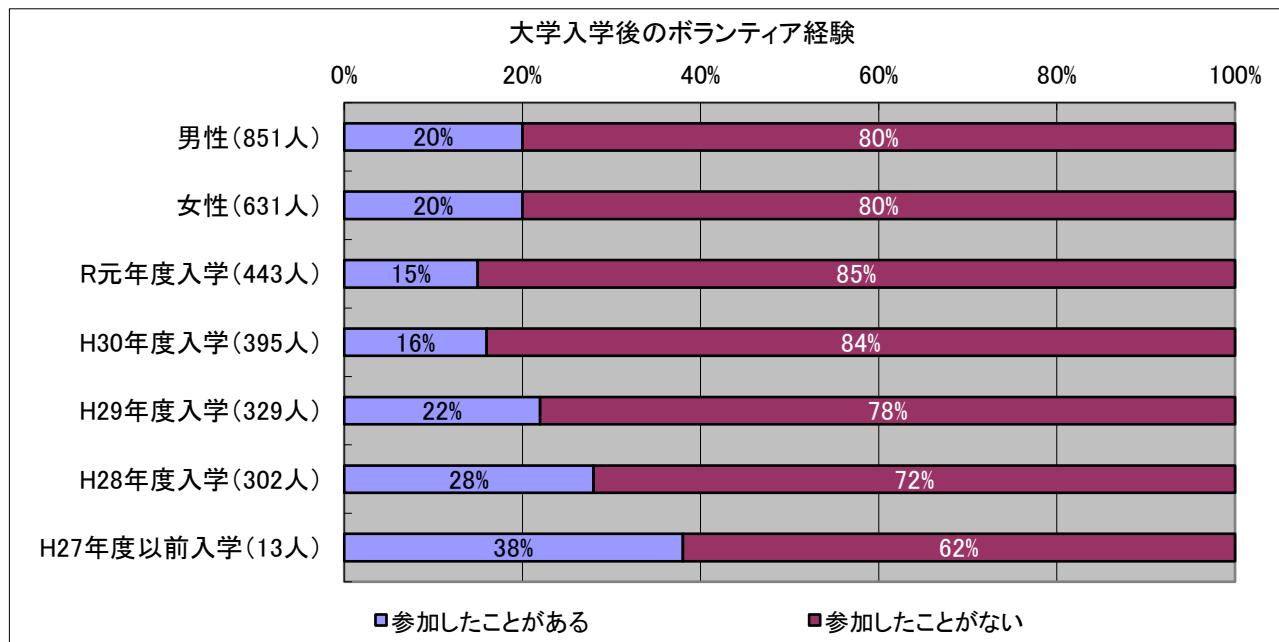


問 34 コメント

前回は、「時間がないから」が1位だったが、今回は「興味のあるサークルがないから」が1位となった。学生の多様なニーズに、現在の本学のサークル活動が対応しきれていない状況を窺うことができる。興味のあるサークルがなければ自分たちで作ればよさそうなものだが（中には「UF0 研究会」など、ユニークなサークルも結成されている）、そこまでの積極性は学生には希薄である。「対人関係が煩わしいから」という回答が特に女性において前回から増加した（21人→32人）のが気がかりである。

8 ボランティア活動について

問35 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。

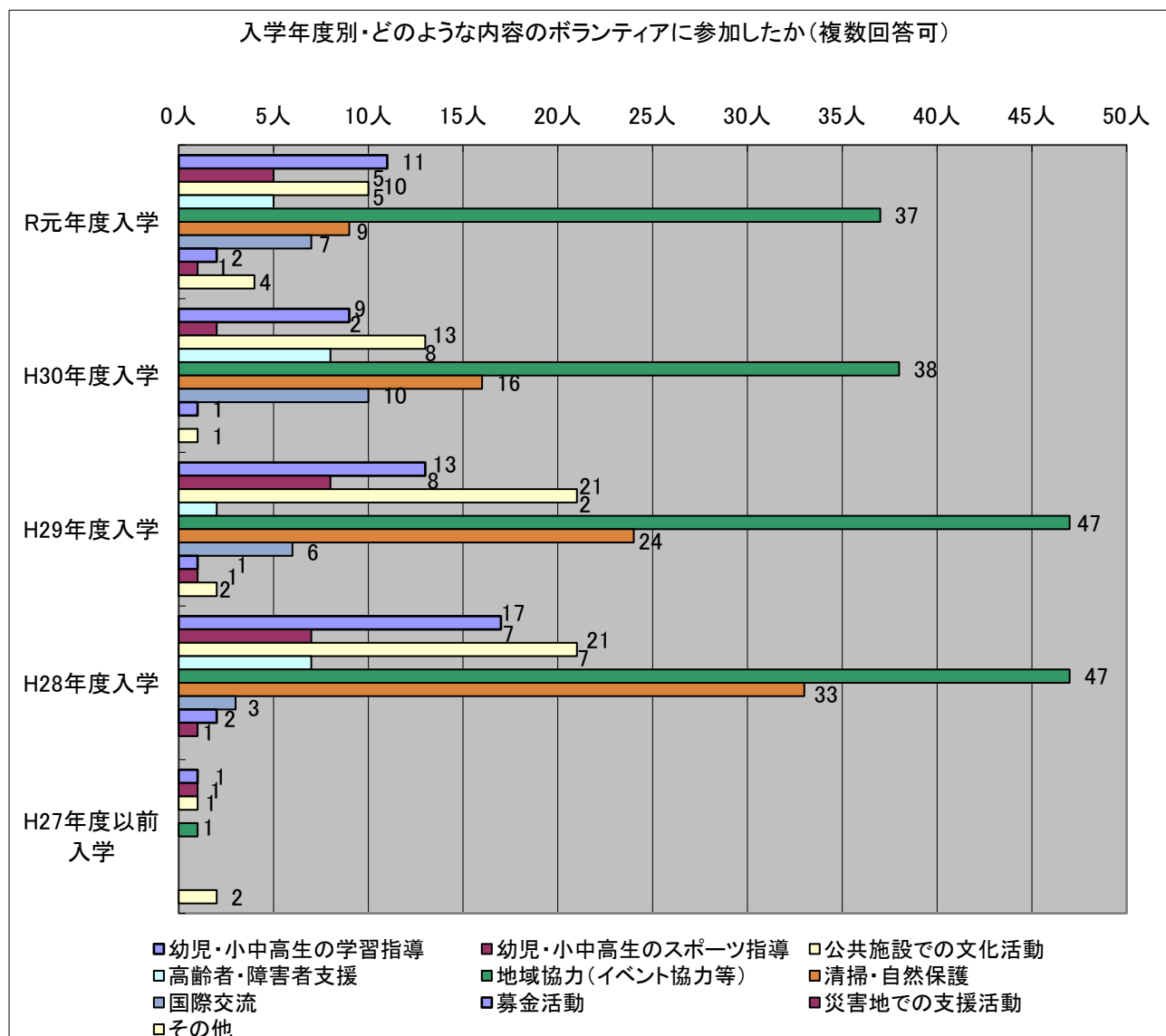
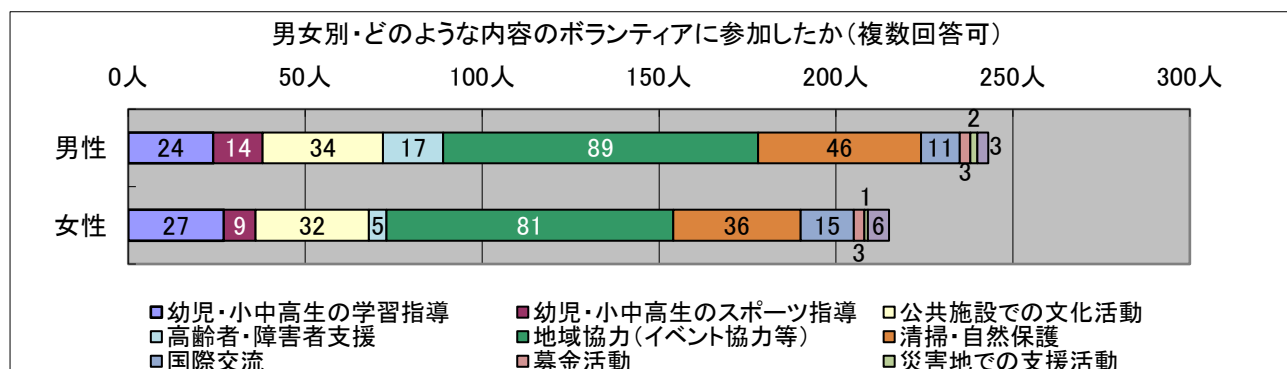


問 35 コメント

近年、知識中心の学修を補うものとして社会活動による体験的学修を重視する風潮が大学教育において強まっているが、今回の調査では、大学入学後にボランティア経験を持つ学生は全体の2割程度にとどまっていた。昼間と夜間主の比較では、夜間主の学生の経験率が高い傾向がみられた。

こうした傾向の一つの原因として、アルバイトやサークル等でボランティアに関与する時間がない(特に昼間の学生において)という事情が考えられる。

問36 どのような内容のボランティア活動に参加しましたか。（複数回答可）

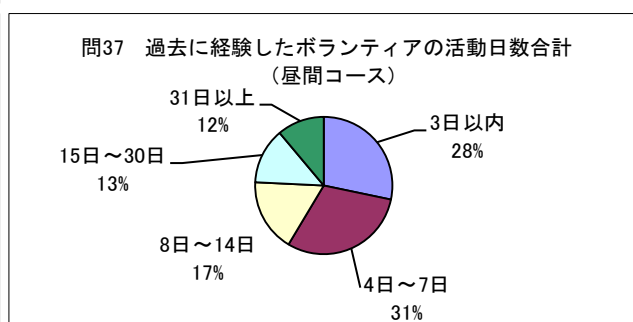
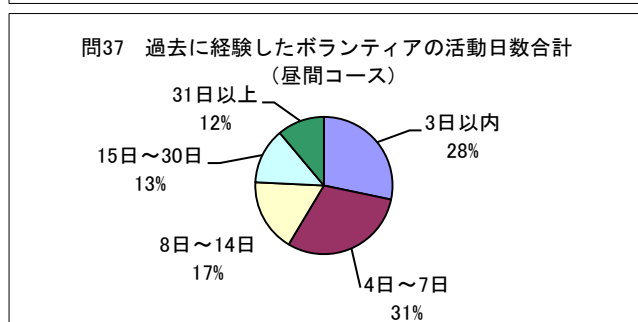
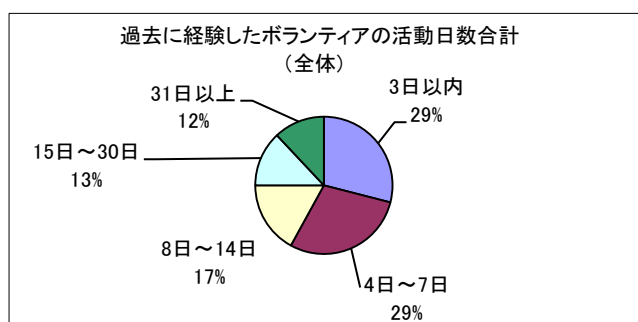
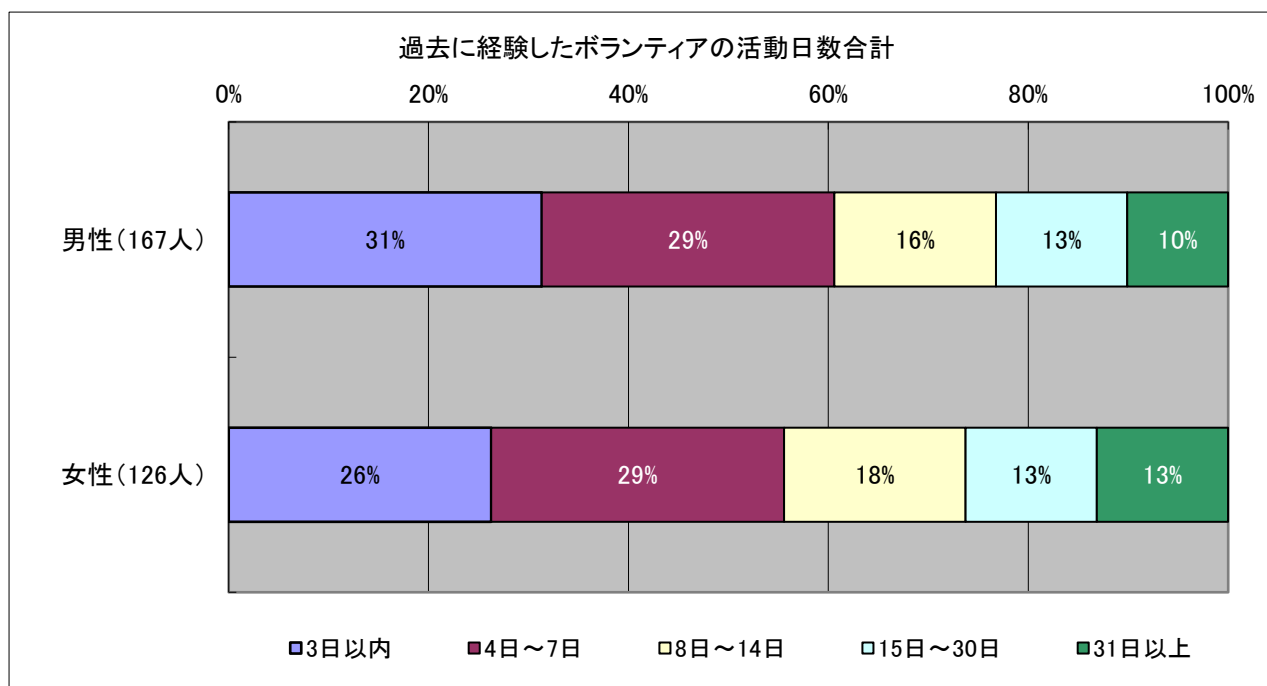


問36 コメント

ボランティアの内容については「地域協力（イベント協力等）」「公共施設での文化活動」が多い。一部の授業やサークルにおいて地域連携を重視し、活動しているためと推測される。「清掃・自然保護の活動」については、学年と共に経験率が増加する傾向がある。

他方、「災害地での支援活動」は経験率が低いものに留まっており、活動を開始する際に授業やゼミ・サークル等、グループ単位で行うものと、災害地支援のように個人単位で行うものとの差異が認められる。

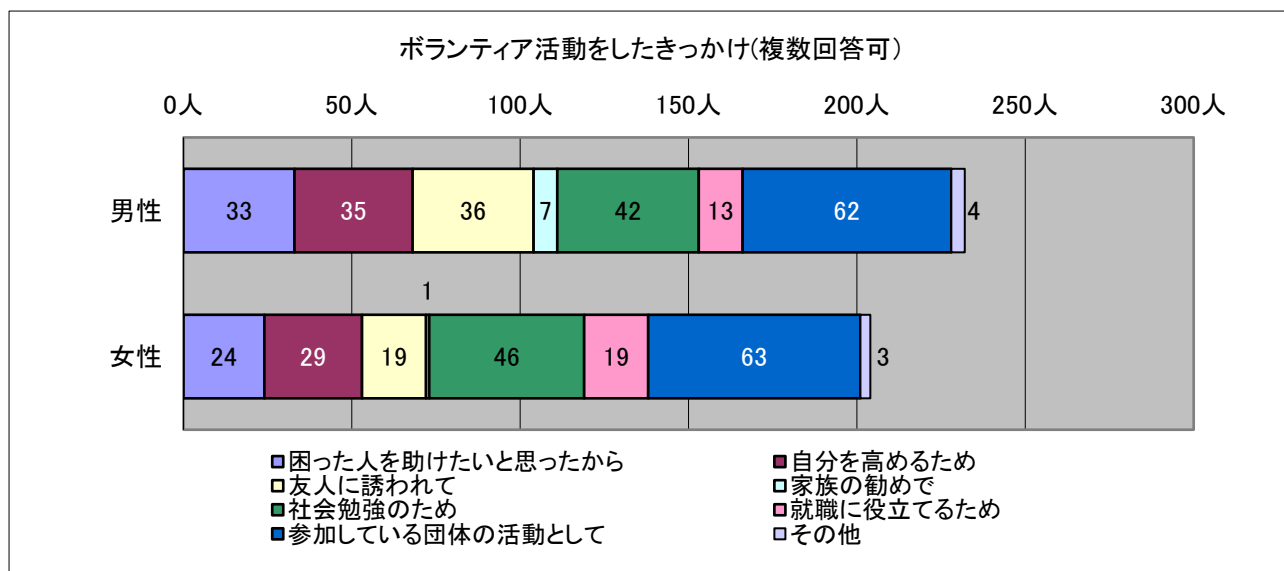
問37 過去に経験したボランティア活動の日数は合計でどのくらいですか。（複数回ある場合は、回数を合算して回答してください。）



問37 コメント

活動日数は「3日以内」「4～7日」を合わせると半数を超える。ただし、なかには「31日以上」活動している学生もいる。ボランティアの活動日数は「地域協力（イベント協力等）」「公共施設での文化活動」等のイベント性の高いものや、「幼児・小中高生の学習指導」等の継続的なものといった活動内容に関連していると考えられる。

問38 ボランティア活動をしたいと思ったきっかけは何ですか。



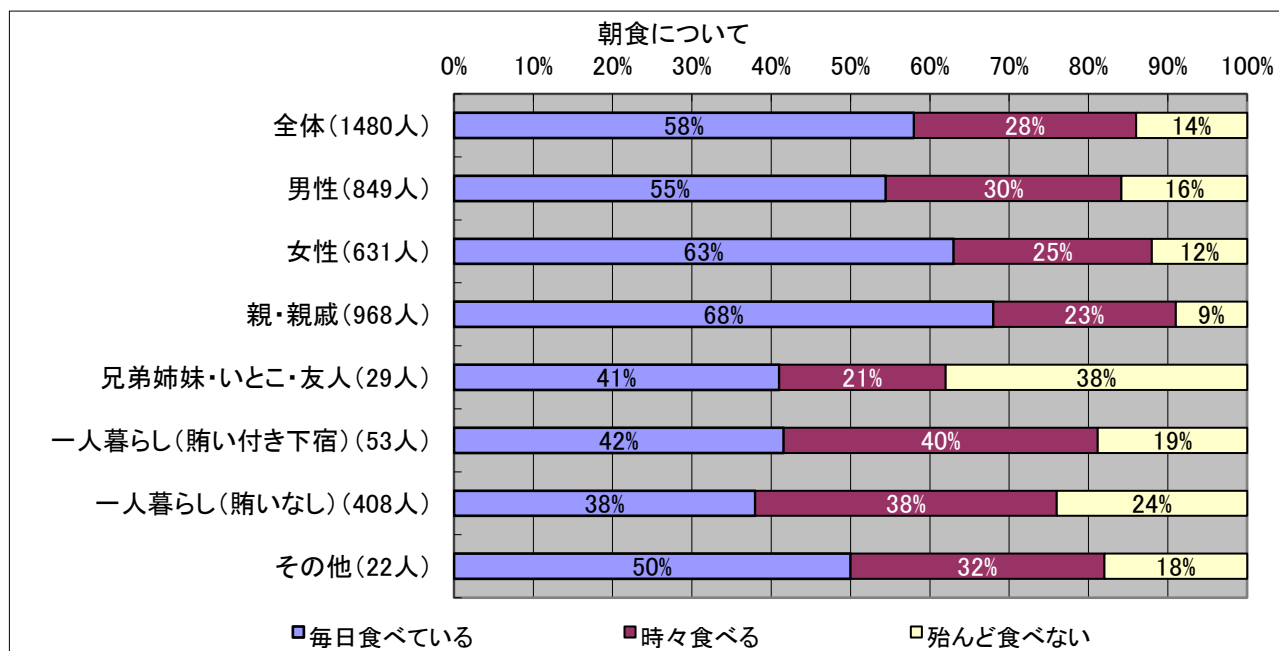
問38 コメント

ボランティア活動の契機としては「参加している団体の活動として」を挙げる学生が多い。これは先述のサークルの活動に該当するものと推測される。また、「社会勉強のため」「自分を高めるため」といった自己啓発目的で参加する学生も比較的多い。

本学では知（地）の基礎系科目「社会連携実践」において、一定の条件を満たしたボランティア経験を単位として認めるという対応を行っているが、このような教育的配慮により、こうした種類のボランティア参加を促進することが期待される。

9 健康について

問 39 朝、食事をしていますか。

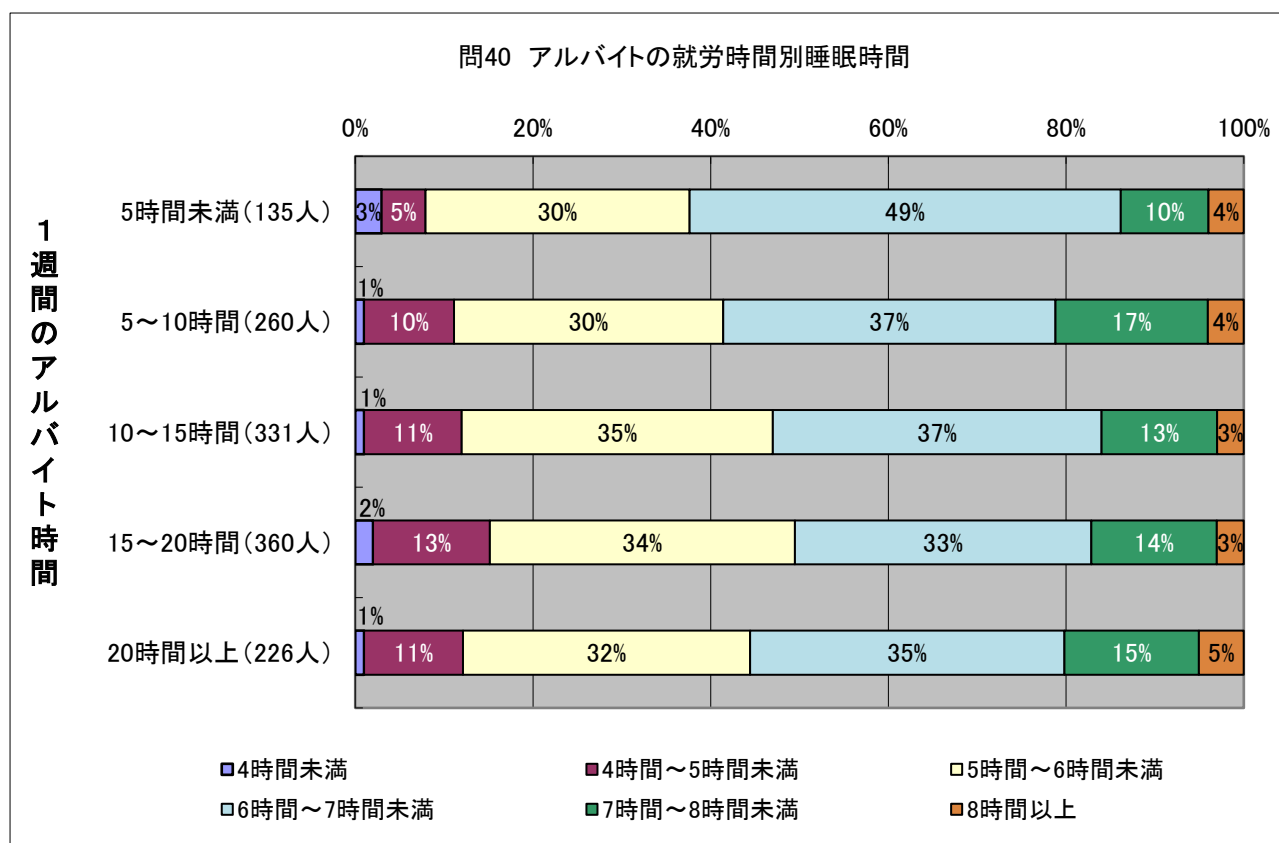
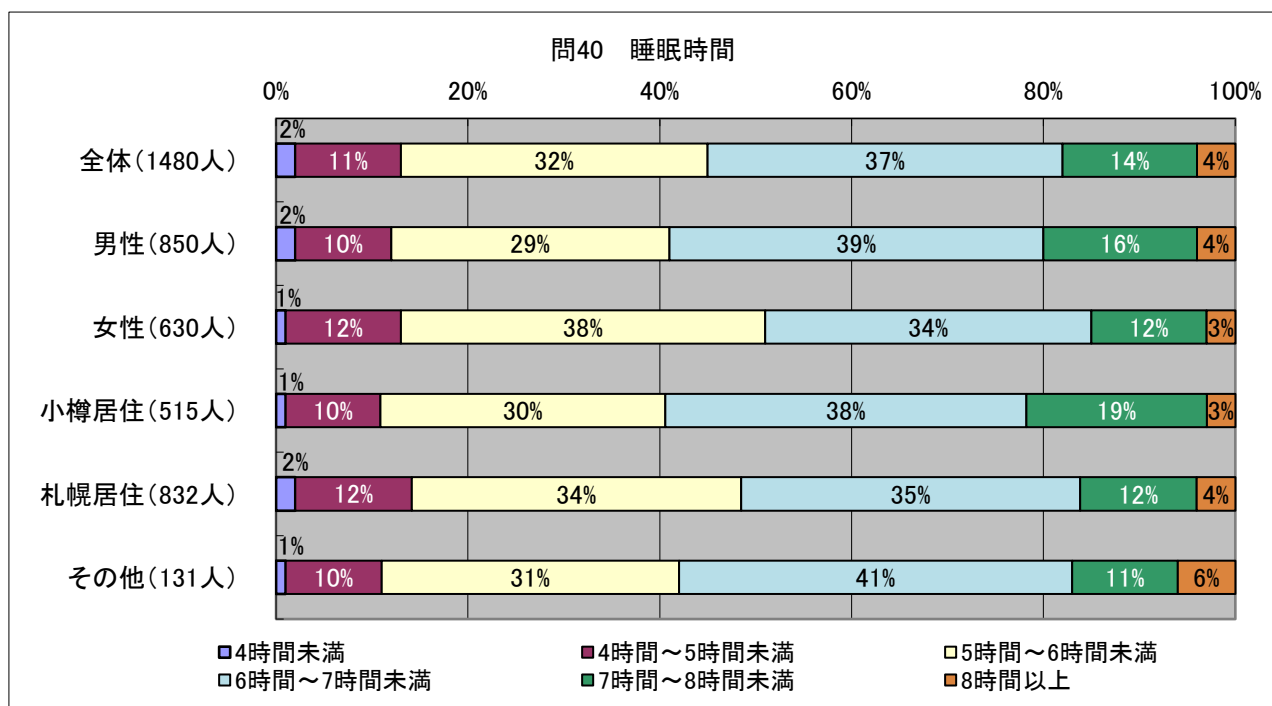


問 39 コメント

前回(平成28年度)調査で「毎日食べている」人は62%であったが、今回も前回同様、毎日朝食をとっている人は6割程度であった。親・親戚と同居していると7割程度が毎日食べているが、一人暮らしになると4割に減少する。

準備しやすい朝食の工夫など朝食摂取しやすい環境を整備する必要がある。

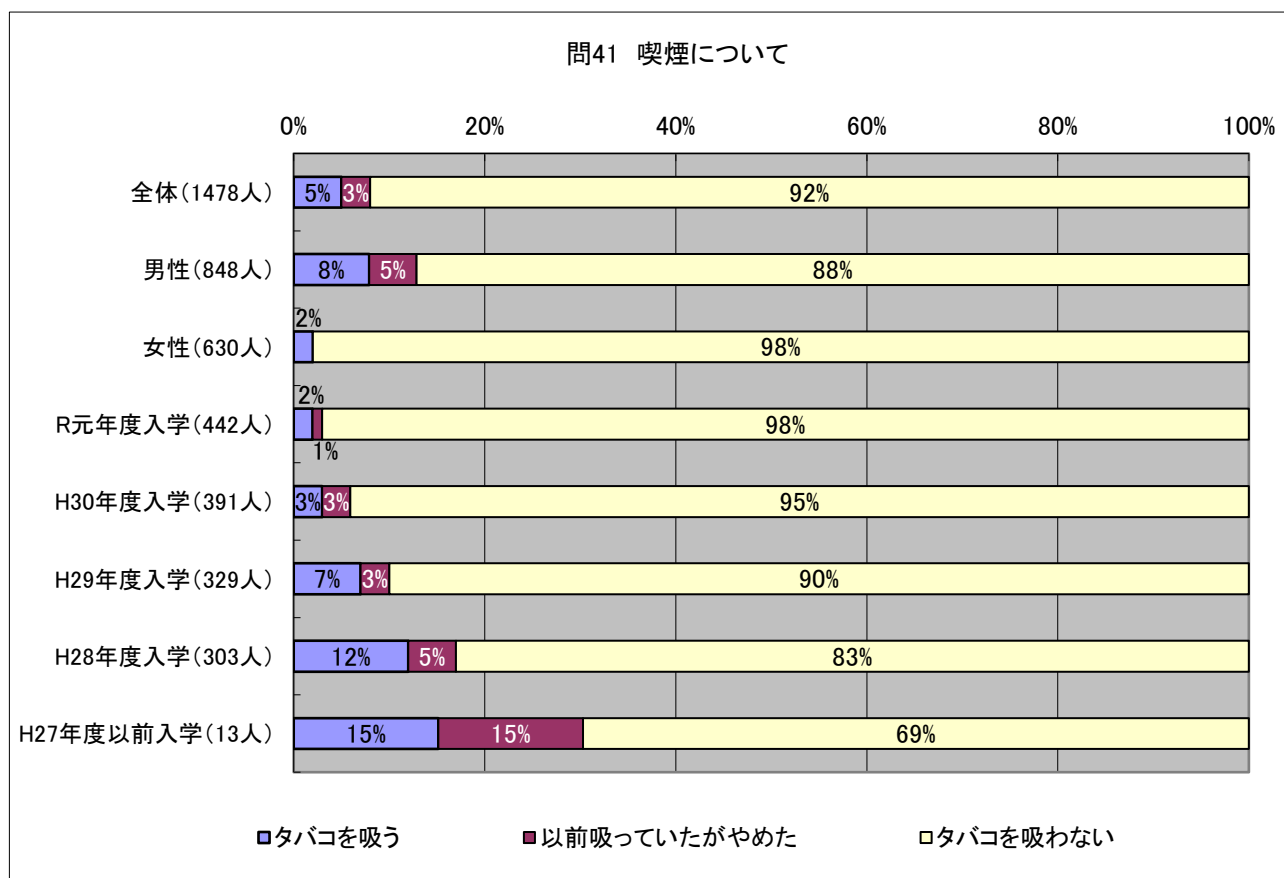
問40 1日の睡眠時間はどのくらいですか。



問40 コメント

女性の方が睡眠時間が短い人が多く、6時間未満は男性41%に対して、女性は51%と男女差は10%になっていた。居住地の差は睡眠時間の差に表れており、通学時間が睡眠時間に影響を与えていると考えられる。また、週20時間未満のアルバイトでは、アルバイト時間が増えるにつれて6時間未満の睡眠の人が増えていた。日中の眠気で学習等に支障がない程度の睡眠時間が確保できるように生活時間のバランスをとることが必要と思われる。

問 41 タバコを吸いますか。

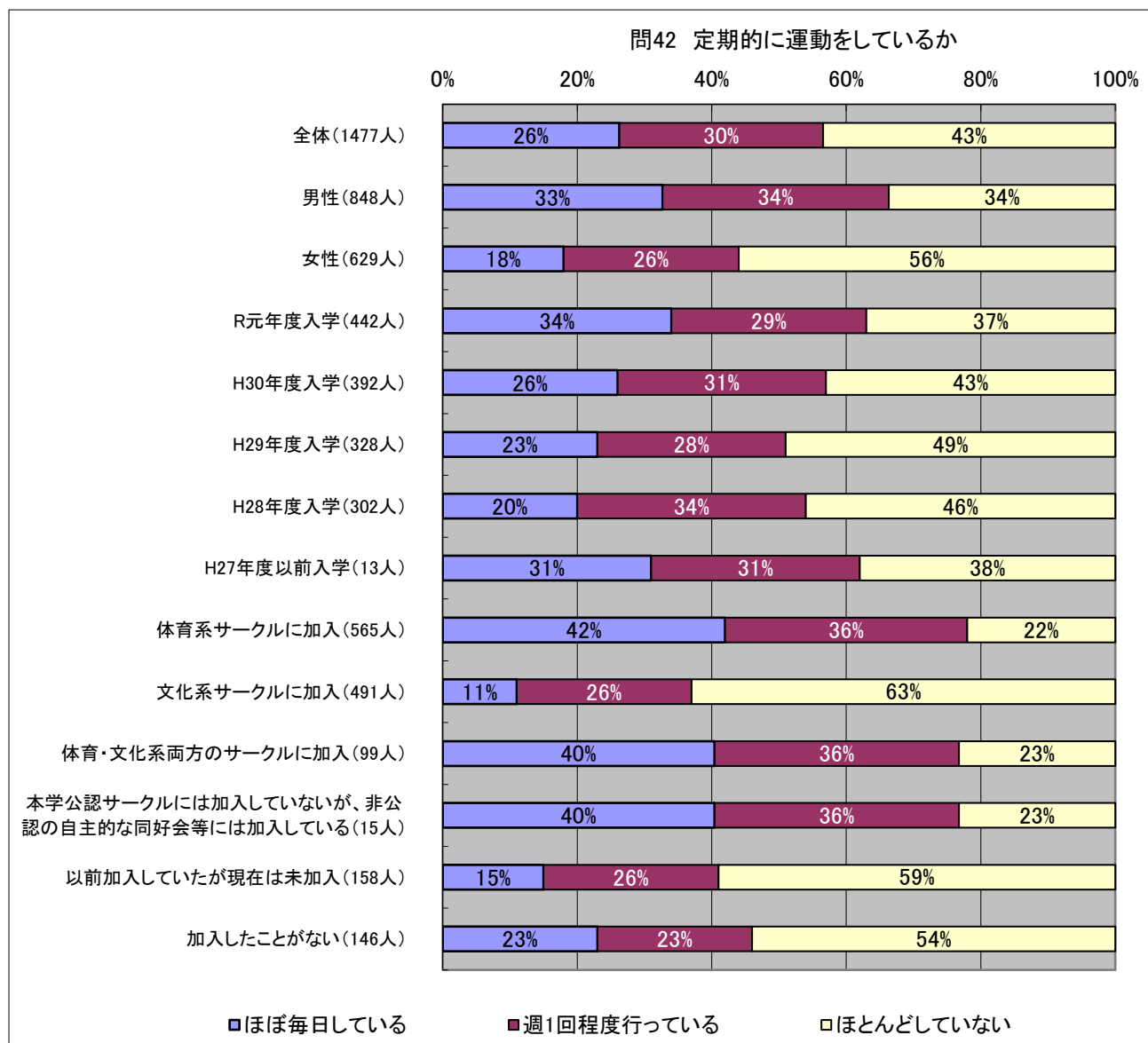


問 41 コメント

全体の喫煙率は平成 22 年調査から継続して低下しており、平成 28 年調査では 7%であったが今回は 5%になった。男性は平成 22 年調査の 18%か 8%と大きく低下し、女性は平成 22 年の 5%から 2%と減ったが、女性は前回も 2%であり横ばいになってきている可能性がある。

受動喫煙防止の観点から本学も敷地内禁煙になっており、喫煙を開始しにくい環境となってきたので、大学生の期間もその後も、喫煙をしない健康的な生活習慣を維持してもらいたい。

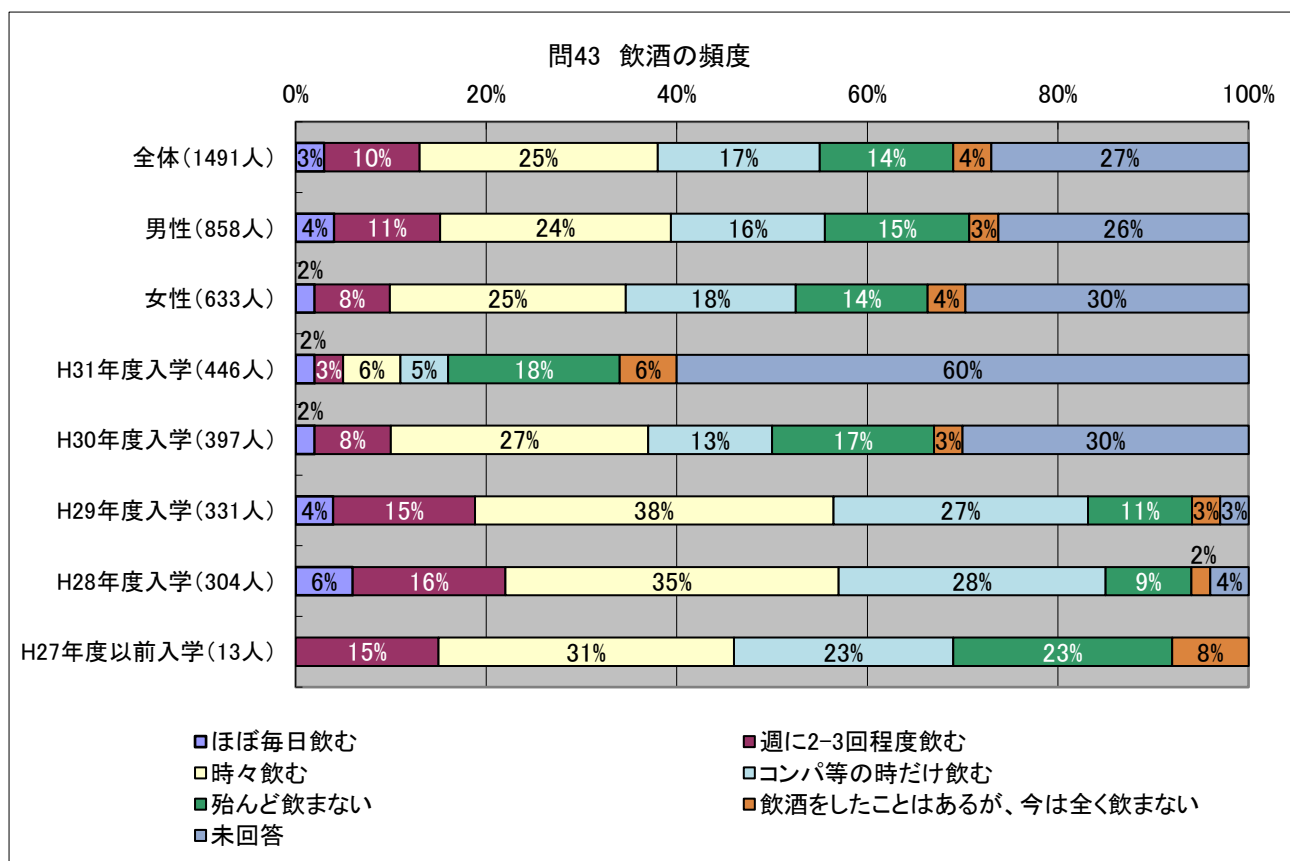
問42 定期的に運動をしていますか。



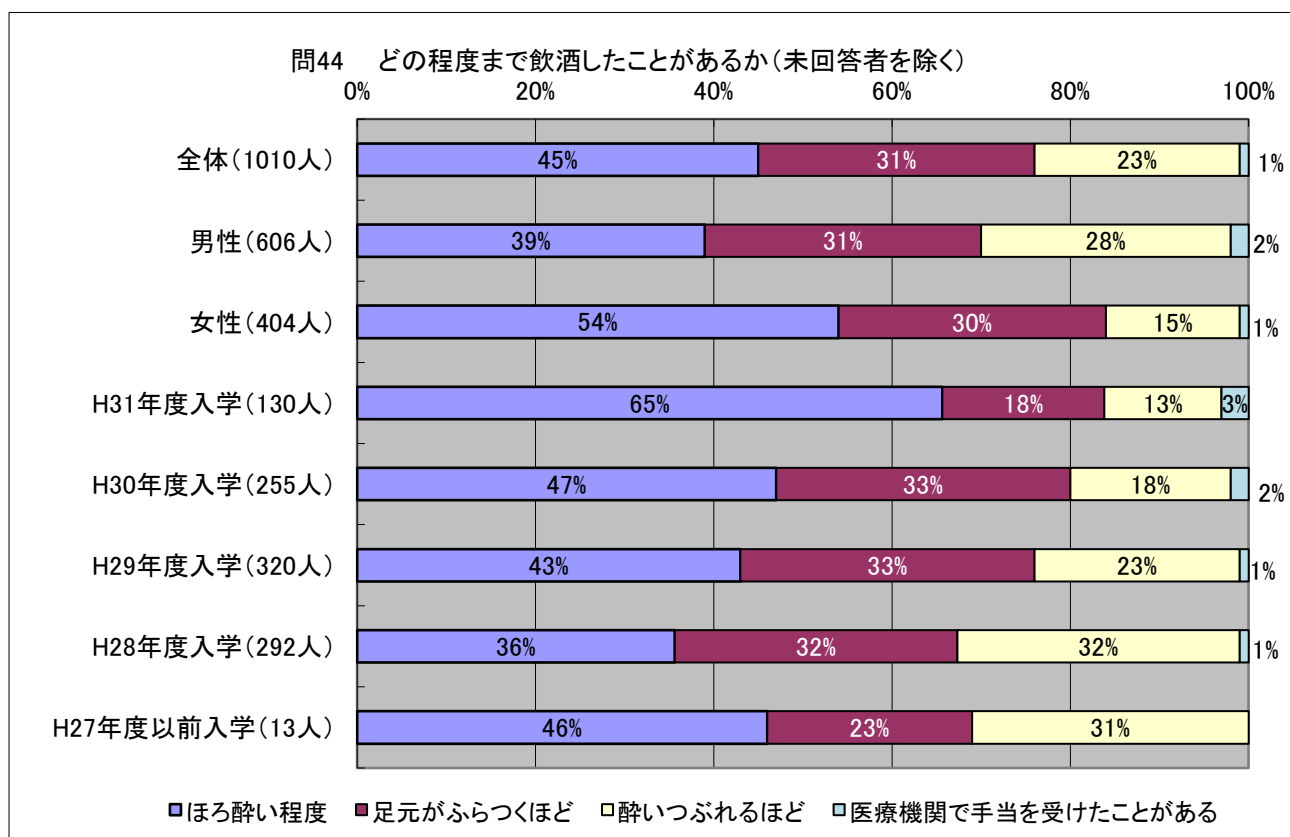
問 42 コメント

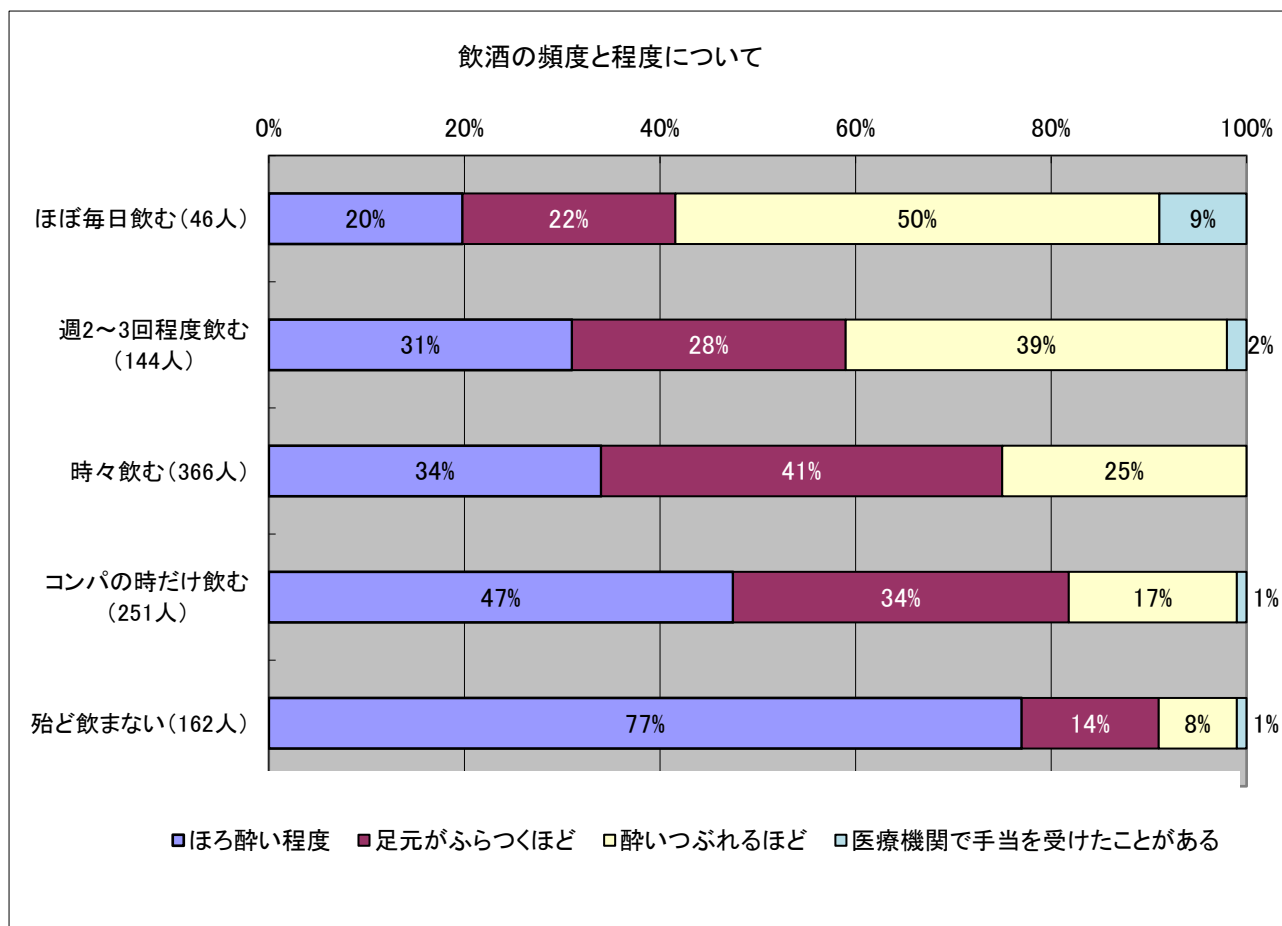
運動習慣については平成 28 年調査と同様に、4 割以上の人は運動をほとんどしていない。特に女性は半数以上運動をしていないのも平成 28 年調査と変化はない。サークル活動の有無が運動習慣に大きな影響を与えていることが示されている。一緒に運動する仲間がいることは運動習慣をつけることには重要である。

問43 飲酒の頻度はどの程度ですか。



問44 どの程度まで飲酒したことがありますか。



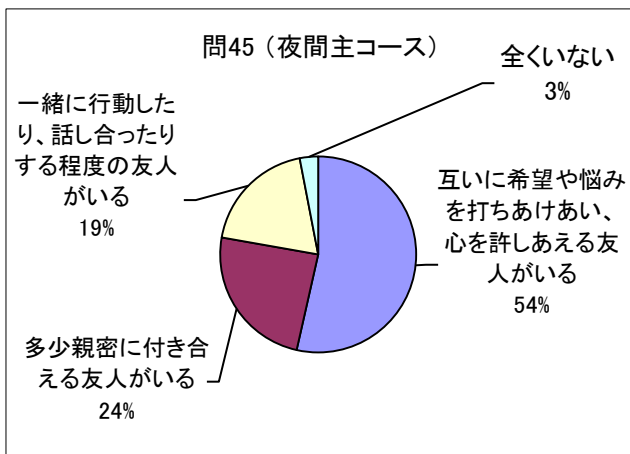
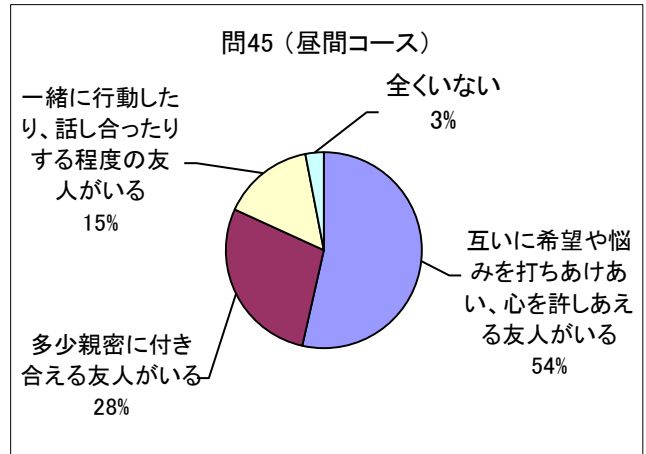
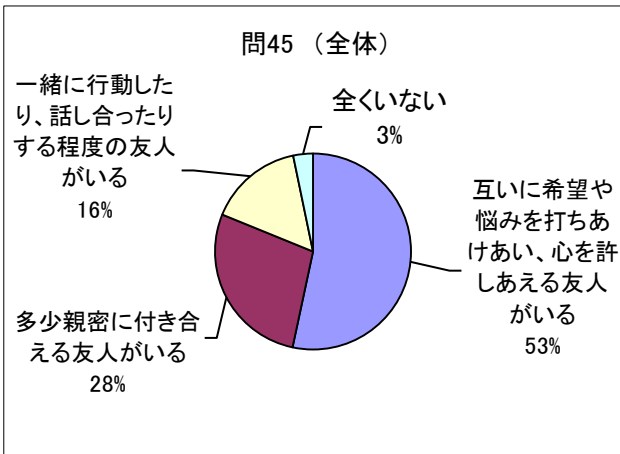
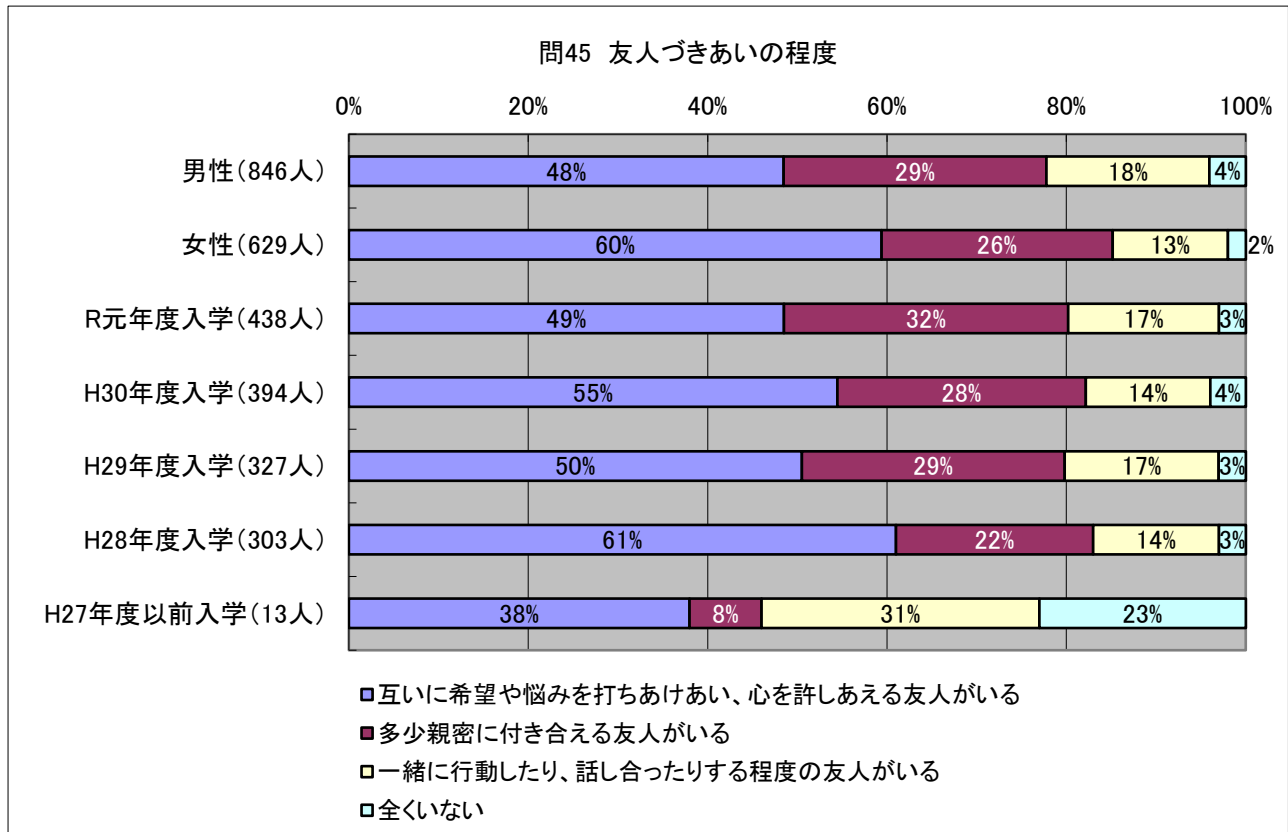


問 43・問 44 コメント

飲酒の傾向は平成 28 年調査とほとんど変わっていない。「殆んど飲まない」「飲酒したことはあるが今は全く飲まない」と未回答を除いた飲酒者の割合は 55%であり、男女差もほぼない。飲酒量は学年が上がるほど危険な飲酒の経験が多くなる。飲酒の程度から「酔いつぶれ」、「医療機関で手当てを受ける」など命の危険を伴う飲酒が行われていることは前回調査とほぼ変わらない。引き続き飲酒による事故防止の啓発を行い、正しい理解とそれに伴った行動を求めていく必要がある。

10 友人・悩みについて

問45 本学の学生の中でどの程度付き合える友人がいますか。

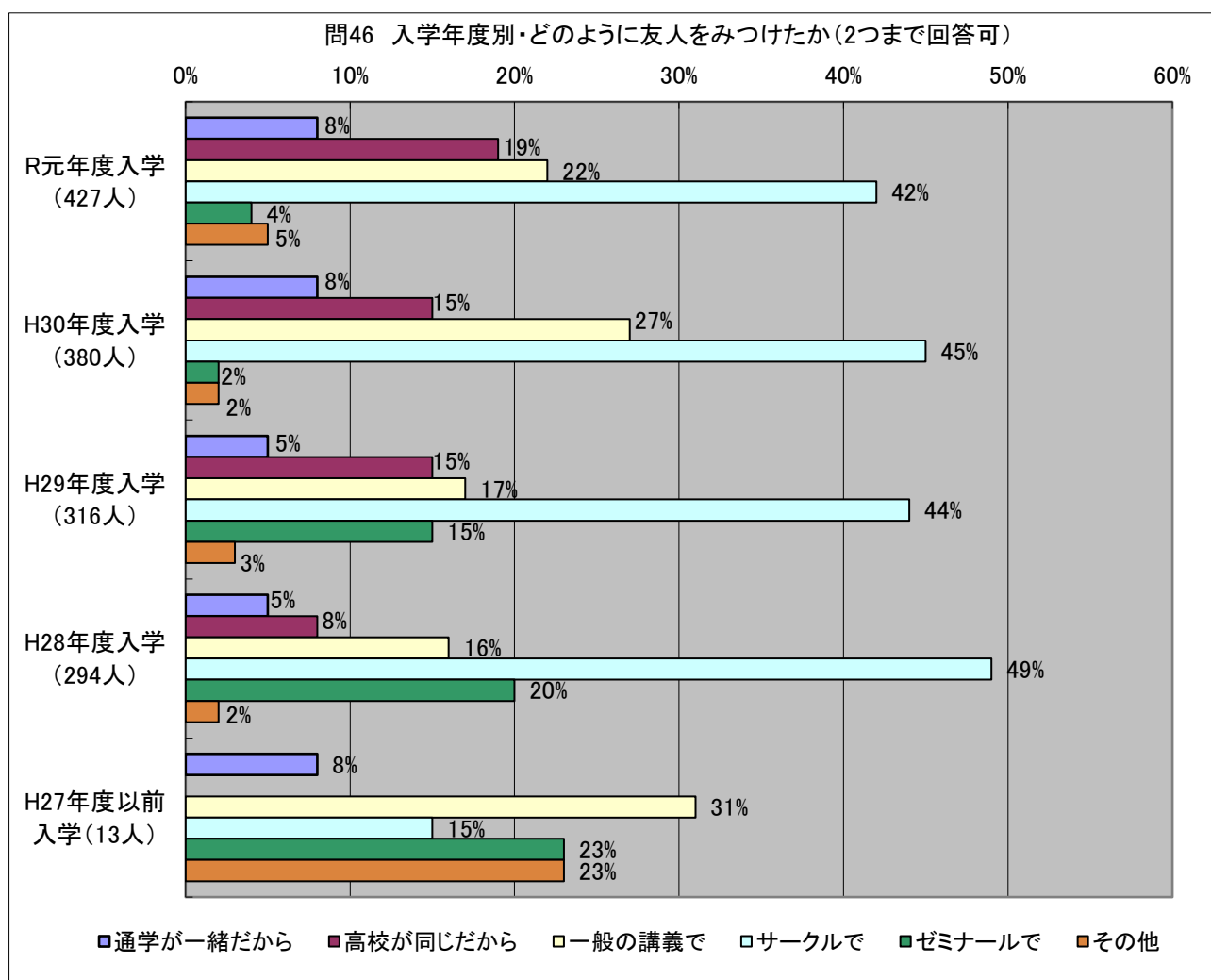


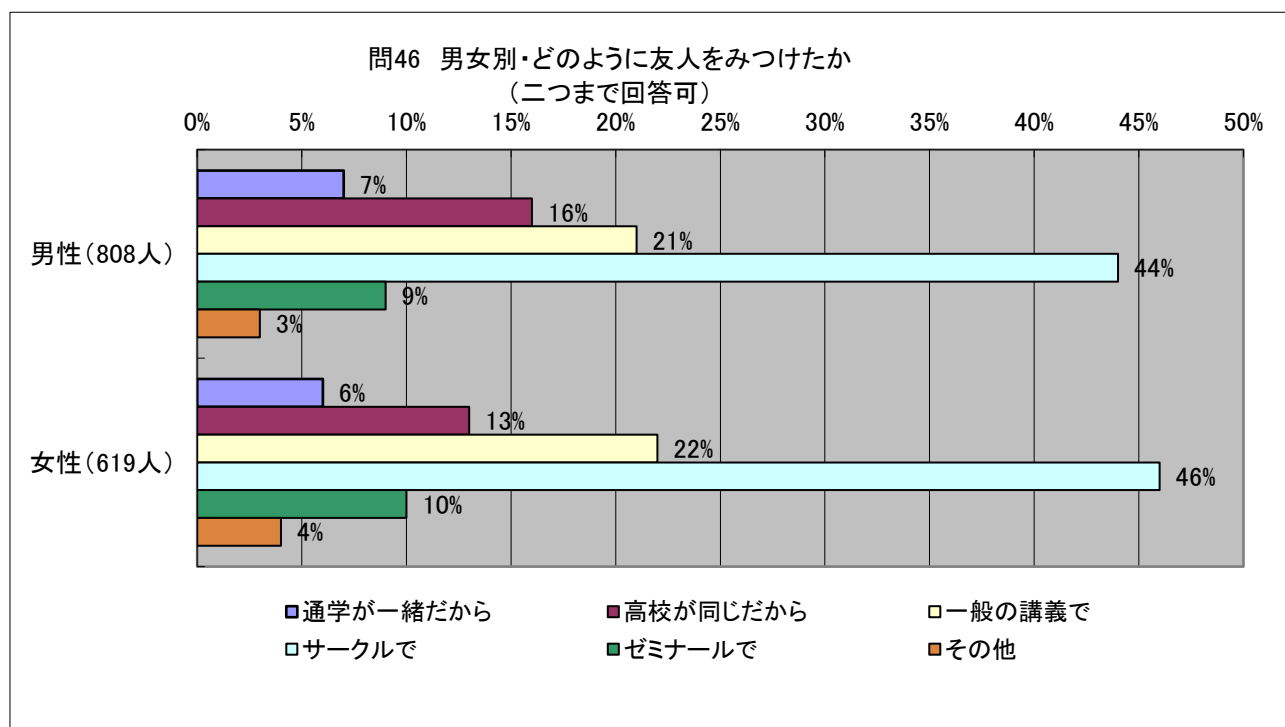
問 45 コメント

「互いに希望や悩みを打ち明けあい、心を許しあえる友人がいる」「多少親密に付き合える友人がいる」という選択肢を合わせると、全体の8割前後となる。他方、友人が「全くいない」とする回答は少ないものであった。

一見、現代青年の「ライト」で「ドライ」とされる友人関係のありようとは相いれないようにも思われる傾向であるが、これは入学当初から意識的に友人を作ろうという意思を持って大学生活を開始する学生が多くなっていることを示唆するのかもしれない。

問46 本学でどのように友人を見つけましたか。(2つまで回答可)



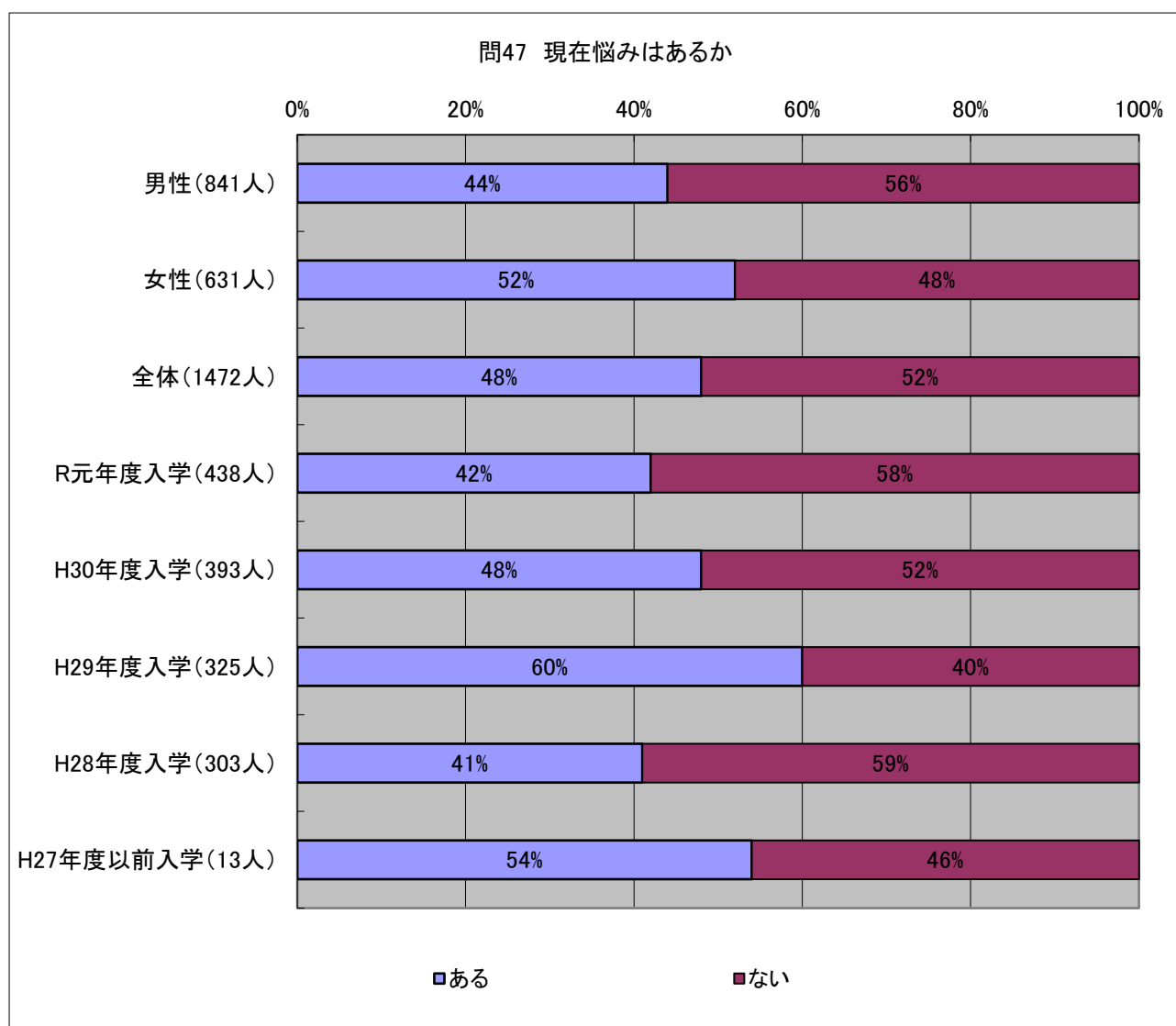


問46 コメント

友人をみつけたきっかけについては、男女ともに「サークルで」「一般の講義で」「高校が同じだから」「ゼミナールで」の順に多かった。1年生ではサークル、一般の講義で友人となることが多く、3年次からは専門ゼミナールの開始とともに、そこでの同僚が友人になっていく傾向がみられる。

クラス制をとってない本学ではサークルに入らない場合の友人作りが懸念されるが、一般の授業、とくに少人数で行われる語学の授業や基礎ゼミナールが友人になるきっかけを提供しているようである。また、本学では、基礎ゼミナールを含めすべてのゼミナールに専用の部屋を用意しており、このことはゼミナール内での交流を深めていることに寄与していると推測される。

問47 現在、悩みはありますか。

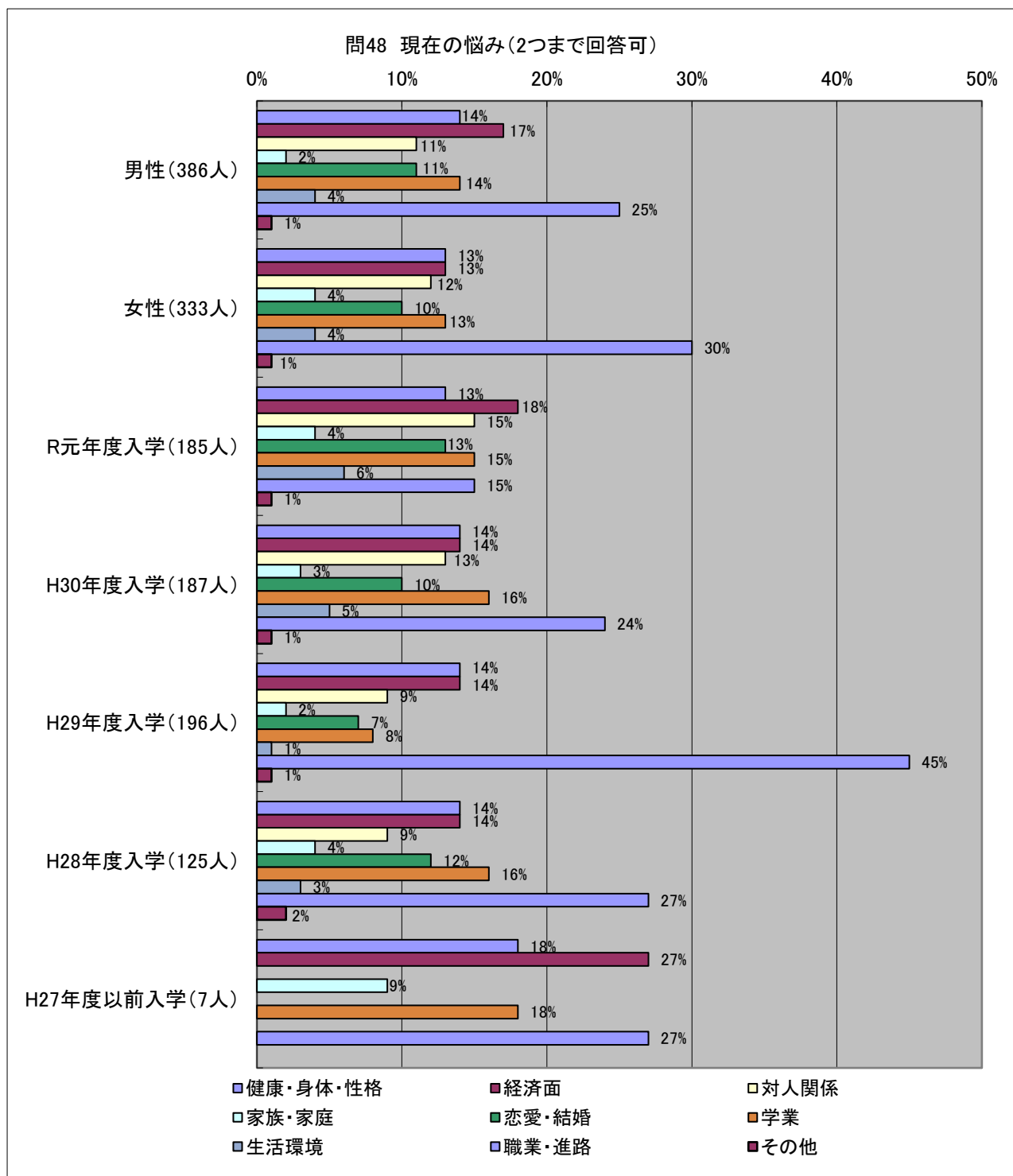


問 47 コメント

悩みの有無について尋ねた質問に対して「悩みがある」と回答している学生と「悩みがない」と回答する学生はほぼ半々であった。前回調査（平成 25 年）での「悩みがない」と回答した学生の割合が 16%（男性全体）と 11%（女性全体）であったことから考えると、悩みを持つ学生の割合は大幅に減少しているということになる。

この原因として、まず、現在の学生をとりまく状況との関連を考えることができるだろう。具体的には、現在の就職状況が好調であるため、その面での不安や悩みが減少しているという可能性である。他方、学生の心性の変化との関連も考えられる。たとえば近年、学生相談の現場においては学生の「悩む力」の低下が指摘されている。すなわち、悩みと直接向き合う自我の強さがないために、それを無視したり軽視したりして自分を防衛しようとする学生が増加しているということである。本調査のデータからはそこまで深い考察はできないが、後者の可能性も排除できないように感じられる。

問48 どのような悩みですか。（2つまで回答可）

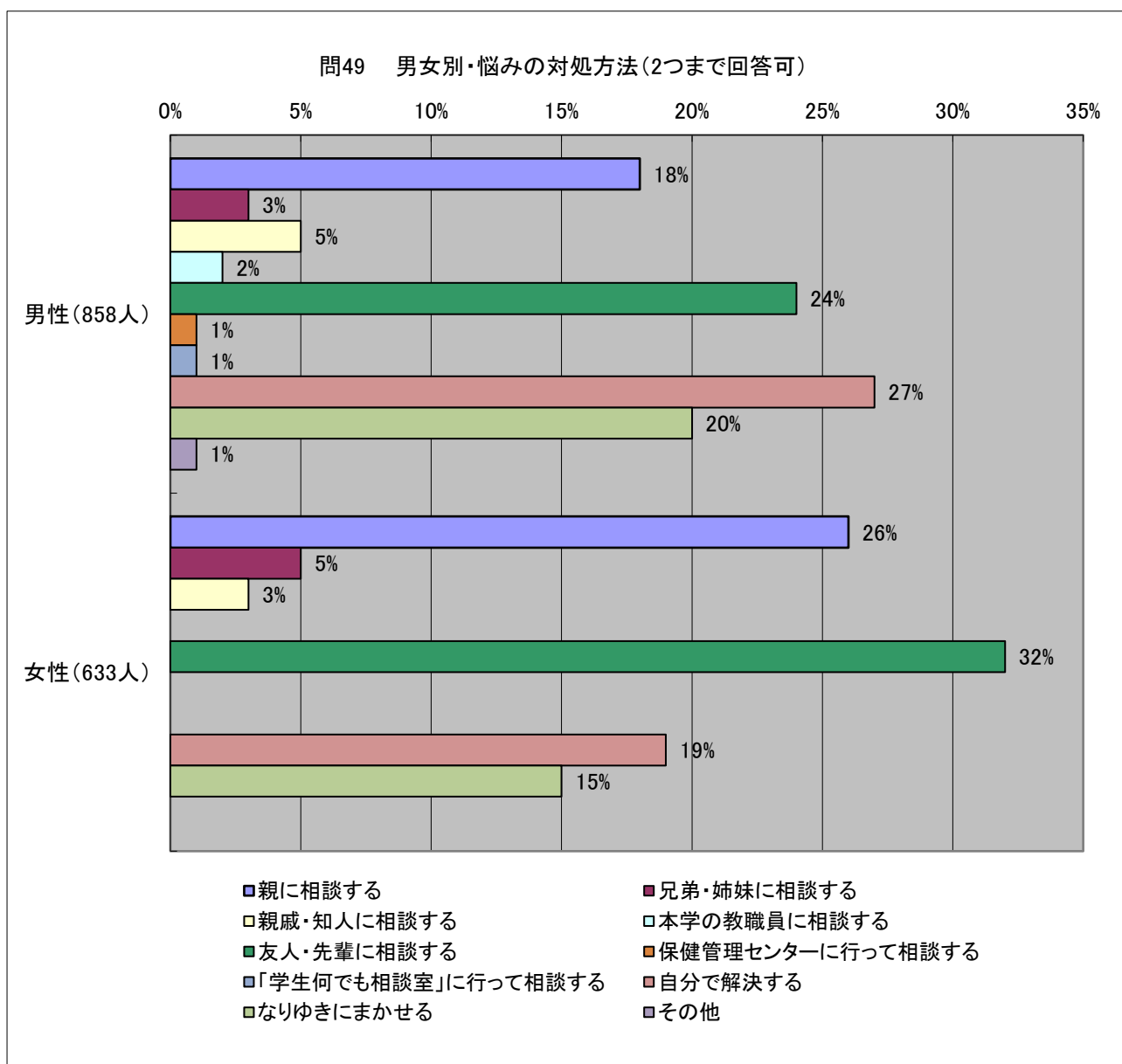


問 48 コメント

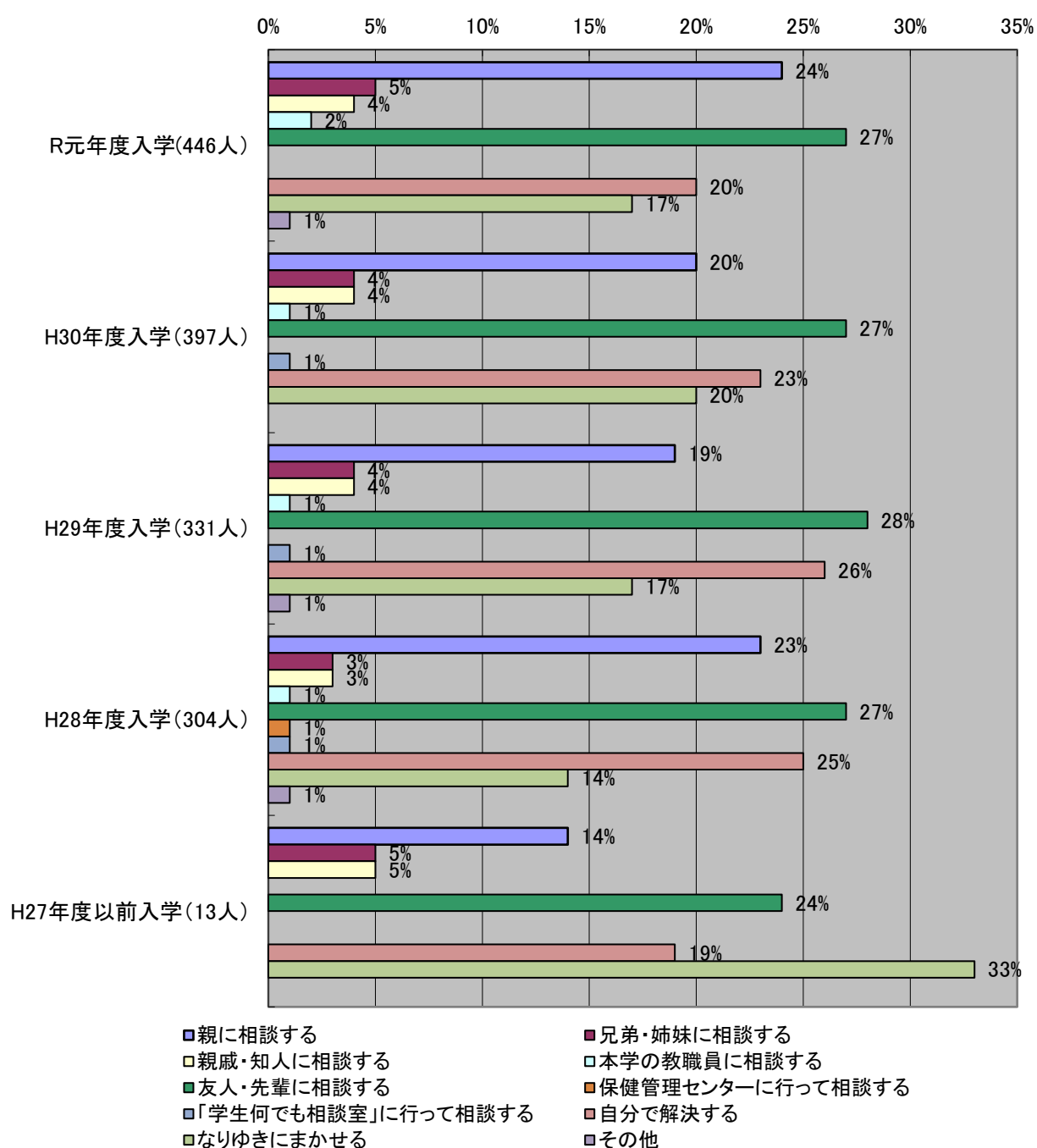
現在の悩みについては、男女ともに「職業・進路」が最も高く、その傾向は H29 年度入学生(主に 3 年次生)において顕著であった。近年は売り手市場とされ、学生にとっては就職への不安は高くはないと推測されるが、それでもなお長時間労働・働き方改革の問題や、仕事と結婚・子育ての両立の問題等、キャリアに関するテーマは学生にとって重要な意味を持つことが示唆される。

また、その他には「経済面」での悩みが「学業」と並んで、どの学生においても確認された。保護者から学生への仕送り額の減少はマスメディアでも報道されているところであるが、それが学生の生活にも直接影響を及ぼしていることが推測される。

問49 悩みが生じた場合、どのように対処していますか、又は対処するつもりですか。（2つまで回答可）



問49 入学年度別・悩みの対処方法(2つまで回答可)

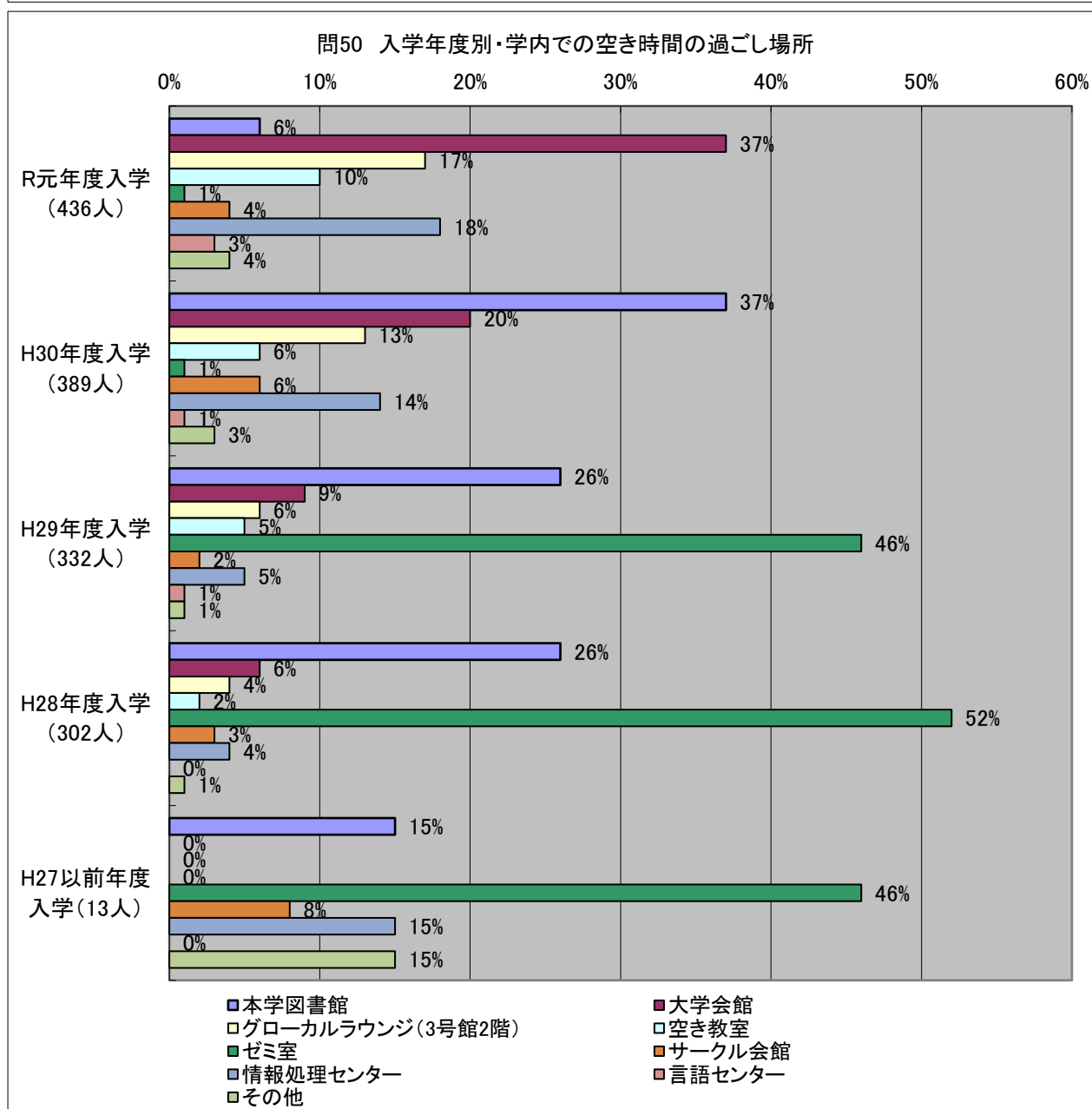
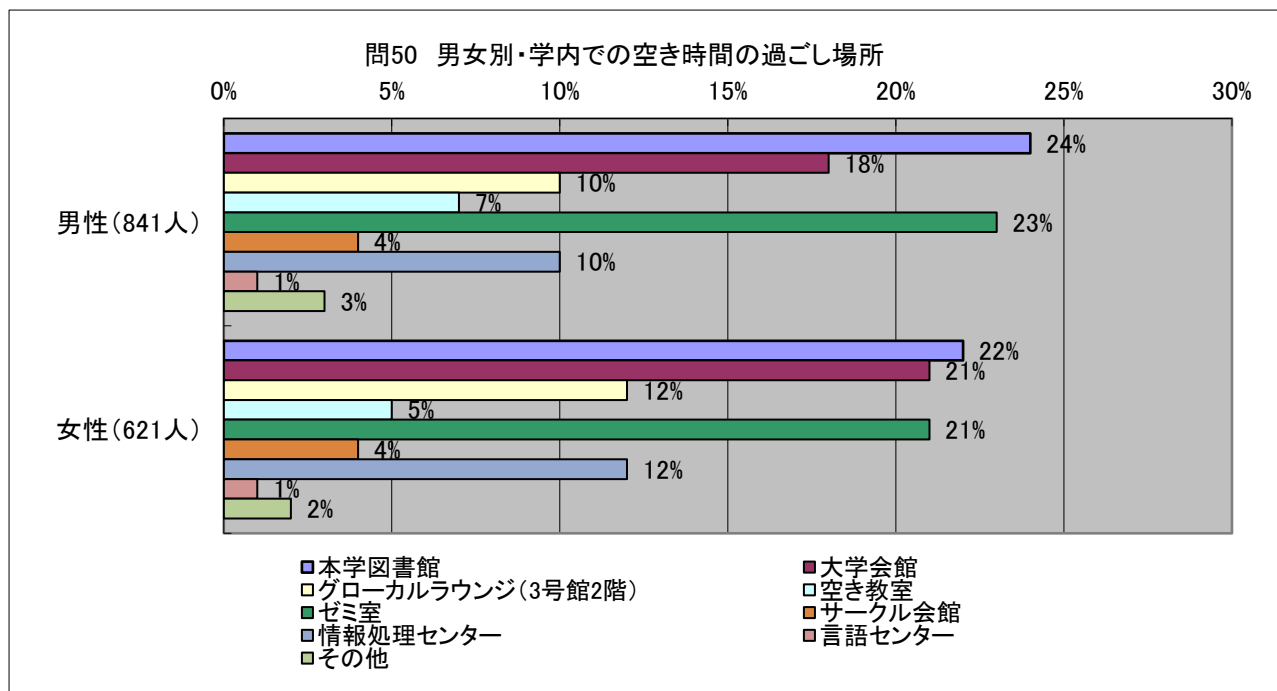


問 49 コメント

悩みの対処方法については男女差がみられ、男性は「自分で解決する」が最も多く、女性は「友人・先輩に相談する」が最も多かった。他方、「保健管理センターや学生何でも相談室に行き相談する」といった回答の割合は全体的に低かった。

青年期の悩みについては、自分自身で解決するしかないテーマもあるが、他者からの客観的意見やアドバイスを求めたほうがよりよい解決につながる場合も多い。たとえば、精神疾患の疑いといったケースでは早期に専門的知識を持つ支援者に相談することが望ましい。このようなことを考えれば、悩みの対処方法は一つに限定するのではなく、臨機応変に、相談できるチャンネルをいくつか保持しておくことが重要であると考えられる。

問50 あなたは学内にいるとき、普段どこで空き時間を過ごしていますか。

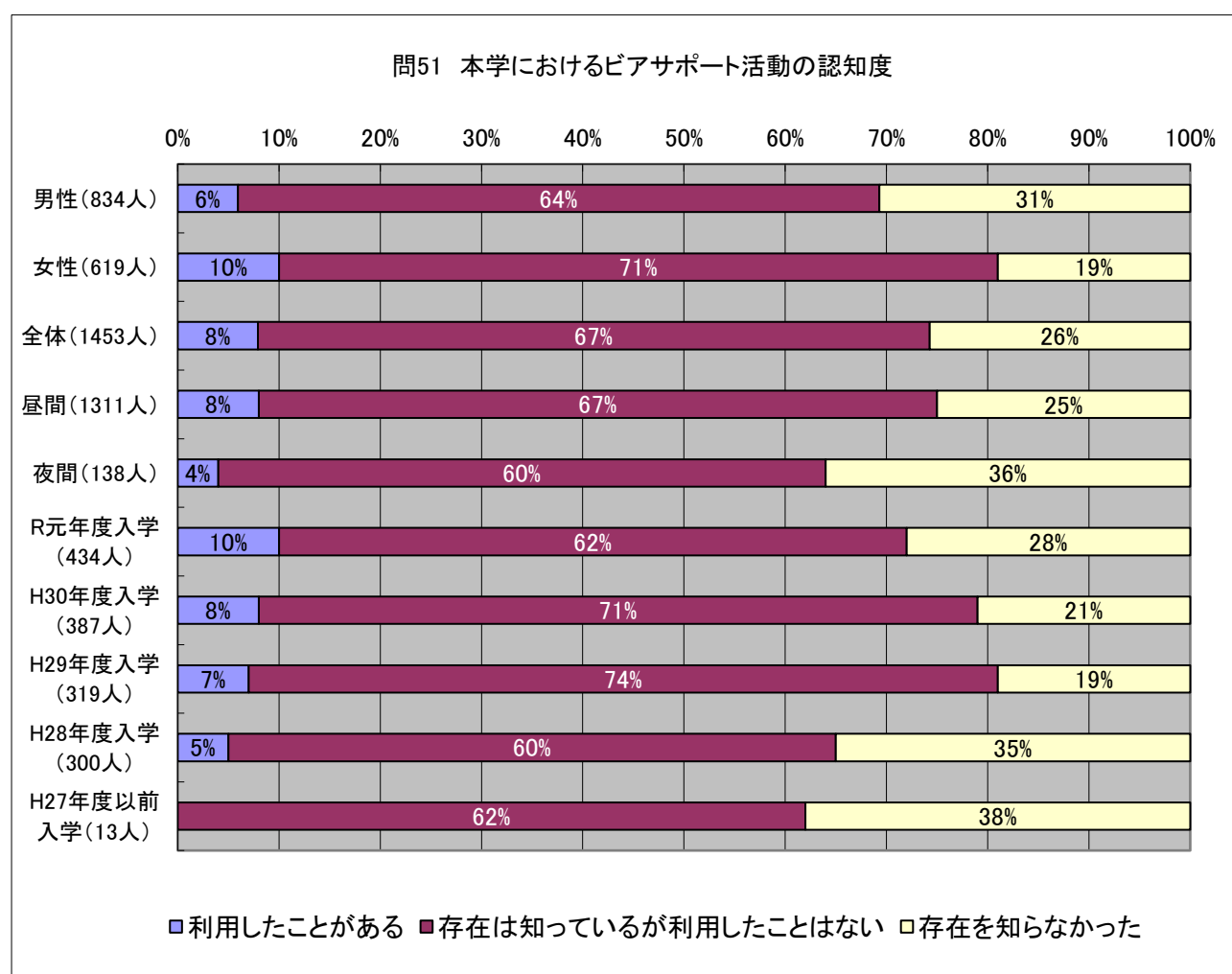


問50 コメント

大学での空き時間を過ごす場所としては「本学図書館」「ゼミ室」「大学会館」の選択が多い。R元年度生（1年次生）では「大学会館」、H30年度生（2年次生）では「本学図書館」、平成29年度生（主に3年次生）以上では「ゼミ室」が過ごし場所となっていることが確認された。

本学の図書館は、2階はグループで、3階は個人で過ごすことができるようになっており、学生が空き時間を過ごすための貴重な場所となっているようである。ただ、令和元年度には改修のために図書館がしばらく使用できなかった。1年次生の「本学図書館」選択率の低さはこのためにまだ使用していない学生が多かったためと推測される。

問51 本学でピアサポート活動（学生による学生への支援）が行われていることを知っていますか。



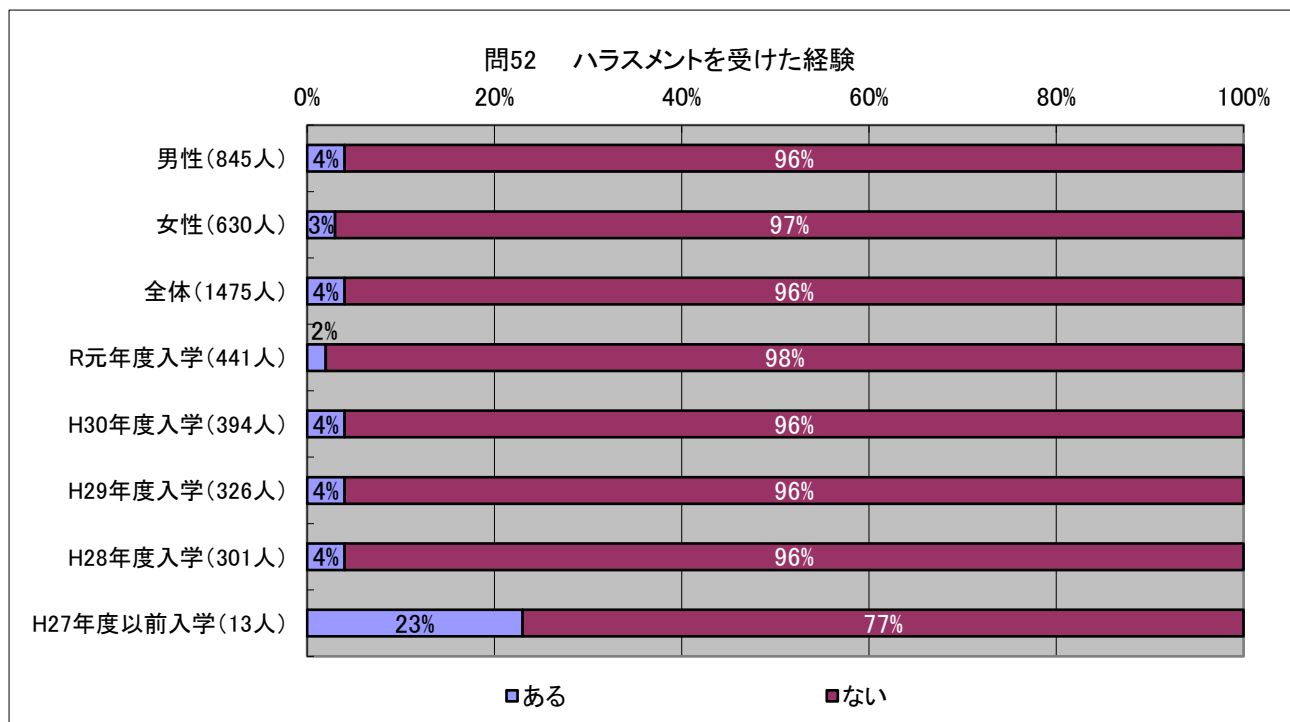
問51 コメント

ピアサポート活動は平成29年度から開始され、当初は空き教室を利用していた活動であった。その後、平成30年度からは専用のピアサポートルームでの活動となっている。

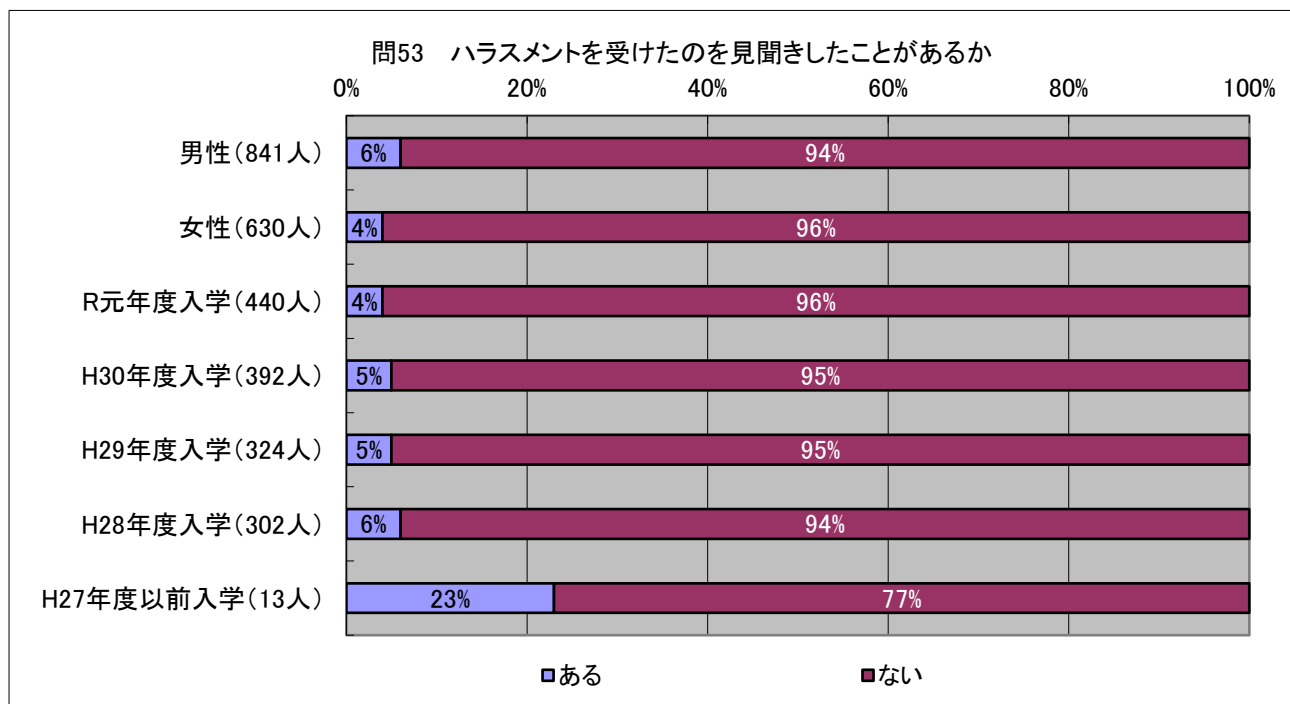
今回の調査をみるかぎり、利用した学生の割合はまだ低いものに留まっている。他方、活動の認知度は6～7割となっており、これは専用の活動場所を設けた効果と考えられる。今後、活動の内容を浸透させていくために、さらなる広報活動が必要であると思われる。

11 ハラスメントについて

問52 本学の教職員，先輩，友人などからハラスメントを受けたことがありますか。



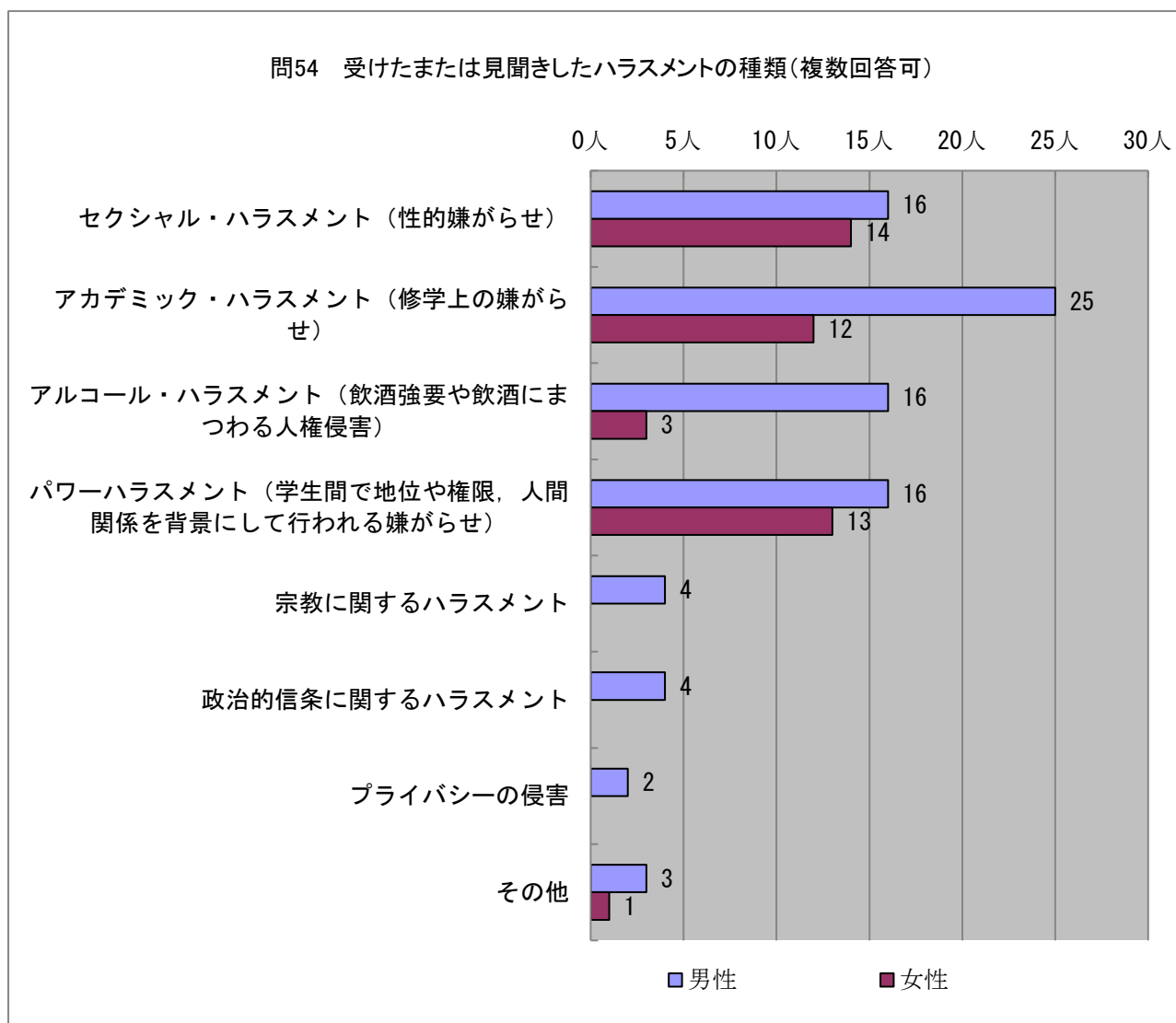
問53 本学の学生がハラスメントを受けるのを見たり聞いたりしたことはありますか。



問52・53 コメント

ハラスメントの経験，周囲の人のハラスメントを見聞きした経験は前回調査よりは減少したが，依然として存在している。全ての人がハラスメントを防止する意識を持つ必要がある。

問54 それはどのようなハラスメントでしたか。（複数回答可）

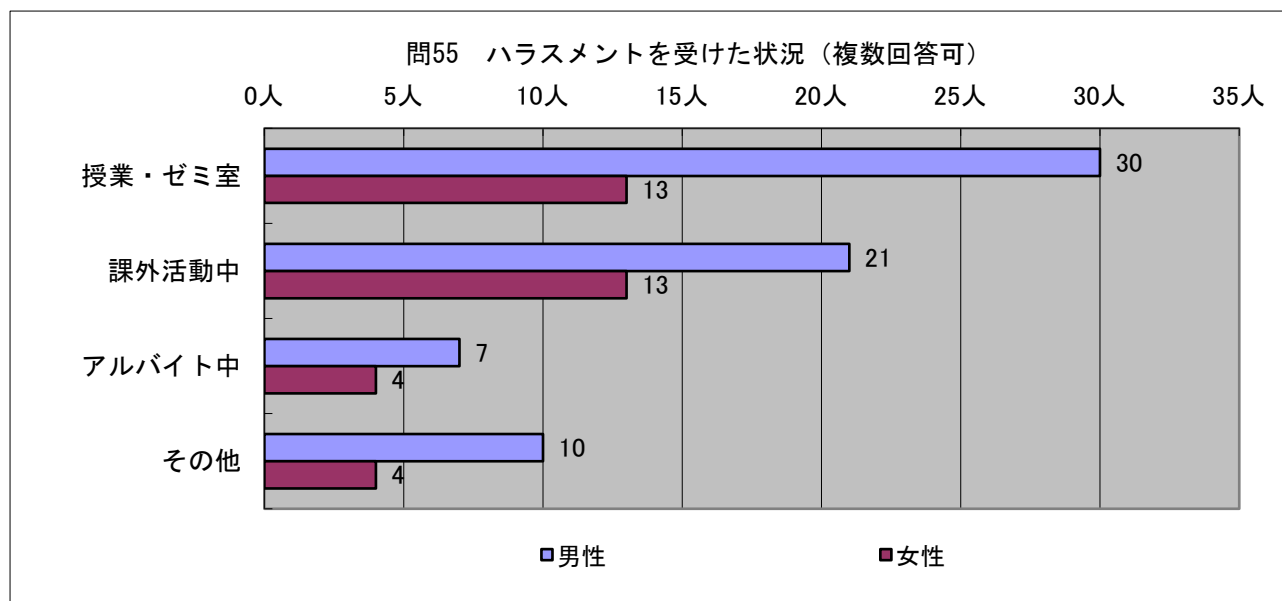


問54 コメント

今年の調査で最も多かったのはアカデミックハラスメントであった。教職員一人一人がハラスメントに対する理解をしてハラスメントを起こさないように意識を持続けることが必要である。

アルコールハラスメントも依然として多く、飲酒事故にもつながるものであることから決して起こさないようにしていくことが重要である。

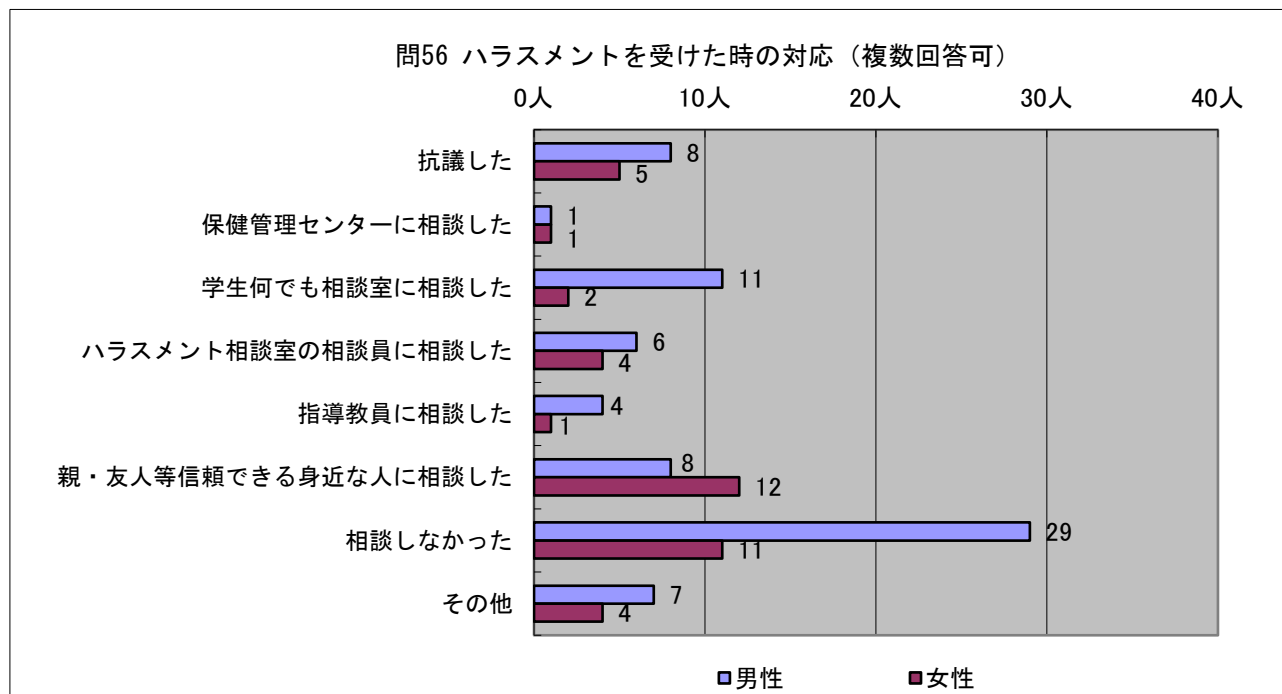
問55 どのような状況でハラスメントは起こりましたか。（複数回答可）



問55 コメント

問54でアカデミックハラスメントが最も多かったため、ハラスメントを受けた状況でも授業やゼミ室が多くなっていた。授業やゼミを受ける大学内が安心して過ごせる場所になるようにするためにもハラスメント対策が重要である。

問56 ハラスメントに対してどのように対応しましたか。（複数回答可）

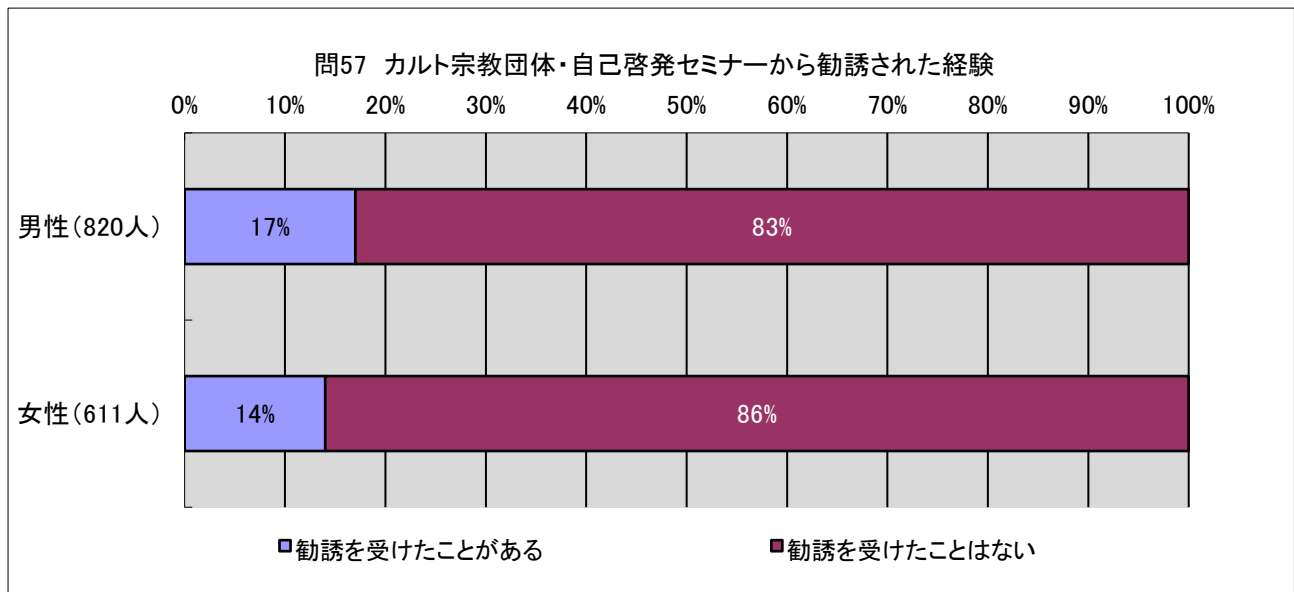


問56 コメント

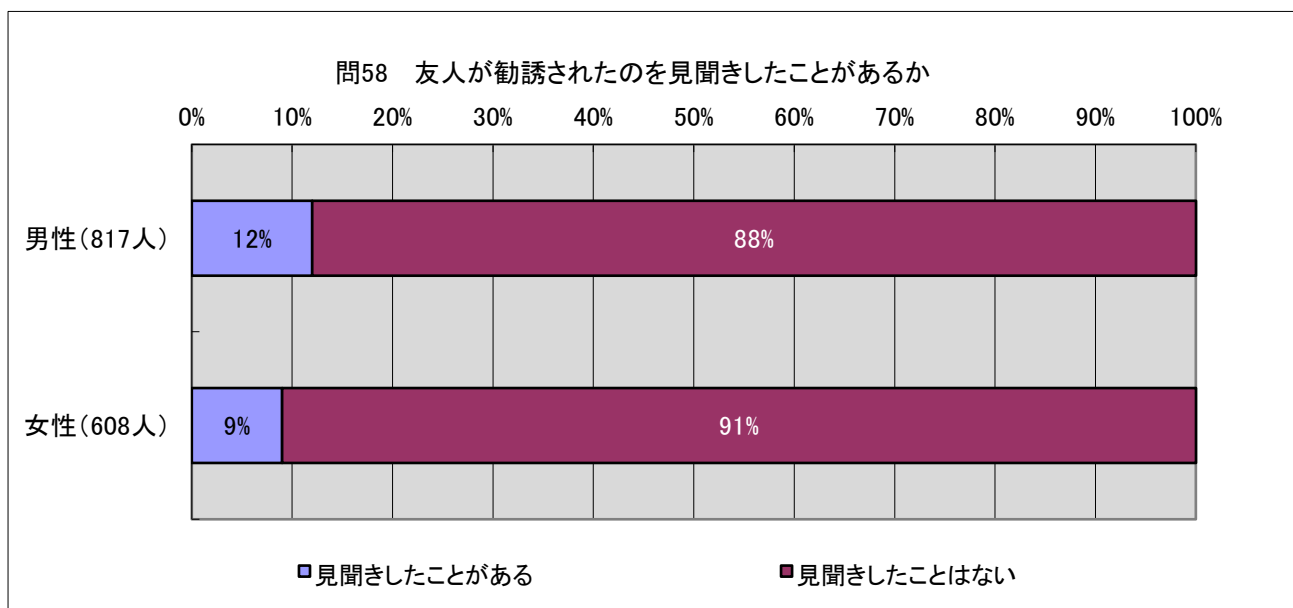
ハラスメントの対応で最も多いのは「相談しなかった」であった。相談がないと解決が望めない上にハラスメントが繰り返される可能性を残してしまう。立場上相談することを躊躇してしまうこともあると思われるが、ハラスメントを受けたときはぜひ相談して解決につなげてもらいたい。

12 カルト、薬物、消費者被害について

問 57 カルト宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けたことがありますか。



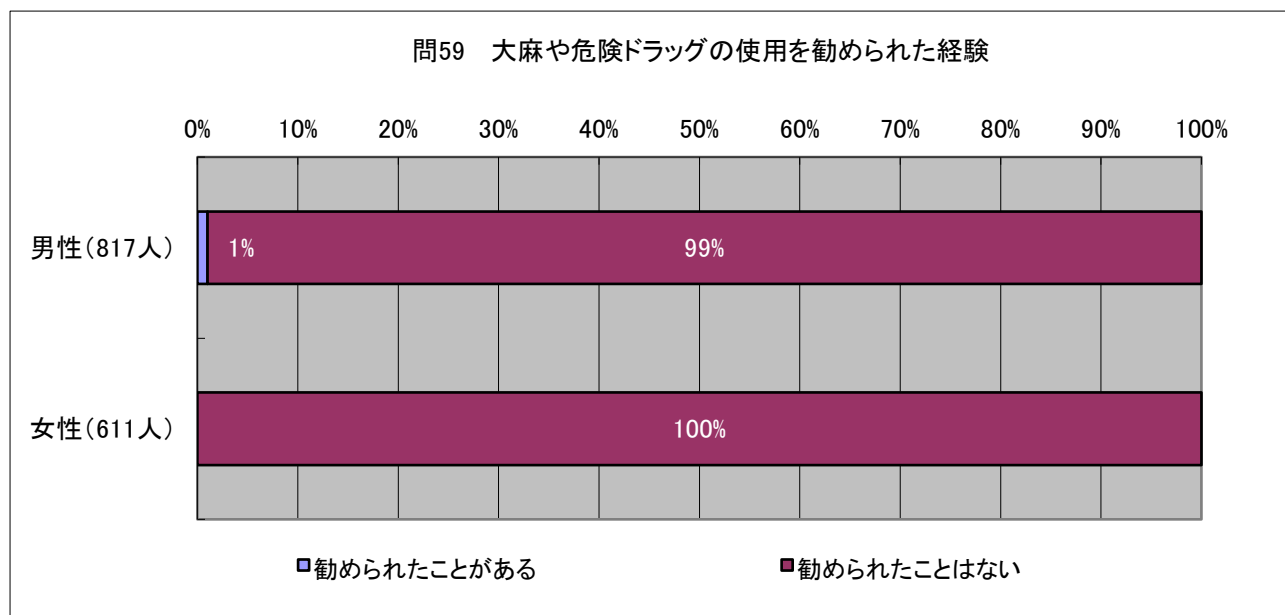
問 58 友人が宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けて困っているのを見聞きしたことがありますか。



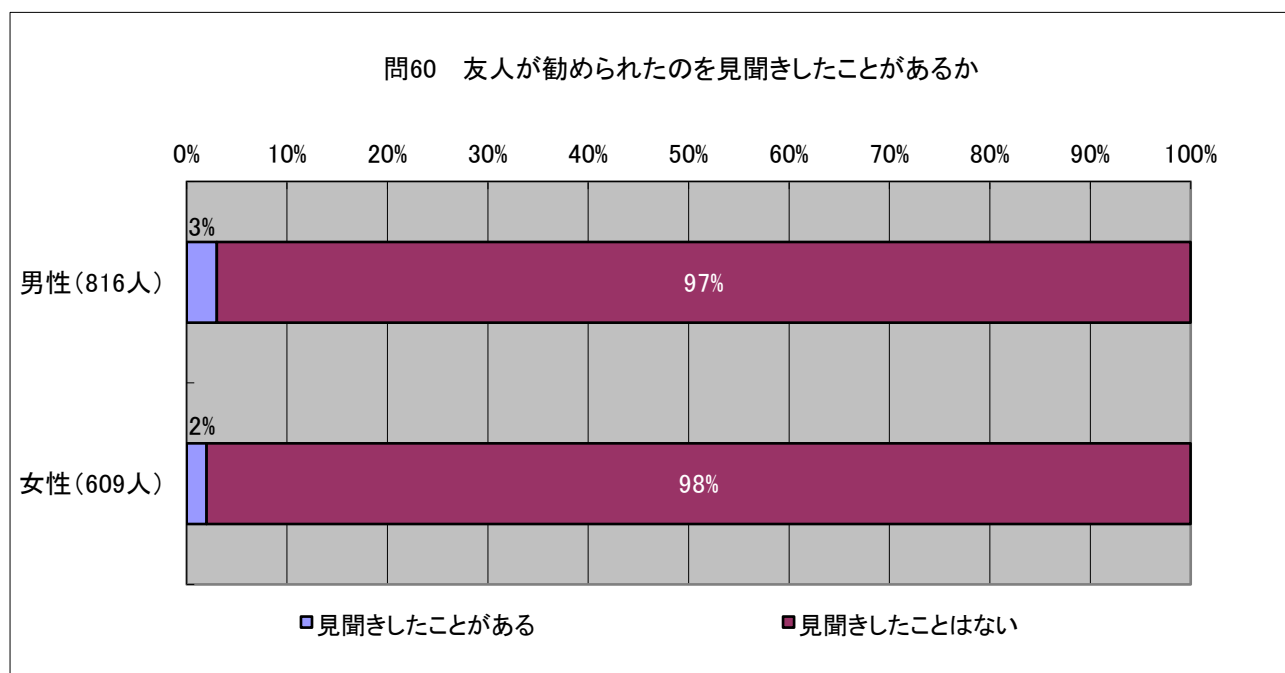
問 57・58 コメント

カルト宗教団体、自己啓発セミナーの勧誘は前回調査とほぼ同程度であり、後述の悪質商法よりも勧誘は多く、大学生には依然として多くの勧誘が行われている実態が明らかになった。こうした勧誘は巧妙に行われて断りにくい状態になってしまうこともあるため、即断せずに学生何でも相談室を利用するなどして被害を防止することが必要である。

問 59 大麻や危険ドラッグの使用を勧められたことがありますか。



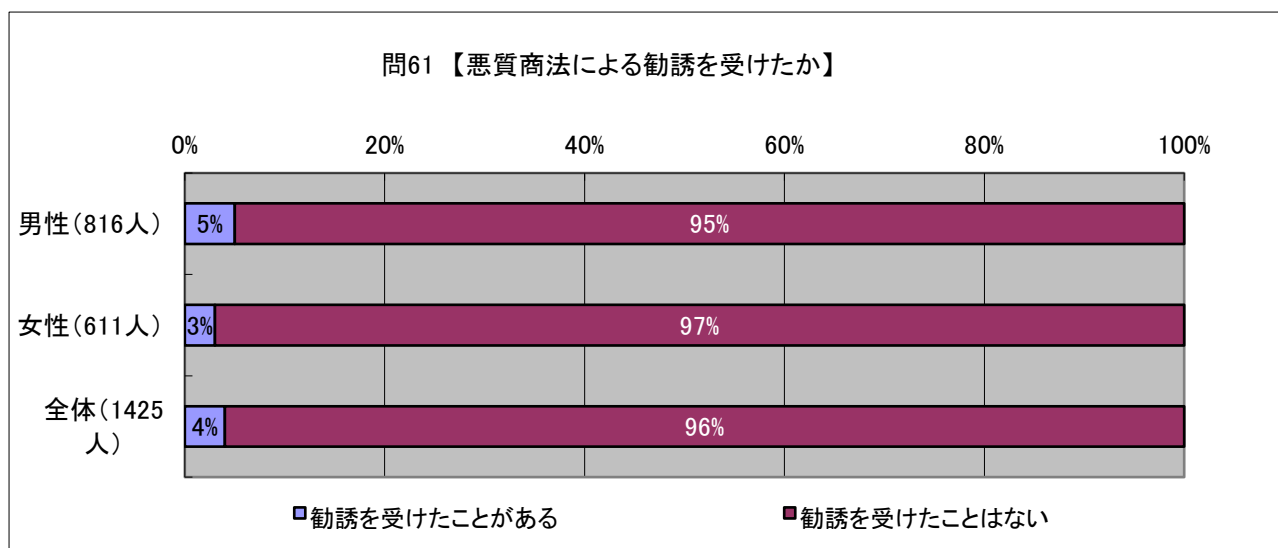
問 60 友人が大麻や危険ドラッグの使用を勧められたのを見聞きしたことがありますか。



問 59・60 コメント

大麻や危険ドラッグの勧誘経験は男性で1%と少なくなっていた。しかしながら大学生を含む若年者の大麻事件は後を絶たず、社会の中で危険性が低下しているとは言えない。大麻を含む違法薬物には決して近づかない、万が一勧められた場合のための断り方を考えておくなどの日ごろから事前の対策が求められる。

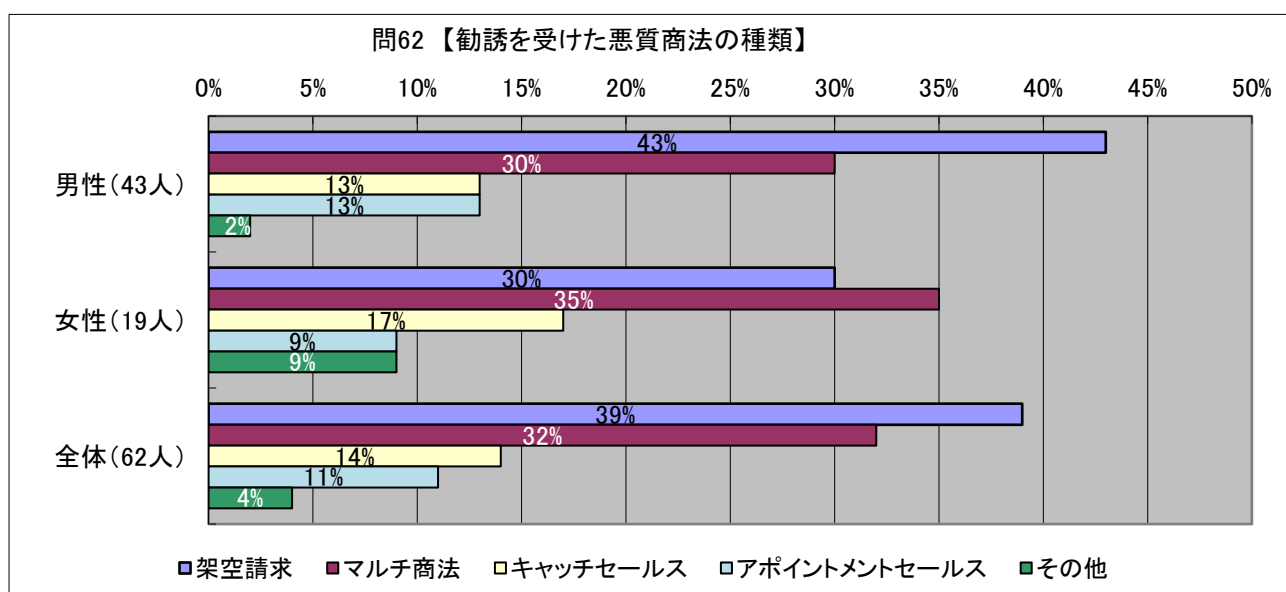
問 61 悪質商法による勧誘を受けたことがありますか。



問 61 コメント

スマートフォンや SNS の利用拡大に伴って、若年者の消費者トラブルが増加していることから今回新規に調査を実施した項目である。全体の 4% が悪質商法の勧誘を受けており、決して他人事ではない。正しい情報を得て判断することにより自分を守っていく必要がある。

問 62 どのような悪質商法による勧誘を受けたことがありますか。（複数回答可）

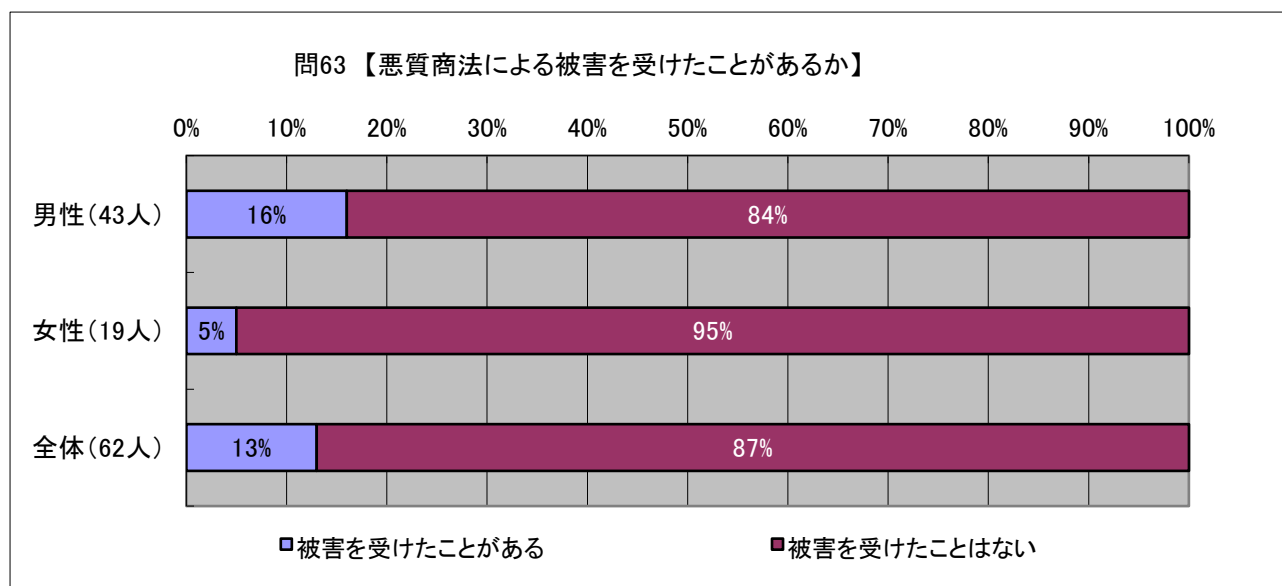


問 62 コメント

架空請求やマルチ商法が多かった。インターネットや SNS を利用したこれらの悪質商法は巧妙化しているため誰でも勧誘される可能性があることを認識しておく必要がある。

【参考】『架空請求』身に覚えのないサイトの利用料金などについてメールやはがきで請求する商法、『マルチ商法』「儲かる」などと誘われて販売組織に入会させられた人がさらに別の加盟者を誘引するという連鎖によって組織を拡大して行う商品・サービスの取引。勧誘時の話とは異なり、商品は売れず、加盟者を勧誘できず損をすることが多い。『キャッチセールス』路上等で「無料体験」などと称して呼び止め賞品やサービスを契約させる。『アポイントメントセールス』電話や郵便で喫茶店や事務所に呼び出し、契約しないと帰れない状況にするなどして商品やサービスを契約させる。

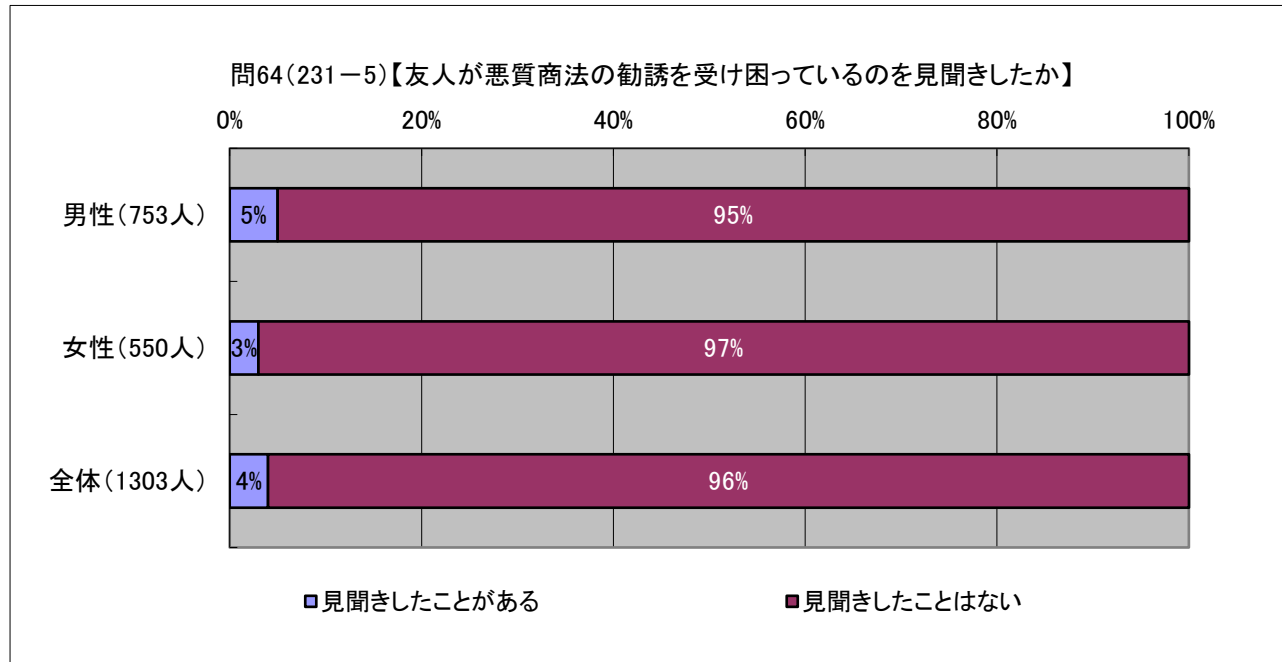
問 63 悪質商法による被害を受けたことがありますか。



問 63 コメント

勧誘を受けた人の13%が実際に被害にあっており、悪質商法の被害を防止することの難しさを示していると思われる。被害にあった場合も放置せず、対処方法について消費者センター等に相談してもらいたい。

問 64 友人が悪質商法による勧誘を受けて困っているのを見聞きしたことがありますか。

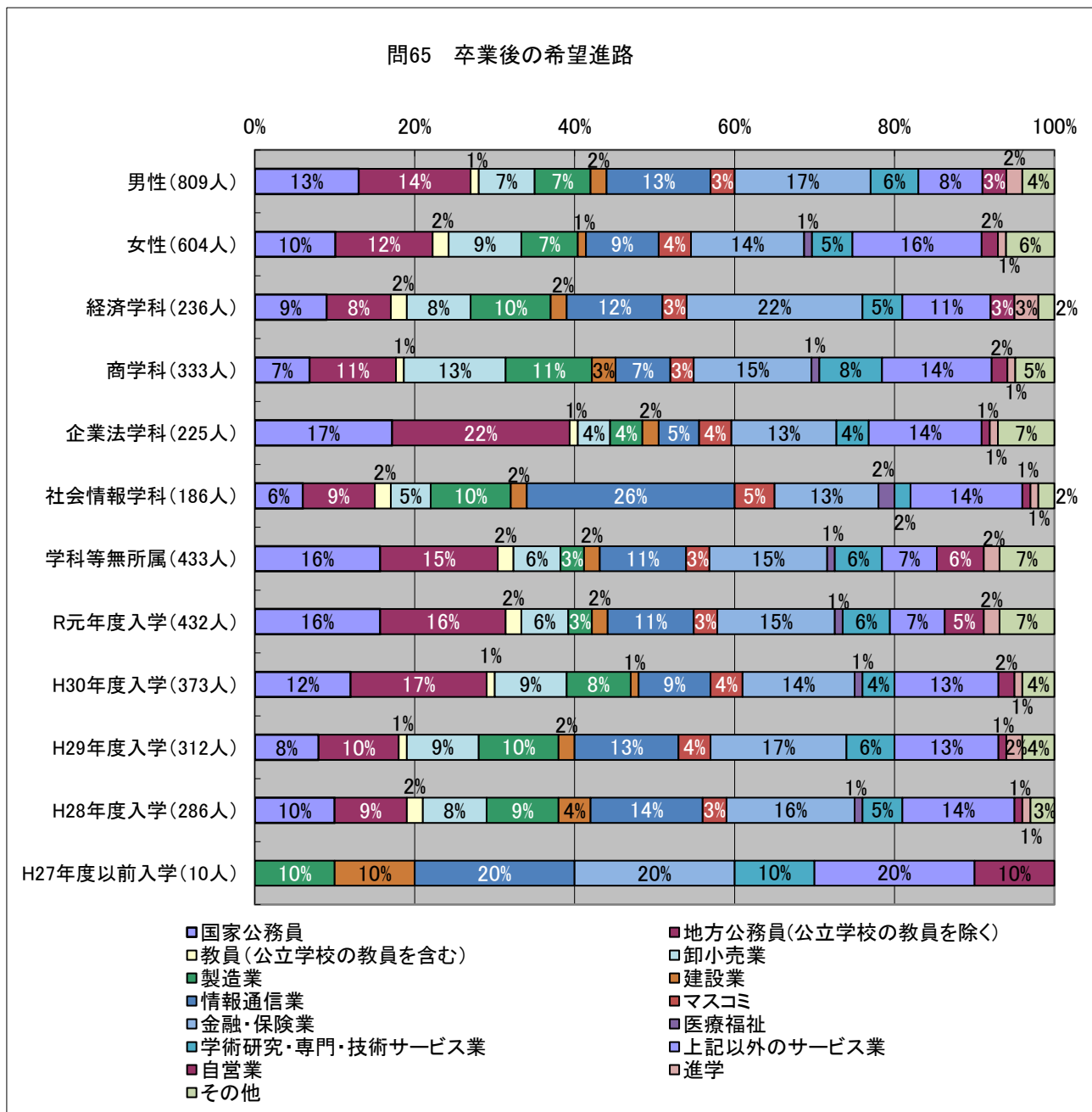


問 64 コメント

友人から聞いた人は4%と多くはなく、悪質商法についてはあまり友人に相談をしやすい問題ではないものと思われる。消費者心理を突いた巧妙な手口で勧誘してくる悪質商法について、正しい知識を常に更新して被害の防止に努めてもらいたい。

1 3 卒業後の進路について

問 65 卒業後の進路をどのように考えていますか。あるいはどこに決まりましたか。（決まっていないときは第一志望）

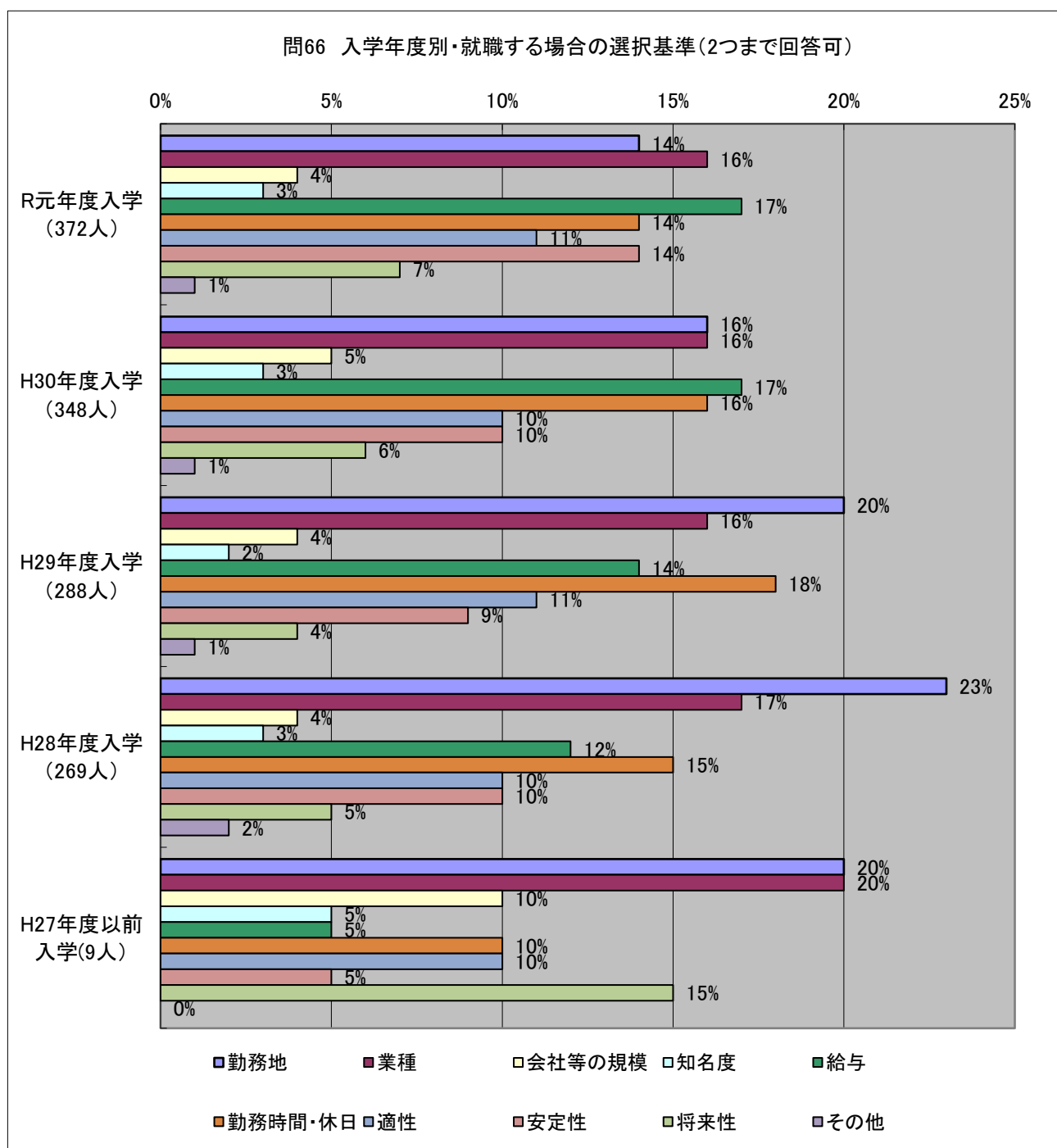


問 65 コメント

卒業後の希望進路については学科ごとの特徴が表れている。経済学科と商学科で最も多いのは「金融・保険業」、企業法学科では「地方公務員（公立学校の教員を除く）」、社会情報学科では「情報通信業」であった。希望進路を踏まえて学科を選択しているというケースと、学科に所属したのちに同じ学科の友人や教員の影響を受けて進路に影響を及ぼしたケースが想定される。

学年との関連では、1、2年次から3年次への公務員志望の減少が確認される。公務員を第一志望とする場合、後に見るように早い時期から準備を始める学生が多いため、本調査の調査時期（10月-11月）までに、一定割合の3年次生が公務員受験から民間企業に切り替えていることがうかがえる。

問 66 就職する場合に何を基準に考えますか。あるいは考えましたか。（2つまで回答可）

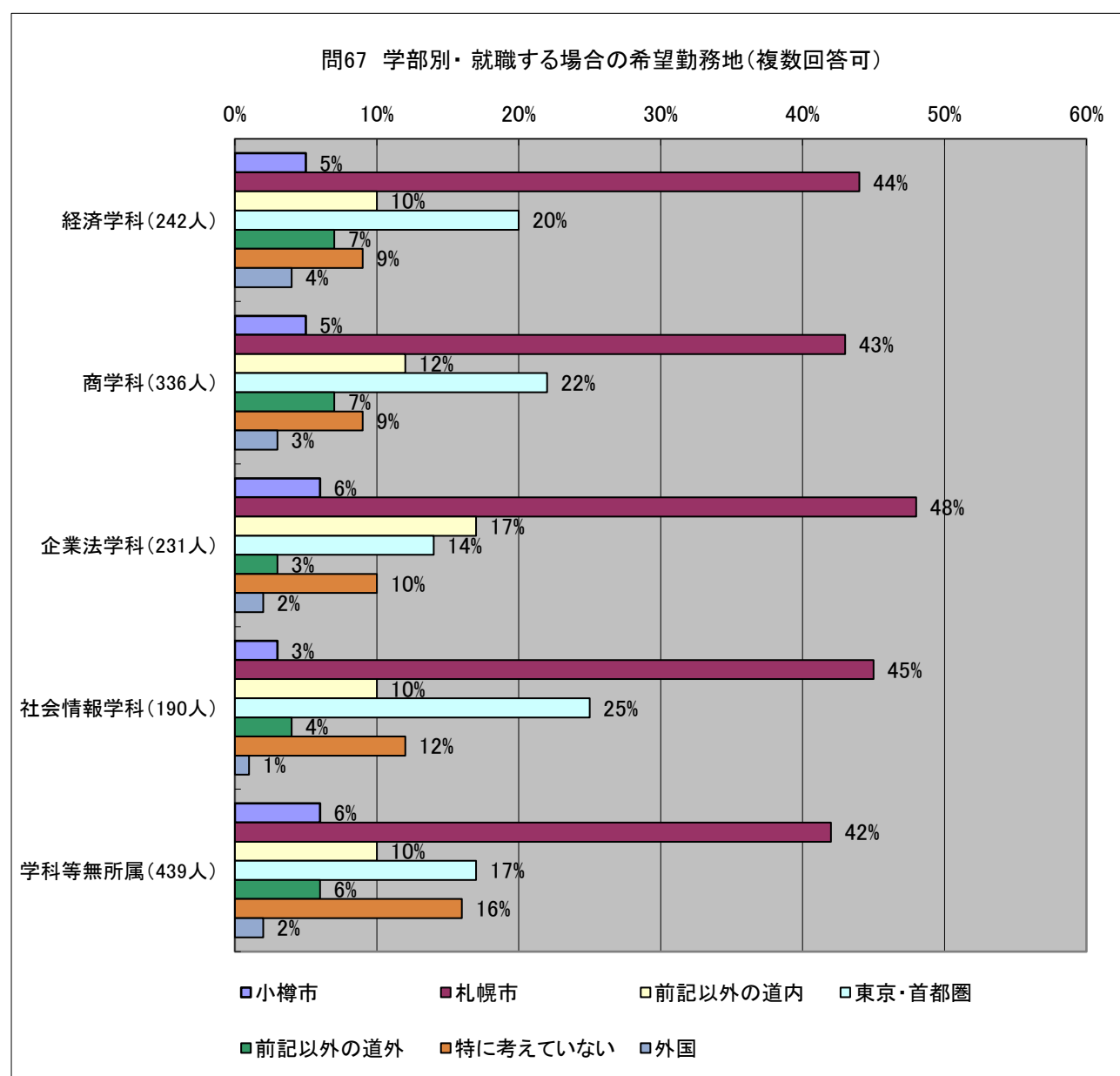
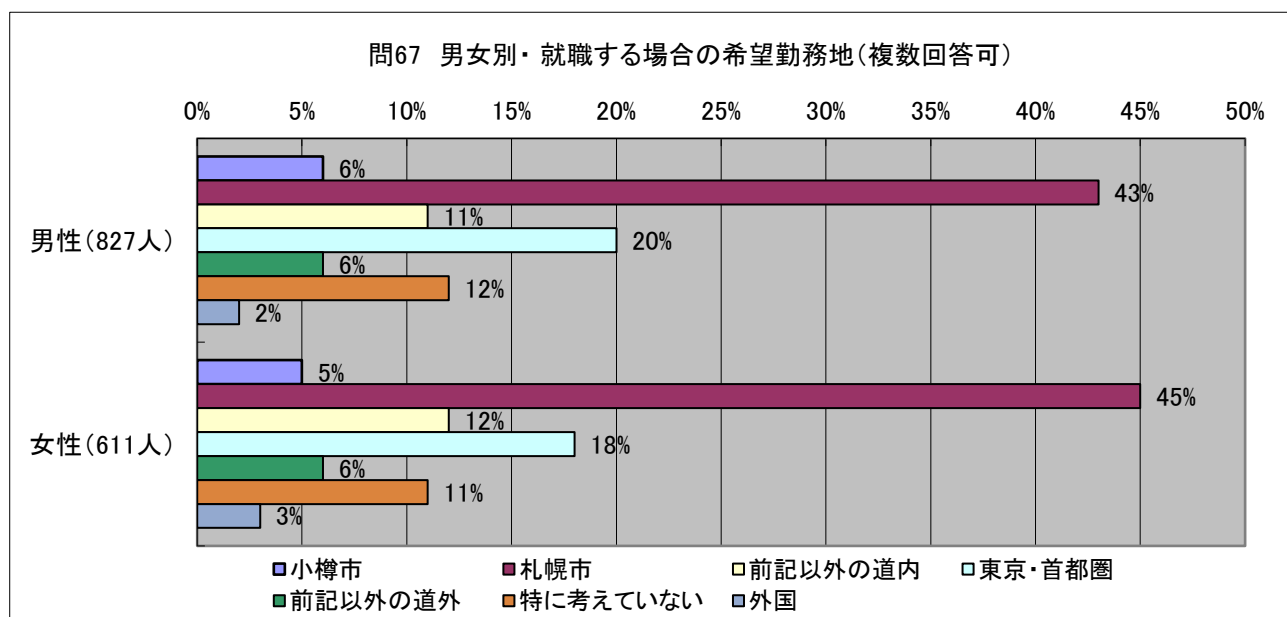


問 66 コメント

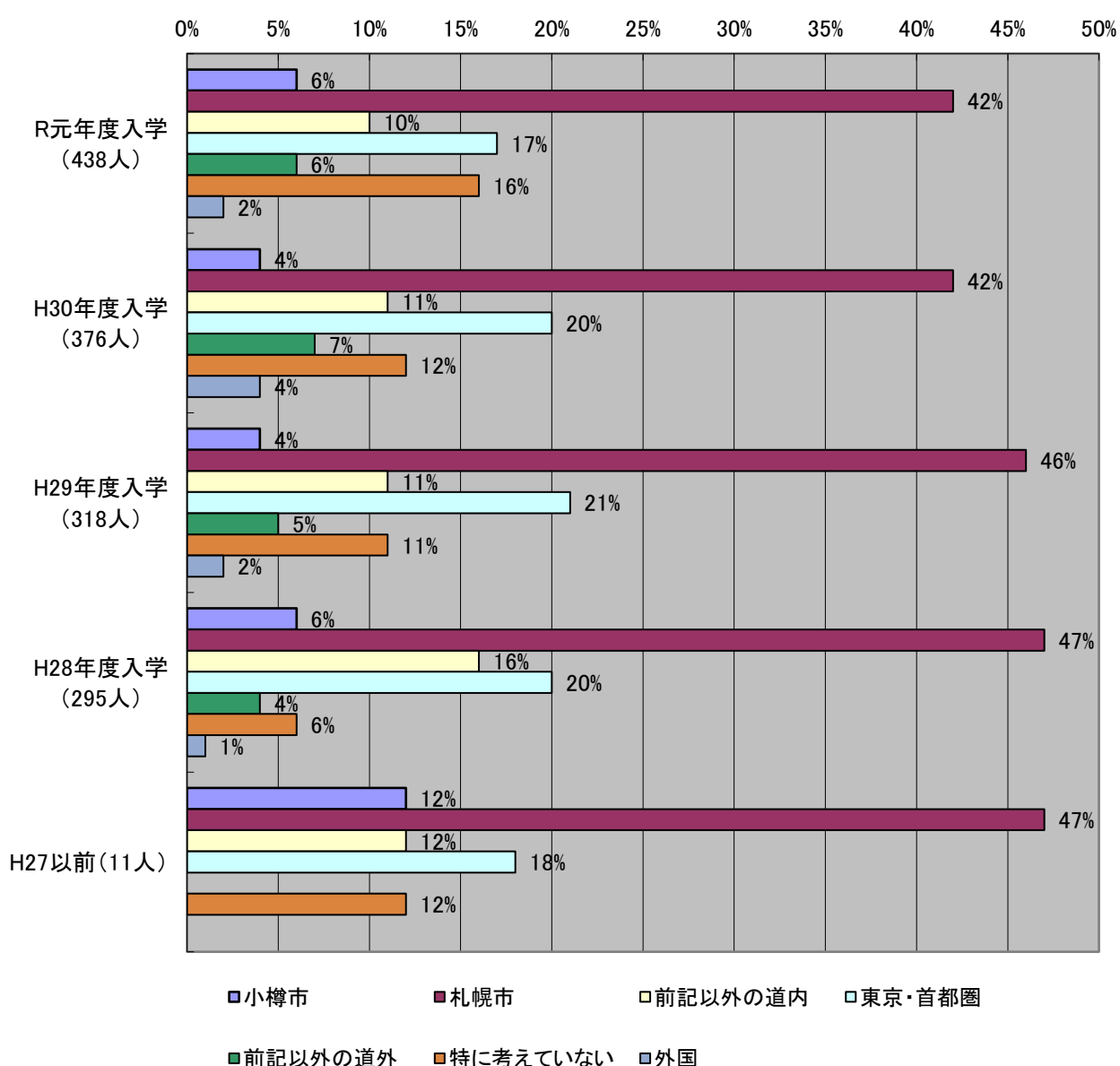
就職する場合の選択基準について、男性では「勤務地」が最も多く、次に「業種」と「給与」が続き、女性では「勤務地」が最も多く、次に「業種」と「勤務時間・休日」が続いていた。学生別にみると、1年次から3年次にかけて「勤務地」の選択率が上昇しており、また、「業種」の選択率は一貫して高い。他方、「給与」の選択率は学年の上昇と共に低下する傾向がみられる。

この設問が複数回答であることを踏まえると、1・2年次では業種と給与をセットにしてとらえているのに対し、3年次以降は、より具体的に、勤務地と業種を組み合わせる（札幌勤務か/札幌以外勤務か × 公務員か/民間か）ように移行していることが推測される。

問 67 就職する場合に勤務地はどこを希望しますか。（複数回答可）



問67 入学年度別・就職する場合の希望勤務地(複数回答可)

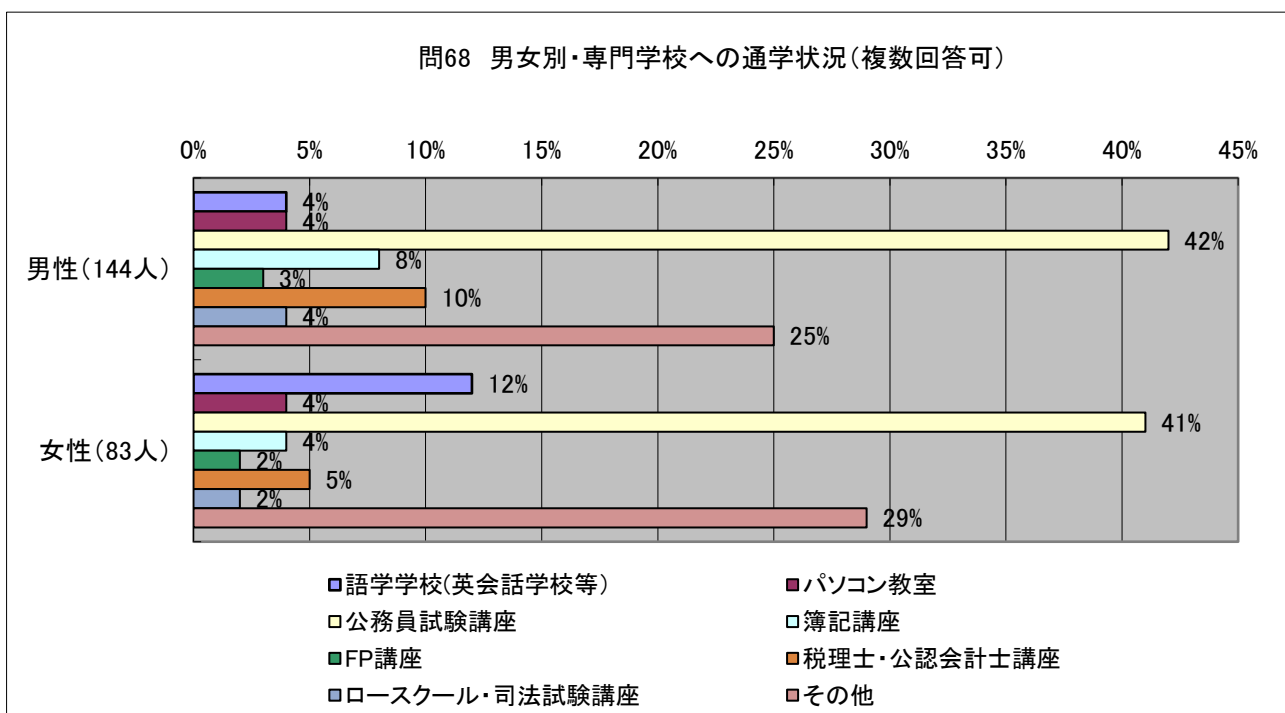
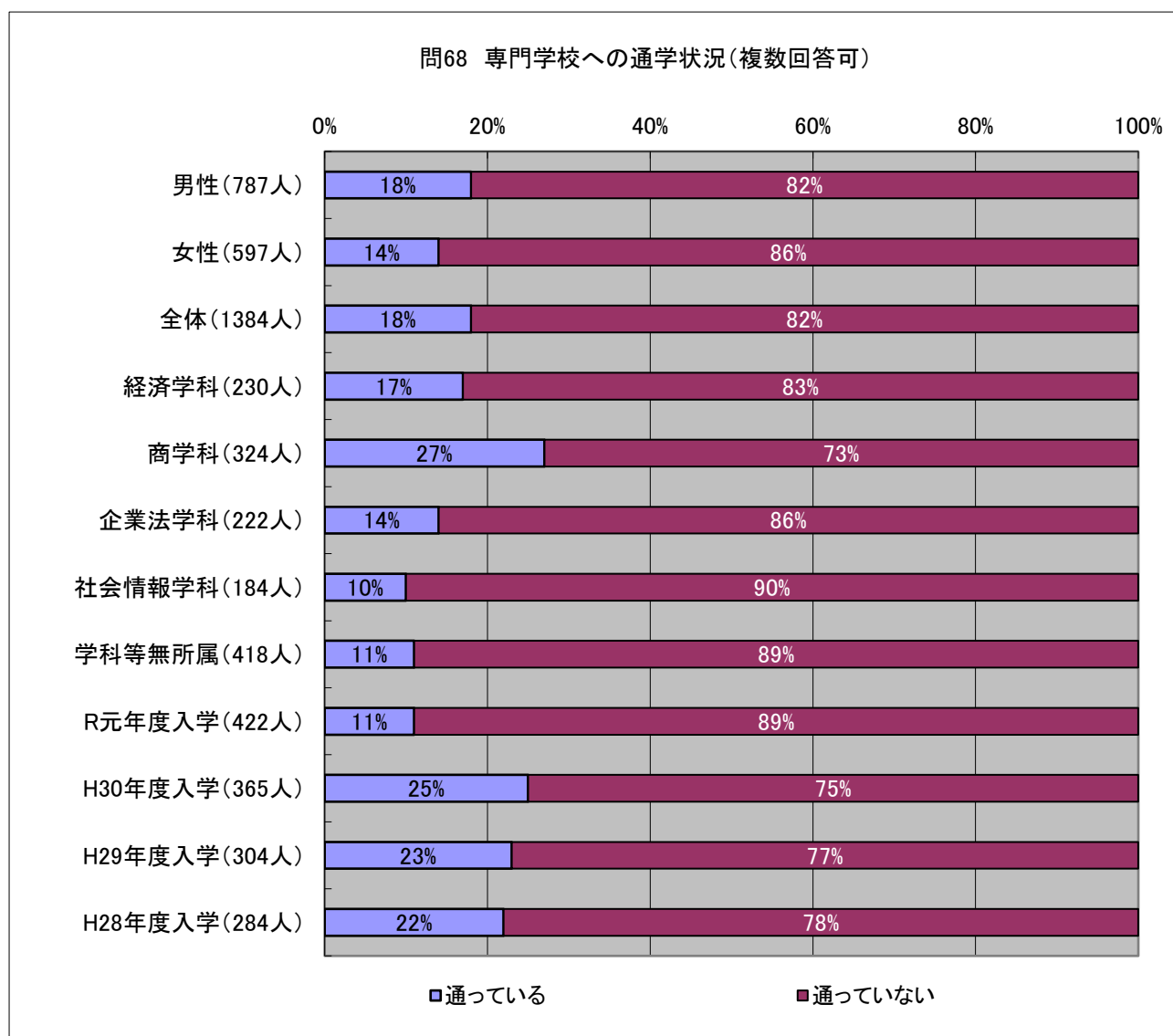


問 67 コメント

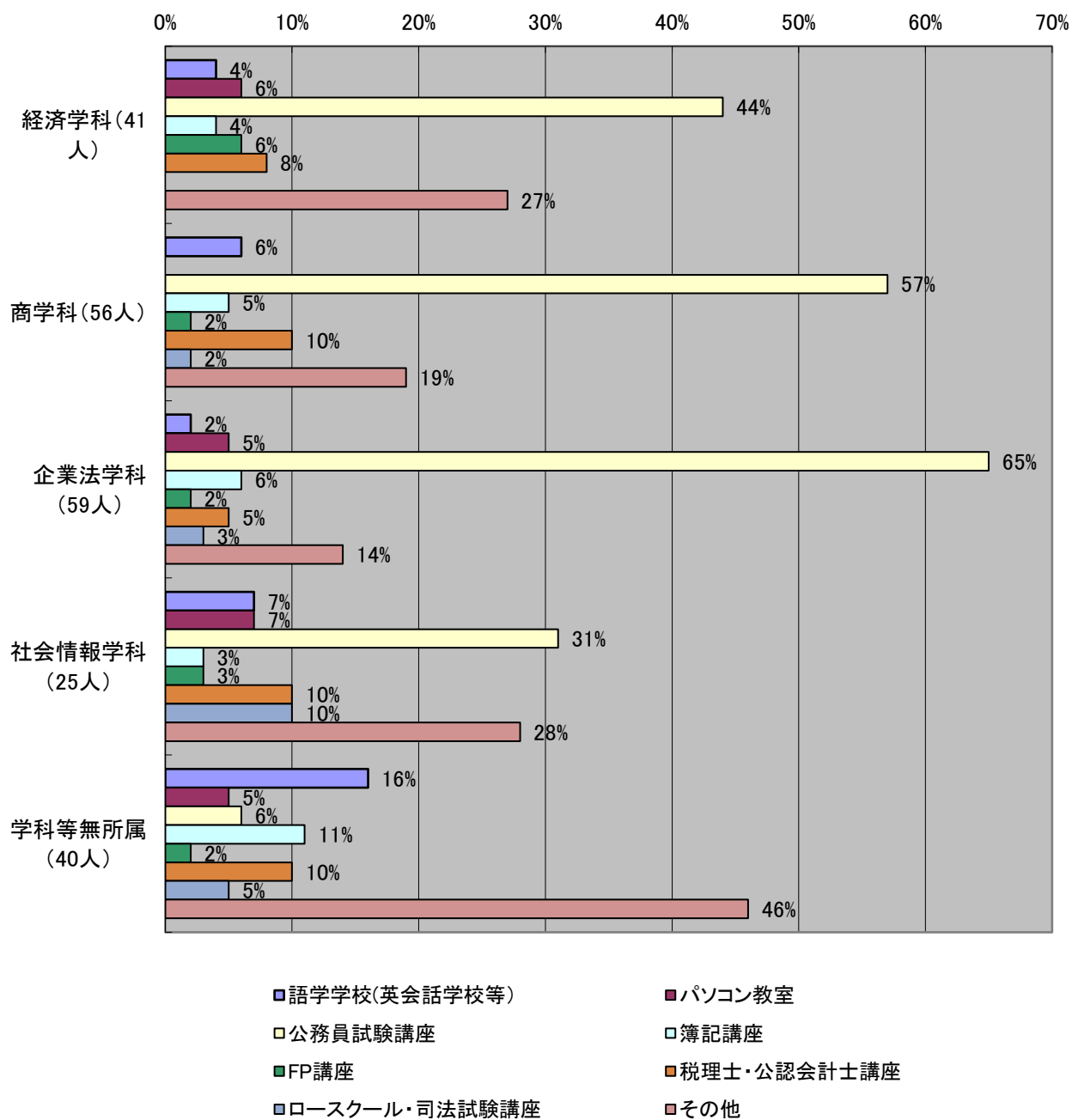
希望勤務地については男女差がなく、最も多いのが「札幌市」であり、選択率は4割を超え、次の「東京・首都圏」の選択率は半分程度であった。学年・学科による差もほとんどない。なお、企業法学科所属や3年次の学生において「前記以外の道内」の選択率が上昇しているのは、北海道内の公務員を希望している学生の多さを反映しているものと推測される。

こうした傾向は以前の調査と共通のものであり、本学の学生が卒業後の進路を考える場合に「札幌か、それとも東京・関東圏か」という軸が大きな意味を持つことが示唆される。もともと札幌在住であって、最終的に就職先も札幌市を希望するという学生が多く存在していることが予測されるが、彼らがいろいろな可能性を検討したうえでそのような結論にたどりついたのか、それとも当初の考えを深く検討することなく決定しているのかという意思決定のプロセスについては、本調査だけでは判断できない。ただ、後者のようなケースが多いようであれば、キャリア教育を通して、彼らの視野をより広げることを目指す必要があるであろう。

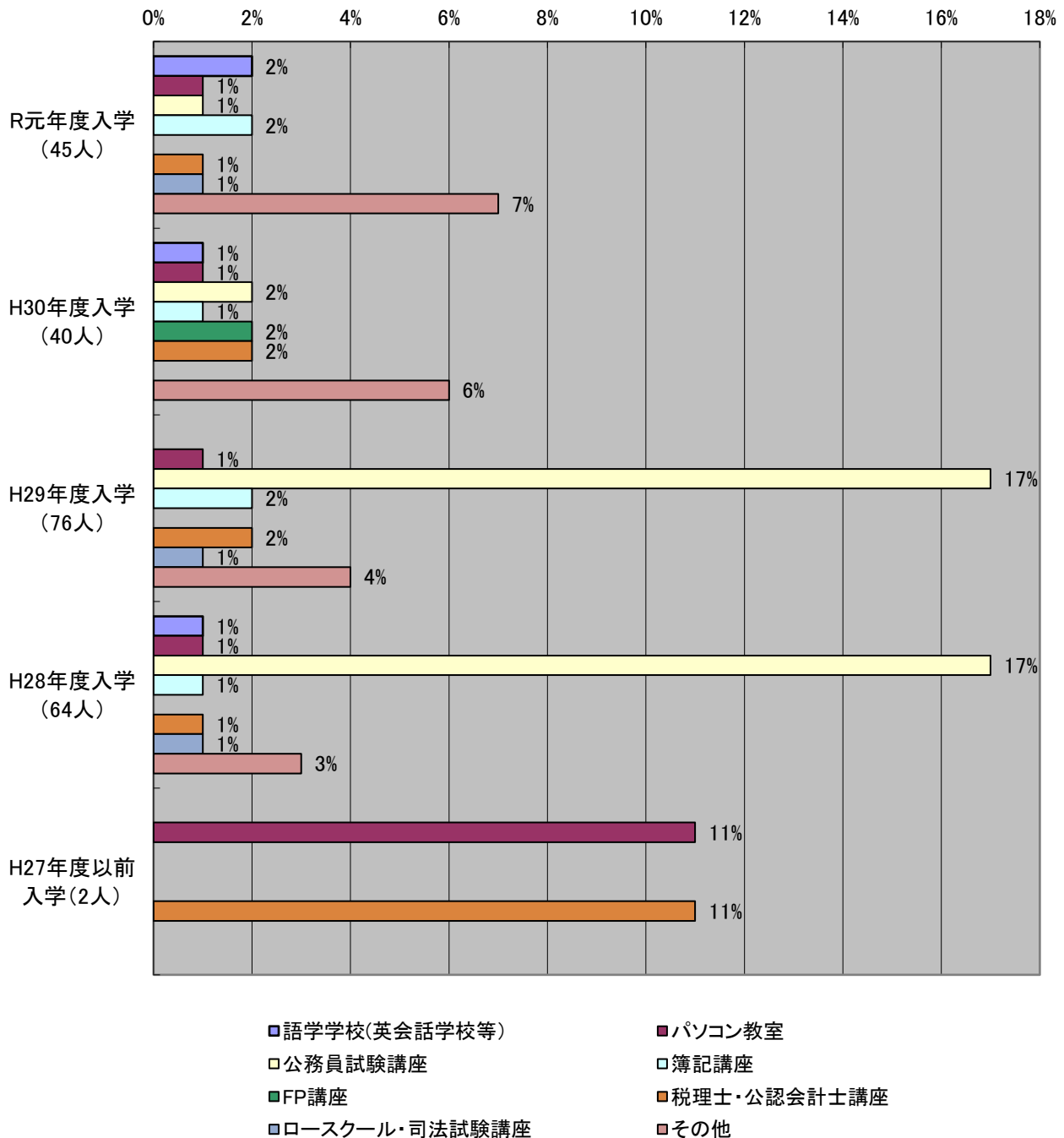
問 68 将来の就職のために、各種専門学校等に通っていますか。あるいは通っていましたか。（DVD、Web による通信教育を含む）（複数回答可）



問68 学科別・専門学校への通学状況(複数回答可)



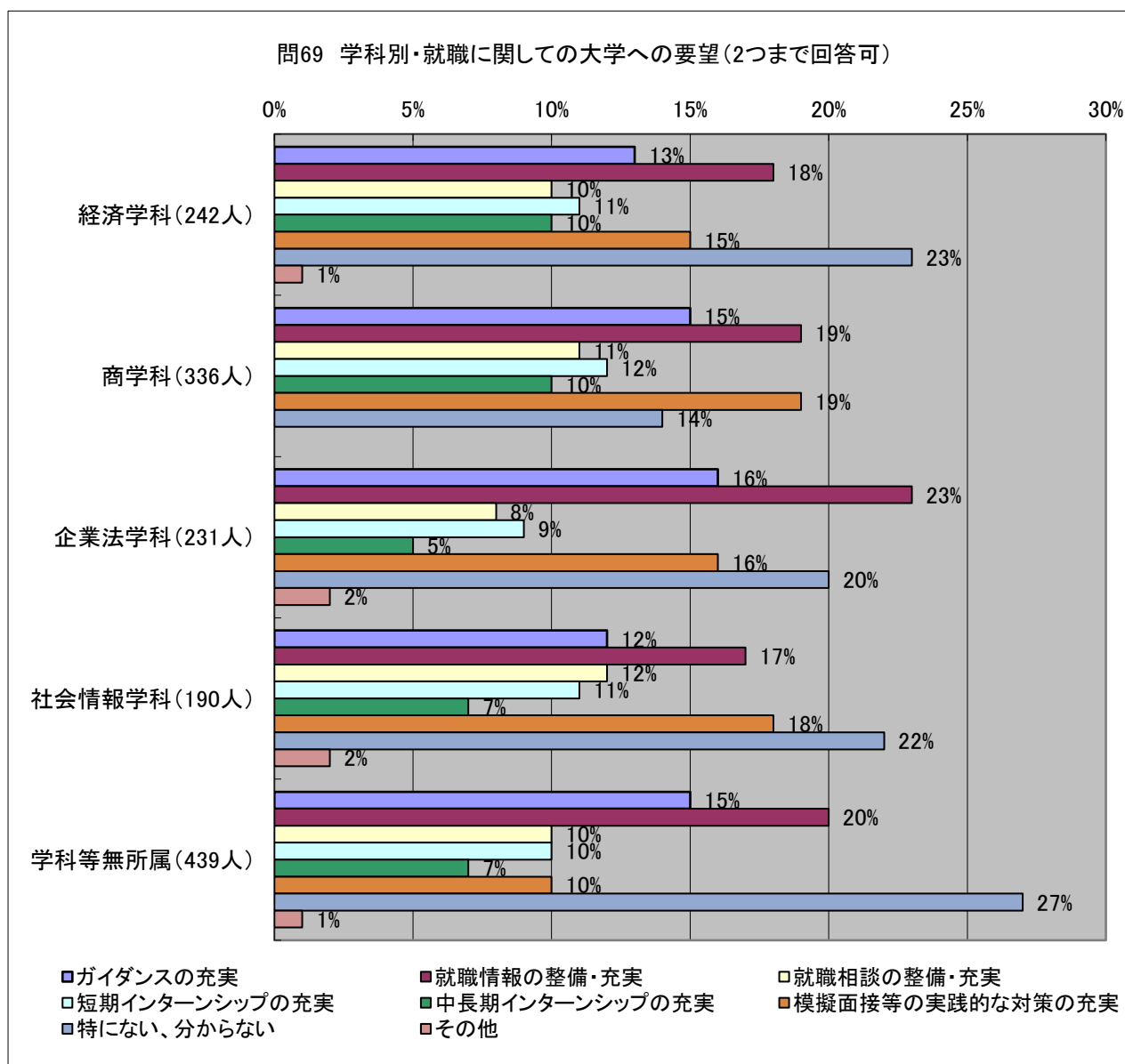
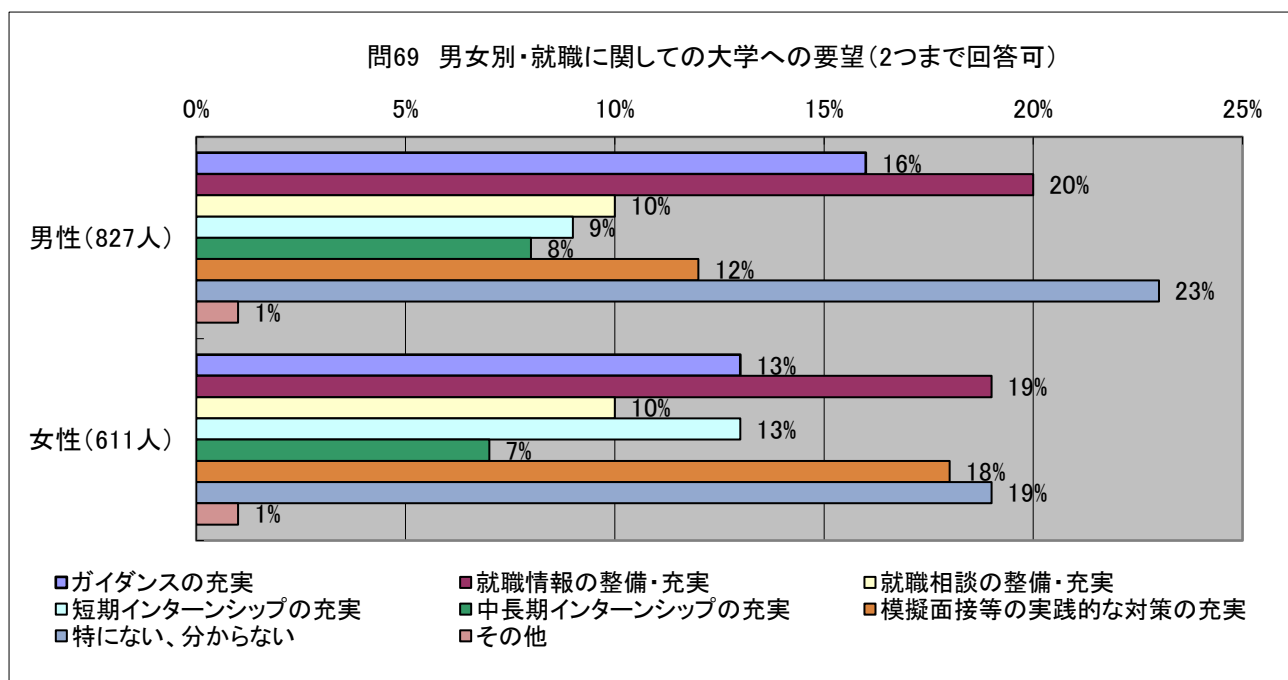
問68 専門学校への通学状況(複数回答可)



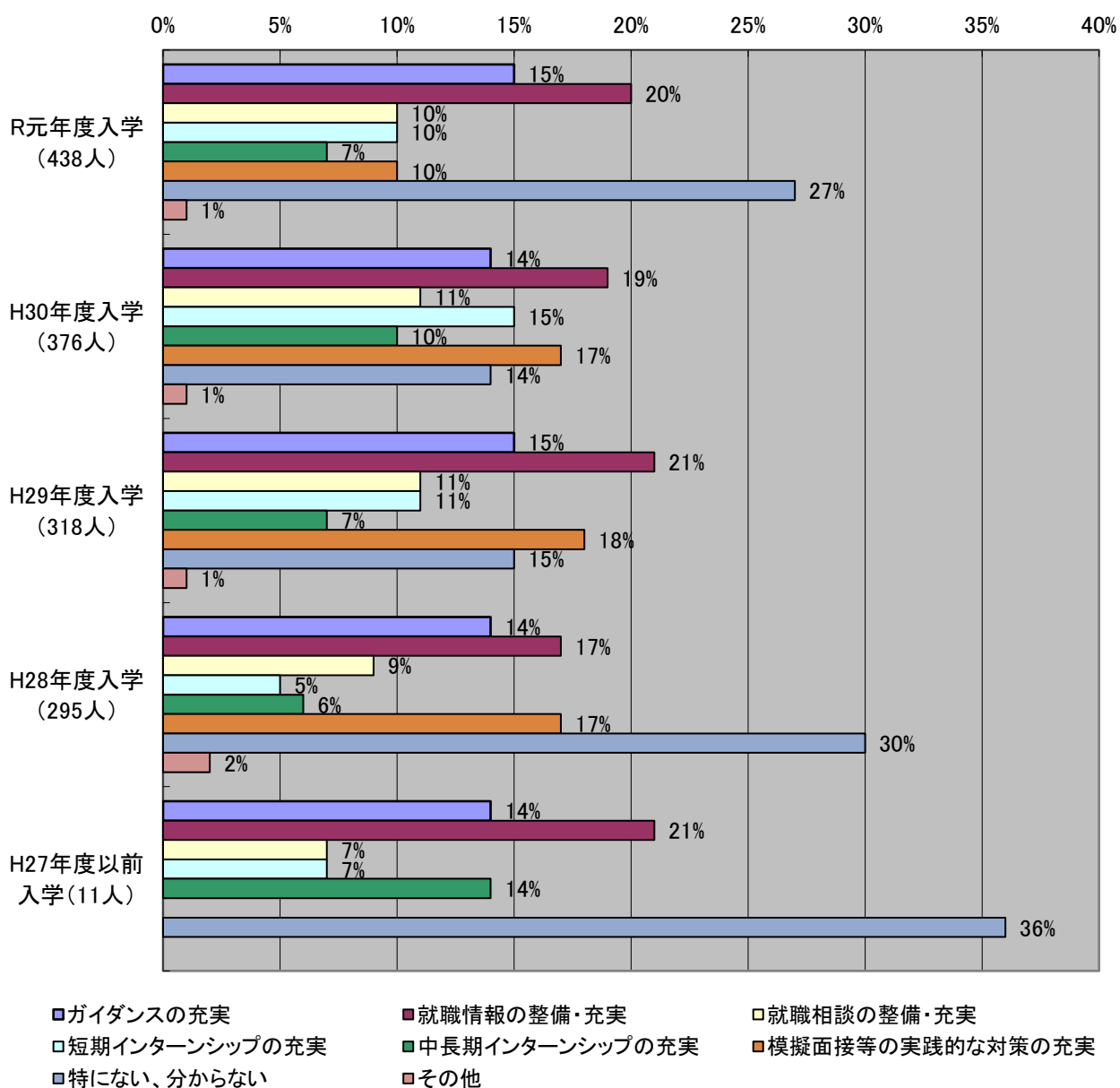
問 68 コメント

全体で約2割の学生が就職のために各種専門学校等に通っていることが確認された。学校の種類については「公務員試験講座」が最も多く、3年次生から通学を開始する学生が多いことが読み取れる。なお、「その他」のカテゴリーを回答している学生も多い。これについては、エアラインスクール、ブライダルプランナー教室等、特定の職業と結びついた学校があげられていた。

問 69 本学の就職支援に関して、どのような要望がありますか。（2 つまで回答可）



問69 入学年度別・就職に関しての大学への要望(2つまで回答可)



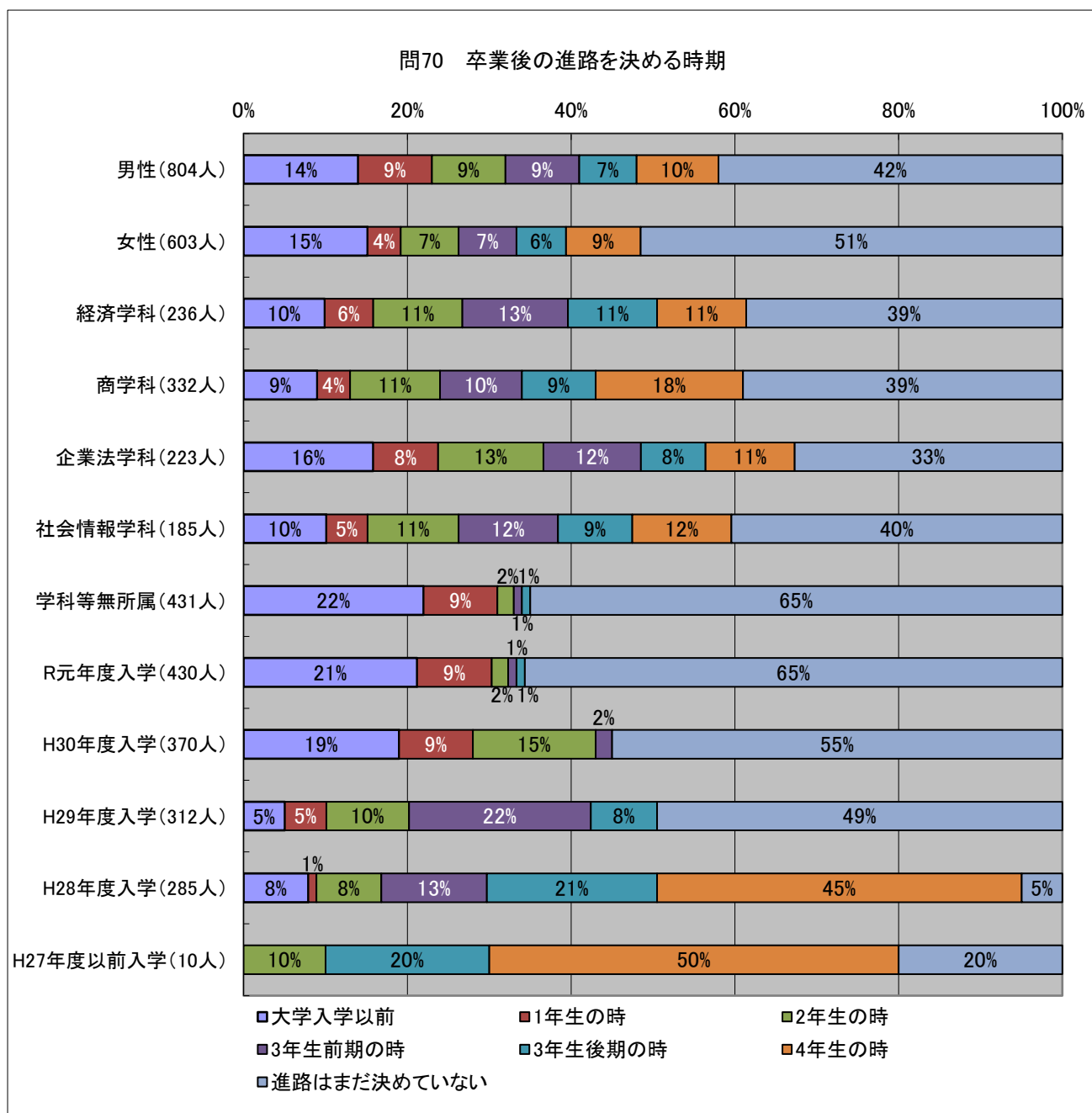
問 69 コメント

本学の就職支援について尋ねた問 69 については、男女差、学科の違い、学年差はほとんど見られず、大学への要望としては「特にない、わからない」「就職情報の整備・充実」「ガイダンスの充実」「模擬面接等の実践的な対策の充実」の選択率が高かった。

なお、インターンシップの充実についての要望が低い選択率にとどまっているのは、就職活動におけるインターンシップの位置づけの変化、すなわち、大学で運営するインターンシップよりも企業側で就職活動の一環として実施される短期インターンシップの方が主流となっていることと関連していると推測される。

全体的に、例年に比べると大学への要望はそれほど強いものではなくなっている。これは現在の売り手市場という状況下における、学生側の就職活動への不安の低さと関連していると考えられる。

問 70 卒業後の進路を決めたのはいつですか。

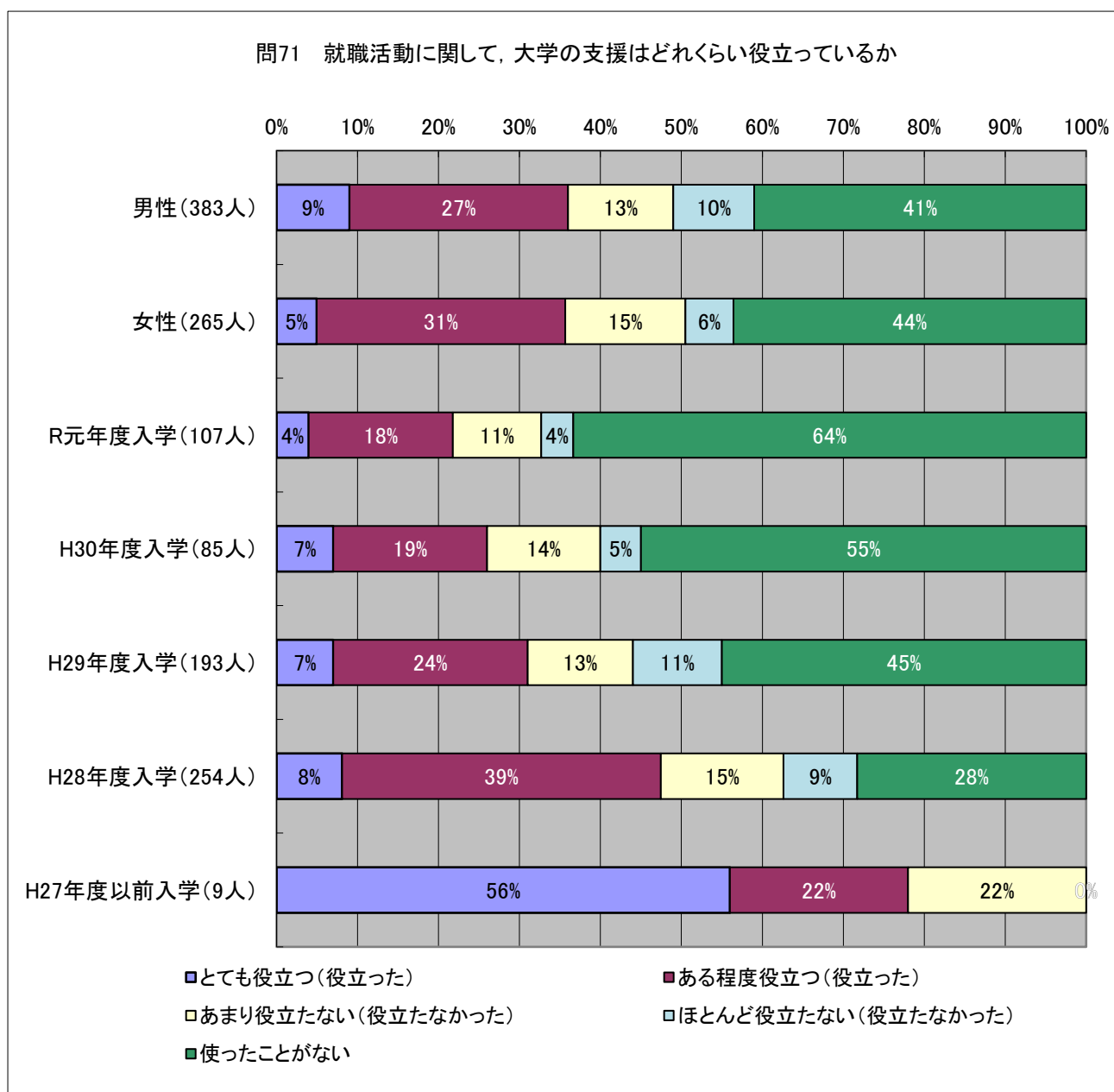


問 70 コメント

卒業後の進路を決める時期について、就職活動を経験した H27 年度以前入学者(主に 4 年次生)のグラフを見ると「4 年生の時」が最も多く、「3 年生後期」「3 年生前期」の順になっている。事前に進路を定めてそれに向けて就職活動を開始するということではなく、だいたいの方向性のみを決めておいて複数の就職先に応募し、就職試験や面接を受けるなかで最終決定(どの企業にするか、どの役所・官庁枠にするか)を行う、という現在の学生における就職スタイルが推測される。

他方、企業法学科の学生では「大学入学以前」という回答が他学科に比して高いが、これには公務員志望の学生の割合が多いことが予想される。公務員になることを目指して商大に入学し、公務員試験に有利とされる企業法学科に進むというルートが存在が示唆される。

問 71 就職活動に関して、大学の支援はどのくらい役に立っていますか。あるいは役立ちましたか。



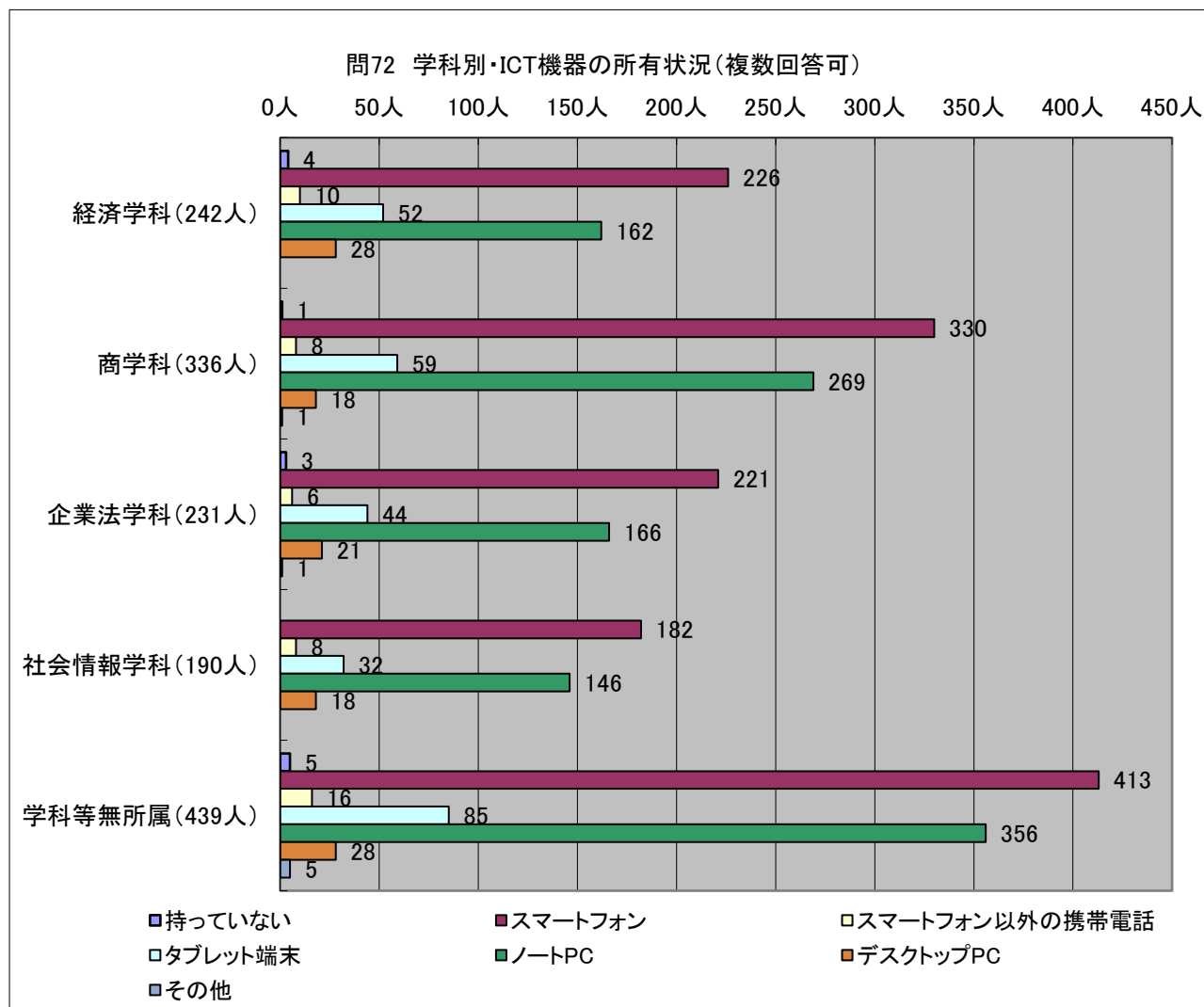
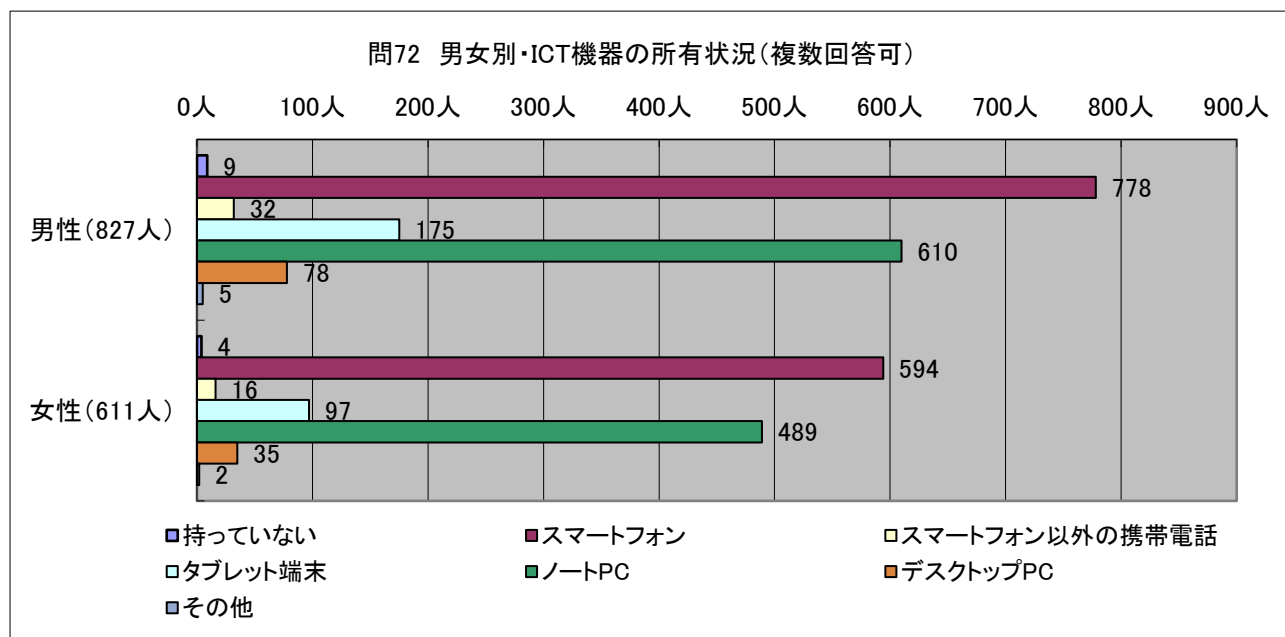
問 71 コメント

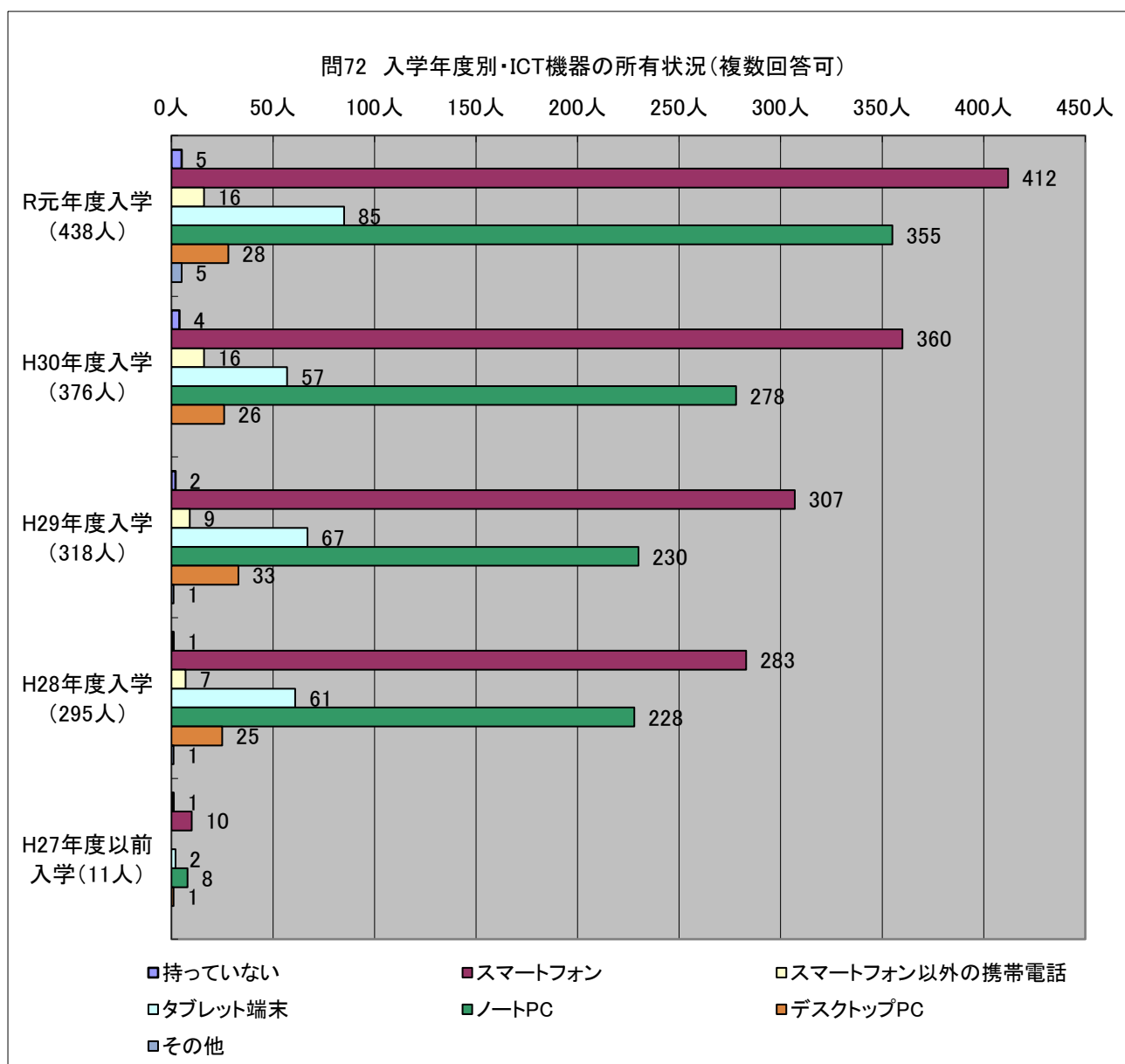
当然であるが、学年が上がるとともに「使ったことがない」割合が減少し、H23年度入学者（主に4年次生）では、30%以下となっている。その他では「ある程度役立つ（役立った）」とする回答の割合が多く、一定の満足が得られていることがうかがえる。

学生の側では就職支援は3年次以降のものと考えているかもしれないが、本学では1・2年次に向けた情報提供や公務員説明会等も開催している。こうした情報をさらに発信し、1・2年次の利用者を増加させることも必要であろう。

14 その他

問72 あなたが（個人で）所有している ICT 機器について、あてはまるものをすべて選んでください。
（複数回答可）



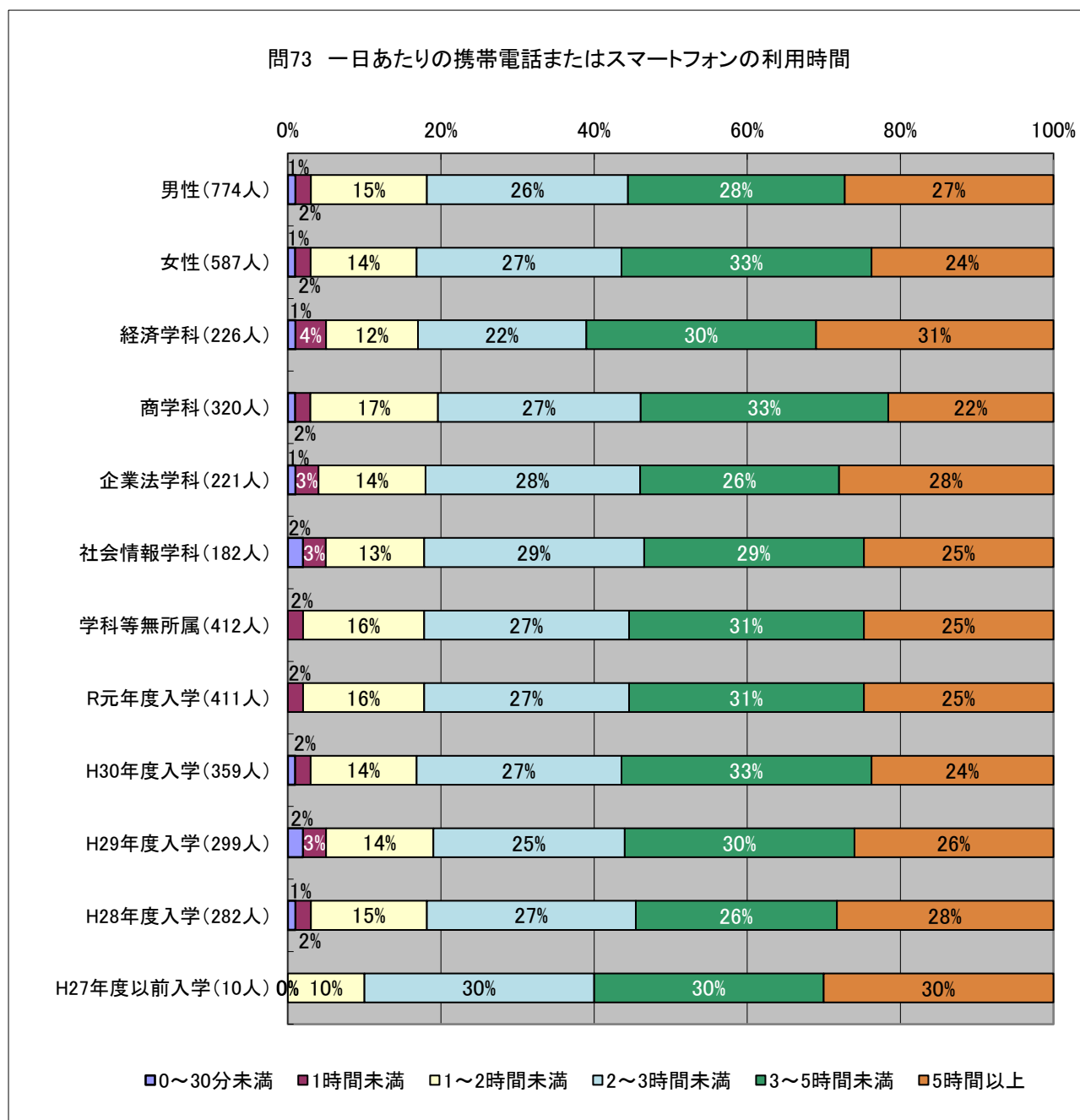


問 72 コメント

男女別では、男性の94% (778人) が「スマートフォン」、74% (610人) が「ノート PC」、21% (175人) が「タブレット端末」を、女性の97% (610人) が「スマートフォン」、80% (489人) が「ノート PC」、16% (87人) が「タブレット端末」を所有している。前回同様、スマートフォンを所有していない学生が5%程度は存在している事実がうかがえ、これを活用した講義では一定の配慮が必要な状況が続いている。

また、入学年度別の推移を見比べると、令和元年度はノート PC の所有率が81%と他の入学年度のH30年度74%、H29年度72%、H28年度77%に比べ高くなっている。前回は、学年が上がるにつれてノート PC の必要性を実感している可能性が示唆されていたが、今回の調査では全く異なる結果が得られた。

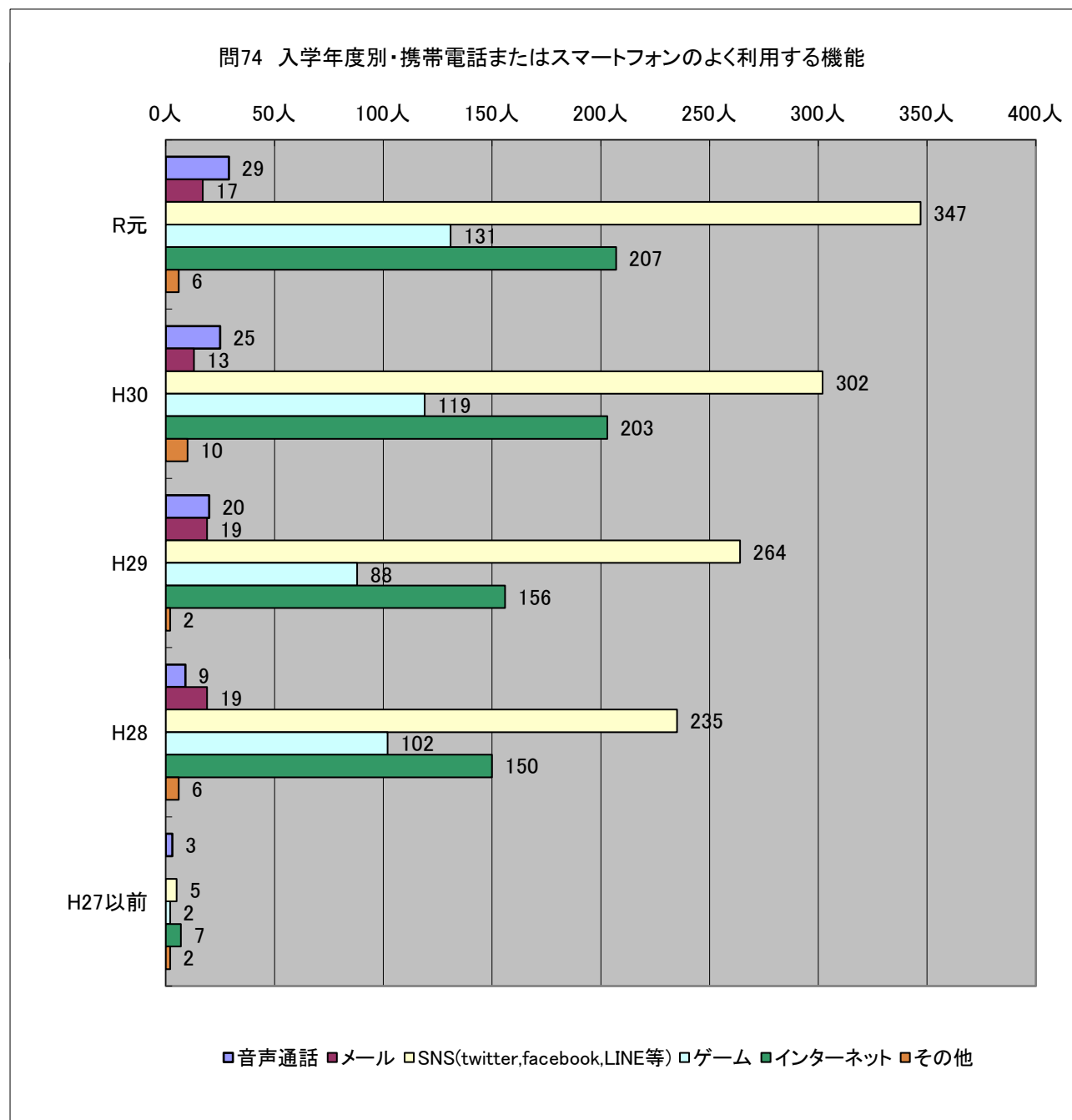
問 73 一日当たりの携帯電話またはスマートフォンの利用時間はどのくらいですか。



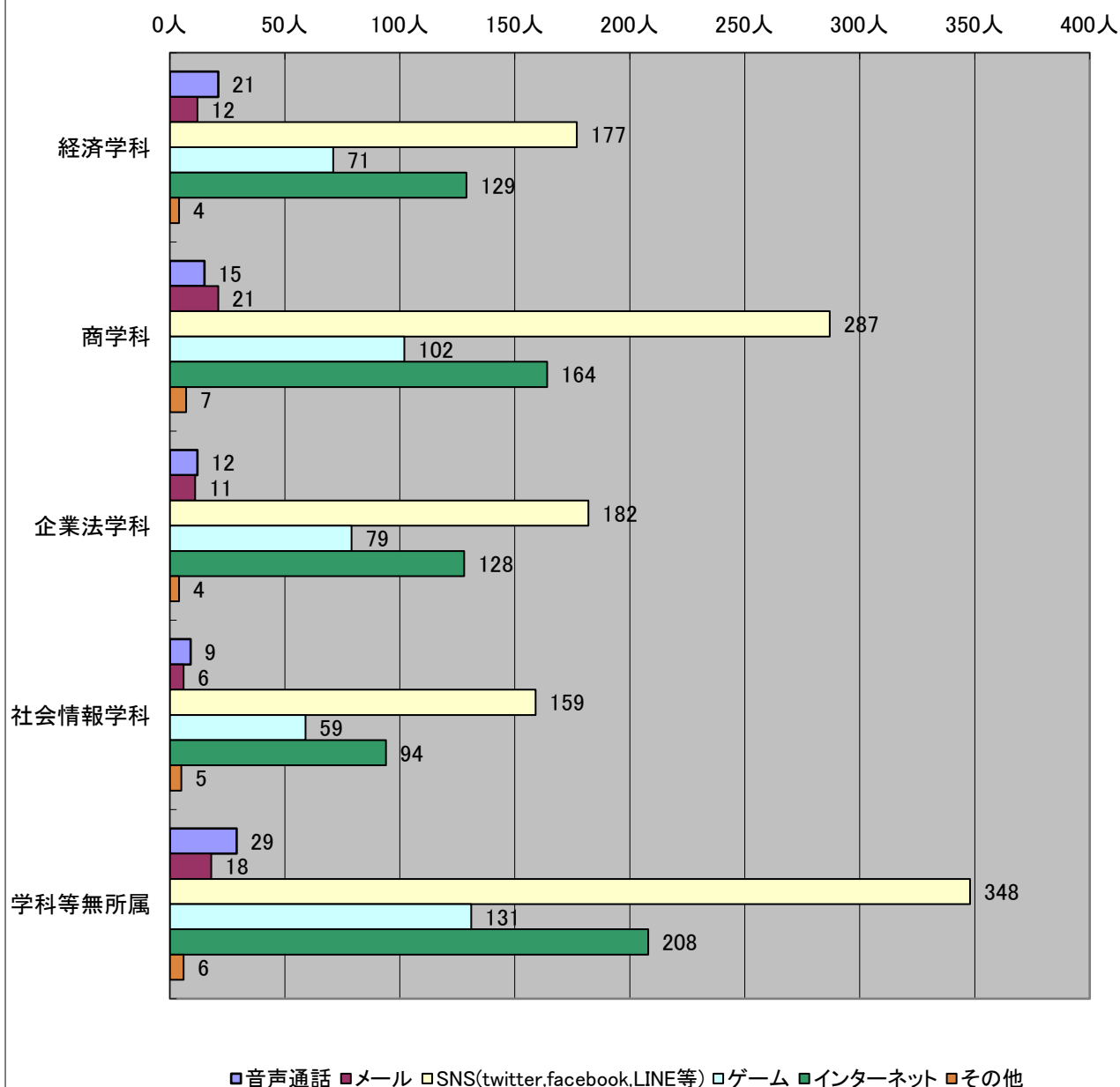
問 73 コメント

前回の調査までは「2～3 時間未満」の次は「3 時間以上」で一括りにしてあったが、今回の調査からは新たに「5 時間以上」という設問を設けた。その結果、男性で 27%、女性で 24%が一日あたり 5 時間以上、携帯電話またはスマートフォンを活用している状況が判明した。前回の調査と比較するため「3～5 時間未満」と「5 時間以上」を合算して割合を求めた場合、男性で 55%、女性で 57%が 3 時間以上利用しており、前回の調査（男性：43%、女性：52%）を上回るものになった。その要因については、次の問いで考察する。

問 74 携帯電話またはスマートフォンの機能であなたがよく利用する機能はなんですか。（二つまで回答可）



問74 学科別・携帯電話またはスマートフォンのよく利用する機能

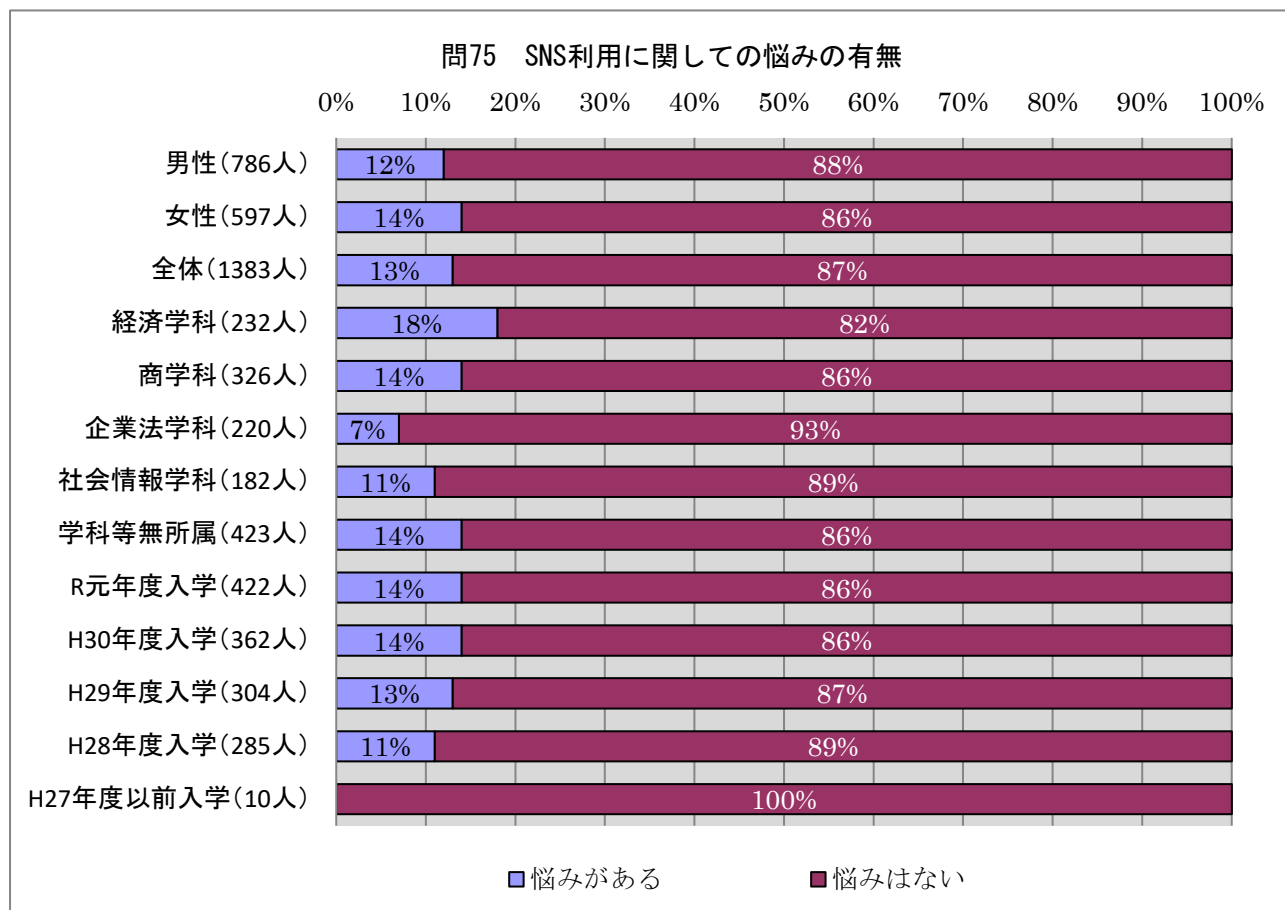
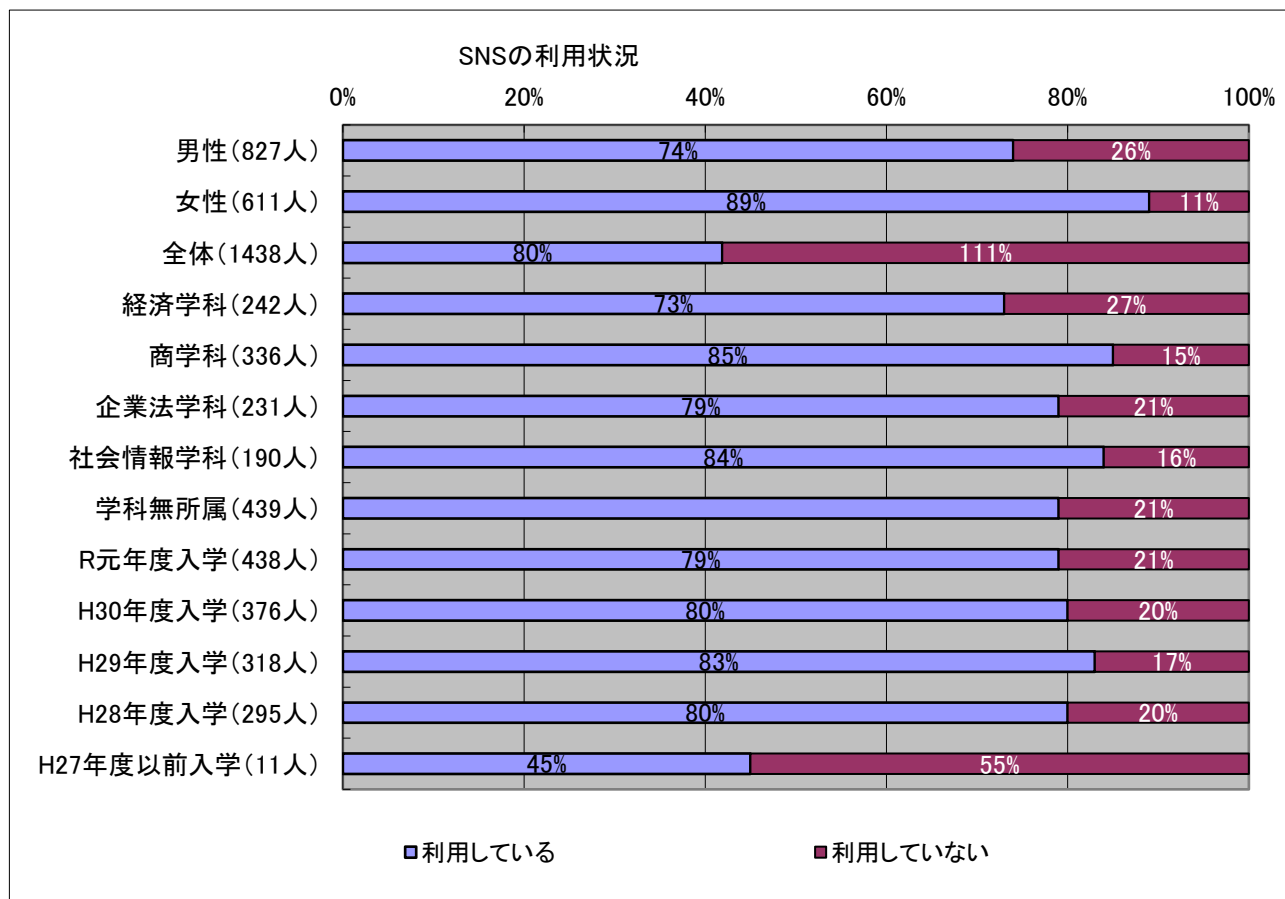


問74 コメント

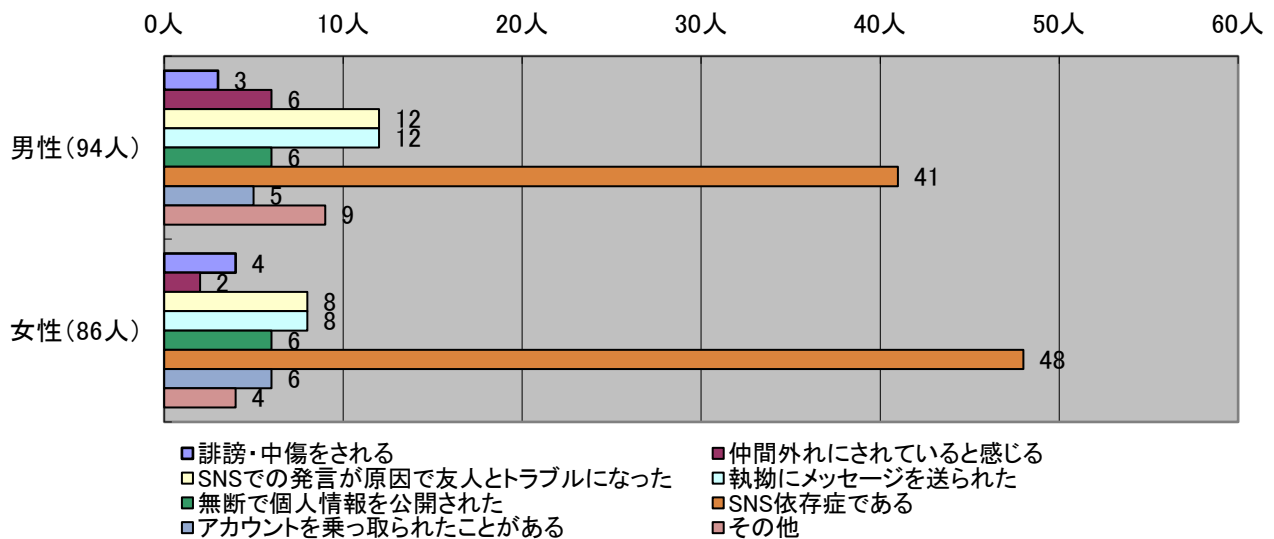
男女別では、男性も女性もそれぞれの順位は同様で、「SNS (twitter, facebook, LINE 等)」が1位、「インターネット」が2位、「ゲーム」が3位である。「SNS (twitter, facebook, LINE 等)」については、男性の71%が、女性の86%が最もよく利用する機能であると答えている。1日あたりの携帯電話またはスマートフォンを活用時間の増加については、後述するSNSの活用に加え、近年はYouTubeやNetflixなどの動画配信サービスの視聴がそれを押し上げていると考えられる。

問 75 SNS (twitter, facebook, LINE 等) の利用に関して悩んでいることはありますか。

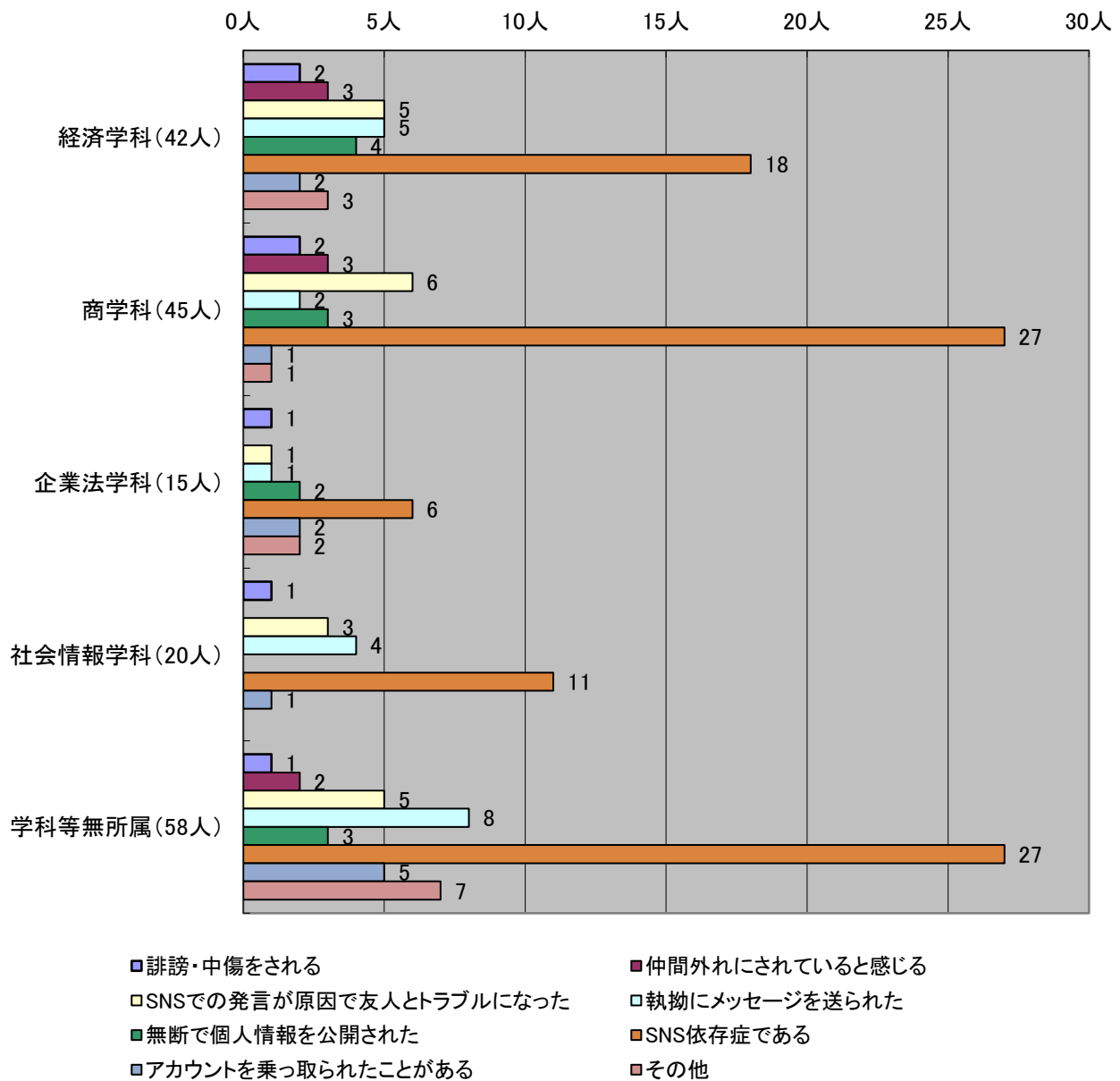
(2 つまで回答可)



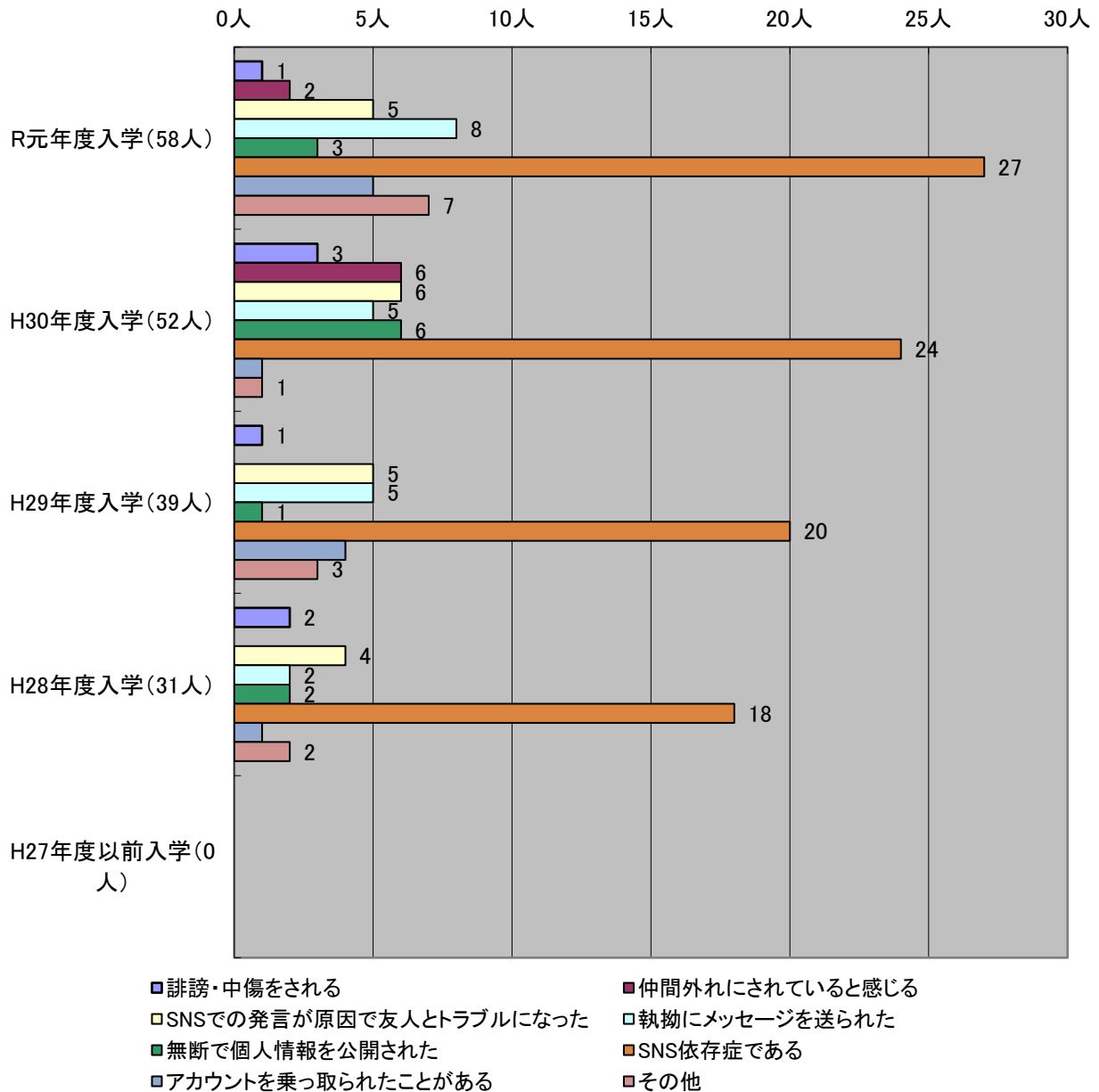
問75 男女別・SNSの利用の悩みの内訳



問75 学科別・SNSの利用の悩みの内訳



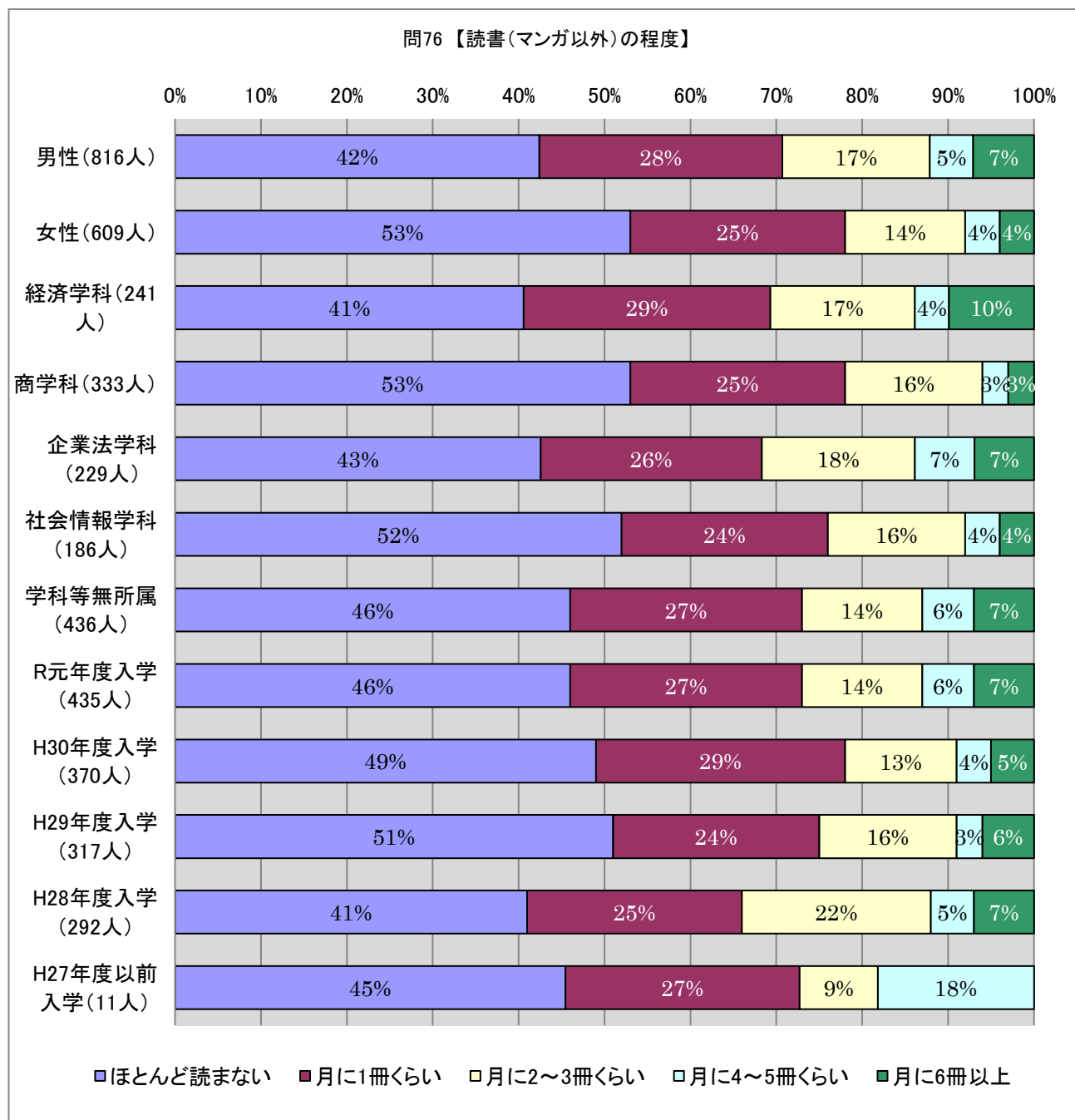
問75 入学年度別・SNSの利用の悩みの内訳



問 75 コメント

SNS (twitter, facebook, LINE 等) の利用に関する悩みについては、男性の 12%, 女性の 14%, 全体で 13% の学生があると回答しており、前回調査 (男性 : 7%, 女性 : 9%, 全体 8%) と増加していることが分かる。SNS 利用の悩みについては、悩みがある男性、女性ともに 1 位は「SNS 依存症である」であるが、いずれも件数は低いものの「誹謗中傷される」、「仲間外れにされていると感じる」、「SNS での発言が原因で友人とトラブルになった」、「執拗にメッセージを送られた」、「無断で個人情報を公開された」、「アカウントを乗っ取られたことがある」への回答も存在する。メディア、情報リテラシーに関する教育の必要性は依然として高いものと思われる。

問 76 あなたは普段、どの程度本（マンガや雑誌を除く）を読んでいますか。



問 76 コメント

前回同様、本学の学生のうち、半数弱がほとんど書籍を読んでいないことが判明した。一方、月に6冊以上読む「多読学生」の割合は1.5倍程度に増加している（前回も今回も、多読学生が一番多かった学科は経済学科だった）。全国大学生生活協同組合連合会による最新の「学生生活実態調査」においても、1日の読書時間を0分、即ち「本をほとんど読まない」と答えた学生が全体の48%に上っており、本学も同様の傾向を示していると考えられる。ただ、現代の情報収集において、書籍はその重要性を著しく減らしており、この回答結果からそのまま学生の知識量が低下しているとは結論できない。

Ⅲ 学生生活実態調査「自由意見」

【1】授業、成績に関すること

公認会計士や税理士の資格を取った場合の授業の単位認定をして頂きたいです。
自分の所属ゼミの先生が昼夜ゼミを開講することになったり、諸都合でゼミを開講できなくなった先生がいたり、教員の方々の負荷がすごいと感じています。
せっかくグローバルな商科大なので、語学や簿記の資格を必修単位または大きな単位の授業として組み込んでも良いのではと思います。卒業難度は格段に上がってしまいますが、「小樽商大の卒業生」をブランド化できるのではないのでしょうか?何も身についていないのに卒業する学生に疑問を抱いております。
お勤めをしながらの学生生活は、思うように講義を受講することも出来ず、早退しても、ぎりぎりの入室になり、また、冬期間は、交通機関の遅れにより、遅刻も有りうるため、先生がご理解をして下さる講義を受講させていただいております。

【2】施設、設備、環境に関すること

図書館早期開館
冬になるとゼミ室に虫が湧いてくるのですがどうにかなりませんか?
冬季は学内が寒すぎる。
無料シャトルバスが欲しい

【3】就職に関すること

少数派だとは思いますが、部活・サークル等の組織に所属していない人は就職関連の情報収集力が低いと思われますので、その人たちの為に、授業の前に就活ガイダンスのチラシを配る等の対策をとると、より多くの学生が希望の進路に進める確率が高まると思いました。
--

【4】学生センターに関すること

掲示物に関して、喫煙場所の張り紙がいまだに貼られていたり、期限が過ぎた掲示物が貼られていることを多々見かけます。毎日更新されていく情報量が多いので、学生がより重要な情報を見逃すことを防ぐためにも、管理を徹底してほしいです。

【5】アンケートに関すること

授業アンケートとかも毎回やってるけど、反映されてないでしょ。反映したのならどこをどう何を受けて反映したのか説明して欲しい。

【6】その他

この大学は色々物足りないです。自分のせいとはいえ、入学して後悔する部分もあります。

留学の項目で、「すでに留学に行った」という項目がない

Ⅳ 資料 学生生活実態調査「アンケート用紙」

小樽商科大学学生生活実態調査票

1. 基本的事項

2. 入学の経緯等について

問 1	あなたが大学に進学しようと思ったのは、なぜですか。 (2つまで回答可)	(1) 教養や専門的知識を身につけるため (2) 大学卒の資格を取得するため (3) 将来の就職を考えて (4) すぐ社会に出たくなかったから (5) みんな進学する時代だから (6) 友人が欲しかったから (7) 親、親類、保護者に薦められたから (8) 教師に薦められたから (9) 特に理由はない (10) その他 ()	【 】 【 】
問 2	本学を最初に知ったのは、どこからの情報ですか。	(1) 教師から (2) 親・親類、保護者から (3) 先輩・友人から (4) インターネット (5) 受験雑誌 (6) 説明会 (7) 出前授業 (8) 新聞・テレビ (9) その他 ()	【 】
問 3	本学への入学を決めた主な動機は何ですか。 (複数回答可)	(1) 国立大学だから (2) 学費が安いから (3) 知名度が高いから (4) 自分の進みたい専攻分野があるから (5) 就職に有利だから (6) 高校の成績・大学入試センター試験の成績を考えて (7) 通学出来る範囲だから (8) 親、親類、保護者に薦められたから (9) 教師に薦められたから (10) 予備校で薦められたから (11) その他 ()	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
問 4	あなたにとって本学は何番目の志望順位でしたか。	(1) 第一志望 (2) 第二志望 (3) 第三志望以下	【 】

3. 家庭状況について

問 5～6 は、社会人学生の方は回答不要です。			
問 5	主たる家計支持者の住居はどこですか。	(1) 小樽市 (2) 札幌市 (3) 前記以外の北海道 (4) 道外 (都府県) (5) 国外	【 】
問 6	主たる家計支持者の職業は何ですか。	(1) 会社員 (2) 国・地方公務員 (3) 団体職員 (4) 商・工業 (自営) (5) 農林・水産 (自営) (6) 自由業 (医師・弁護士・著述業等)	【 】

		(7) その他 ()	
--	--	-------------	--

4. 住居・通学について

問 7	あなたの現住所はどこですか。	(1) 小樽市 (2) 札幌市 (3) その他の市町村 ()	【 】
問 8	誰と一緒に住んでいますか。	(1) 親・親戚・保護者 (2) 兄弟姉妹・いとこ・友人 (3) 一人暮らし (賄い付き下宿) (4) 一人暮らし (賄いなし) (5) その他 ()	【 】
問 9, 10は, 問 8 で(2)～(5)のいずれかを選択した方のみ回答してください。			
問 9	現在の住居を選ぶ時に考慮した条件は何ですか。 (2つまで回答可)	(1) 家賃が安い (2) 設備が良い (3) 部屋が広い (4) 部屋が新しい (5) 大学に近い (6) アルバイトに便利 (7) スーパーやコンビニに近い (8) 通学に便利 (9) 友人又は親戚が近くにいる (10) その他 ()	【 】 【 】
問 10	1ヶ月の家賃又は下宿料はいくらですか。	(1) 3万円未満 (2) 3万円以上4万円未満 (3) 4万円以上5万円未満 (4) 5万円以上6万円未満 (5) 6万円以上8万円未満 (6) 8万円以上	【 】
問 11	通学のために要する時間はどのくらいですか。	(1) 15分未満 (2) 15分～30分未満 (3) 30分～1時間未満 (4) 1時間～1時間30分未満 (5) 1時間30分～2時間未満 (6) 2時間以上	【 】

5. 生活費・アルバイトについて

問 12	1ヶ月の生活費はどのくらいですか。自宅生は小遣いプラス仕事・アルバイト収入のうち自分のために使う金額を回答してください。	(1) 1万円未満 (2) 1万円以上3万円未満 (3) 3万円以上6万円未満 (4) 6万円以上9万円未満 (5) 9万円以上12万円未満 (6) 12万円以上	【 】
問 13	1ヶ月に親からもらう額(小遣い・仕送り等)はどのくらいですか。	(1) 1万円未満 (2) 1万円以上3万円未満 (3) 3万円以上6万円未満 (4) 6万円以上9万円未満 (5) 9万円以上12万円未満 (6) 12万円以上	【 】

問 14	アルバイトの職種は何ですか。 (なお、選択肢(2)以下については、過去半年間に1ヶ月以上の期間(週1回以上)において、最も長い期間従事したアルバイトをした方のみ回答してください)	(1) していない (2) 飲食店 (3) 家庭教師・塾講師 (4) スーパー、コンビニの店員 (5) (4)以外の店員 (6) 軽労働 ((2), (4)を除くもの) (7) 重労働 (建設及び土木作業, 荷運び他) (8) 事務 (9) 警備員 (10) その他 ()	【 】
問15～18, 問14で(1)以外の回答をした方のみ回答してください。			
問 15	アルバイトに費やす時間は1週間に平均してどのくらいですか。 (大学の休業期間中を除く)	(1) 5時間未満 (2) 5～10時間未満 (3) 10～15時間未満 (4) 15～20時間未満 (5) 20時間以上	【 】
問 16	アルバイト収入の平均額は1ヶ月にいくらくらいですか。 (大学の休業期間中を除く)	(1) 3万円未満 (2) 3万円以上5万円未満 (3) 5万円以上7万円未満 (4) 7万円以上10万円未満 (5) 10万円以上	【 】
問 17	アルバイト代の主な用途は何ですか。(2つまで回答可) (本学公認サークル: 本学において学生が組織する部、サークル及び同好会等で顧問教員をおいているものとして大学に正式に届出を行っている団体)	(1) 授業料・修学費 (教科書, 参考図書等) (2) 生活費 (3) 本学公認サークル活動費 (4) 本学公認サークル以外のサークル活動費 (他大学のサークル活動への参加等) (5) レジャー (旅行を含む) 娯楽・嗜好費 (6) 留学費用 (7) その他 ()	【 】 【 】
問 18	アルバイトが学業に与える影響について答えてください。	(1) 学業に役立っている (2) ほとんど支障はない (3) 学業に悪い影響が出ている	【 】
問19は, 問18で(3)を選んだ場合のみ回答してください。			
問 19	アルバイトが学業に与える悪い影響について答えてください。	(1) 授業の出席に支障が出ている (2) 放課後の学習時間が確保できない (3) 睡眠, 休養時間が不足している (4) その他 ()	

6. 留学について

問 20～28 は, 外国人留学生の方は回答不要です。			
問 20	海外旅行(修学旅行や研修を含む)をしたことはありますか。	(1) 海外旅行をしたことがある (2) 海外旅行をしたことがない	
問21～23 は, 問20で(1)を選んだ場合のみ回答してください。			
問 21	どの地域に旅行しましたか。 (複数回答可)	(1) 北アメリカ (2) ヨーロッパ (3) オセアニア (4) アジア (5) 中近東・アフリカ (6) 南アメリカ (7) その他 ()	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
問 22	どの位の期間, 旅行しましたか。 (複数回旅行した方は, 期間を通算してください。)	(1) 1か月未満 (2) 1か月～6か月 (3) 6か月～1年 (4) 1年以上	【 】
問 23	何回, 旅行しましたか。	(1) 1回 (2) 2回 (3) 3回 (4) 4回 (5) 5回以上	【 】

問 33	サークル活動が学業に与える影響について教えてください。	(1) 学業にかなりプラスになる (2) 学業にプラスになる (3) 学業に影響ない (4) 学業を少し犠牲にする (5) 学業をかなり犠牲にする (6) その他()	【 】
問34 は、サークルに加入していない方のみ回答してください。			
問 34	サークルに加入していない理由は何ですか。 (2つまで回答可)	(1) 学業の妨げになるから (2) 対人関係がわずらわしいから (3) 時間がないから (4) 経済的負担が大きいから (5) 興味のあるサークルがないから (6) 束縛されるから (7) 自分の趣味・娯楽で満足しているから (8) その他()	【 】 【 】

8. ボランティア活動について

問 35	大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。	(1) 参加したことがある (2) 参加したことがない	【 】
問36～38は、問35で(1)を選んだ場合のみ回答してください。			
問 36	どのような内容のボランティア活動に参加しましたか。 (複数回答可)	(1) 幼児・小中高生の学習指導 (2) 幼児・小中高生のスポーツ指導 (3) 公共施設での文化活動 (4) 高齢者・障害者支援 (5) 地域協力（イベント協力等） (6) 清掃・自然保護 (7) 国際交流 (8) 募金活動 (9) 災害地での支援活動 (10) その他()	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
問 37	過去に経験したボランティア活動の日数は合計でどれくらいですか (複数回ある場合は、回数を合算して回答してください)。	(1) 3日以内 (2) 4日～7日 (3) 8日～14日 (4) 15日～30日 (5) 31日以上	【 】
問 38	ボランティア活動をしたいと思ったきっかけは何ですか。 (複数回答可)	(1) 困った人を助けたいと思ったから (2) 自分を高めるため (3) 友人に誘われて (4) 家族の勧めで (5) 社会勉強のため (6) 就職に役立てるため (7) 参加している団体の活動として (8) その他()	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】

9. 健康について

問 39	朝、食事をしていますか。	(1) 毎日食べる (2) 時々食べる (3) 殆ど食べない	【 】
問 40	1日の睡眠時間はどのくらいですか。	(1) 4時間未満 (2) 4時間～5時間未満 (3) 5時間～6時間未満 (4) 6時間～7時間未満 (5) 7時間～8時間未満 (6) 8時間以上	【 】
問 41	タバコを吸いますか。	(1) 吸う (2) 以前吸っていたがやめた (3) 吸わない	【 】
問 42	定期的に運動をしていますか。	(1) ほぼ毎日している (2) 週1回程度行っている (3) ほとんどしていない	【 】

問 66	就職する場合に何を基準に考えますか。あるいは考えましたか。 (2つまで回答可)	(1) 勤務地 (2) 業種 (3) 会社等の規模 (4) 知名度 (5) 給与 (6) 勤務時間・休日 (7) 適性 (8) 安定性 (9) 将来性 (10) その他 ()	【 】 【 】
問 67	就職する場合に勤務地はどこを希望しますか。 (複数回答可)	(1) 小樽市 (2) 札幌市 (3) 前記以外の道内 (4) 東京・首都圏 (5) 東京・首都圏以外の道外 (6) 特に考えていない (7) 外国 ()	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
問 68	将来の就職のために、各種専門学校等に通っていますか。あるいは通っていましたか。 (複数回答可)	(1) 語学学校 (2) パソコン教室 (3) 公務員試験講座 (4) 簿記講座 (5) F P 講座 (6) 税理士・公認会計士講座 (7) ロースクール・司法試験講座 (8) 通っていない (9) その他 ()	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
問 69	本学の就職支援に関して、どのような要望がありますか。 (2つまで回答可)	(1) ガイダンスの充実 (2) 就職情報の整備・充実 (3) 就職相談の整備・充実 (4) 短期インターンシップの充実 (5) 中長期インターンシップの充実 (1・2週間以上～1・2ヶ月程度) (6) 模擬面接, エントリーシート作成等の実践的な就職対策の充実 (7) 特にない, 分からない (8) その他 ()	【 】 【 】
問 70	卒業後の進路を決めたのはいつですか。	(1) 大学入学以前 (2) 1年生の時 (3) 2年生の時 (4) 3年生前期の時 (5) 3年生後期の時 (6) 4年生の時 (7) 進路はまだ決めていない。	【 】
問71は、3年生以上で、就職活動をしたことがあり、かつ、大学の支援を利用したことがある方のみ回答してください。			
問 71	就職活動に関して、大学の支援はどのくらい役に立っていますか。あるいは役立ちましたか。	(1) とても役立つ (役立った) (2) ある程度役立つ (役立った) (3) あまり役立たない (役立たなかった) (4) ほとんど役立たない (役立たなかった) (5) 使ったことがない	【 】

1 4. その他

問 72	あなたが (個人で) 所有している I C T 機器について、あてはまるものをすべて選んでください。	(1) 持っていない (2) スマートフォン (3) スマートフォン以外の携帯電話 (4) タブレット端末 (5) ノート P C (6) デスクトップ P C (7) その他 ()	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
------	--	--	--

問73～75は、問72でスマートフォンあるいはスマートフォン以外の携帯電話を持っていると回答した方のみ回答してください。

